

平成 2 6 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 2 6 年度調査）の
速報案について

○後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査

(右下頁)

・ 調査の概要	7 頁
・ 保険薬局調査	1 4 頁
・ 診療所、病院、医師調査	4 8 頁
・ 患者調査	1 0 2 頁
・ 調査票	1 5 0 頁

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 26 年度調査）

後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査

結果概要（速報）（案）

※数値は暫定値であり、一部、変わる可能性があります。

◇◆目 次◇◆

I. 調査の概要	1
1. 目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	1
4. 調査項目	2
II. 調査の結果	7
1. 回収結果	7
2. 保険薬局調査の結果	8
(1) 薬局の属性	8
①組織形態	8
②同一法人による薬局店舗数	8
③チェーン薬局の状況	9
④売上高に占める保険調剤売上の割合	10
⑤処方せんの応需状況	10
⑥職員数	11
(2) 調剤の状況等	12
①調剤基本料	12
②基準調剤加算	15
③後発医薬品調剤体制加算	15
④後発医薬品調剤割合（新指標）	17
⑤新指標のカットオフ値	18
⑥新指標で算出する際の問題点の有無	19
(3) 取り扱い処方せんの状況	20
①1週間の取り扱い処方せん枚数の状況	20
②1週間の取り扱い処方せん枚数の内訳	20
③後発医薬品への変更割合等（品目ベース）	22
④変更不可の後発医薬品が処方されることによる、調剤を行う上での問題等	26
⑤一般名処方処方せんを持参した患者のうち、後発医薬品を調剤しなかったケースについての最も多い理由	27
(4) 後発医薬品の備蓄状況・廃棄額等	28
①医薬品の備蓄品目数	28
②医薬品の在庫金額・購入金額・廃棄額	29
(5) 後発医薬品への対応状況	30
①後発医薬品の採用基準	30

②後発医薬品の調剤に関する考え	31
③後発医薬品使用に関する患者の意向を把握する手段	35
④後発医薬品への変更・選択において患者の理解を最も得られやすい処方方法	35
⑤処方医への情報提供等	36
(6) 後発医薬品使用にあたっての問題点・課題・要望等	38
①薬局の開設者・管理者の立場として後発医薬品の調剤を積極的に進める上で必要な 対応	38
②後発医薬品の望ましい価格体系	39
③後発医薬品の望ましい薬価水準	39
④後発医薬品の使用を進める上で医師に望むこと	40
(7) 後発医薬品に変更して調剤した処方せん等に係る薬剤料の状況	41
3. 診療所・病院・医師調査の結果	42
(1) 施設の概要等	42
①診療所の施設属性	42
②病院の施設属性	44
③オーダーリングシステムの導入状況等	47
(2) 医師の属性等	48
①医師の性別	48
②医師の年齢	49
③医師の主たる担当診療科	49
(3) 診療所・病院の診療体制	50
①診療所の診療体制	50
②病院の診療体制	50
(4) 診療所・病院における医薬品の備蓄状況等	51
①医薬品の備蓄状況等	51
②後発医薬品の採用状況	57
③後発医薬品を採用する際に重視すること	58
④病院における後発医薬品使用割合	60
(5) 入院患者に対する後発医薬品の使用状況等	62
①入院患者に対する後発医薬品の使用状況	62
②後発医薬品使用体制加算の状況	63
③今後どのような対応が進めば施設として入院患者に後発医薬品の使用を進めてもよ いか	64
(6) 外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（施設ベース）	66
①処方せん料・一般名処方加算の算定回数（平成 26 年 9 月 1 か月間）	66
②病院における、外来患者に対する後発医薬品使用に係る施設としての方針等	66
③病院における一般名処方による処方せん発行への対応状況等	70
(7) 外来診療における院外処方せん発行時や後発医薬品の処方に関する医師の考え等	

(医師ベース)	72
①外来診療における後発医薬品の処方に関する考え.....	72
②外来診療における後発医薬品の処方数の変化（1年前と比較して）.....	77
③後発医薬品への「変更不可」欄にチェックした処方せんの発行経験等（平成26年4月以降）.....	78
④医師における一般名処方による処方せん発行の状況等.....	82
(8) 保険薬局・患者との関係.....	84
①調剤時の保険薬局からの情報提供に関する意向.....	84
②患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無と対応.....	85
(9) 医療機関・医師における後発医薬品使用に関する意識等.....	90
①医療機関・医師における、後発医薬品が薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るために必要なデータの内容に関する認知状況.....	90
②医療機関・医師における、『ジェネリック医薬品への疑問に答えます～ジェネリック医薬品Q&A～』に関する認知状況.....	91
③医療機関・医師における、『後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ』に関する認知状況.....	92
④今現在の後発医薬品に対する不信感.....	92
⑤後発医薬品の処方を進めるための環境.....	94
4. 患者調査の結果.....	96
(0) 記入者の属性等.....	96
①記入者と患者の関係.....	96
(1) 患者の属性等.....	96
①患者の基本属性.....	96
②公的医療保険の種類.....	98
③自己負担額の有無.....	100
④過去3か月間の薬局訪問回数（処方せん持参に限る）.....	101
⑤お薬手帳の利用.....	102
(2) 調査日における受診・調剤状況等.....	103
①薬局を選んだ理由.....	103
②処方の状況等.....	105
(3) ジェネリック使用に関する経験等.....	113
①ジェネリック医薬品に対する関心の有無.....	113
②ジェネリック医薬品に対する認知度.....	114
③ジェネリック医薬品の使用経験の有無.....	115
④ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無.....	116
⑤ジェネリック医薬品の処方を医師に頼んだ経験の有無.....	117
⑥ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無.....	118
⑦ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験等.....	119

⑧今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬の有無等.....	123
(4) ジェネリック使用に関する経験・意向等.....	127
①ジェネリック医薬品に関する使用意向等	127
②ジェネリック医薬品に関する文書等に関する経験・意向等	133
③一般名処方に関する認知度・意向等.....	141

I. 調査の概要

1. 目的

- ・保険薬局における後発医薬品の調剤状況の変化等の把握
- ・医療機関における後発医薬品の使用状況や医師の処方に関する意識等の把握
- ・患者における後発医薬品に関する意識等の把握
- ・一般名処方に関する医師・薬剤師及び患者の意識等の把握

2. 調査対象

本調査では、「保険薬局調査」「病院調査」「診療所調査」「医師調査」「患者調査」の5つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

- ・保険薬局調査：全国の保険薬局の中から無作為抽出した 1,500 施設
- ・診療所調査：全国の一般診療所の中から無作為抽出した 2,000 施設。
- ・病院調査：全国の病院の中から無作為抽出した 1,500 施設。
- ・医師調査：上記「病院調査」の対象施設に勤務する、診療科の異なる 2 名の外来診療担当医師。
- ・患者調査：上記「保険薬局調査」の対象施設に調査日に来局した患者。ただし、1 施設につき最大 2 名の患者とした。

3. 調査方法

- ・対象施設・医師・患者が記入する自記式調査票の郵送配布・回収とした。
- ・保険薬局調査については、施設属性、後発医薬品の調剤状況等を尋ねる「様式 1」と、薬剤料を尋ねる「様式 2」の 2 種類の調査票を配布した。
- ・診療所調査については、施設の概況、院外処方せんや一般名処方による処方せんの発行状況、後発医薬品の使用状況や使用に関する意識、後発医薬品を使用する上での課題等を尋ねる「診療所票」を配布した。
- ・病院調査については、施設の概況、院外処方せんの発行状況、入院患者に対する後発医薬品の使用状況、後発医薬品を使用する上での課題等を尋ねる「病院票」を配布した。
- ・医師調査については、後発医薬品の使用状況と使用に関する意識等を尋ねる「医師票」を配布した。配布に際しては、上記の「病院調査」の対象施設を通じて行った。
- ・患者調査については、後発医薬品の使用に対する意識等を尋ねる「患者票」を配布した。配布に際しては、上記の「保険薬局調査」の対象施設を通じて行った。
- ・医師調査及び患者調査の回収は、各医師及び患者から、事務局宛の返信用専用封筒にて直接回収した。
- ・調査実施時期は、以下の通り。

診療所調査、病院調査、医師調査：平成 26 年 10 月 21 日～平成 26 年 12 月 3 日

4. 調査項目

区分	主な調査項目
(1)保険薬局調査	○回答者の属性等 - 性別、年齢、開設者・管理者の別 ○薬局の概要 - 開設者、同一法人による薬局店舗数、開設年、チェーン薬局、処方せんの応需状況、売上高に占める保険調剤売上の割合、職員数 - 調剤基本料の種類、全処方せんの受付回数、主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合、妥結率、基準調剤加算の算定状況、後発医薬品調剤体制加算の算定状況、後発医薬品調剤割合、新指標のカットオフ値、新指標算出にあたっての問題点等 ○処方せんへの対応状況（平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間） - 取り扱い処方せん枚数、このうち先発医薬品名で処方され変更不可となっている医薬品がある処方せん枚数、このうち後発医薬品名で処方され変更不可となっている医薬品がある処方せん枚数 - 一般名で処方された医薬品の品目数、このうち後発医薬品を選択した医薬品の品目数、このうち先発医薬品を選択した医薬品の品目数 - 先発医薬品名で処方された医薬品の品目数、このうち「変更不可」となっていない医薬品の品目数、先発医薬品を後発医薬品に変更した医薬品の品目数、このうち先発医薬品を調剤した医薬品の品目数、薬価収載されておらず後発医薬品に変更できなかった医薬品の品目数、患者が希望しなかったために後発医薬品に変更できなかった医薬品の品目数、外用剤が処方され同一剤形の後発医薬品がなかったため変更できなかった医薬品の品目数 - 後発医薬品名で処方された医薬品の品目数、このうち「変更不可」となっている医薬品の品目数 - その他の品目名で処方された医薬品の品目数 ○後発医薬品への対応等 - 変更不可の後発医薬品が処方されることによる調剤上の問題の有無と問題点 - 一般名処方の処方せんを持参した患者のうち後発医薬品を調剤しなかったケースについての最も多い理由 ○後発医薬品への対応状況等 - 医薬品・後発医薬品の備蓄品目数、在庫金額、購入金額、廃棄額の変化、先発医薬品に対する後発医薬品の平均備蓄品目数

	・ 後発医薬品の採用基準、後発医薬品の調剤に関する考え、後発医薬品の調剤に積極的に取り組んでいない場合の理由、後発医薬品を積極的に調剤していない医薬品の種類、後発医薬品を積極的に調剤していない患者の特徴 ・ 後発医薬品使用に関する患者の意向把握の手段、後発医薬品への変更・選択で患者の理解を得られやすい処方方法 ・ 医療機関に対する後発医薬品への変更調剤・一般名処方の調剤に関する情報提供のタイミング、医療機関との予め合意した方法による情報提供の有無とその方法 ○後発医薬品使用についての考えや今後の課題等 ・ 後発医薬品使用を進める上で望むこと、同一成分・同一剤形の後発医薬品の価格体系、後発医薬品の薬価水準、医師に望むこと ○薬剤料の変化 ・ 処方せんの記載銘柄に基づき調剤した場合の薬剤料及び実際に調剤した薬剤料等
(2)診療所調査	○医師の属性等 ・ 性別、年齢、開設者・管理者の別、主たる担当診療科 ○施設の概要 ・ 医療機関名、所在地、開設者、開設年、種別、標榜診療科、医師数・薬剤師数 ・ オーダリングシステムの導入状況 ・ 院内処方・院外処方の割合 ○後発医薬品の使用状況等 ・ 医薬品・後発医薬品の備蓄品目数、購入額、廃棄額 ・ 後発医薬品の採用状況、採用に際して重視すること ○入院患者に対する後発医薬品の使用状況等 ・ 後発医薬品使用体制加算の状況 ・ 入院患者に対する後発医薬品の使用状況 ・ 後発医薬品の使用を進める上で必要な対応 ○外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（院外処方せんを発行している施設） ・ 処方せん料・一般名処方加算の算定回数 ・ 後発医薬品の処方に関する意識、積極的に処方しない場合の理由 ・ 1年前と比較した後発医薬品の処方状況 ・ 平成26年4月以降、後発医薬品への変更不可欄にチェックした処方せん発行の有無、割合、そのケース、銘柄指定をする理由等 ・ 平成26年4月以降の一般名処方による処方せん発行の経験、それに対する事務的な負担の変化等

	・ 調剤した医薬品（変更調剤や一般名処方についての調剤）に関する保険薬局からの情報提供として望ましい方法・タイミング ・ 患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無、その時の対応等 ○外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（院外処方せんを発行していない施設） ・ 後発医薬品の処方に関する意識、積極的に処方しない場合の理由 ・ 患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無、その時の対応等 ○後発医薬品の使用にあたっての課題等 ・ 後発医薬品の薬事承認に必要なデータ、『ジェネリック医薬品Q&A』、『後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ』の認知度 ・ 後発医薬品に関する不信感の有無、不信感がある場合の理由 ・ 後発医薬品の処方を進める上で必要な環境 ・ 後発医薬品使用にあたっての課題等
(3)病院調査	○回答者の属性等 ・ 性別、年齢、開設者・管理者の別 ○施設の概要 ・ 開設者、開設年、標榜診療科、DPC の対応状況 ・ オーダリングシステムの導入状況、院内処方・院外処方の割合、特定入院料の状況、許可病床数、医師数・薬剤師数 ・ 後発医薬品使用体制加算の状況、処方せん料・一般名処方加算の算定回数 ○後発医薬品の使用状況等 ・ 後発医薬品の採用状況、採用に際して重視すること ・ 医薬品・後発医薬品の備蓄品目数、購入額、廃棄額 ・ 後発医薬品使用割合 ○外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（院外処方せんを発行している施設） ・ 後発医薬品の処方に関する施設としての方針、積極的に処方しない場合の理由 ・ 平成 26 年 4 月以降の一般名処方による処方せん発行の経験、それに対する事務的な負担の変化等 ・ 調剤した医薬品（変更調剤や一般名処方についての調剤）に関する保険薬局からの情報提供として望ましい方法・タイミング ○外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（院外処方せんを発行していない施設）

	・ 後発医薬品の処方に関する意識、積極的に処方しない場合の理由 ○入院患者に対する後発医薬品の使用状況等 ・ 後発医薬品の使用状況 ・ 後発医薬品の使用を進める上で必要な対応 ○後発医薬品の使用にあたっての課題等 ・ 後発医薬品の薬事承認に必要なデータ、『ジェネリック医薬品Q&A』、『後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ』の認知度 ・ 後発医薬品に関する不信感の有無、不信感がある場合の理由 ・ 後発医薬品使用にあたっての課題等
(4)医師調査	○属性等 ・ 性別、年齢、主たる担当診療科、1日あたり平均外来診察患者数 ○外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（院外処方せんを発行している施設の医師） ・ 後発医薬品の処方に関する意識、積極的に処方しない場合の理由 ・ 平成26年4月以降、後発医薬品への変更不可欄にチェックした処方せん発行の有無、割合、そのケース、銘柄指定をする理由 ・ 平成26年4月以降の一般名処方による処方せん発行の経験、それに対する事務的な負担の変化等 ・ 調剤した医薬品（変更調剤や一般名処方についての調剤）に関する保険薬局からの情報提供として望ましい方法・タイミング ・ 患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無、その時の対応 ○外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（院外処方せんを発行していない施設） ・ 後発医薬品の処方に関する意識、積極的に処方しない場合の理由 ・ 患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無、その時の対応 ○後発医薬品の使用にあたっての課題等 ・ 後発医薬品の薬事承認に必要なデータ、『ジェネリック医薬品Q&A』、『後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ』の認知度 ・ 後発医薬品の処方を進める上で必要な環境 ・ 後発医薬品使用にあたっての課題等
(5)患者調査	○記入者の属性 ・ 記入者と患者との関係 ○属性等 ・ 性別、年齢、都道府県 ・ 加入している公的医療保険の種類、自己負担額、過去3か月間の薬

	局訪問回数、お薬手帳の利用状況 ○調査日における後発医薬品の使用状況等 ・ 薬局の利用理由 ・ 調査日の自己負担額、自己負担額との関係でみた後発医薬品の使用意向、使用してもよいと思える差額、いくら安くなっても後発医薬品を使用したくない理由とそのきっかけ ・ 薬局での先発医薬品から後発医薬品への変更の有無、変更した場合の経済的負担感等 ○後発医薬品の使用に関する経験等 ・ 後発医薬品に対する関心の有無、認知度、使用経験の有無 ・ 医師・薬剤師から後発医薬品について説明を受けた経験の有無 ・ 医師に後発医薬品の処方をお願いした経験の有無 ・ 薬剤師に後発医薬品の調剤をお願いした経験の有無、頼みやすさ、平成 26 年 4 月以降で調剤してもらえなかった経験の有無、その時の薬局から受けた説明 ・ 先発医薬品から後発医薬品に変更した薬の有無、そのきっかけ、変更時における体調不良の経験の有無等 ○後発医薬品の使用促進の取組に関する経験・考え等 ・ 後発医薬品の使用意向、使用にあたって重要な点 ・ ジェネリック医薬品希望カード・ジェネリック医薬品軽減額通知・薬剤情報提供文書の受取経験、受取後の活用経験、今後の活用意向 ・ 一般名処方の認知状況等 ・ 望ましい処方せん発行形式 ・ 後発医薬品を使用する上で重要なこと等
--	---

Ⅱ．調査の結果

1．回収結果

図表 1 回収の状況

	発送数	有効回答数	有効回答率
①保険薬局調査			
保険薬局数(様式 1)	1,500	690	46.0%
様式 2 に記載された処方せん枚数(563 薬局分)	—	11,175	—
②診療所調査			
一般診療所数	2,000	932	46.6%
③病院調査			
病院数	1,500	574	38.3%
④医師調査			
医師数	—	863	—
⑤患者調査			
患者数	—	992	—

2. 保険薬局調査の結果

【調査対象等】

○調査票 様式 1

調査対象：全国の保険薬局の中から無作為抽出した保険薬局 1,500 施設

回 答 数：690 施設

回 答 者：開設者・管理者

○調査票 様式 2

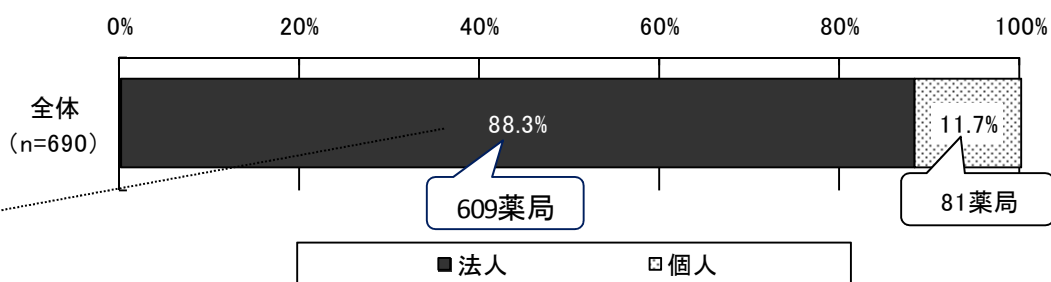
処方せん枚数：11,175 枚（563 薬局分）

回 答 者：開設者・管理者

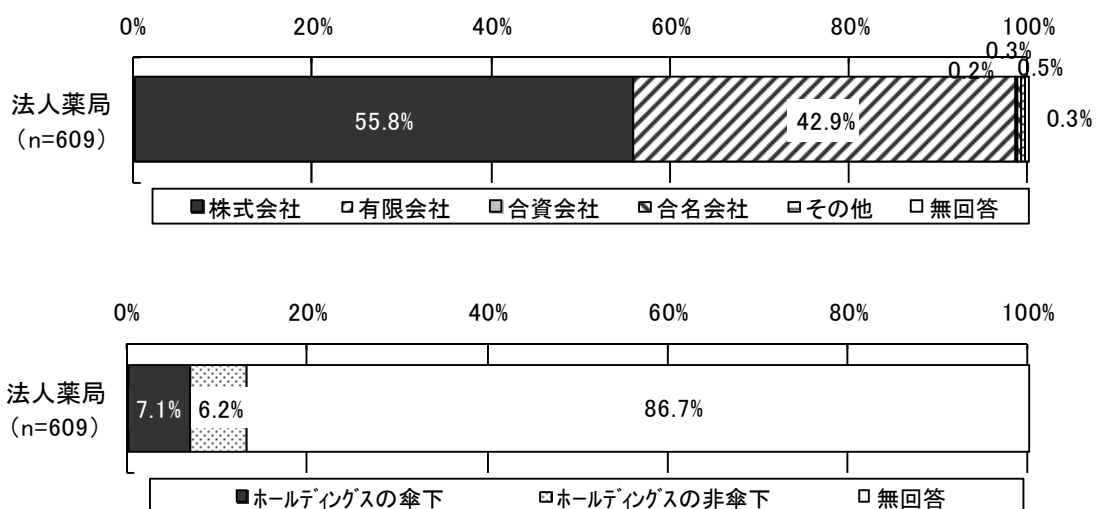
（1）薬局の属性

①組織形態

図表 2 組織形態（法人・個人別）

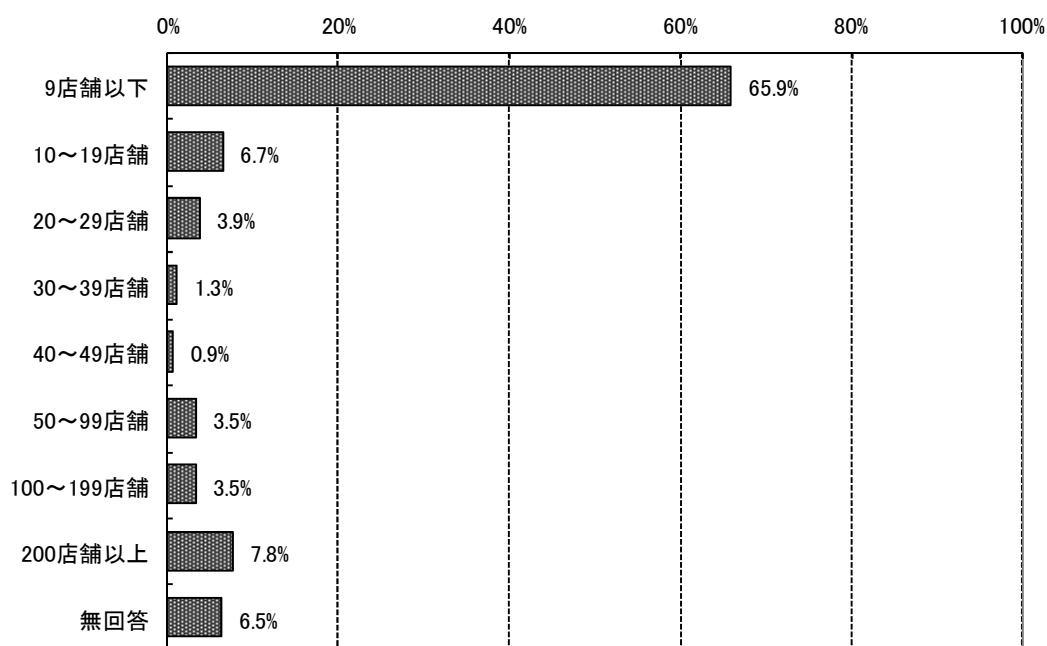


図表 3 法人薬局の内訳



②同一法人による薬局店舗数

図表 4 同一法人による薬局店舗数分布（単数回答、n=690）



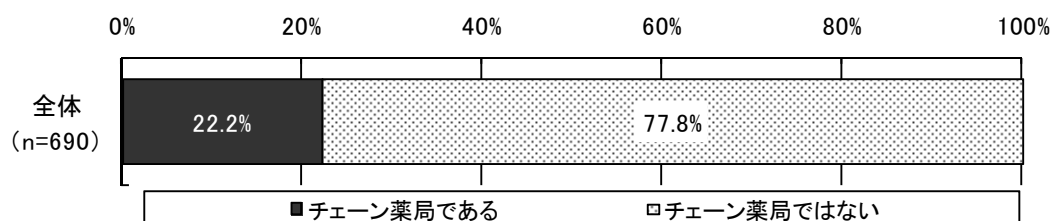
図表 5 同一法人による薬局店舗数（n=645）

	平均値	標準偏差	中央値
同一法人による薬局店舗数(店舗)	50.5	134.9	3.0

（注）無回答を除く 645 施設を集計対象とした。

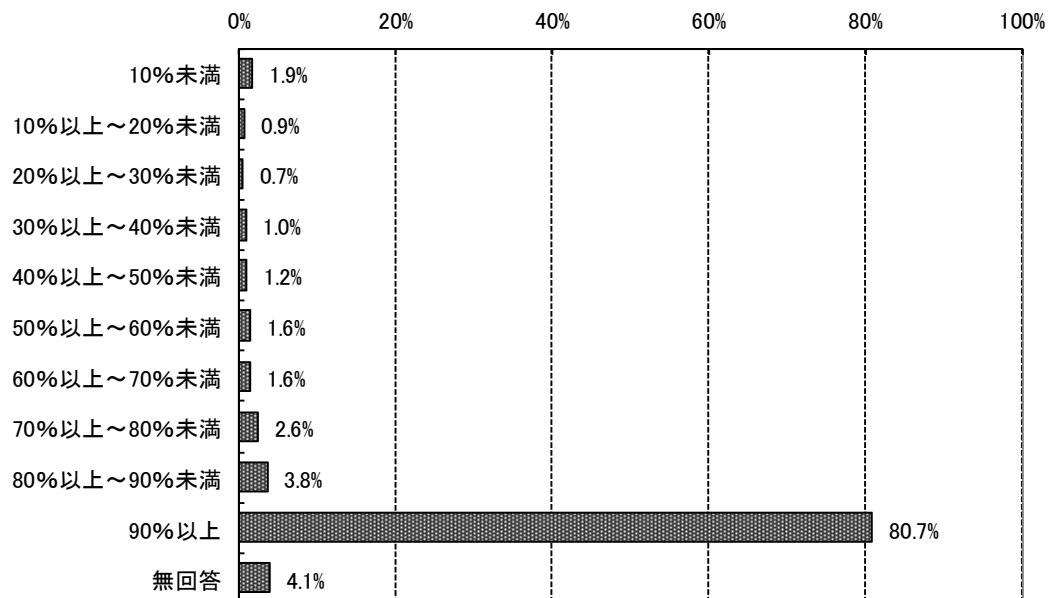
③チェーン薬局の状況

図表 6 チェーン薬局の状況



④売上高に占める保険調剤売上の割合

図表 7 売上高に占める保険調剤売上の割合 (n=690)



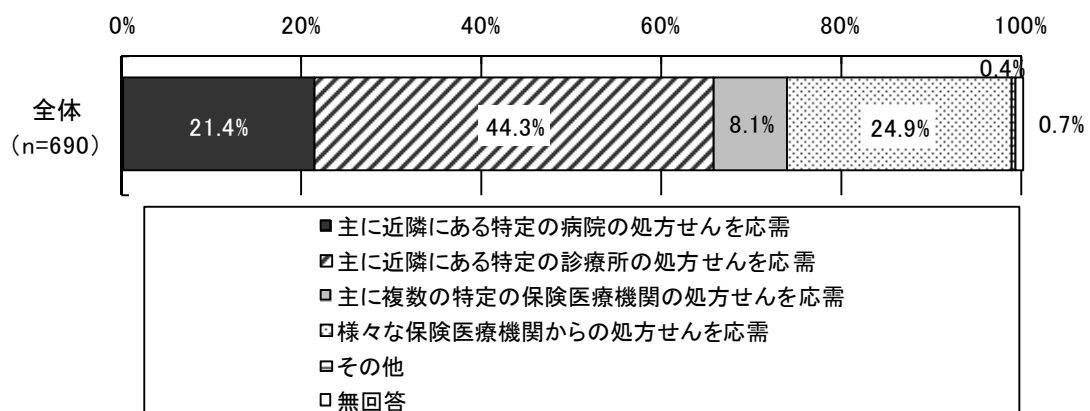
図表 8 売上高に占める保険調剤売上の割合 (n=662)

	平均値	標準偏差	中央値
売上高に占める保険調剤売上の割合 (%)	90.6	20.3	99.0

(注) 無回答を除く 662 施設を集計対象とした。

⑤処方せんの応需状況

図表 9 処方せんの応需状況



⑥職員数

図表 10 1 施設あたりの職員数（実人数、n=682）

（単位：人）

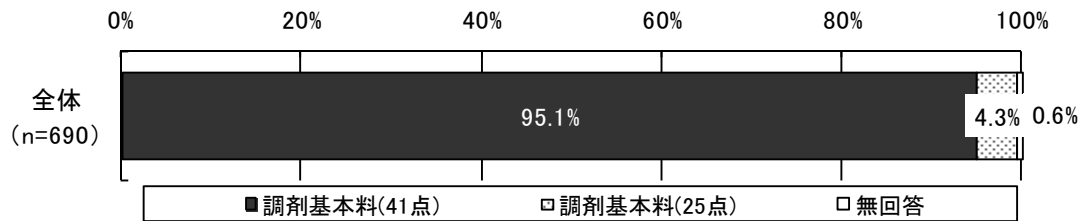
	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
薬剤師	2.1	1.4	2.0	1.6	2.1	1.0
その他（事務職員等）	1.7	1.4	1.5	0.9	1.6	0.0
全職員	3.8	2.4	3.0	2.5	2.8	2.0

（注）無回答を除く 682 施設を集計対象とした。

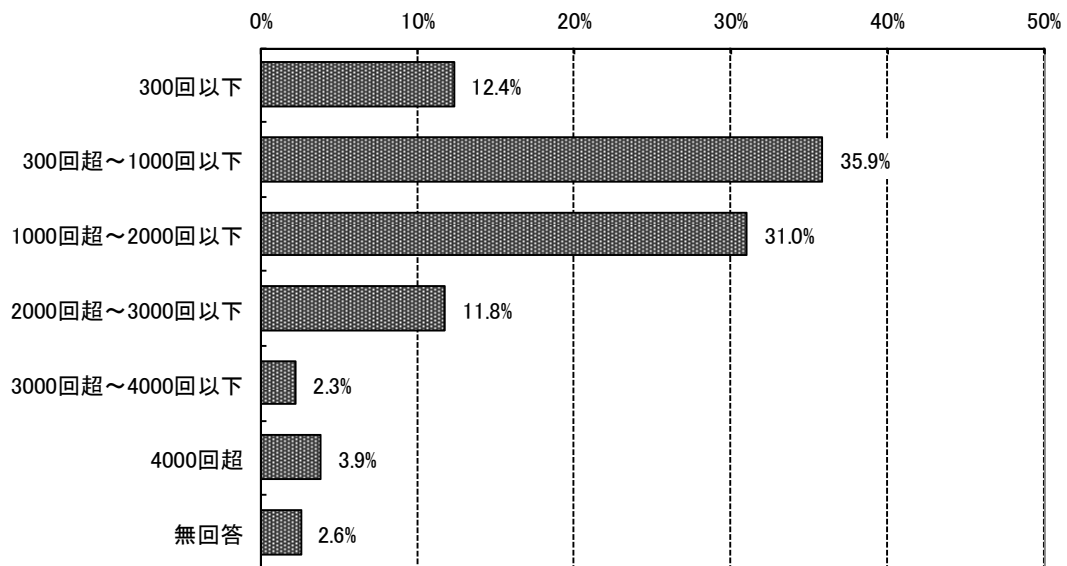
(2) 調剤の状況等

①調剤基本料

図表 11 調剤基本料



図表 12 全処方せんの受付回数（1 か月あたり、n=686）



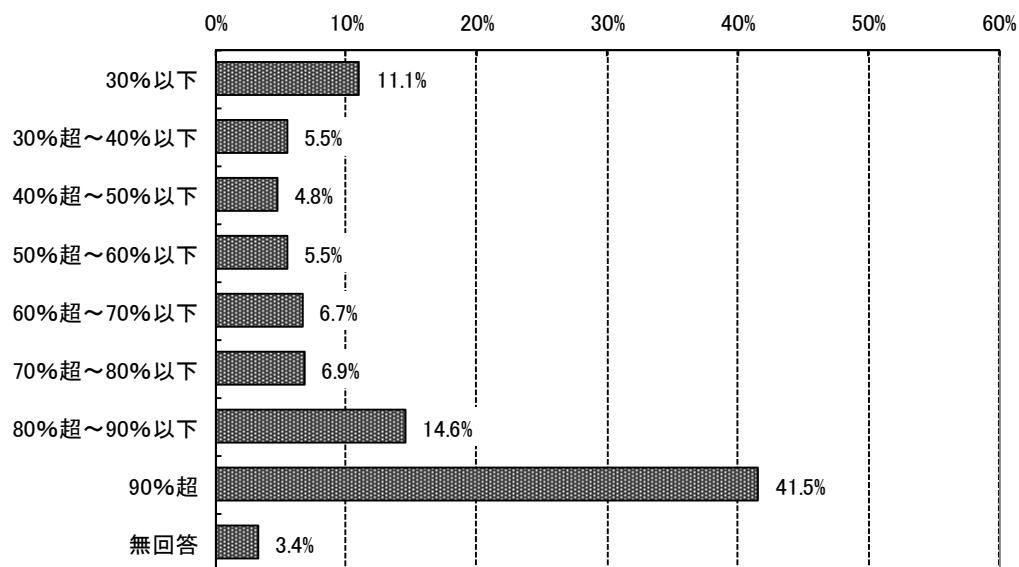
(注)・調剤基本料の根拠となる「全処方せんの受付回数（回／月）」
 ・調剤基本料が無回答であった 4 施設を除いた 686 施設を集計対象とした。

図表 13 全処方せんの受付回数（1 か月あたり、n=668）

	平均値	標準偏差	中央値
全処方せんの受付回数(回)	1,666.7	3,341.5	1,011.5

(注)・調剤基本料の根拠となる「全処方せんの受付回数（回／月）」
 ・無回答を除く 668 施設を集計対象とした。

図表 14 主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合（n=686）



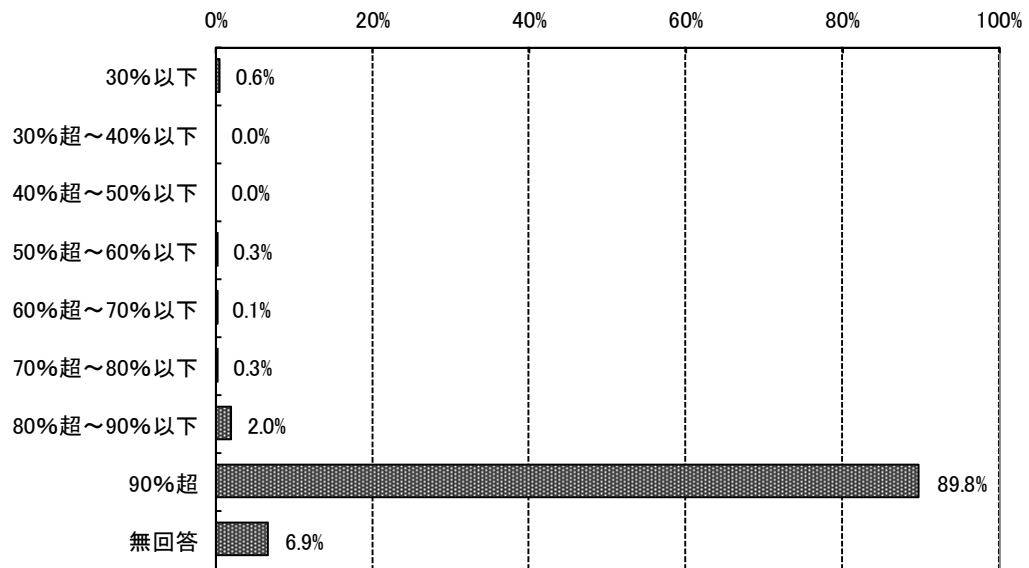
(注)・調剤基本料の根拠となる「主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合 (%)」
 ・調剤基本料が無回答であった 4 施設を除いた 686 施設を集計対象とした。

図表 15 主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合（n=663）

	平均値	標準偏差	中央値
主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合 (%)	78.9	136.0	86.5

(注)・調剤基本料の根拠となる「主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合 (%)」
 ・無回答を除く 663 施設を集計対象とした。

図表 16 妥結率 (n=686)



(注) 調剤基本料が無回答であった4施設を除いた686施設を集計対象とした。

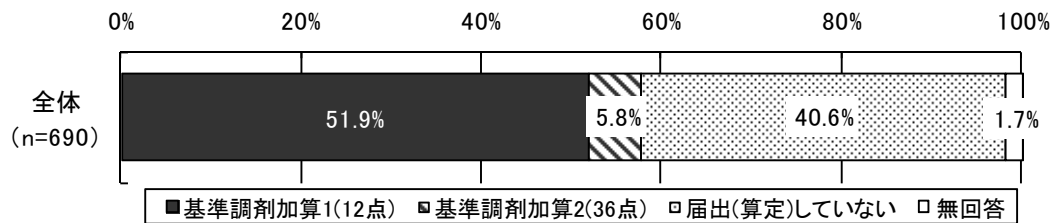
図表 17 妥結率 (n=639)

	平均値	標準偏差	中央値
妥結率(%)	98.7	7.8	100.0

(注) 無回答を除く639施設を集計対象とした。

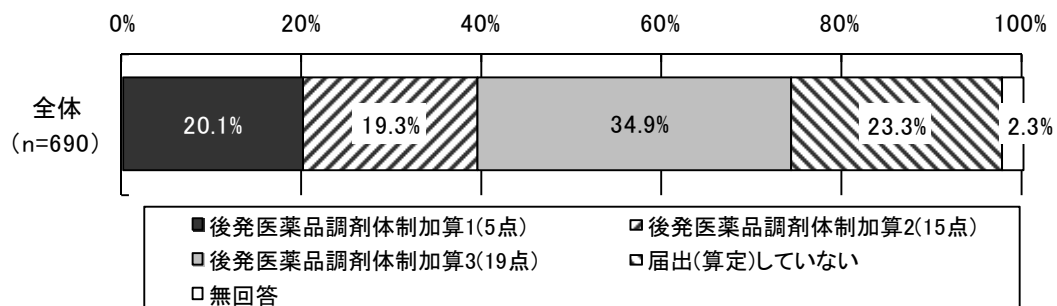
②基準調剤加算

図表 18 基準調剤加算

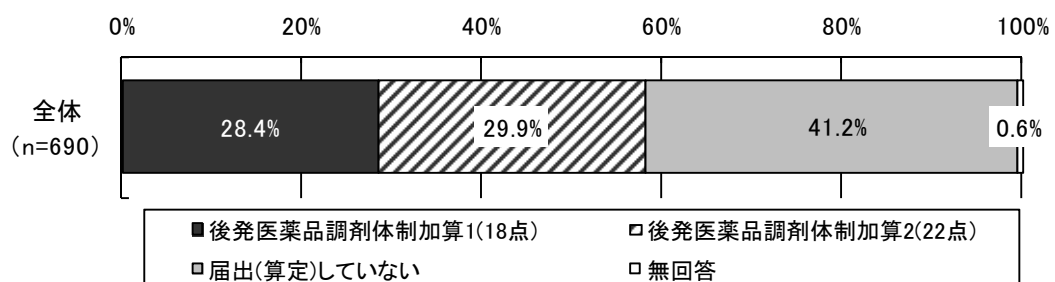


③後発医薬品調剤体制加算

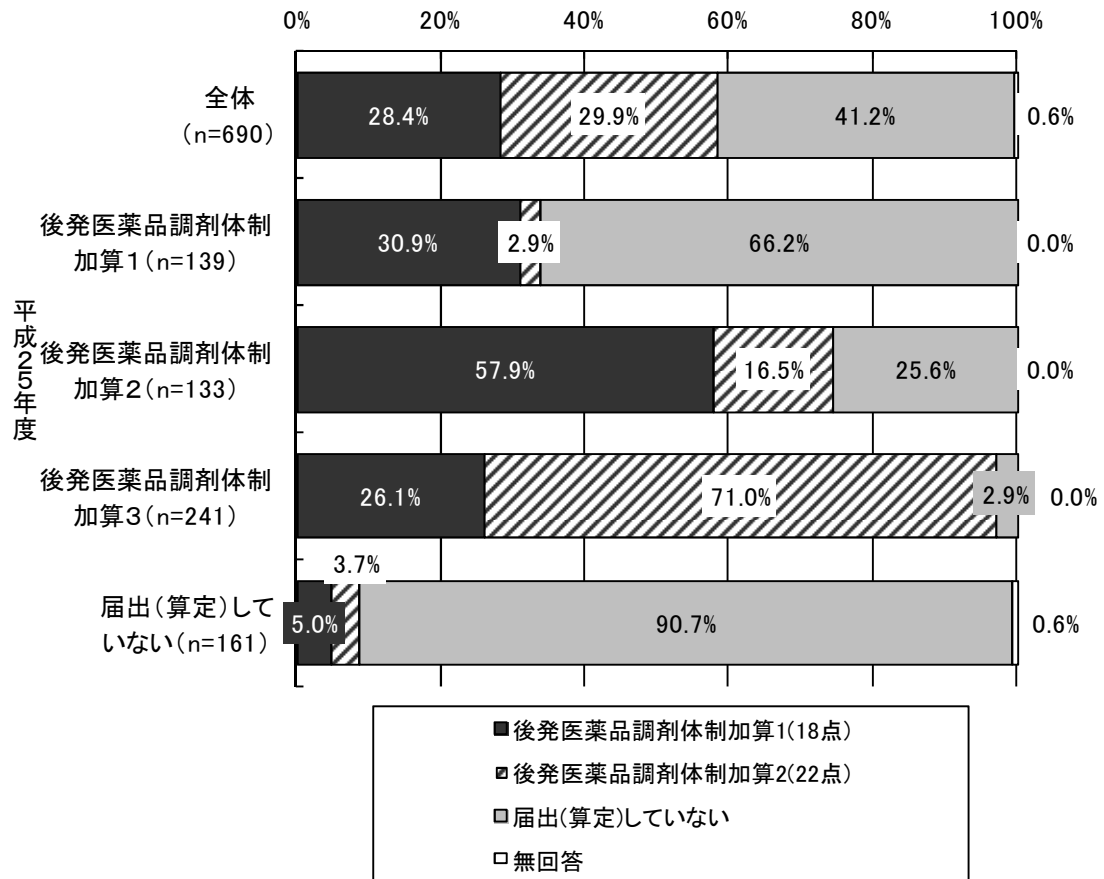
図表 19 後発医薬品調剤体制加算の算定状況（平成 25 年度）



図表 20 後発医薬品調剤体制加算の算定状況（平成 26 年度）

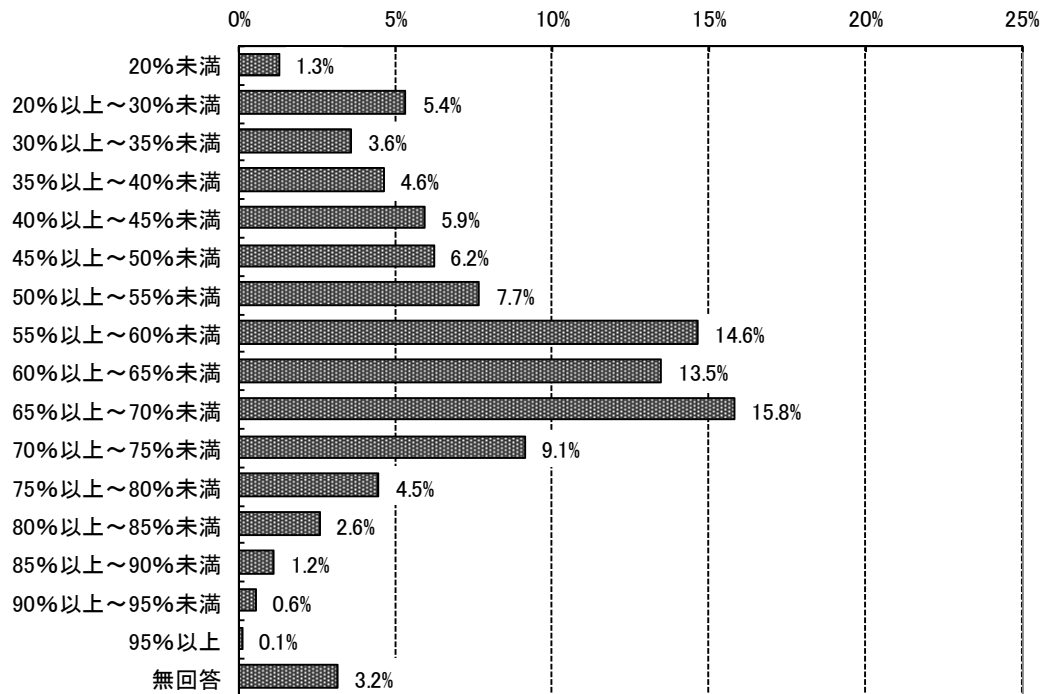


図表 21 平成 26 年度の後発医薬品調剤体制加算の算定状況
(平成 25 年度時点の算定状況別)



④後発医薬品調剤割合（新指標）

図表 22 後発医薬品調剤割合（新指標）（平成 26 年 9 月 1 か月間、n=690）



(注)・新指標算出式＝後発医薬品／（後発医薬品ありの先発医薬品＋後発医薬品）（％）
 ・平成 26 年 9 月 1 か月間について算出。

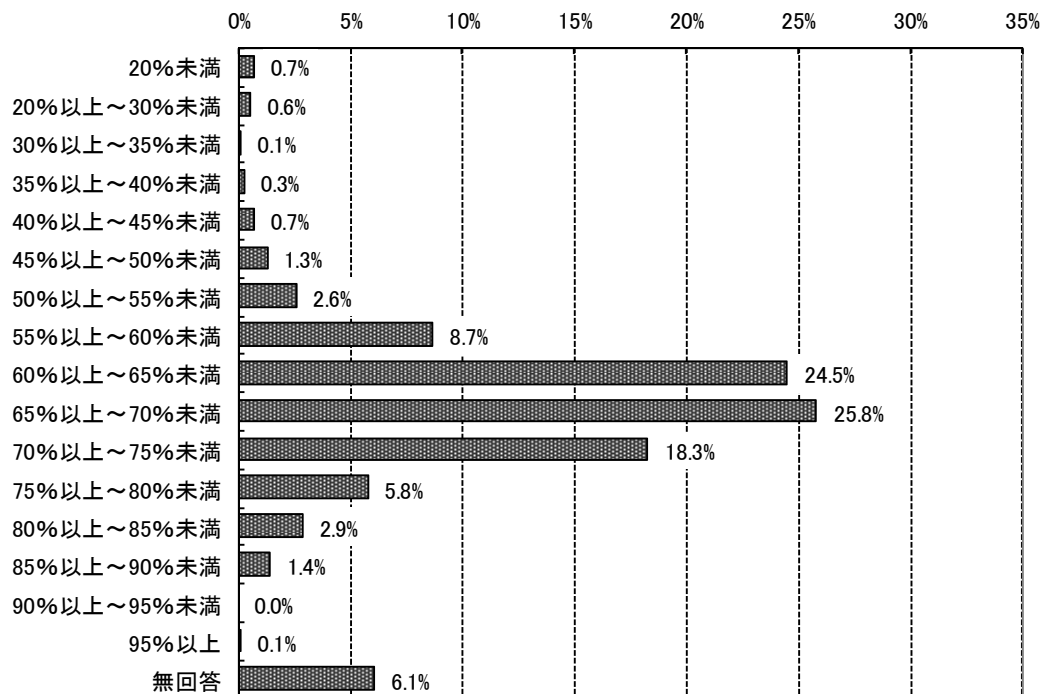
図表 23 後発医薬品調剤割合（新指標）（n=668）

	平均値	標準偏差	中央値
後発医薬品調剤割合(新指標)(%)	57.2	15.8	59.5

(注)・新指標算出式＝後発医薬品／（後発医薬品ありの先発医薬品＋後発医薬品）（％）
 ・平成 26 年 9 月 1 か月間について算出。
 ・無回答を除く 668 施設を集計対象とした。

⑤新指標のカットオフ値

図表 24 新指標のカットオフ値 (n=690)



(注)・カットオフ値算出式＝（後発医薬品ありの先発医薬品＋後発医薬品）／全医薬品（％）
 ・平成 26 年 9 月 1 か月間について算出。

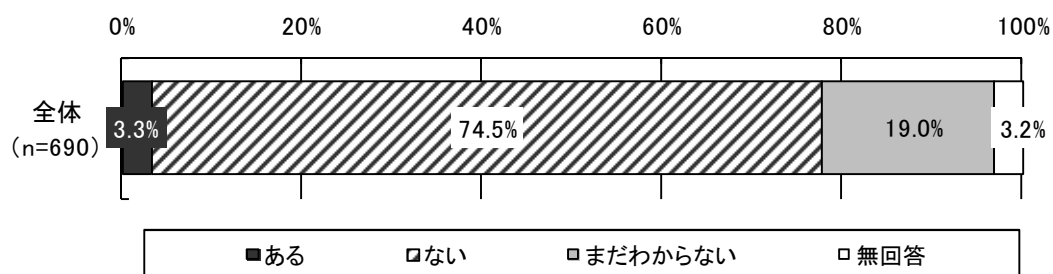
図表 25 新指標のカットオフ値 (n=648)

	平均値	標準偏差	中央値
新指標のカットオフ値 (%)	65.8	10.1	66.3

(注)・カットオフ値算出式＝（後発医薬品ありの先発医薬品＋後発医薬品）／全医薬品（％）
 ・平成 26 年 9 月 1 か月間について算出。
 ・無回答を除く 648 施設を集計対象とした。

⑥新指標で算出する際の問題点の有無

図表 26 新指標で算出する際の問題点の有無



(3) 取り扱い処方せん状況

① 1週間の取り扱い処方せん枚数の状況

図表 27 1週間の取り扱い処方せん枚数 (n=646)

	平均値	標準偏差	中央値
①受け付けた処方せん枚数(枚)	311.4	249.5	251.0
②先発医薬品(準先発品)名で処方され、変更不可となっている医薬品が1品目でもある処方せんの枚数(枚)	60.2	124.3	7.0
③後発医薬品名で処方され、変更不可となっている医薬品が1品目でもある処方せんの枚数(枚)	19.8	68.3	1.0
②/①(%)	19.3%		
③/①(%)	6.4%		

(注) 平成 26 年 11 月 6 日(木)～11 月 12 日(水)の取り扱い処方せん枚数について回答があった 646 施設を集計対象とした。

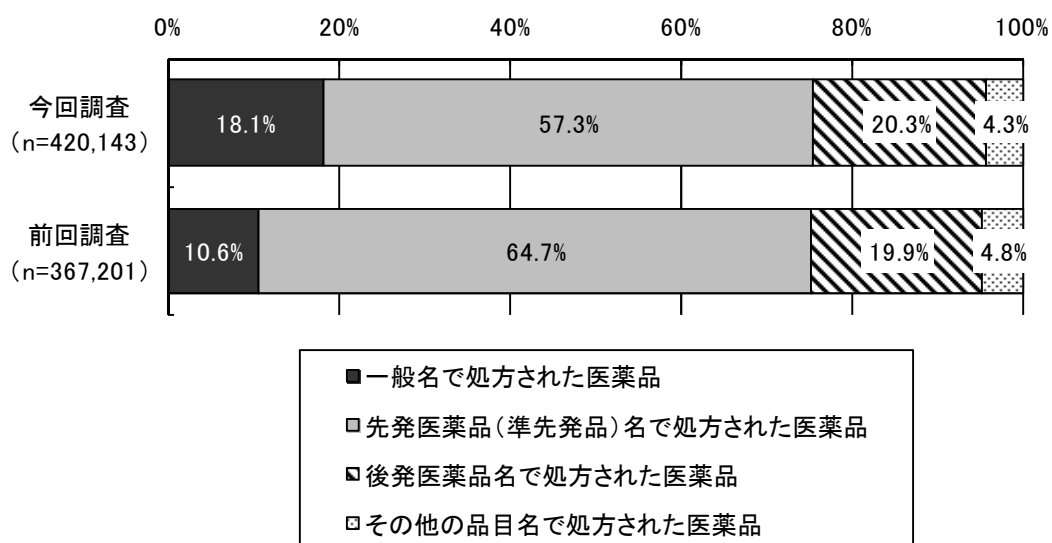
② 1週間の取り扱い処方せん枚数の内訳

図表 28 1週間の取り扱い処方せんに記載された医薬品の品目数と対応状況別品目数
(546 薬局、総処方せん 164,393 枚に記載された 420,143 品目数)

	(今回調査)		(参考) 前回調査
	品目数	割合	
①一般名で処方された医薬品の品目数	76,253	18.1%	10.6%
②後発医薬品を選択した医薬品の品目数	53,959	12.8%	6.3%
③先発医薬品(準先発品を含む)を選択した医薬品の品目数	22,294	5.3%	4.3%
④先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品の品目数	240,561	57.3%	64.7%
⑤「変更不可」となっていない医薬品の品目数	175,961	41.9%	42.4%
⑥先発医薬品を後発医薬品に変更した医薬品の品目数	31,917	7.6%	6.1%
⑦先発医薬品を調剤した医薬品の品目数	144,044	34.3%	36.3%
⑧後発医薬品が薬価収載されていないため、後発医薬品に変更できなかった医薬品の品目数	62,172	14.8%	14.3%
⑨外用剤が処方され、同一剤形の後発医薬品がなかったため変更できなかった医薬品の品目数	3,848	0.9%	1.0%
⑩患者が希望しなかったため、後発医薬品に変更できなかった医薬品の品目数(過去に確認済みの場合を含む)	48,597	11.6%	9.5%
⑪後発医薬品名で処方された医薬品の品目数	85,367	20.3%	19.9%
⑫「変更不可」となっている医薬品の品目数	38,279	9.1%	4.5%
⑬その他(漢方製剤など、先発医薬品・準先発品・後発医薬品のいずれにも該当しない医薬品)の品目名で処方された医薬品の品目数	17,962	4.3%	4.8%
⑬処方せんに記載された医薬品の品目数の合計	420,143	100.0%	100.0%

(注) 平成 26 年 11 月 6 日(木)～11 月 12 日(水)に取り扱った処方せん枚数及び品目数内訳について回答があった 546 施設を集計対象とした。

図表 29 1 週間の取り扱い処方せんに記載された医薬品の内訳



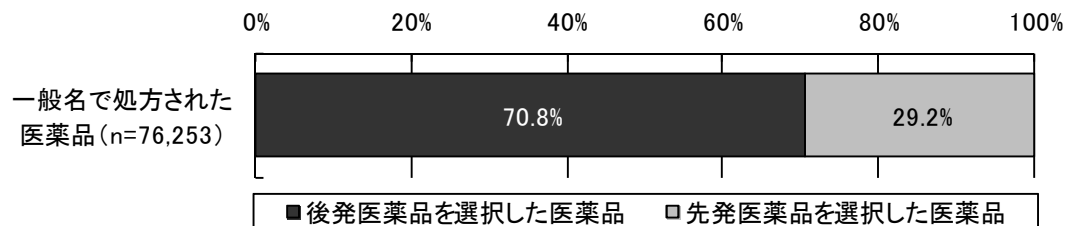
(注)・今回調査では、546 施設の 1 週間に取り扱い処方せん枚数の合計は 164,393 枚であり、処方せん記載の医薬品品目数の総数は 420,143 品目であった。また、前回調査では、324 施設の 1 週間に取り扱い処方せん枚数の合計は 101,928 枚であり、処方せん記載の医薬品品目数の総数は 367,201 品目であった。

・「その他」とは、漢方製剤など、先発医薬品・準先発品・後発医薬品のいずれにも該当しない医薬品。

③後発医薬品への変更割合等（品目ベース）

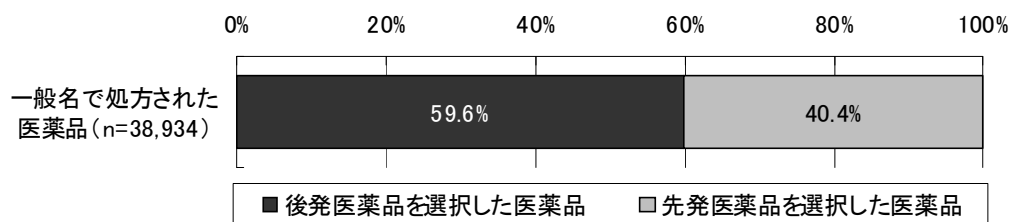
1) 一般名で処方された医薬品における後発医薬品を選択した割合

図表 30 一般名で処方された医薬品（n=76,253）における、後発医薬品の調剤状況
（平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間分の品目ベース、546 薬局分）



（注）「先発医薬品」には、準先発品も含まれる。

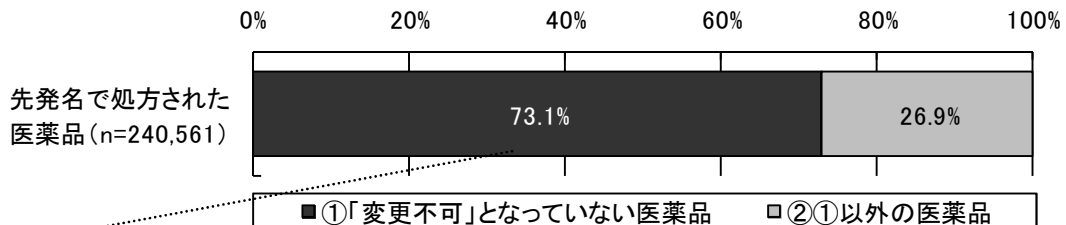
（前回調査）



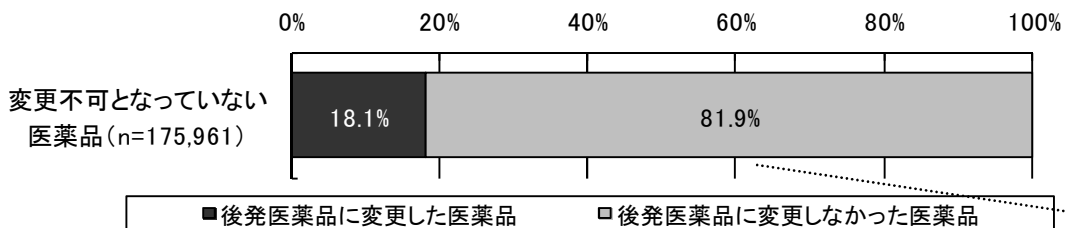
（注）・平成 25 年 8 月 21 日～8 月 27 日 1 週間分、324 薬局分。
・「先発医薬品」には、準先発品も含まれる。

2) 先発医薬品（準先発品）名で処方された医薬品における、「変更不可」のチェックの状況

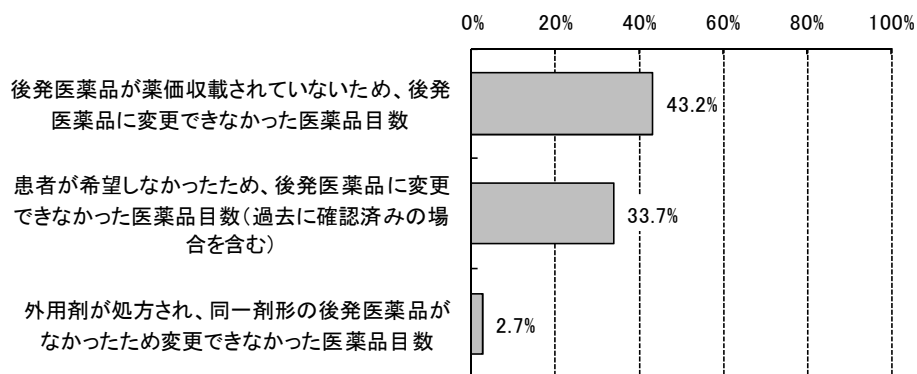
図表 31 先発医薬品（準先発品）名で処方された医薬品（n=240,561）における、「変更不可」の状況（平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間分の品目ベース、546 薬局分）



図表 32 先発医薬品（準先発品）名で処方された医薬品で「変更不可」となっていない医薬品（n=175,961）における、後発医薬品に変更した医薬品の割合（平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間分の品目ベース、546 薬局分）

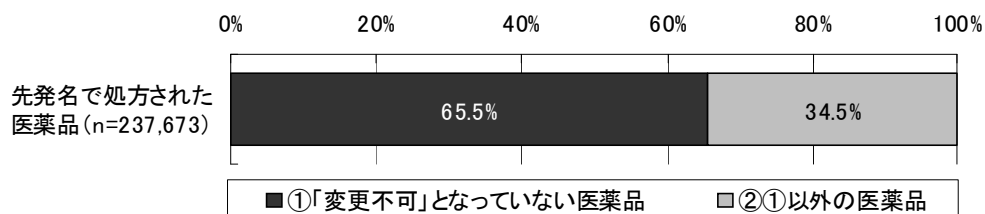


図表 33 先発医薬品名で処方され「変更不可」となっていない医薬品のうち、先発医薬品を調剤した医薬品（n=144,044）について、後発医薬品を調剤しなかった理由別分布（平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間分の品目ベース、複数回答）

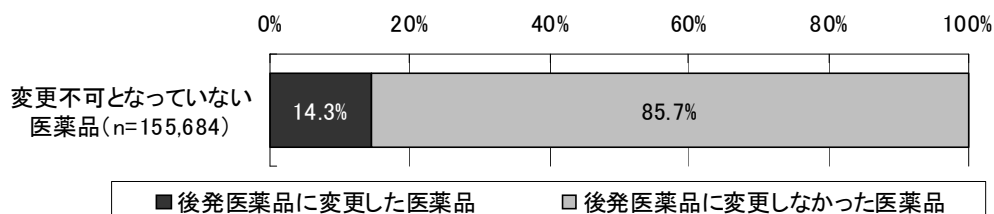


(前回調査)

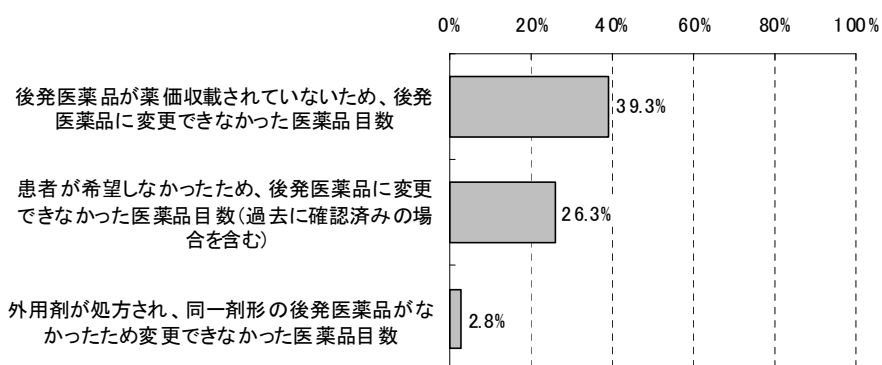
図表 先発医薬品（準先発品）名で処方された医薬品における、「変更不可」の状況



図表 先発医薬品（準先発品）名で処方された医薬品で「変更不可」となっていない医薬品における、後発医薬品に変更した医薬品の割合

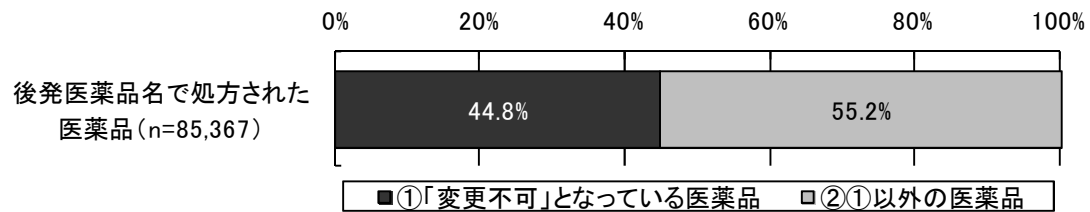


図表 先発医薬品名で処方され「変更不可」となっていない医薬品のうち、後発医薬品に変更しなかった医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった理由別分布（複数回答、n=133,373）

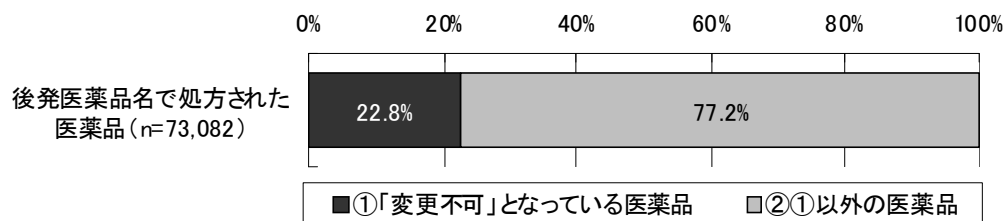


3) 後発医薬品名で処方された医薬品における、「変更不可」のチェックの状況

図表 34 後発医薬品名で処方された医薬品（n=85,367）における、「変更不可」の状況
（平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間分の品目ベース、546 薬局分）

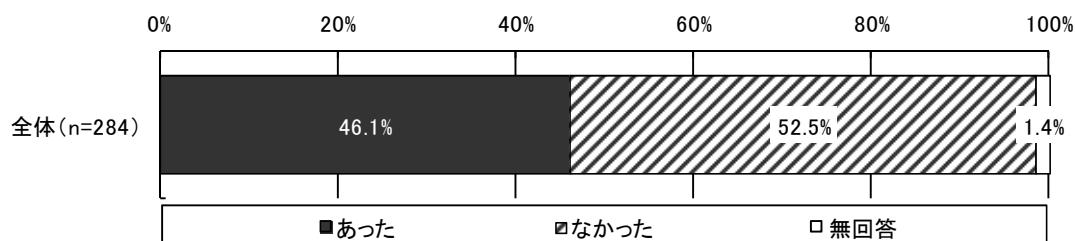


（前回調査）

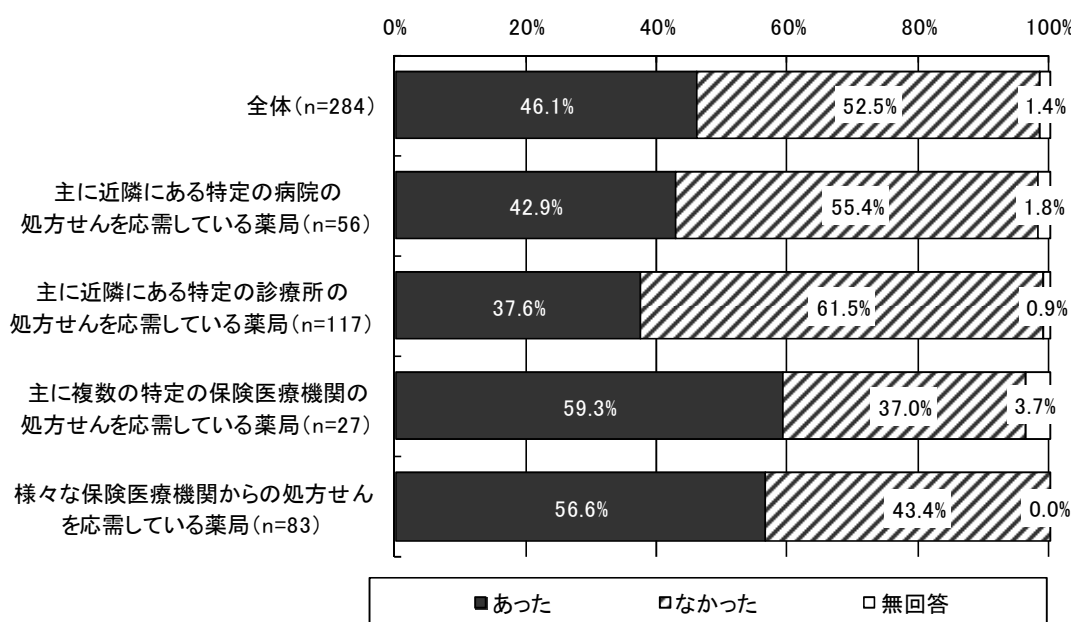


④変更不可の後発医薬品が処方されることによる、調剤を行う上での問題等

図表 35 変更不可の後発医薬品が処方されることによる、調剤を行う上での問題の有無
(平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間に取扱った処方せんに 1 品目でも他の後発医薬品への変更不可となっている医薬品があった薬局、n=284)

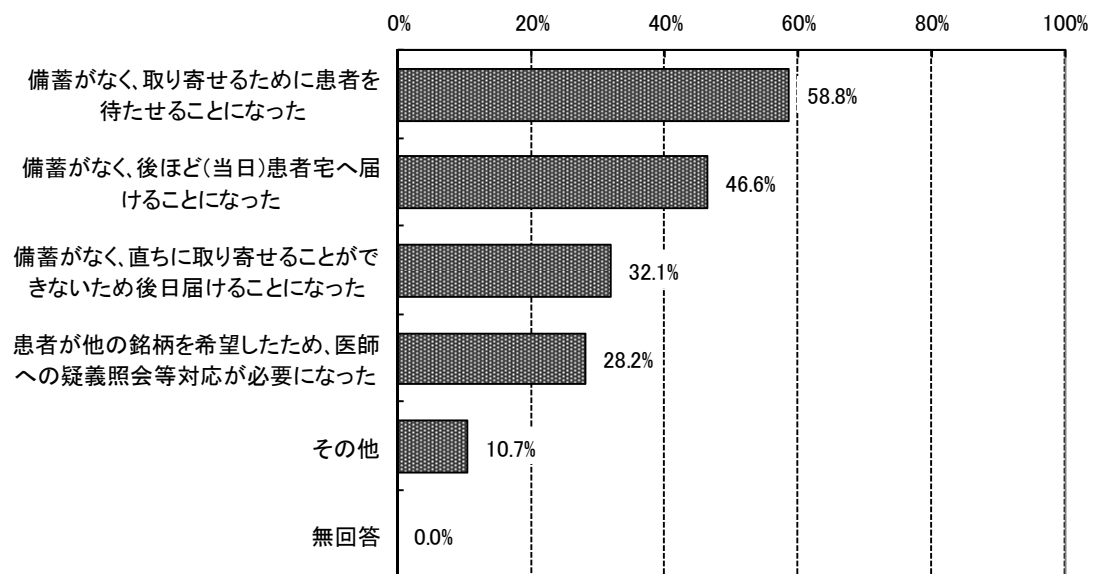


図表 36 変更不可の後発医薬品が処方されることによる、調剤を行う上での問題の有無
(処方せんの応需状況別)
(平成 26 年 11 月 6 日～11 月 12 日 1 週間に取扱った処方せんに 1 品目でも他の後発医薬品への変更不可となっている医薬品があった薬局、n=284)



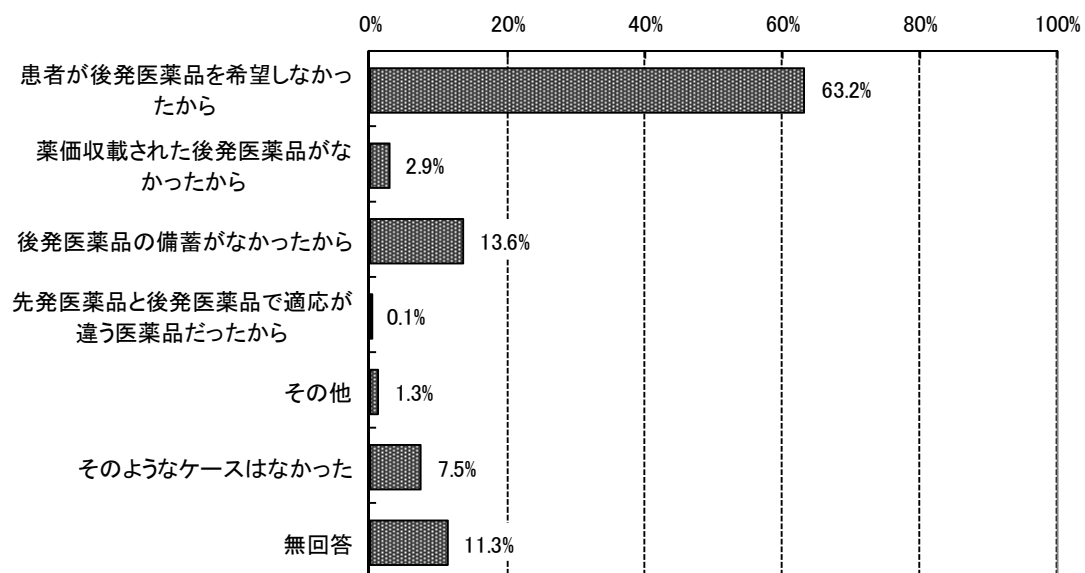
(注)「全体」には、処方せんの応需状況が無回答であった 1 施設が含まれる。

図表 37 変更不可の後発医薬品が処方されることによる、調剤を行う上での問題
(問題があったと回答した薬局、複数回答、n=131)



⑤一般名処方の処方せんを持参した患者のうち、後発医薬品を調剤しなかったケースについての最も多い理由

図表 38 一般名処方の処方せんを持参した患者のうち、後発医薬品を調剤しなかったケースについての最も多い理由(平成26年11月6日～11月12日の1週間、単数回答、n=690)



(4) 後発医薬品の備蓄状況・廃棄額等

① 医薬品の備蓄品目数

図表 39 医薬品の備蓄品目数 (n=370)

		平成 25 年 9 月 または把握可能 な 25 年度の末 日時点	平成 26 年 9 月 または把握可能 な直近の末 日時点	増加率
医薬品全品目数 (A)	平均値	916.5	968.9	5.7%
	標準偏差	412.8	431.7	
	中央値	836.0	892.5	
うち、後発医薬 品の品目数(B)	平均値	187.1	228.6	22.2%
	標準偏差	126.0	138.9	
	中央値	167.5	203.0	
(B)／(A)	平均値	20.4%	23.6%	
	中央値	20.0%	22.7%	

(注) 医薬品の備蓄品目数、在庫金額、購入金額、廃棄額の全ての項目について回答のあった 370 施設を集計対象とした。

図表 40 1 つの先発医薬品（同一規格）に対する後発医薬品の平均備蓄品目数 (n=532)

	平均値	標準偏差	中央値
1 つの先発医薬品に対して備蓄している後発医薬品の 品目数(品目)	1.1	0.5	1.0

(注) 1 つの先発医薬品に対する後発医薬品の平均備蓄品目数について回答のあった 532 施設を集計対象とした。

②医薬品の在庫金額・購入金額・廃棄額

図表 41 医薬品の在庫金額及び廃棄額（末日時点または1か月分、n=370）

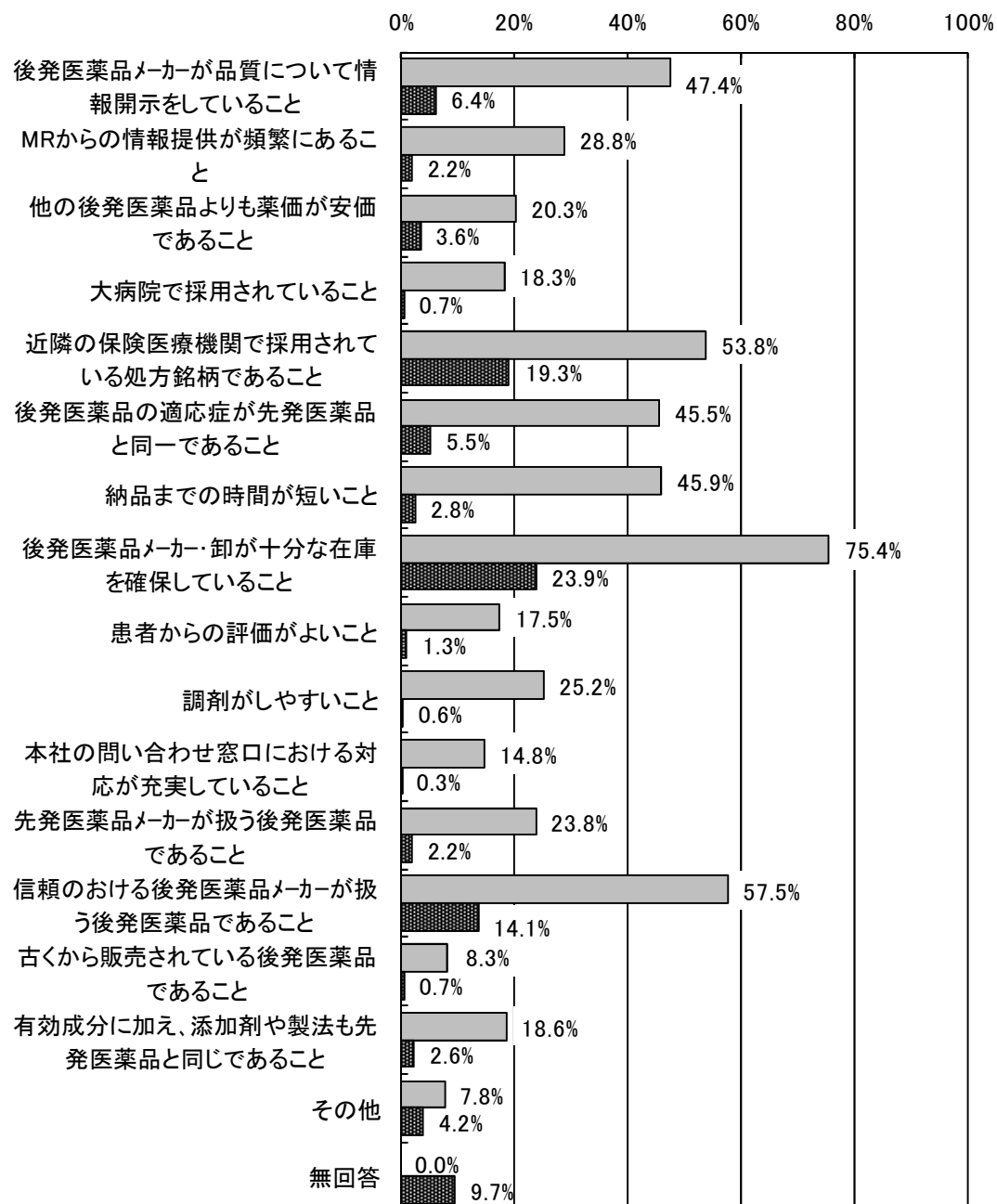
			平成 25 年 9 月 または把握可能 な 25 年度の末日 時点	平成 26 年 9 月 または把握可能 な直近の末日時 点	増加率
在庫金額 (円)	医薬品全品目	平均値	8,084,036.8	8,412,517.7	4.1%
		標準偏差	7,704,155.7	8,293,353.7	
		中央値	5,597,000.0	5,980,000.0	
	うち、後発医薬品	平均値	968,707.6	1,180,919.2	21.9%
		標準偏差	1,079,204.8	1,288,025.9	
		中央値	640,430.5	826,402.5	
購入金額 (円)	医薬品全品目	平均値	7,630,834.1	7,723,666.0	1.2%
		標準偏差	8,392,346.4	8,689,885.7	
		中央値	5,197,900.0	5,214,000.0	
	うち、後発医薬品	平均値	909,647.8	1,121,253.8	23.3%
		標準偏差	983,051.6	1,179,635.7	
		中央値	556,098.5	721,613.5	
廃棄額 (円)	医薬品全品目	平均値	29,556.2	32,362.1	9.5%
		標準偏差	67,389.3	67,780.5	
		中央値	9,578.0	10,000.0	
	うち、後発医薬品	平均値	3,915.5	4,563.7	16.6%
		標準偏差	9,039.2	13,353.3	
		中央値	301.0	579.0	

(注) 医薬品の備蓄品目数、在庫金額、購入金額、廃棄額の全ての項目について回答のあった 370 施設を集計対象とした。

(5) 後発医薬品への対応状況

①後発医薬品の採用基準

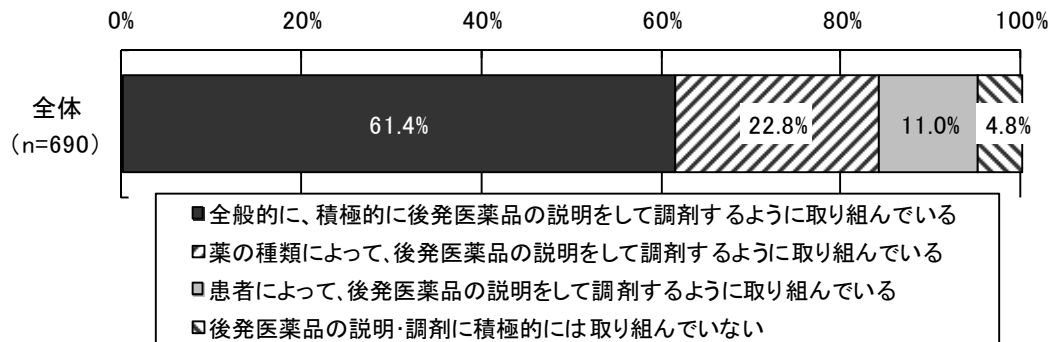
図表 42 後発医薬品の採用基準



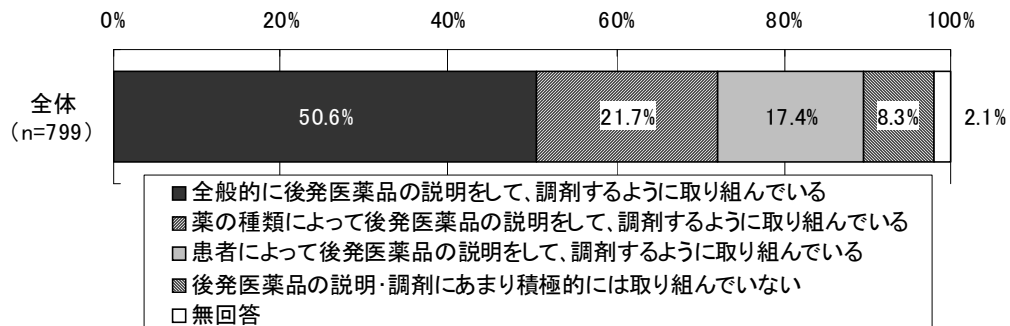
□ 重要なもの(複数回答、n=690) ■ 最も重要なもの(単数回答、n=690)

②後発医薬品の調剤に関する考え

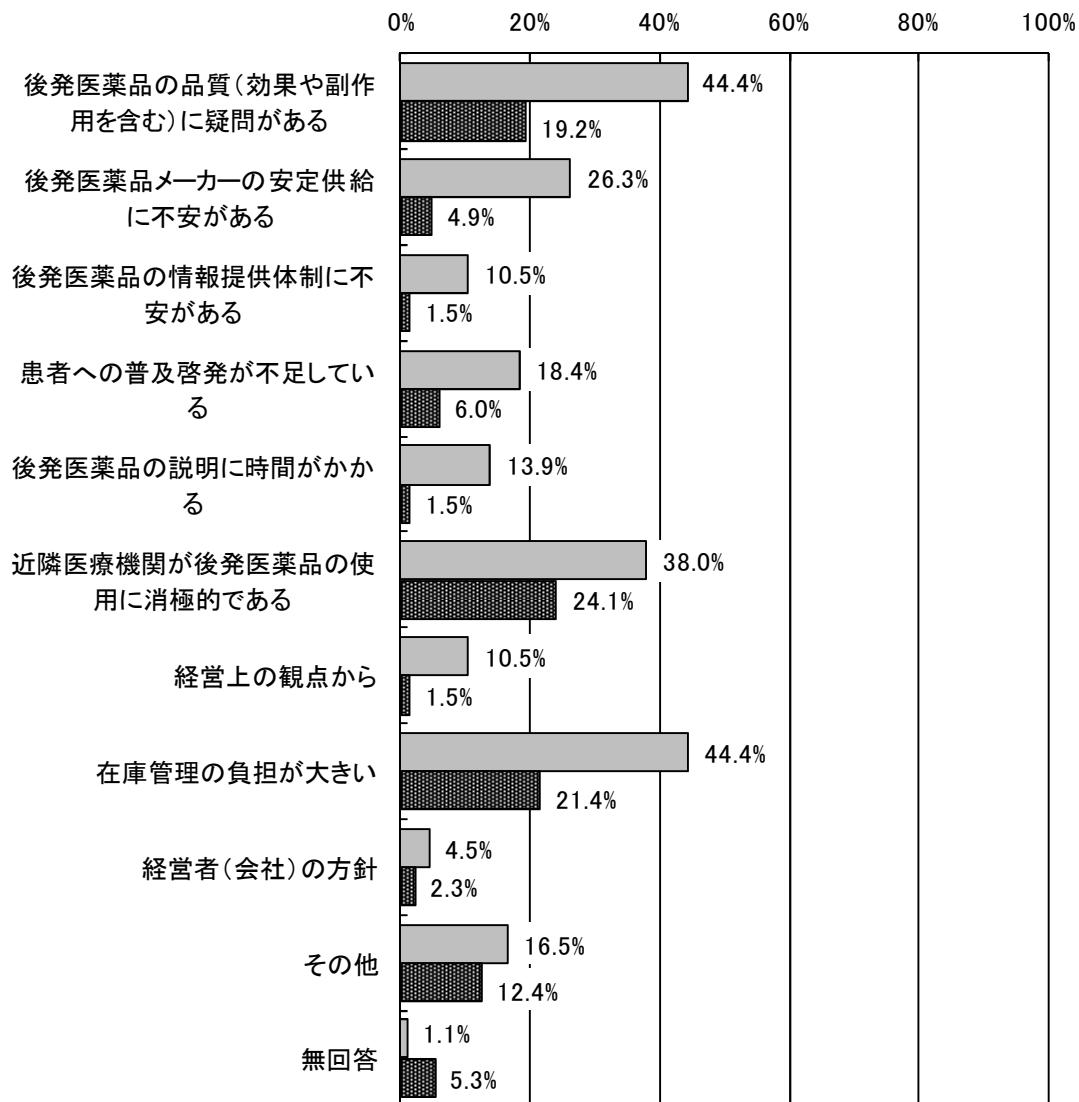
図表 43 後発医薬品の調剤に関する考え



(前回調査)



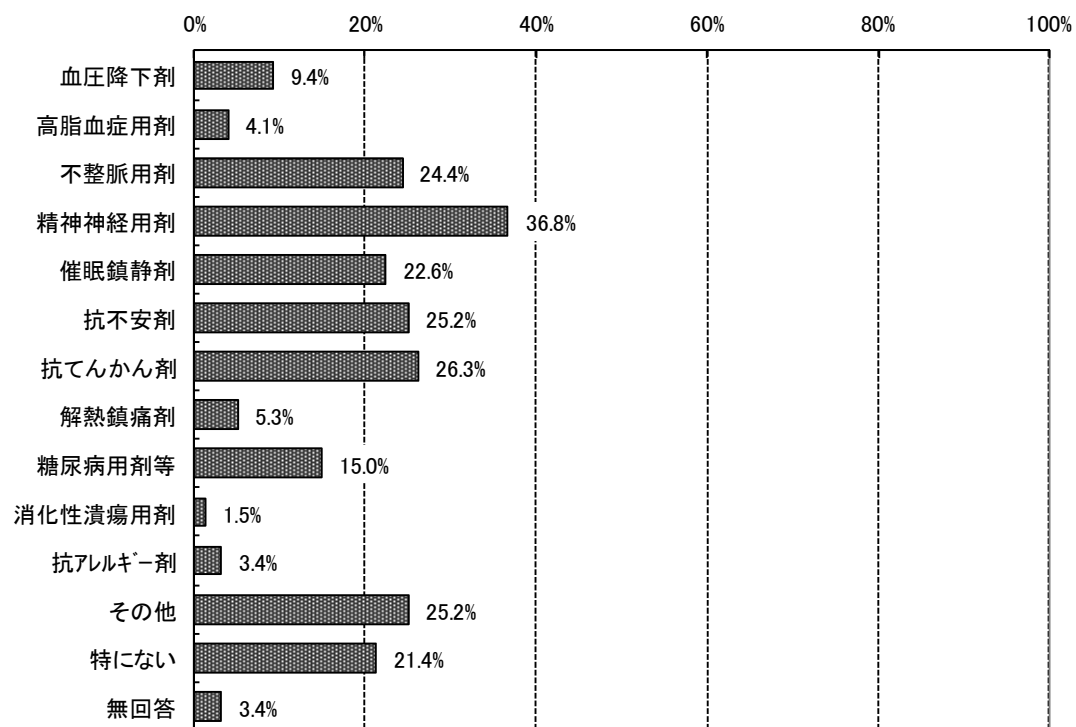
図表 44 あまり積極的には取り組んでいない理由
 (「全般的に、後発医薬品の説明をして、調剤するように取り組んでいる」と回答した薬局以外の薬局、n=266)



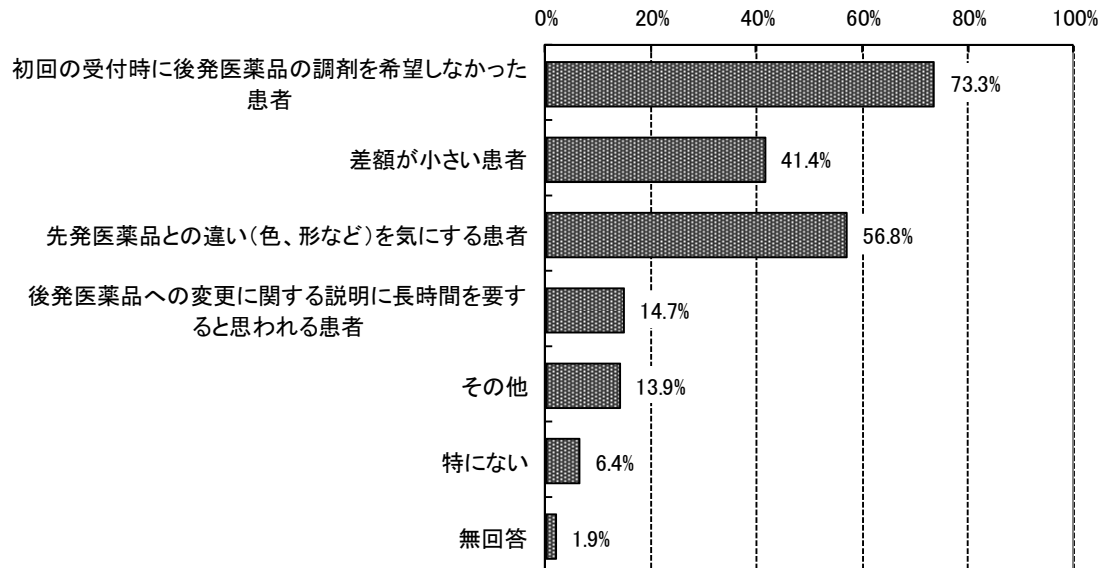
□あてはまるもの(複数回答、n=266)

■最もあてはまるもの(単数回答、n=266)

図表 45 後発医薬品を積極的に調剤していない医薬品の種類
 (「全般的に、後発医薬品の説明をして、調剤するように取り組んでいる」と回答した薬局以外の薬局、複数回答、n=266)

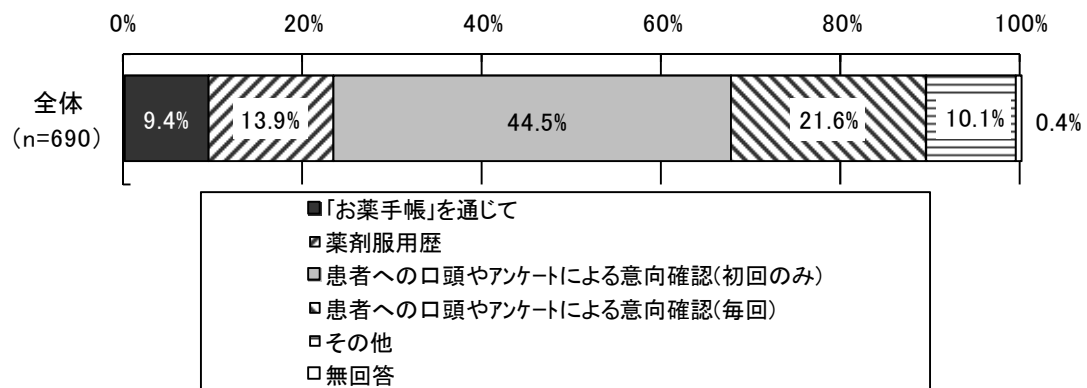


図表 46 後発医薬品を積極的に調剤していない患者の特徴
 (「全般的に、後発医薬品の説明をして、調剤するように取り組んでいる」と
 回答した薬局以外の薬局、複数回答、n=266)



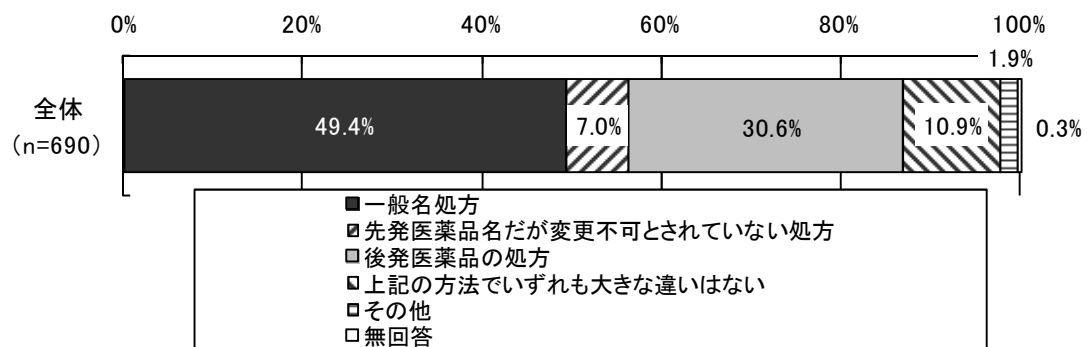
③後発医薬品使用に関する患者の意向を把握する手段

図表 47 後発医薬品使用に関する患者の意向を把握する手段



④後発医薬品への変更・選択において患者の理解を最も得られやすい処方方法

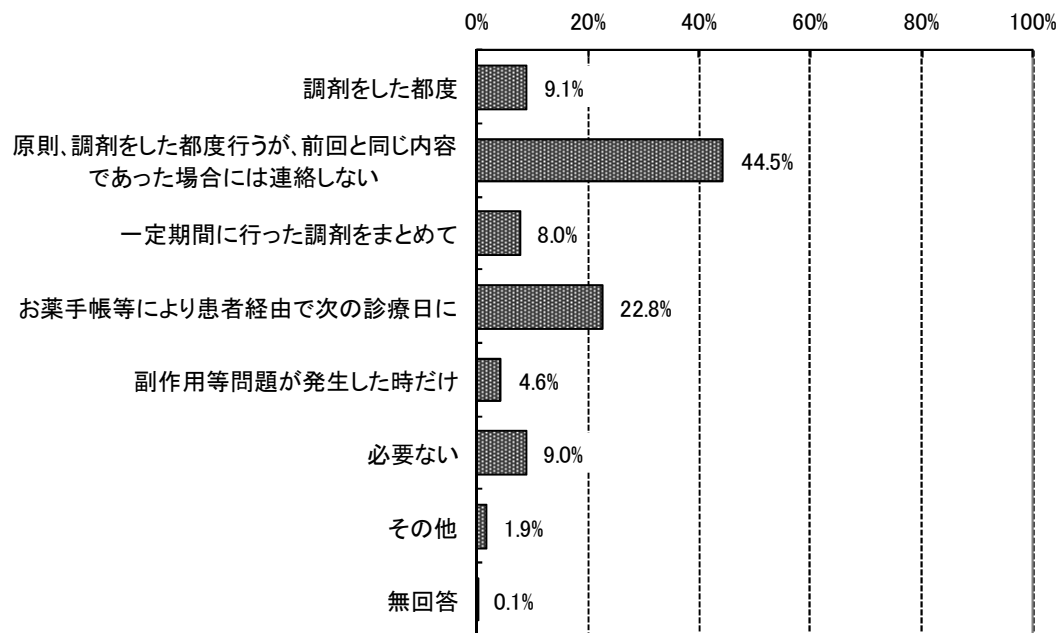
図表 48 後発医薬品への変更・選択において患者の理解を最も得られやすい処方方法



⑤処方医への情報提供等

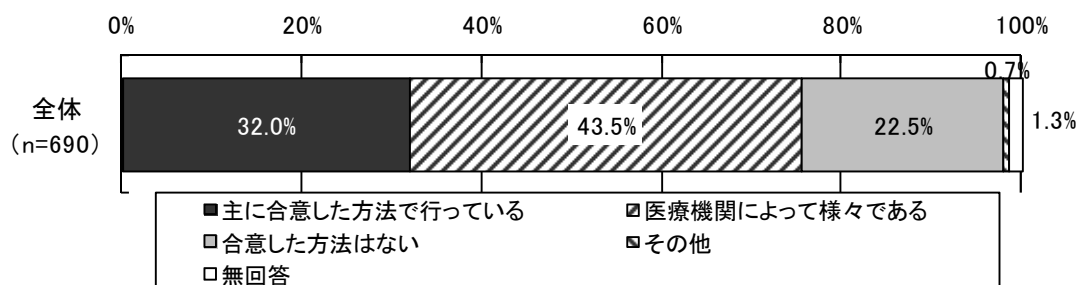
1) 一般名処方の調剤・後発医薬品への変更調剤に関する、処方医への情報提供のタイミング

図表 49 一般名処方の調剤・後発医薬品への変更調剤に関する、処方医への情報提供のタイミング（単数回答、n=690）



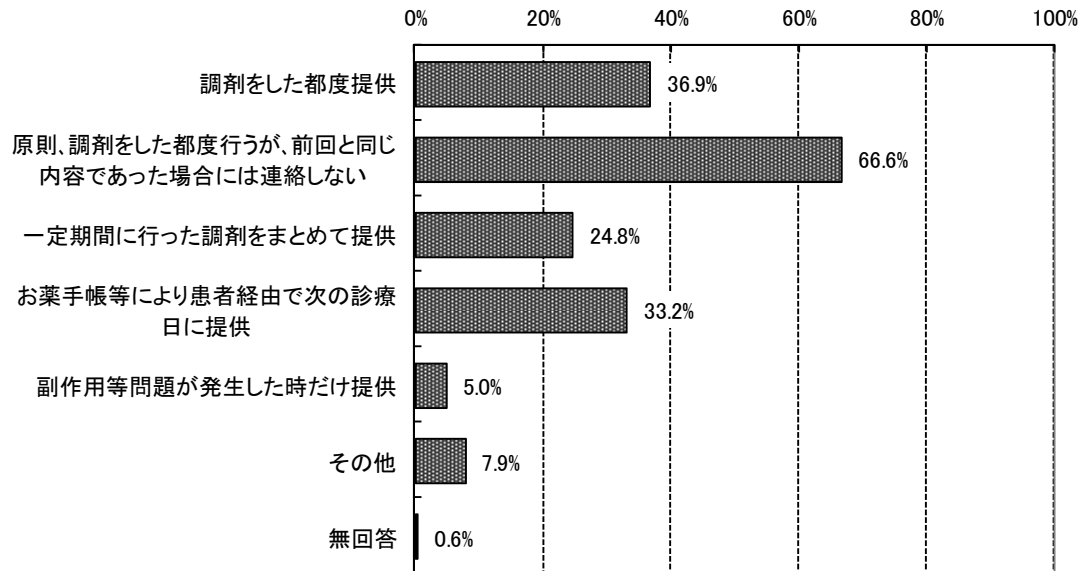
2) 一般名処方の調剤・後発医薬品への変更調剤に関する情報提供の頻度等について、医療機関と予め合意した方法で行っているか

図表 50 一般名処方の調剤・後発医薬品への変更調剤に関する情報提供の頻度等について、医療機関と予め合意した方法で行っているか



図表 51 医療機関と合意した方法

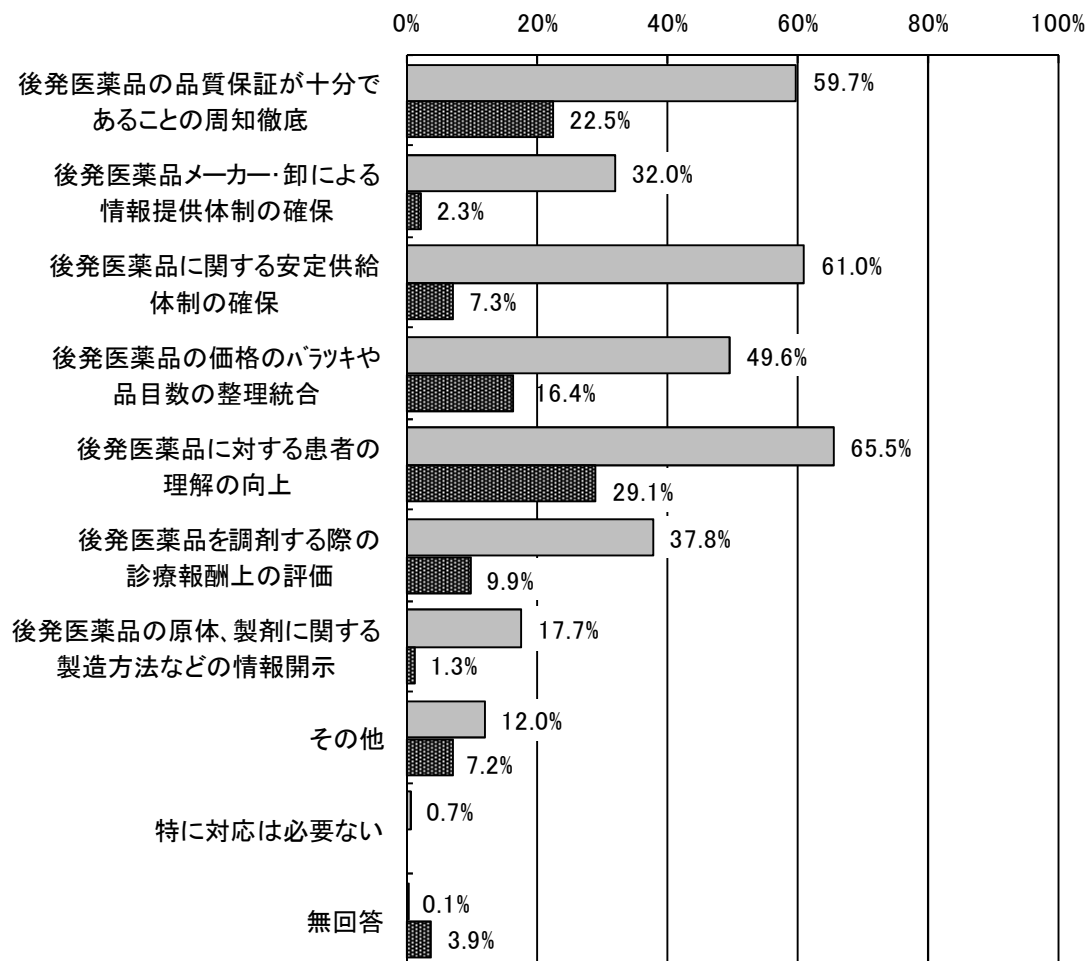
(「主に合意した方法で行っている」「医療機関によって様々である」と回答した薬局、
複数回答、n=521)



(6) 後発医薬品使用にあたっての問題点・課題・要望等

①薬局の開設者・管理者の立場として後発医薬品の調剤を積極的に進める上で必要な対応

図表 52 薬局の開設者・管理者の立場として後発医薬品の調剤を積極的に進める上で必要な対応

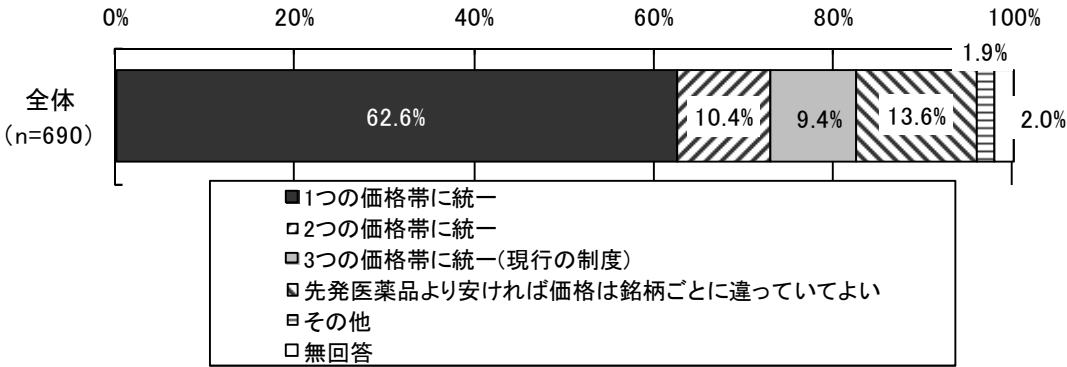


□ あてはまるもの(複数回答、n=690)

■ 最もあてはまるもの(単数回答、n=684)

②後発医薬品の望ましい価格体系

図表 53 後発医薬品の望ましい価格体系



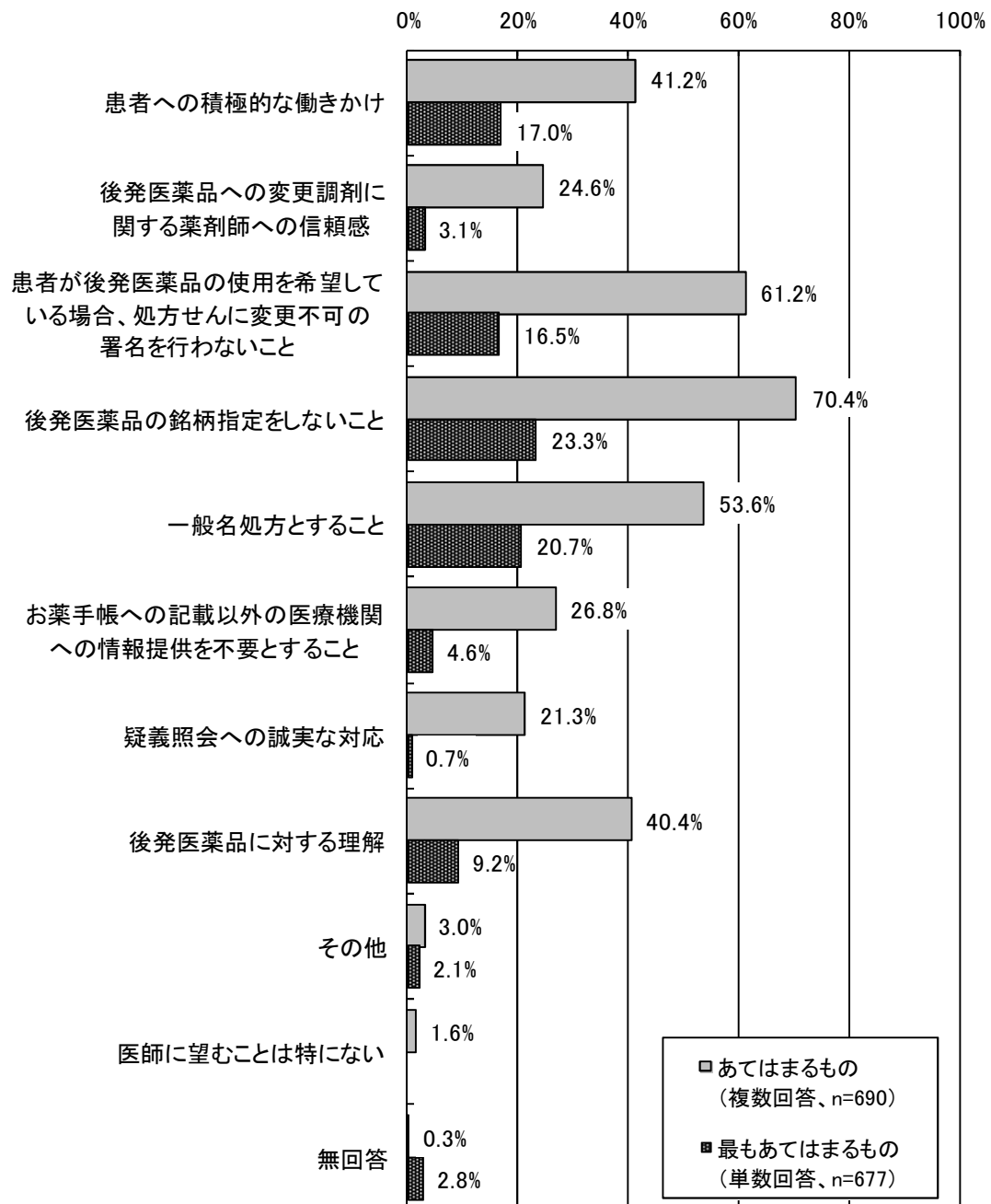
③後発医薬品の望ましい薬価水準

図表 54 後発医薬品の望ましい薬価水準（先発医薬品と比較した場合の水準、n=628）

	平均値	標準偏差	中央値
先発医薬品と比較した時の後発医薬品の薬価の適切な水準 (%)	52.7	11.0	50.0

④後発医薬品の使用を進める上で医師に望むこと

図表 55 後発医薬品の使用を進める上で医師に望むこと



(7) 後発医薬品に変更して調剤した処方せん等に係る薬剤料の状況

図表 56 11/6～11/12 のうちの平均的な開局時間である 1 日に先発医薬品から後発医薬品に変更して調剤または一般名処方の医薬品を後発医薬品で調剤した処方せん (11,175 枚) の状況

	(今回調査)			(前回調査)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料(A)(点)	762.4	1,767.5	348.0	872.4	1,862.8	420.0
実際に調剤した薬剤料(B)(点)	634.5	1,675.6	270.0	727.6	1,628.8	336.0
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料に占める、実際に調剤した薬剤料の割合(B/A)(%)	83.2%		77.6%	83.4%		80.0%

(注)「前回調査」の処方せん枚数は 9,722 枚 (平成 25 年 8 月 21 日から 8 月 27 日までの 1 週間分の処方せん)。

図表 57 11/6～11/12 のうちの平均的な開局時間である 1 日に先発医薬品から後発医薬品に変更して調剤または一般名処方の医薬品を後発医薬品で調剤した処方せん (11,175 枚) の状況 (患者一部負担金割合別)

	患者一部負担金割合					
	全体	0 割	1 割	2 割	3 割	10 割
処方せん枚数(枚)	11,175	1,787	3,562	298	5,499	17
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料(A)(点)	762.4	591.8	1,010.9	405.3	677.6	332.1
実際に調剤した薬剤料(B)(点)	634.5	524.4	845.8	325.8	551.1	284.4
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料に占める、実際に調剤した薬剤料の割合(B/A)(%)	83.2%	88.6%	83.7%	80.4%	81.3%	85.6%

(注) 患者一部負担金割合の「全体」には、患者一部負担金割合が不明だった処方せん 12 枚が含まれる。

図表 58 11/6～11/12 のうちの平均的な開局時間である 1 日に先発医薬品から後発医薬品に変更して調剤した処方せん (5,257 枚) の状況 (患者一部負担金割合別)

	患者一部負担金割合					
	全体	0 割	1 割	2 割	3 割	10 割
処方せん枚数(枚)	5,257	842	1,565	146	2,691	7
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料(A)(点)	895.0	613.7	1,265.7	450.5	792.1	531.4
実際に調剤した薬剤料(B)(点)	713.6	525.2	1,021.7	329.6	614.5	460.3
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料に占める、実際に調剤した薬剤料の割合(B/A)(%)	79.7%	85.6%	80.7%	73.2%	77.6%	86.6%

(注) 患者一部負担金割合の「全体」には、患者一部負担金割合が不明だった処方せん 6 枚が含まれる。

3. 診療所・病院・医師調査の結果

【調査対象等】

○診療所調査

調査対象：全国の一般診療所の中から無作為に抽出した一般診療所

回 答 数：932 施設

回 答 者：開設者・管理者

○病院調査

調査対象：全国の病院の中から無作為に抽出した病院

回 答 数：574 施設

回 答 者：開設者・管理者

○医師調査

調査対象：上記「病院調査」の対象施設で外来診療を担当する医師

1 施設につき、診療科の異なる医師 2 名

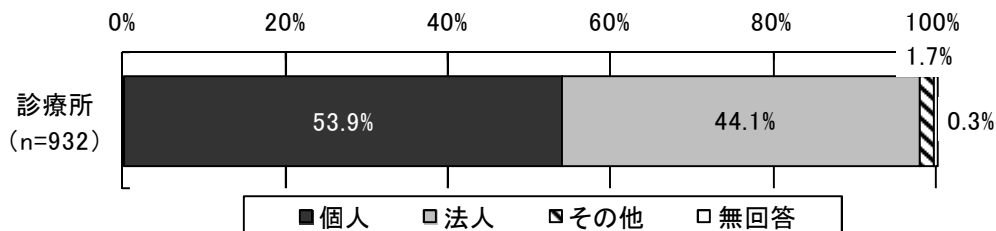
回 答 数：863 人

(1) 施設の概要等

①診療所の施設属性

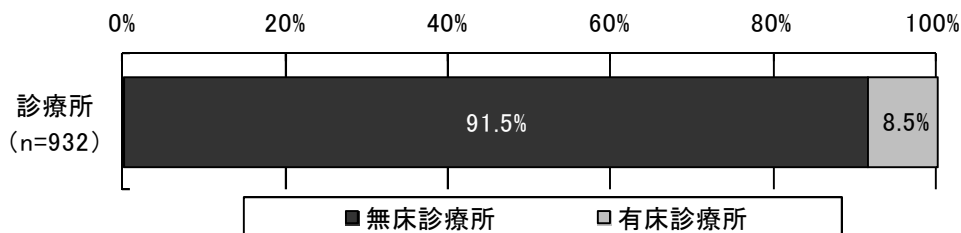
1) 診療所の開設者

図表 59 診療所の開設者

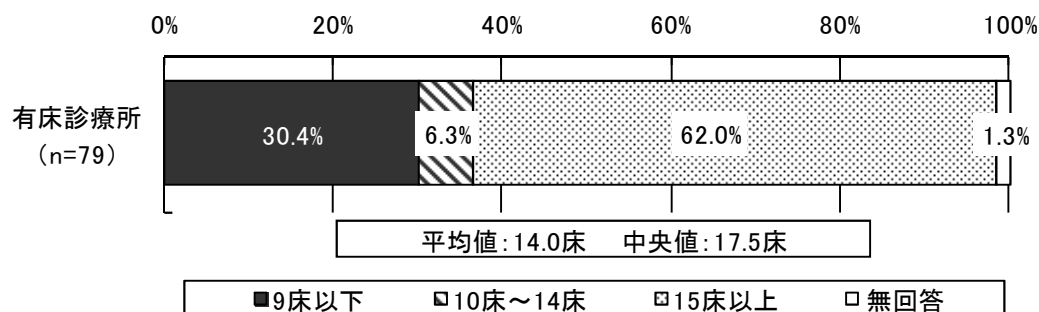


2) 診療所の種別

図表 60 診療所の種別

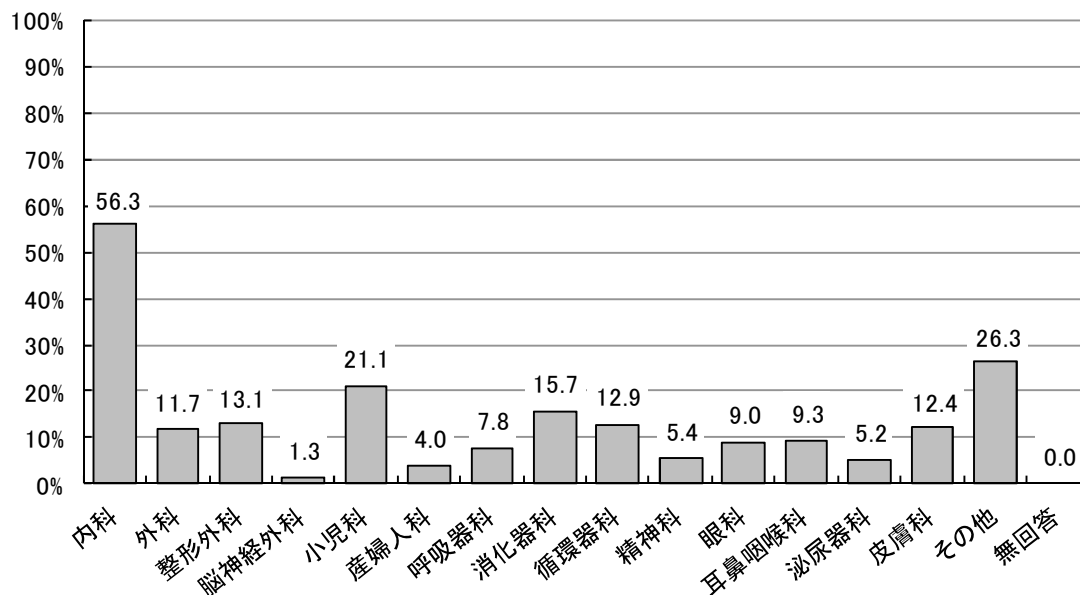


図表 61 有床診療所の病床規模



3) 診療所の標榜診療科

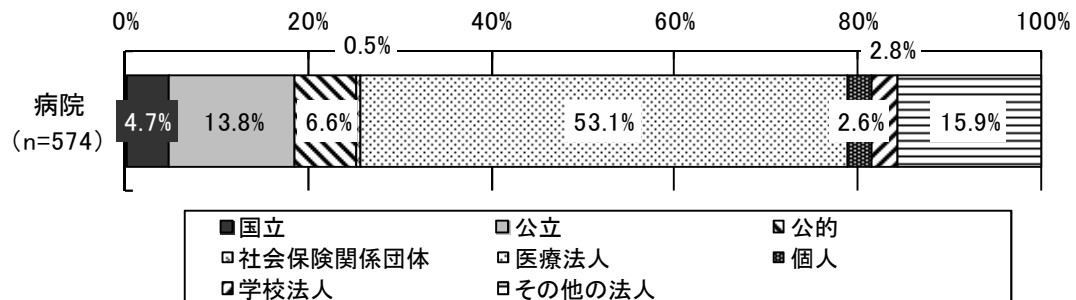
図表 62 診療所の標榜診療科（複数回答、n=932）



②病院の施設属性

1) 病院の開設者

図表 63 病院の開設者



(注) 開設者は以下の通り。

国 立：厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康福祉機構、その他（国、独立行政法人）

公 立：都道府県、市町村、地方独立行政法人

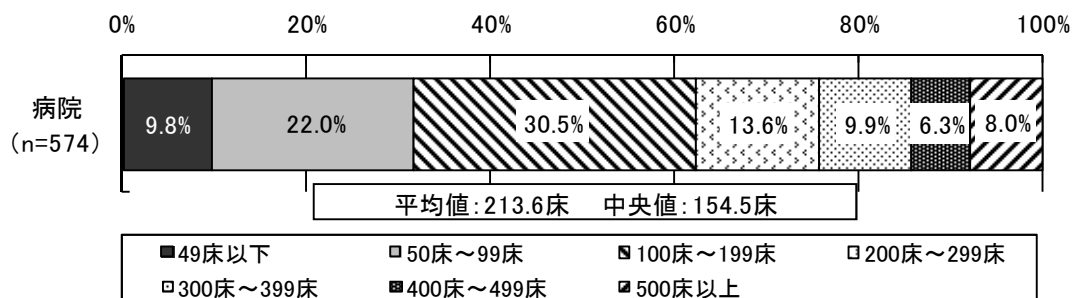
公 的：日本赤十字社、済生会、北海道社会事業協会、全国厚生農業協同組合連合会、国民健康保険団体連合会

社会保険関係団体：全国社会保険協会連合会、厚生年金事業振興団、船員保険会、健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合

その他の法人：公益法人、社会福祉法人、医療生協、会社、その他の法人

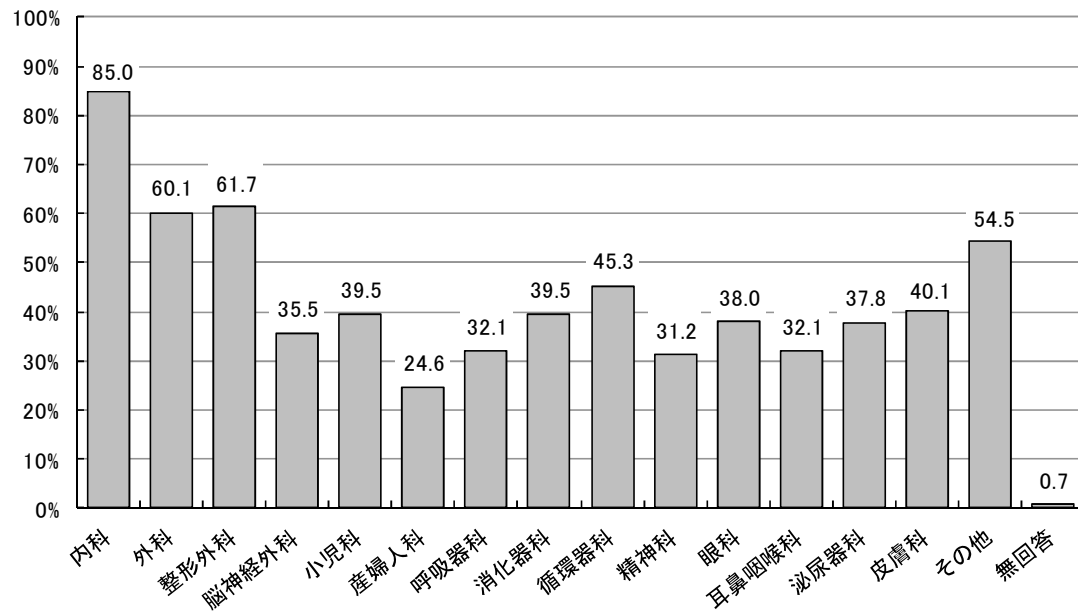
2) 病院の病床規模

図表 64 病院の病床規模



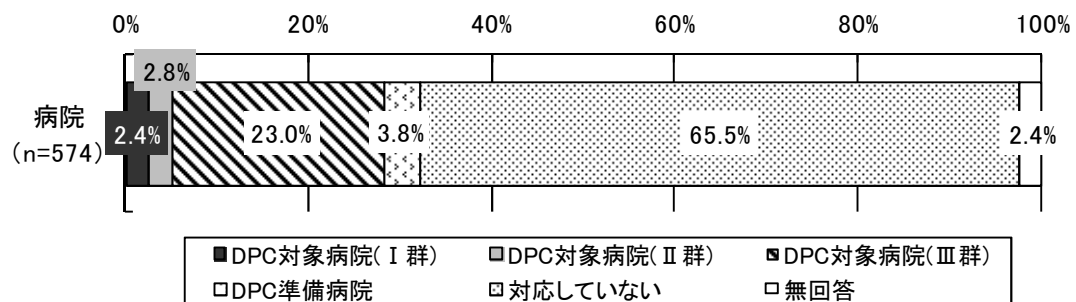
3) 病院の標榜診療科

図表 65 病院の標榜診療科（複数回答、n=574）



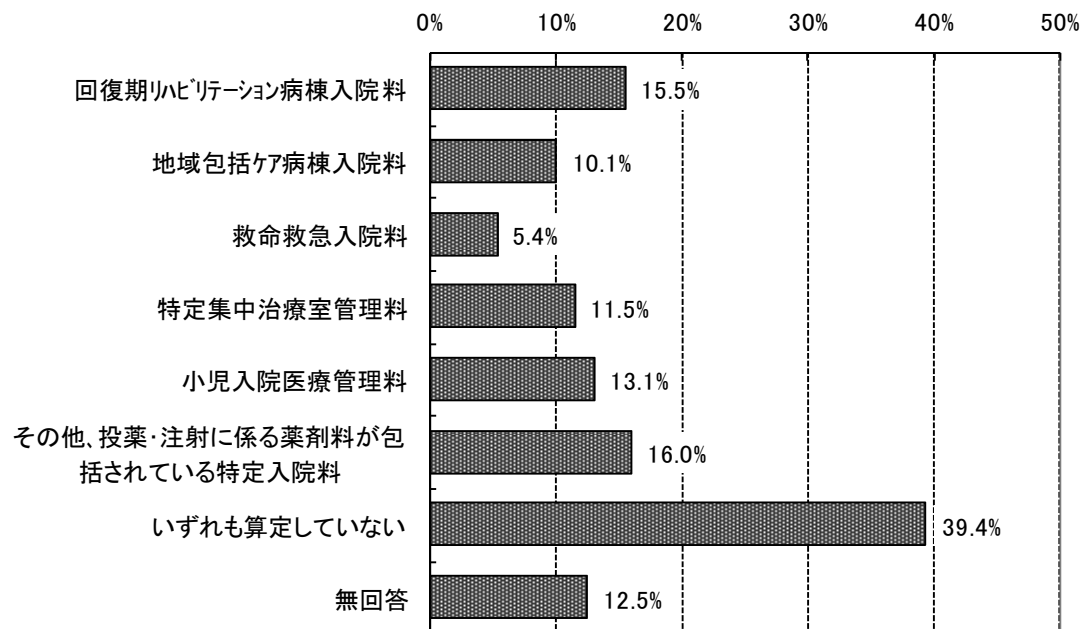
4) D P Cの対応状況

図表 66 D P Cの対応状況



5) 特定入院料の状況

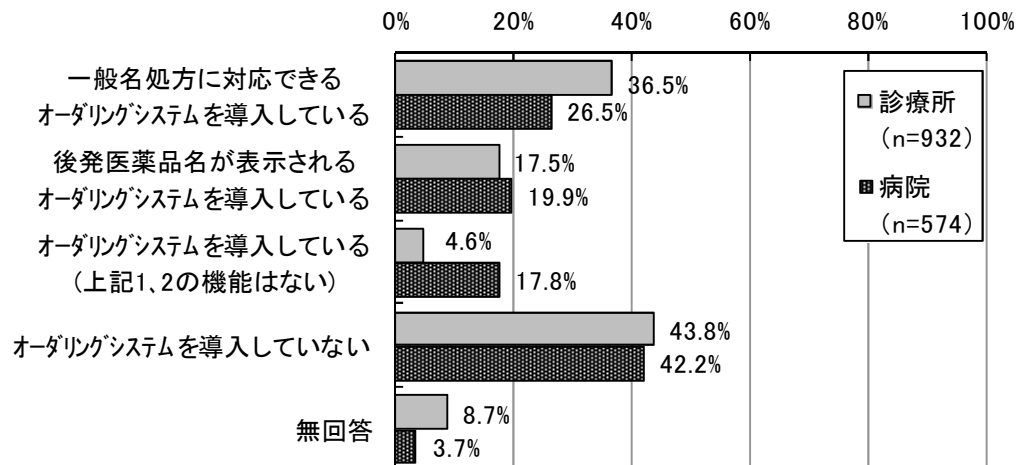
図表 67 特定入院料の状況（複数回答、n=574）



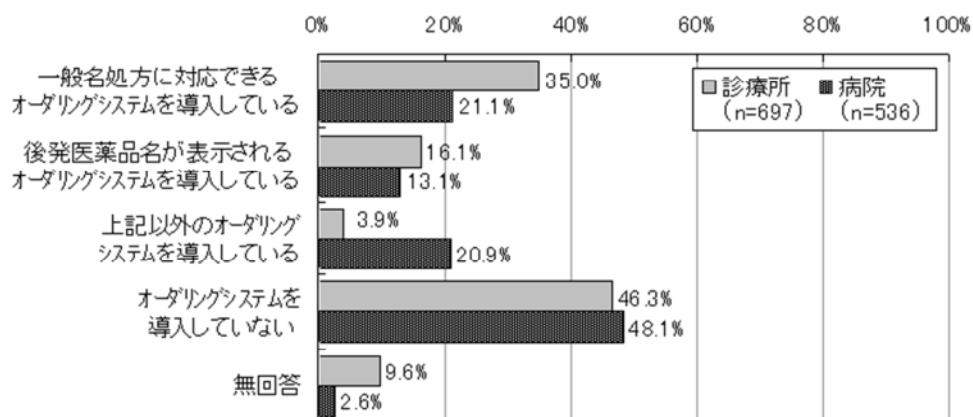
③オーダリングシステムの導入状況等

1) オーダリングシステムの導入状況

図表 68 オーダリングシステムの導入状況（複数回答）

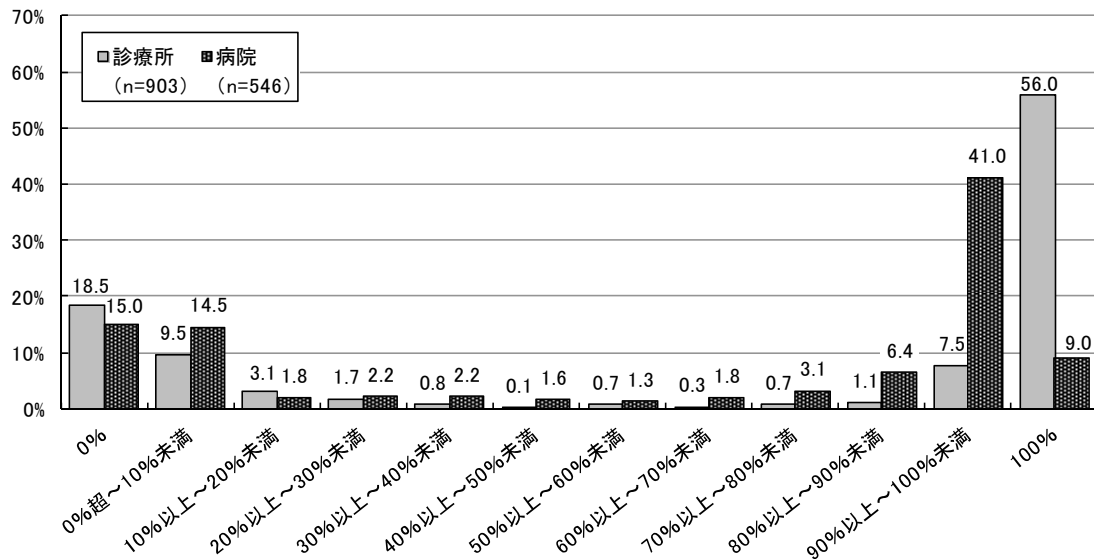


(前回調査)



2) 院外処方の割合

図表 69 院外処方の割合別 施設分布

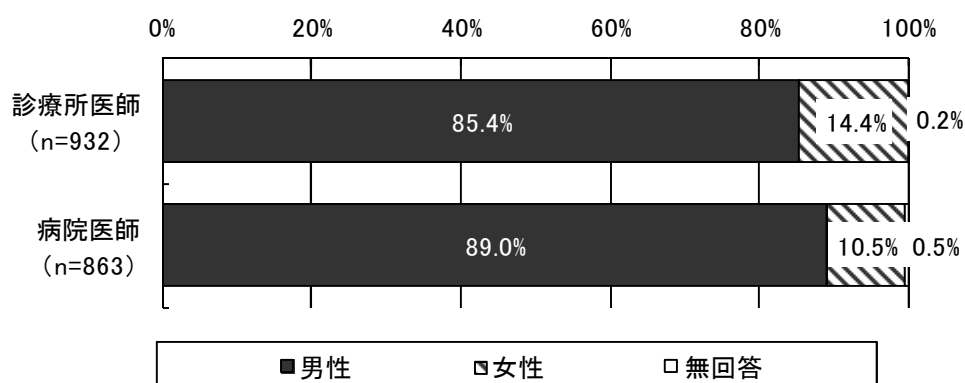


(注) 院外処方割合について記載のあった施設（診療所 903 施設、病院 546 施設）を集計対象とした。

(2) 医師の属性等

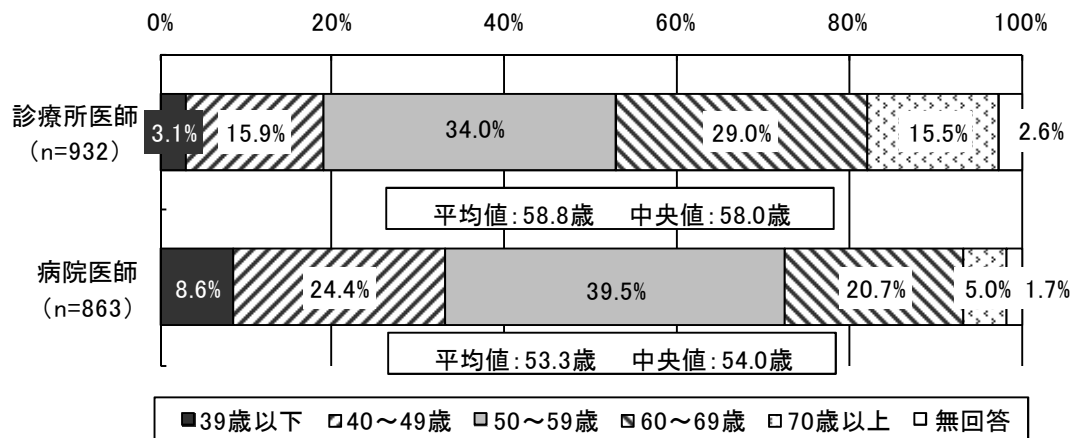
① 医師の性別

図表 70 医師の性別



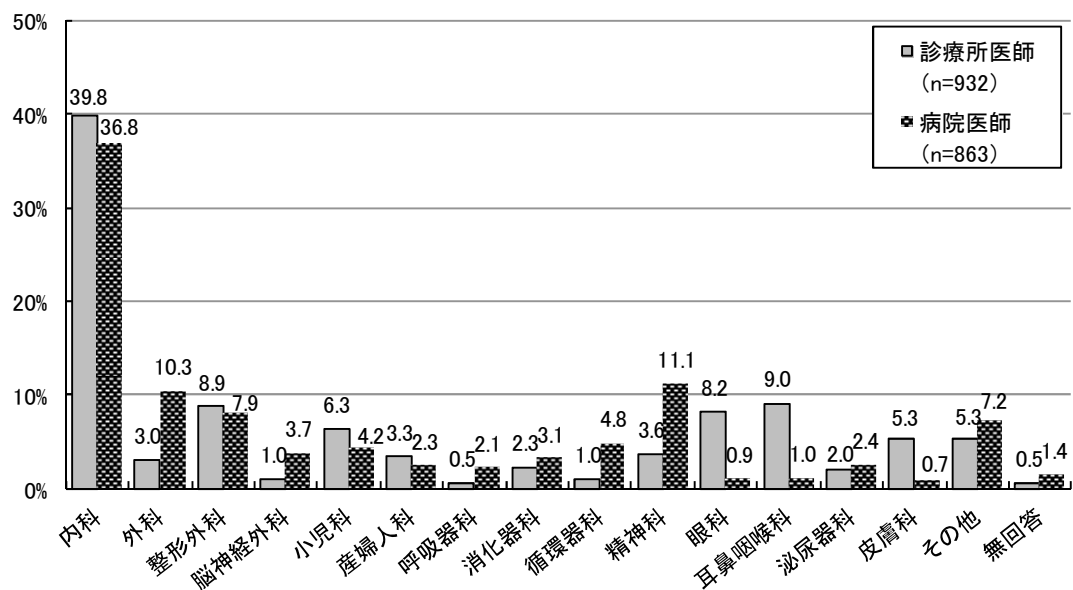
②医師の年齢

図表 71 医師の年齢



③医師の主たる担当診療科

図表 72 医師の主たる担当診療科



(3) 診療所・病院の診療体制

①診療所の診療体制

図表 73 診療所における1施設あたりの常勤の医師数・薬剤師数

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
医師数(人)	929	1.2	0.7	1.0
薬剤師数(人)	925	0.1	0.3	0.0

②病院の診療体制

図表 74 病院における1施設あたりの医師数・薬剤師数(常勤換算)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
医師数(人)	543	39.5	94.4	11.0
薬剤師数(人)	558	7.6	10.7	3.6

(4) 診療所・病院における医薬品の備蓄状況等

① 医薬品の備蓄状況等

1) 診療所における医薬品の備蓄状況

図表 75 診療所における医薬品の備蓄状況等（平成 26 年 9 月末）

	診療所全体 (n=228)			【無床診療所】院外処方率 50%未満 (n=157)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1. 医薬品備蓄品目数(品目)						
①全医薬品	172.8	136.1	140.0	185.0	132.7	150.0
②①のうち、後発医薬品	42.4	52.0	26.0	48.6	55.3	30.0
③後発医薬品割合(②/①)	24.6%		18.6%	26.3%		20.0%
2. 調剤用医薬品購入額(円)						
①全医薬品	2,778,368	5,905,030	1,425,000	2,765,212	5,330,365	1,700,000
②①のうち、後発医薬品	415,551	669,970	160,000	458,230	675,967	200,901
③後発医薬品割合(②/①)	15.0%		11.2%	16.6%		11.8%
3. 調剤用医薬品廃棄額(円)						
①全医薬品	10,143	41,445	0	12,078	48,915	0
②①のうち、後発医薬品	2,441	14,250	0	2,801	16,696	0
③後発医薬品割合(②/①)	24.1%		—	23.2%		—

	【無床診療所】院外処方率 50%以上 (n=29)			【有床診療所】 (n=38)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1. 医薬品備蓄品目数(品目)						
①全医薬品	53.1	52.1	35.0	211.3	151.9	185.0
②①のうち、後発医薬品	14.0	28.2	5.0	37.8	44.8	28.0
③後発医薬品割合(②/①)	26.3%		14.3%	17.9%		15.1%
2. 調剤用医薬品購入額(円)						
①全医薬品	214,899	302,436	116,000	4,944,224	9,151,640	2,707,330
②①のうち、後発医薬品	79,283	210,096	2,500	521,136	821,972	165,000
③後発医薬品割合(②/①)	36.9%		2.2%	10.5%		6.1%
3. 調剤用医薬品廃棄額(円)						
①全医薬品	2,910	9,936	0	8,626	17,513	0
②①のうち、後発医薬品	414	1,881	0	2,650	7,962	0
③後発医薬品割合(②/①)	14.2%		—	30.7%		—

(注)・医薬品備蓄品目数、調剤用医薬品購入額、調剤用医薬品廃棄額について回答のあった施設を集計対象とした。

・診療所全体には、院外処方率が不明の 4 施設が含まれる。

2) 病院における医薬品の備蓄品目数

図表 76 病院における医薬品の備蓄品目数（平成 26 年 9 月末、n=536）

		①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①
内服薬	平均値	415.2	76.4	18.4%
	標準偏差	228.4	54.6	
	中央値	377.5	69.0	18.3%
外用薬	平均値	150.0	26.3	17.5%
	標準偏差	94.1	16.9	
	中央値	124.0	24.0	19.4%
注射薬	平均値	247.8	41.7	16.8%
	標準偏差	187.1	35.8	
	中央値	191.0	31.0	16.2%
合計	平均値	813.0	144.4	17.8%
	標準偏差	480.2	90.0	
	中央値	684.0	131.0	19.2%

（注）内服薬、外用薬、注射薬、合計品目について回答のあった 536 施設を集計対象とした。

（前回調査）

		①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①
内服薬	平均値	419.5	67.9	16.2%
	標準偏差	226.0	48.7	
	中央値	370.0	59.5	16.1%
外用薬	平均値	149.6	24.5	16.4%
	標準偏差	98.2	15.8	
	中央値	118.0	22.0	18.6%
注射薬	平均値	251.1	38.7	15.4%
	標準偏差	196.8	34.0	
	中央値	185.5	29.0	15.6%
合計	平均値	820.2	131.1	16.0%
	標準偏差	493.3	79.3	
	中央値	663.5	122.5	18.5%

（注）すべての項目に回答のあった施設を集計対象とした。

図表 77 病院における医薬品の備蓄品目数（病院種別、平成 26 年 9 月末）

		病院全体 (n=427)			DPC 対象病院 (Ⅰ群) (n=9)		
		①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①	①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①
内服薬	平均値	417.5	76.2	18.3%	781.2	65.3	8.4%
	標準偏差	229.0	53.3		345.5	28.9	
	中央値	388.0	69.0	17.8%	793.0	74.0	9.3%
外用薬	平均値	152.2	27.1	17.8%	263.6	30.7	11.6%
	標準偏差	93.6	17.5		106.4	17.7	
	中央値	127.0	25.0	19.7%	292.0	30.0	10.3%
注射薬	平均値	255.3	44.2	17.3%	607.0	79.2	13.1%
	標準偏差	190.1	37.6		235.8	33.6	
	中央値	201.0	33.0	16.4%	672.0	90.0	13.4%
合計	平均値	825.0	147.5	17.9%	1,651.8	175.2	10.6%
	標準偏差	483.4	91.7		668.7	70.5	
	中央値	705.0	137.0	19.4%	1,713.0	186.0	10.9%

		DPC 対象病院 (Ⅱ群) (n=14)			DPC 対象病院 (Ⅲ群) (n=111)		
		①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①	①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①
内服薬	平均値	721.0	85.4	11.8%	585.4	91.4	15.6%
	標準偏差	132.5	35.1		212.5	50.7	
	中央値	703.5	91.0	12.9%	559.0	79.0	14.1%
外用薬	平均値	338.9	44.8	13.2%	222.3	35.9	16.2%
	標準偏差	145.0	15.4		72.1	17.1	
	中央値	326.0	42.5	13.0%	229.0	35.0	15.3%
注射薬	平均値	495.7	84.6	17.1%	443.5	81.1	18.3%
	標準偏差	142.2	33.3		159.0	37.4	
	中央値	475.5	89.0	18.7%	443.0	80.0	18.1%
合計	平均値	1,555.6	214.9	13.8%	1,251.2	208.5	16.7%
	標準偏差	271.6	56.8		407.7	84.7	
	中央値	1,573.5	215.5	13.7%	1,262.0	191.0	15.1%

		DPC 準備病院 (n=17)			DPC 対応していない病院 (n=266)		
		①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①	①全医薬品	②うち後発医薬品	②／①
内服薬	平均値	495.6	76.1	15.3%	316.3	69.2	21.9%
	標準偏差	208.7	81.6		156.3	52.5	
	中央値	454.0	51.0	11.2%	321.5	59.5	18.5%
外用薬	平均値	184.4	31.9	17.3%	107.4	21.9	20.4%
	標準偏差	75.6	19.7		56.8	15.4	
	中央値	162.0	29.0	17.9%	97.5	20.0	20.5%
注射薬	平均値	330.9	48.2	14.6%	148.2	25.1	16.9%
	標準偏差	125.7	30.2		95.4	20.8	
	中央値	299.0	42.0	14.0%	132.0	21.0	15.9%
合計	平均値	1,010.9	156.2	15.5%	571.9	116.2	20.3%
	標準偏差	373.8	115.1		280.7	79.7	
	中央値	850.0	124.0	14.6%	549.5	104.5	19.0%

(注)・備蓄品目数の他、購入額と廃棄額のすべての項目に回答のあった 427 施設を集計対象とした。次表と同じ対象施設である。

- ・病院全体には、DPC 対応の状況が不明の 10 施設が含まれる

3) 病院における医薬品の購入金額・廃棄額

図表 78 病院における医薬品購入額・廃棄額（病院種別、平成 26 年 9 月 1 か月間）

	病院全体 (n=427)			DPC 対象病院 (Ⅰ群) (n=9)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
調剤用医薬品購入金額(円)						
①全医薬品	40,951,231	87,619,638	9,000,000	393,979,804	119,396,551	334,332,500
②後発医薬品	3,356,176	5,715,846	1,065,236	18,177,865	7,472,806	15,752,000
③後発医薬品割合(②/①)	8.2%		11.8%	4.6%		4.7%
調剤用医薬品廃棄額(円)						
①全医薬品	57,812	149,997	14,678	407,313	464,392	394,136
②後発医薬品	3,683	12,036	0	26,485	43,268	5,835
③後発医薬品割合(②/①)	6.4%		0.0%	6.5%		1.5%

	DPC 対象病院 (Ⅱ群) (n=14)			DPC 対象病院 (Ⅲ群) (n=111)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
調剤用医薬品購入金額(円)						
①全医薬品	294,484,315	175,274,050	257,011,547	64,083,493	55,391,288	46,770,549
②後発医薬品	21,009,136	11,130,486	22,246,622	5,770,740	4,557,253	4,587,009
③後発医薬品割合(②/①)	7.1%		8.7%	9.0%		9.8%
調剤用医薬品廃棄額(円)						
①全医薬品	226,286	270,957	109,735	97,314	129,709	45,819
②後発医薬品	16,916	29,168	2,561	4,779	10,555	901
③後発医薬品割合(②/①)	7.5%		2.3%	4.9%		2.0%

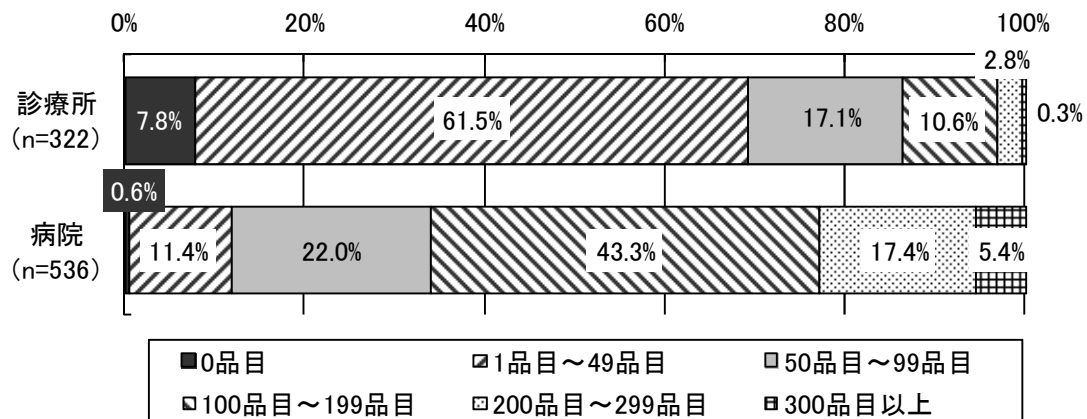
	DPC 準備病院 (n=17)			DPC 対応していない病院 (n=266)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
調剤用医薬品購入金額(円)						
①全医薬品	18,800,240	11,802,816	14,985,000	7,849,834	8,572,134	5,000,000
②後発医薬品	1,681,018	1,319,632	1,482,458	1,065,095	1,966,102	582,116
③後発医薬品割合(②/①)	8.9%		9.9%	13.6%		11.6%
調剤用医薬品廃棄額(円)						
①全医薬品	24,663	22,560	22,630	23,492	106,788	5,133
②後発医薬品	1,306	3,084	0	1,883	7,341	0
③後発医薬品割合(②/①)	5.3%		0.0%	8.0%		0.0%

(注)・購入額と廃棄額の他、備蓄医薬品目数のすべての項目に回答のあった 427 施設を集計対象とした。前表と同じ対象施設である。

・病院全体には、DPC 対応の状況が不明の 10 施設が含まれる

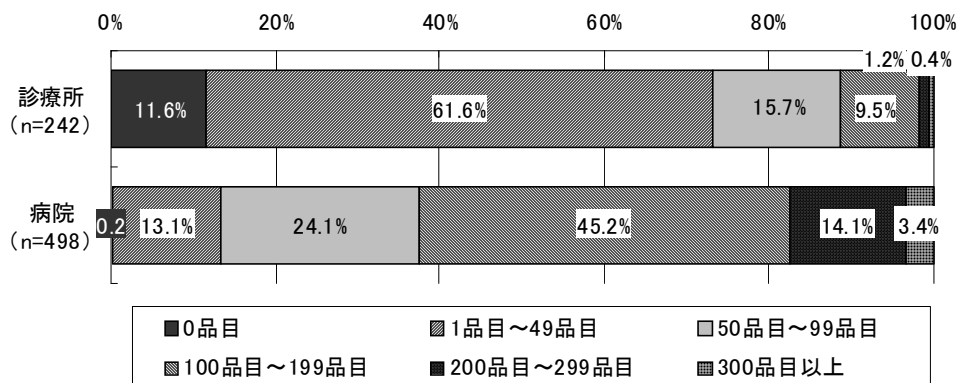
4) 診療所・病院における後発医薬品の備蓄品目数

図表 79 後発医薬品の備蓄品目数



(注) 後発医薬品の備蓄品目数について回答のあった施設を集計対象とした。

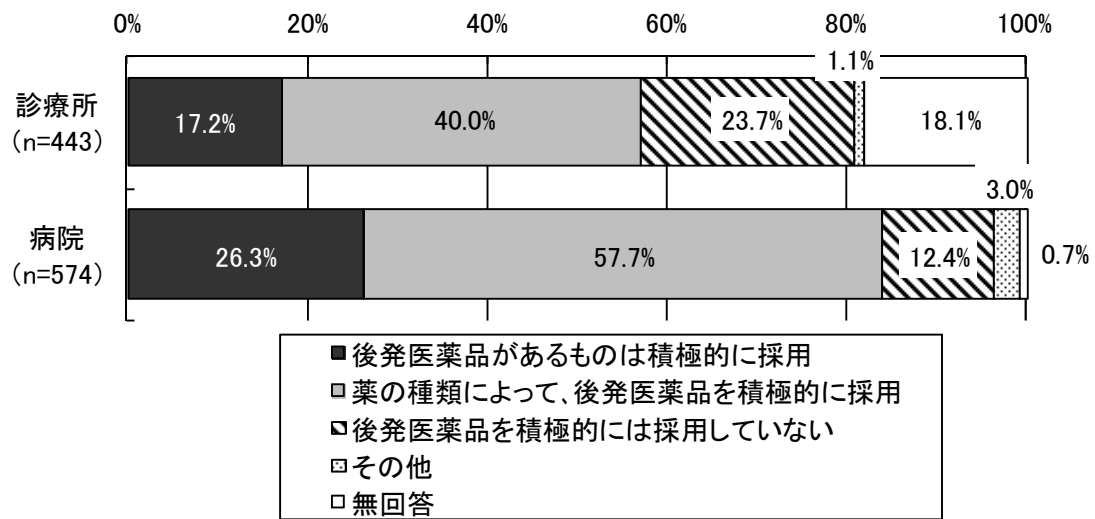
(前回調査)



(注) 後発医薬品の備蓄品目数について回答のあった施設を集計対象とした。

②後発医薬品の採用状況

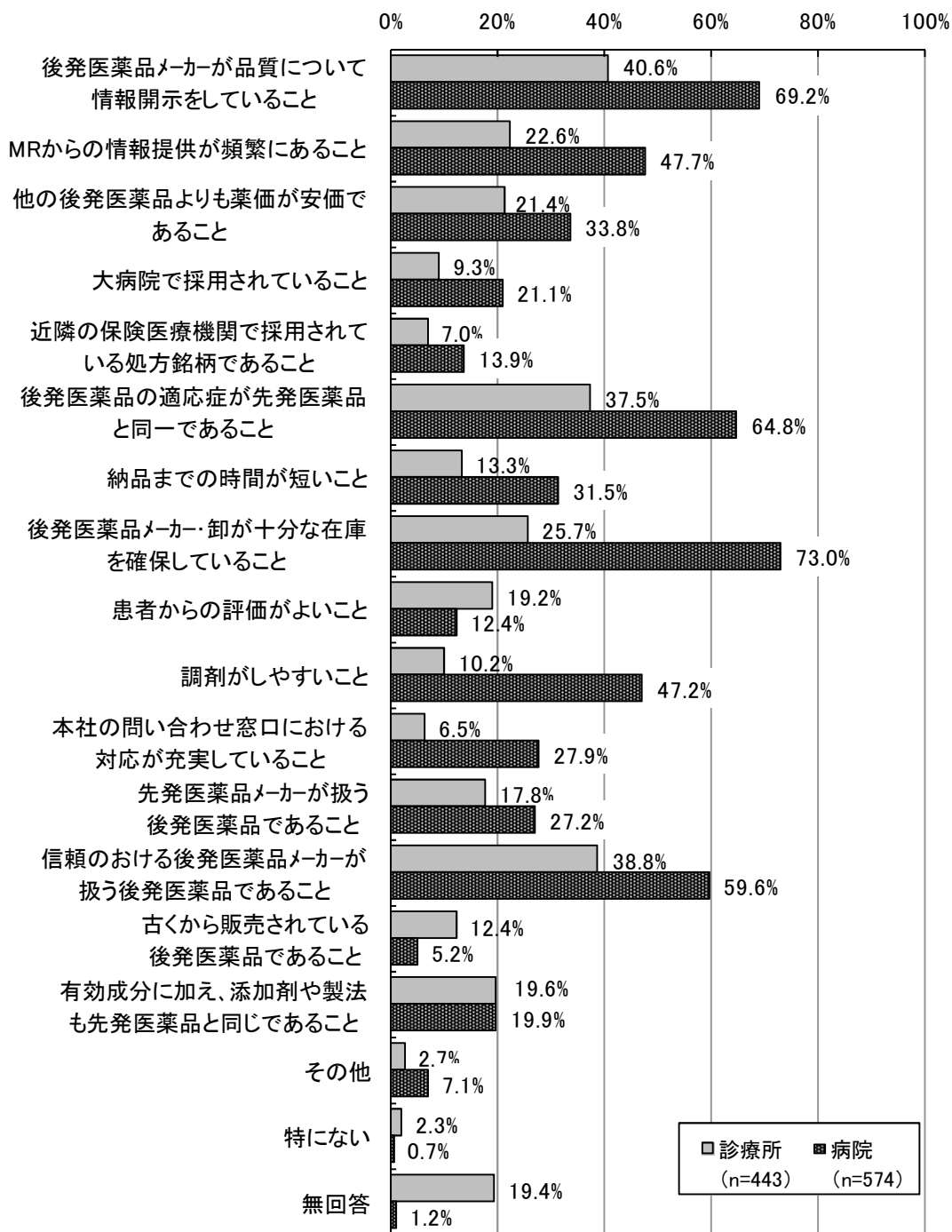
図表 80 後発医薬品の採用状況



(注) 診療所は、有床診療所及び院内処方のある施設。

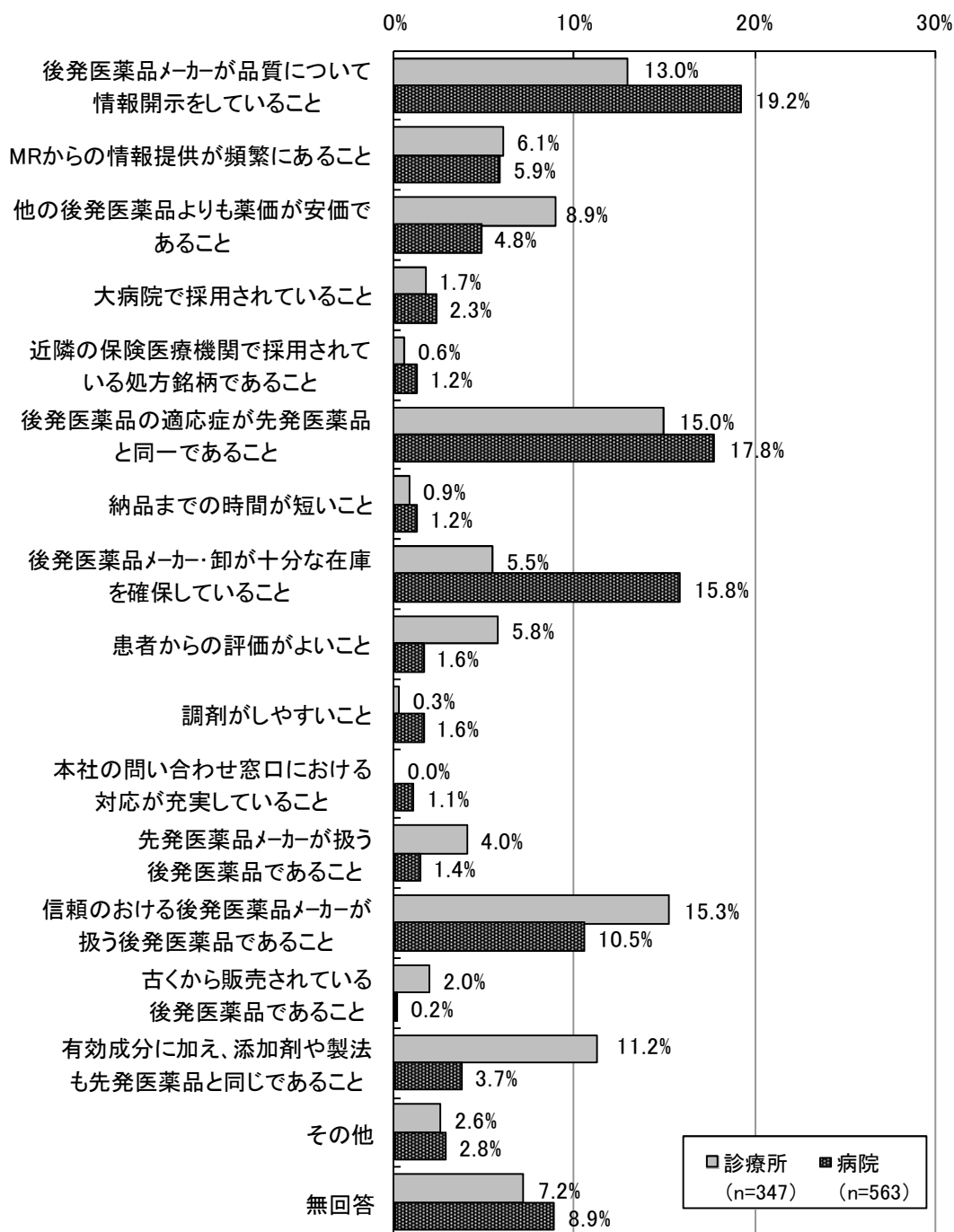
③後発医薬品を採用する際に重視すること

図表 81 後発医薬品を採用する際に重視すること（複数回答）



（注）診療所は、有床診療所及び院内処方のある施設。

図表 82 診療所・病院において、後発医薬品を採用する際に最も重視すること（単数回答）



（注）診療所は、有床診療所及び院内処方のある施設。

④病院における後発医薬品使用割合

図表 83 病院における後発医薬品使用割合（数量ベース、平成 26 年）

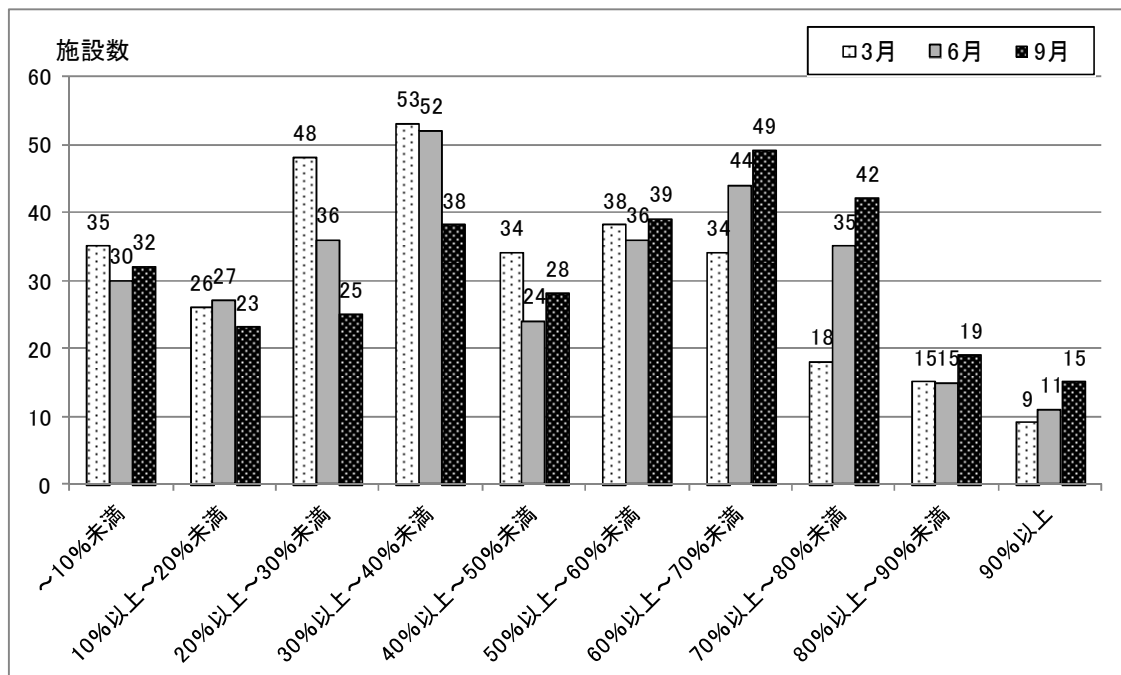
（単位：％）

		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
病院全体 (n=310)	平均値	40.1	40.9	41.3	42.5	43.8	45.3	46.3	47.5	49.0
	標準偏差	23.9	24.3	24.4	24.7	24.8	25.3	25.8	26.0	26.1
	中央値	36.0	36.5	38.0	40.0	42.0	43.5	46.0	48.5	53.5
DPC 対象病院 (Ⅰ群)(n=14)	平均値	29.4	32.2	33.6	34.9	36.2	38.4	41.4	45.2	47.9
	標準偏差	7.9	9.8	12.9	13.1	13.0	14.5	15.7	16.0	15.4
	中央値	27.5	31.5	31.5	32.0	34.0	36.0	36.5	43.0	48.5
DPC 対象病院 (Ⅱ群)(n=11)	平均値	44.5	43.6	44.1	47.2	50.8	55.9	58.5	62.0	64.1
	標準偏差	12.8	13.9	14.7	13.0	14.7	12.9	11.0	8.8	6.2
	中央値	51.0	50.0	49.0	51.0	56.0	57.0	62.0	64.0	65.0
DPC 対象病院 (Ⅲ群)(n=97)	平均値	43.2	44.2	45.6	47.4	51.4	54.6	56.7	59.2	61.0
	標準偏差	18.9	19.2	19.9	19.7	19.8	20.8	20.7	20.3	19.9
	中央値	41.0	45.0	46.0	50.0	56.0	60.0	61.0	64.0	65.0
DPC 準備病院 (n=6)	平均値	22.0	22.2	22.3	23.3	22.5	22.3	22.3	27.7	29.3
	標準偏差	9.4	10.2	11.3	12.1	10.7	10.0	10.6	14.9	21.5
	中央値	22.5	23.0	21.5	24.0	23.5	24.5	22.0	29.5	25.0
DPC 対応して いない病院 (n=175)	平均値	39.3	40.1	39.9	40.5	40.2	40.5	40.6	40.6	41.8
	標準偏差	27.3	27.7	27.4	27.9	27.5	27.3	27.7	27.7	27.8
	中央値	35.0	36.0	37.0	36.0	37.0	37.0	38.0	38.0	39.0

（注）・1 か月間に調剤した後発医薬品について薬価基準上の規格単位ごとに数えた数量÷1 か月間に調剤した後発医薬品ありの先発医薬品と後発医薬品について薬価基準上の規格単位ごとに数えた数量の割合。

・各 1 月～9 月までの後発医薬品使用割合すべてについて記入のあった施設を集計対象とした。

図表 84 病院における後発医薬品使用割合別施設数の推移
(数量ベース、平成 26 年、n=310)

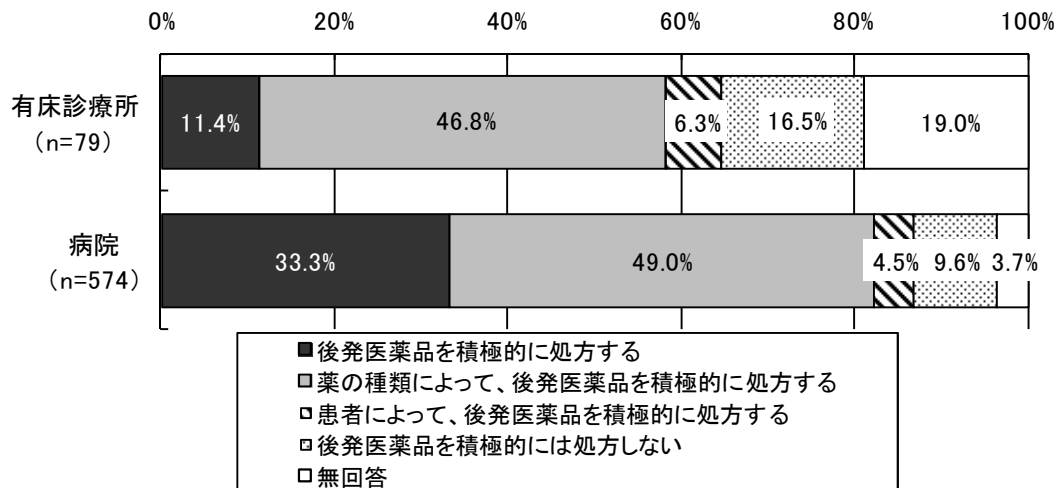


(注) ・ 1 か月間に調剤した後発医薬品について薬価基準上の規格単位ごとに数えた数量÷1 か月間に調剤した後発医薬品ありの先発医薬品と後発医薬品について薬価基準上の規格単位ごとに数えた数量の割合。
・ 各 1 月～9 月までの後発医薬品使用割合すべてについて記入のあった施設を集計対象とした。

(5) 入院患者に対する後発医薬品の使用状況等

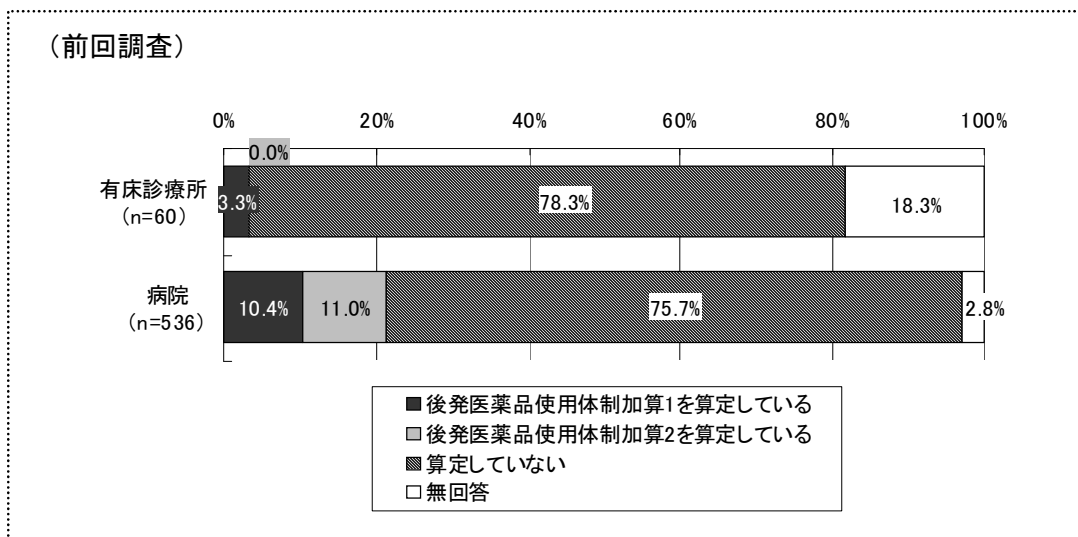
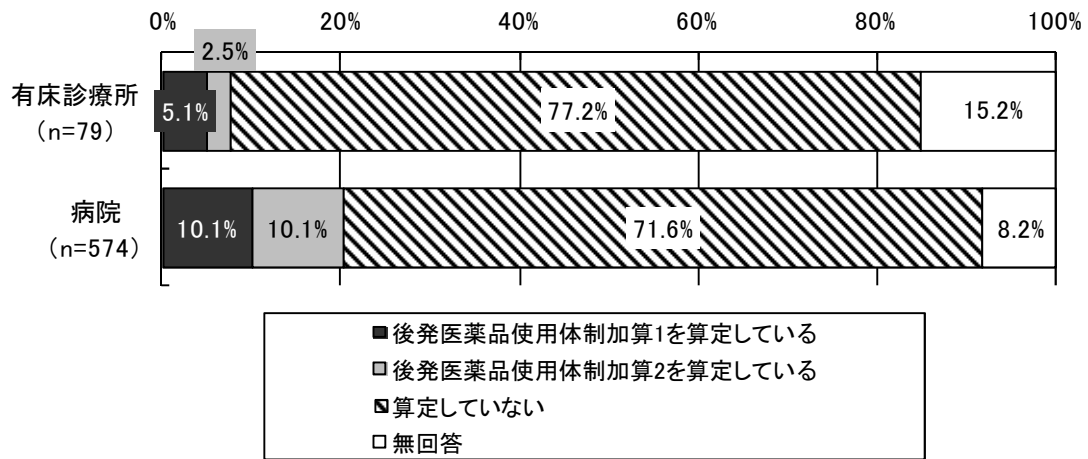
①入院患者に対する後発医薬品の使用状況

図表 85 入院患者に対する後発医薬品の使用状況



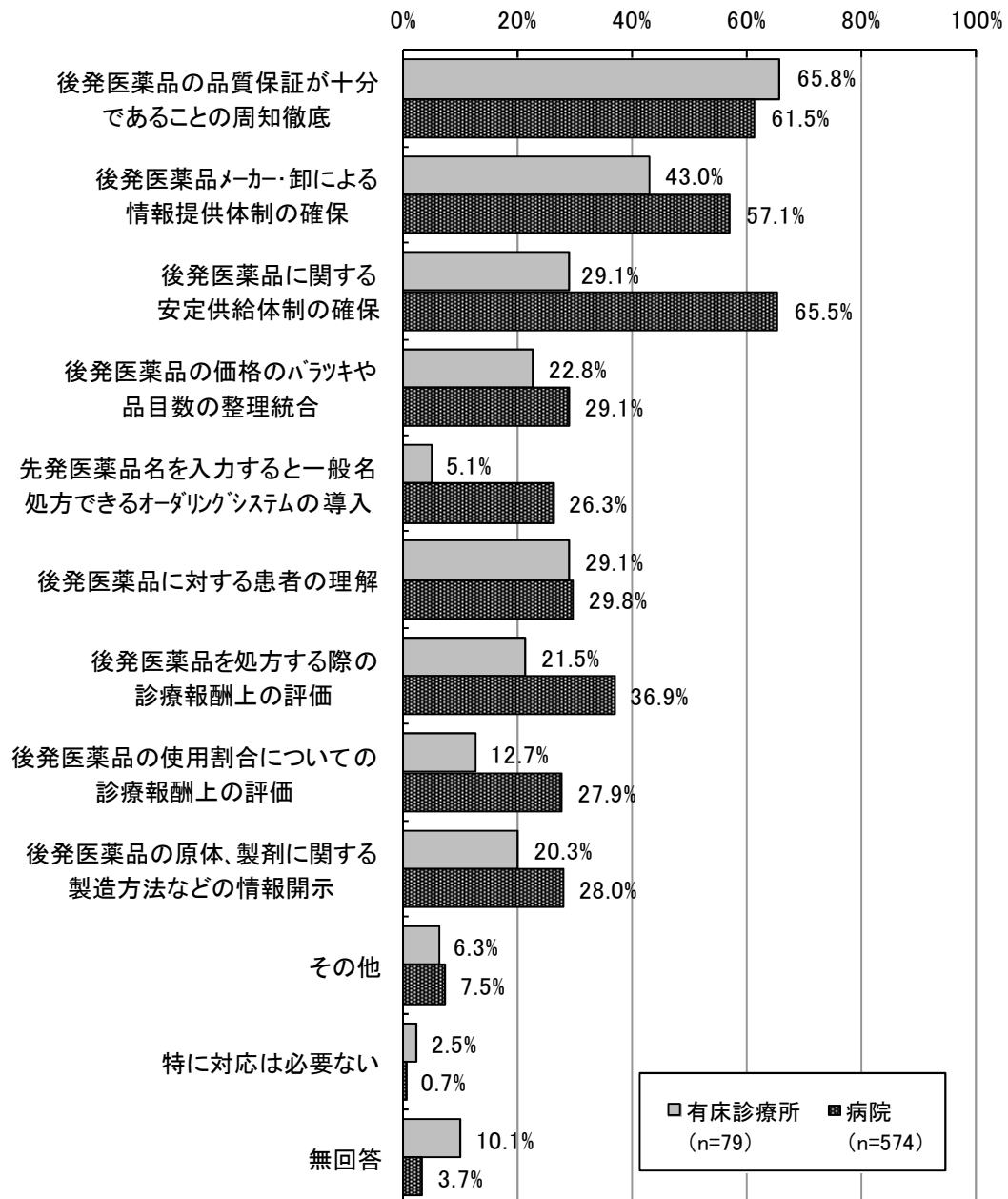
②後発医薬品使用体制加算の状況

図表 86 後発医薬品使用体制加算の状況

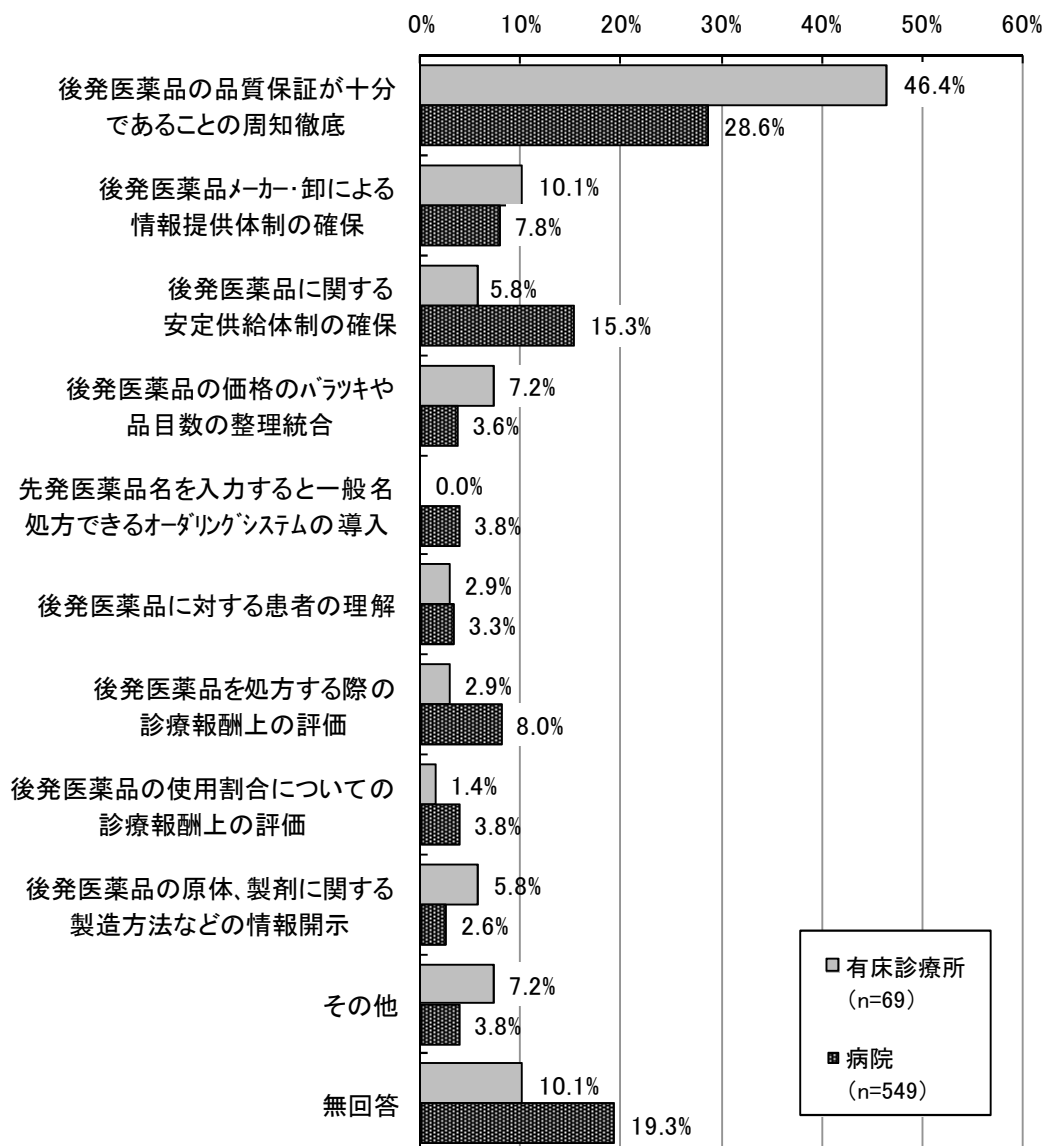


③今後どのような対応が進めば施設として入院患者に後発医薬品の使用を進めてもよいか

図表 87 今後どのような対応が進めば施設として入院患者等に後発医薬品の使用を進めてもよいか（複数回答）



図表 88 今後どのような対応が進めば施設として入院患者等に後発医薬品の使用を進めてもよいと思うか（最も重要なもの、単数回答）



(6) 外来患者に対する後発医薬品の使用状況等（施設ベース）

①処方せん料・一般名処方加算の算定回数（平成 26 年 9 月 1 か月間）

図表 89 処方せん料・一般名処方加算の算定回数（平成 26 年 9 月 1 か月間）

（単位：回）

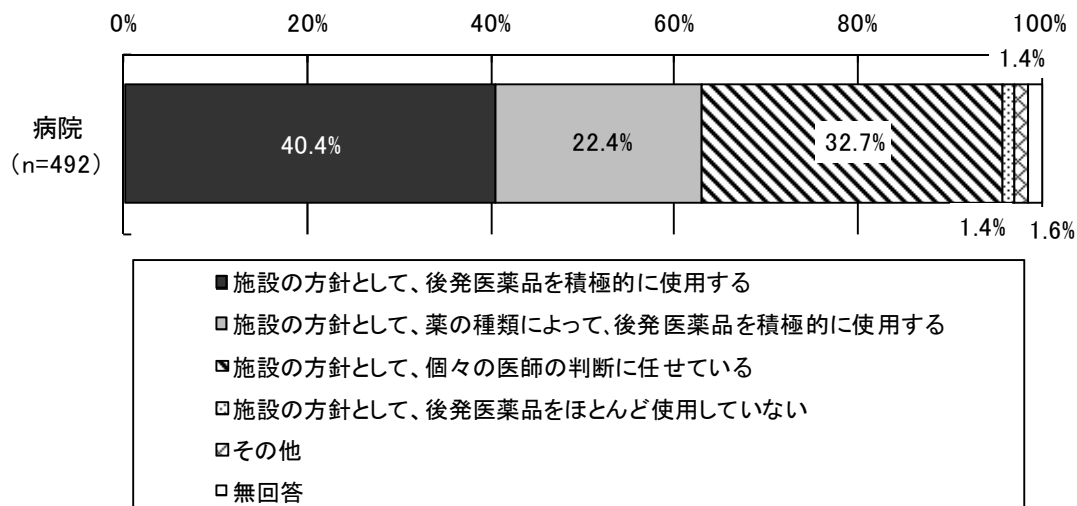
		施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
診療所	処方せん料	652	736.0	654.8	618.5
	一般名処方加算	652	365.7	498.1	162.5
病院	処方せん料	506	2,985.7	4,070.6	1,593.5
	一般名処方加算	497	397.9	1,034.0	0.0

②病院における、外来患者に対する後発医薬品使用に係る施設としての方針等

1) 院外処方せんを発行している場合

図表 90 外来患者に対する後発医薬品使用に係る施設としての方針

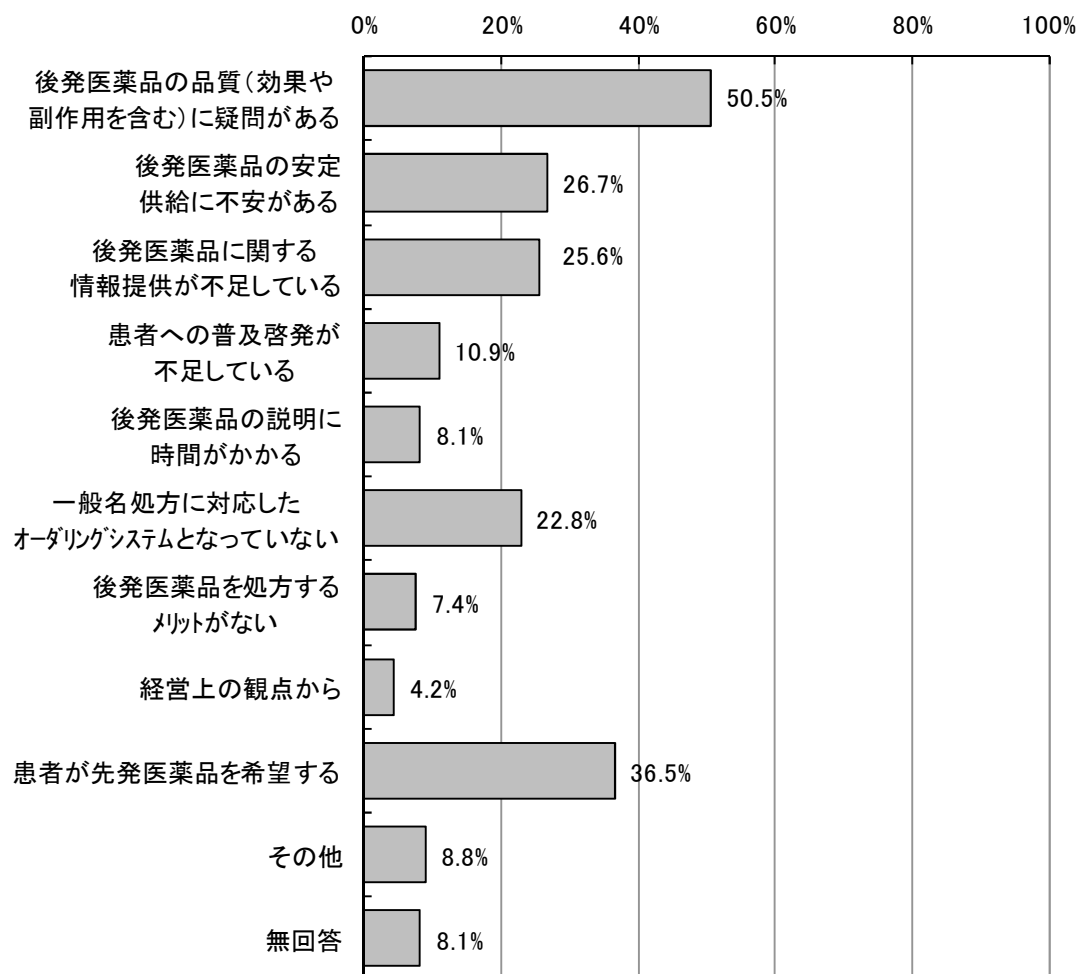
（院外処方せんを発行している病院）



(注)・院外処方せんを発行している施設を対象とした。

・「後発医薬品を積極的に使用する」には、後発医薬品の銘柄処方のほか、一般名処方や院外処方せんの後発医薬品への「変更不可」欄にチェック等を行わない場合を含む。

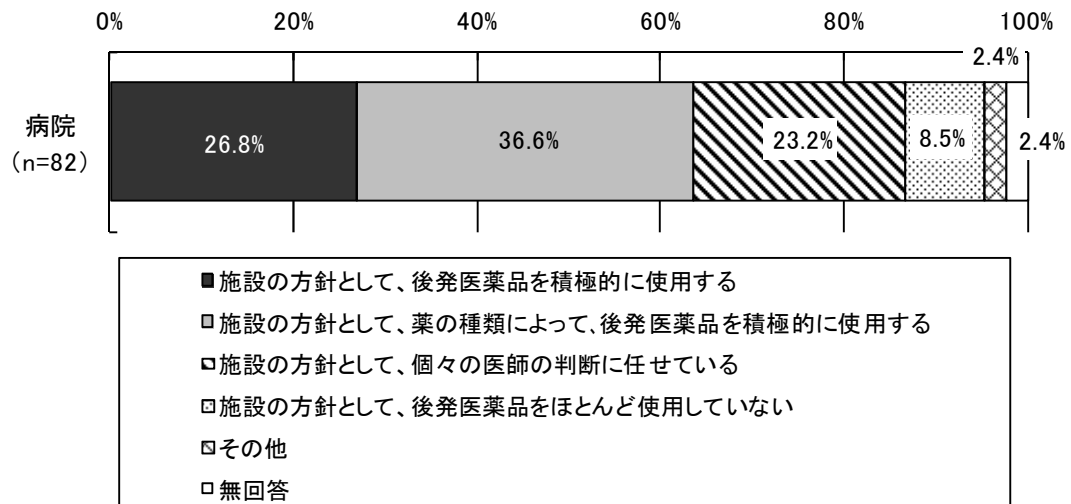
図表 91 外来患者に院外処方する場合に、施設として、後発医薬品を積極的には使用しない理由（「後発医薬品を積極的に使用する」以外の選択した病院、複数回答、n=285）



（注）院外処方せんを発行している施設のうち、「施設の方針として、後発医薬品を積極的に使用する」以外を選択した施設を対象としている。

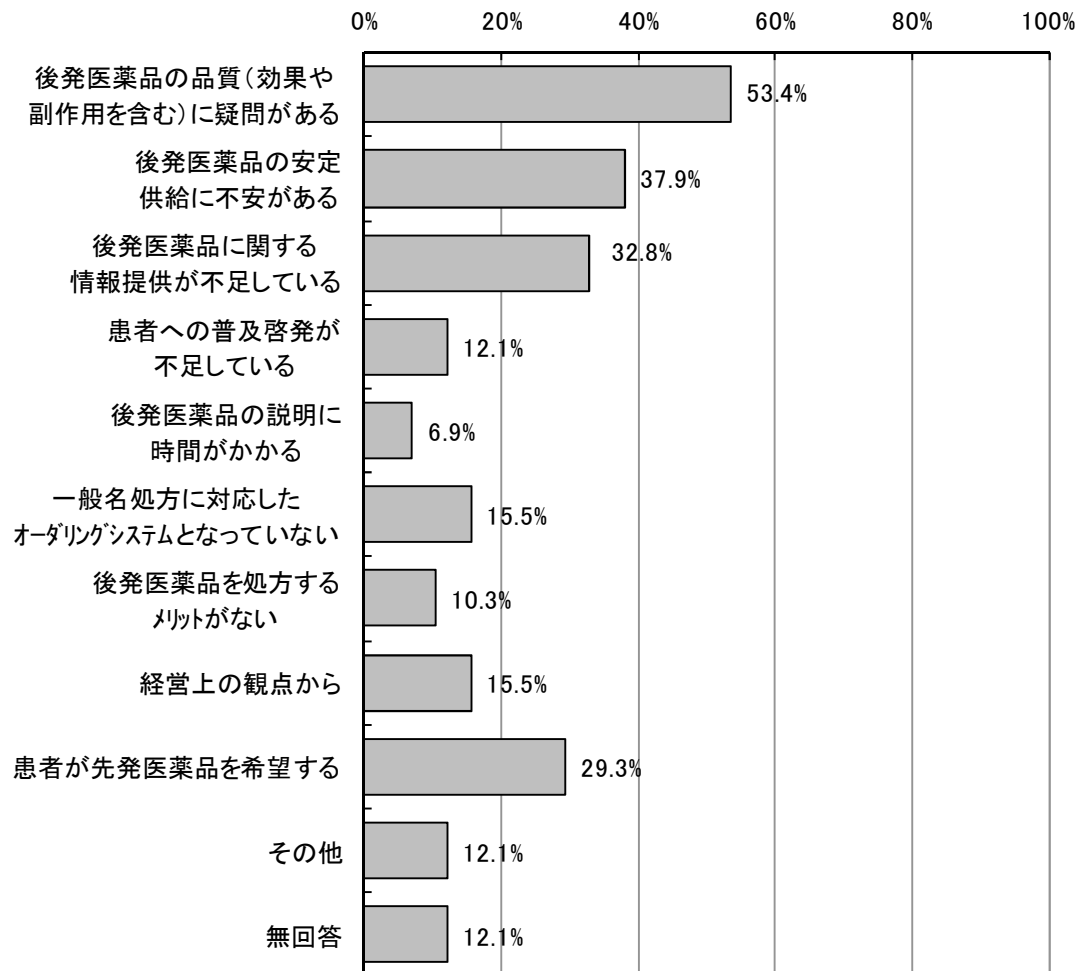
2) 院外処方せんを発行していない場合

図表 92 外来患者に対する後発医薬品使用に係る施設としての方針
(院外処方せんを発行していない病院)



(注)・ここでは、外来診療時における院内投薬の状況を尋ねた。
・院外処方せんを発行していない施設を対象とした。

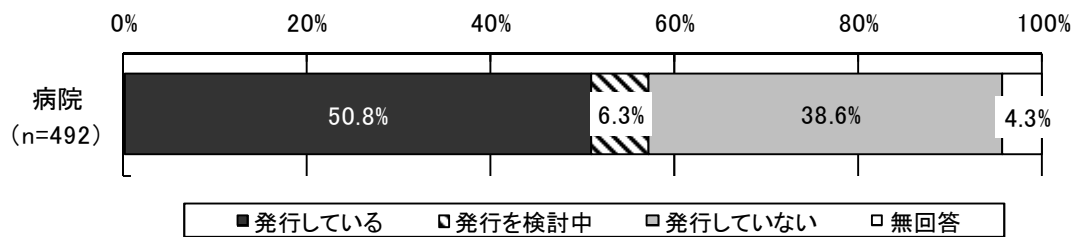
図表 93 外来患者に院内投薬の場合に、施設として、後発医薬品を積極的には使用しない理由（「後発医薬品を積極的に使用する」以外の選択した病院、複数回答、n=58）



③病院における一般名処方による処方せん発行への対応状況等

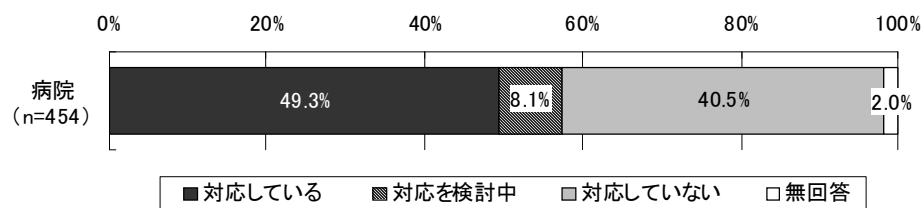
1) 病院における一般名処方による処方せん発行への対応状況

図表 94 病院における一般名処方による処方せん発行への対応状況
(平成 26 年 4 月以降)



(注) 院外処方せんを発行している施設を対象としている。

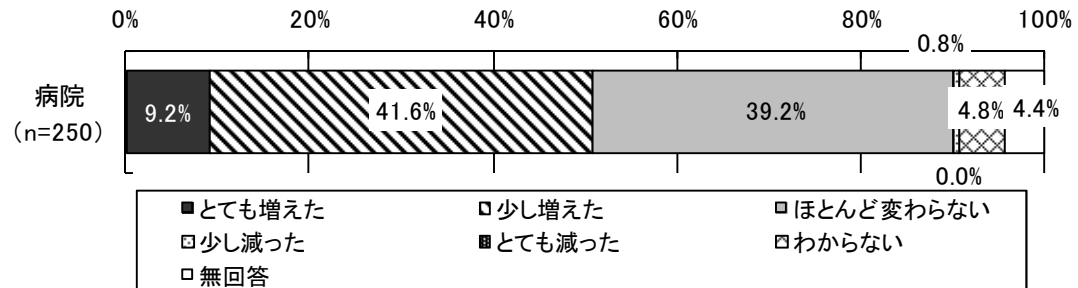
(前回調査)



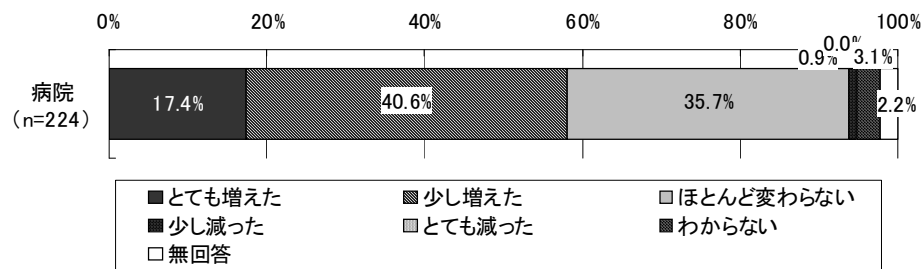
(注) ・平成 25 年 4 月以降の状況
・院外処方を実施している施設を対象として集計した。

2) 病院における一般名処方による処方せん発行による事務的な負担の変化

図表 95 一般名処方による処方せんの発行による事務的な負担の変化
(一般名処方による処方せん発行に対応している病院)



(前回調査)

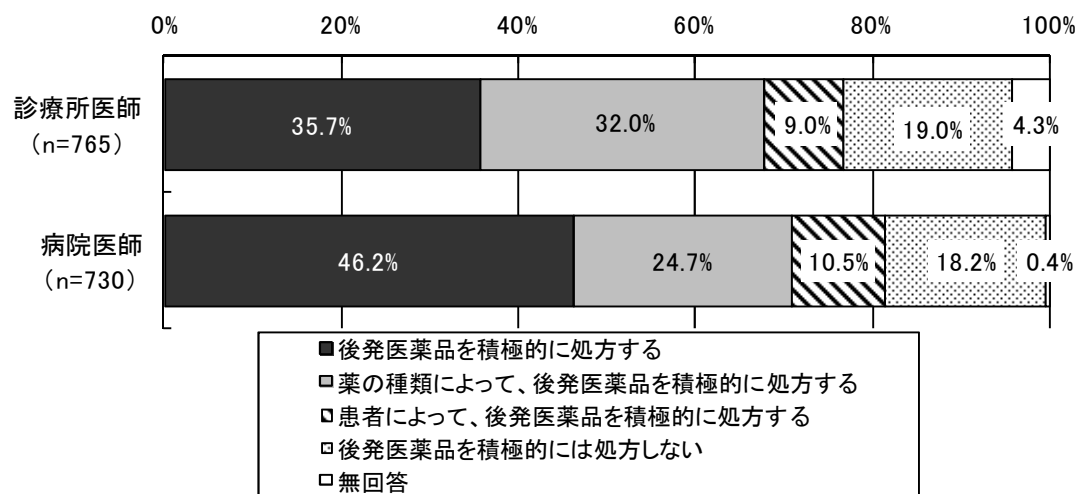


(7) 外来診療における院外処方せん発行時や後発医薬品の処方に関する医師の考え等（医師ベース）

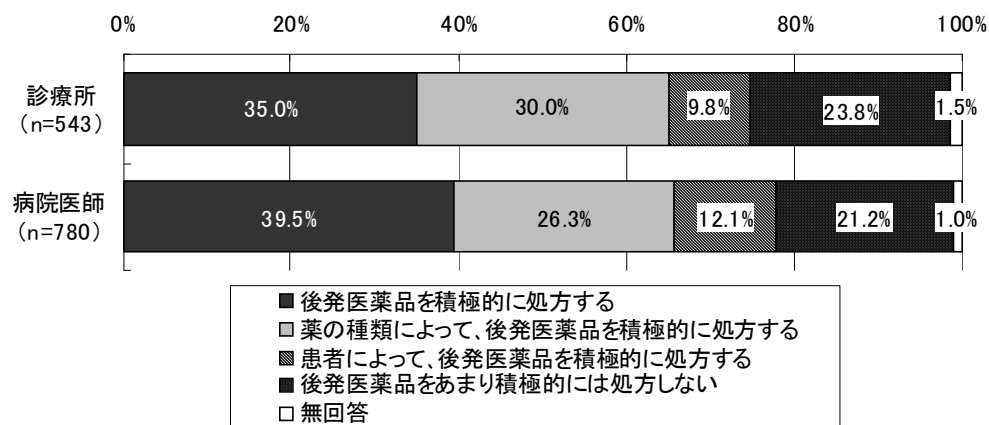
①外来診療における後発医薬品の処方に関する考え

1) 院外処方せんを発行している場合

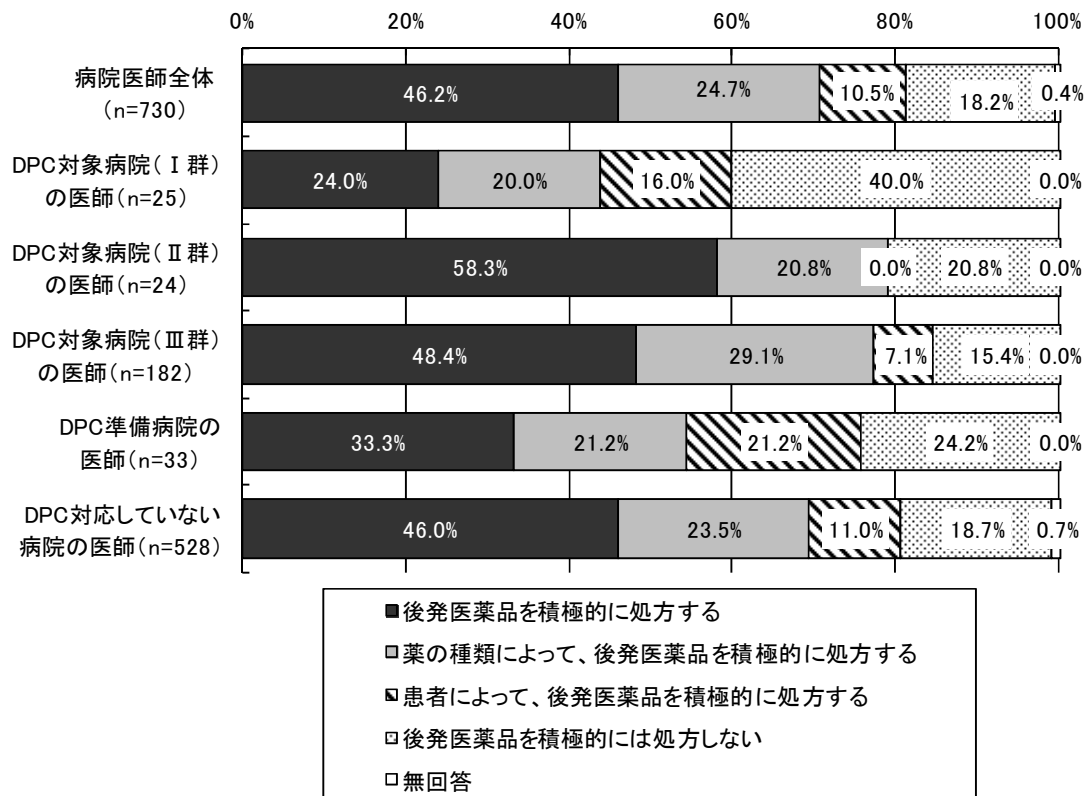
図表 96 外来診療における後発医薬品の処方に関する考え
（院外処方せんを発行している施設の医師、医師ベース）



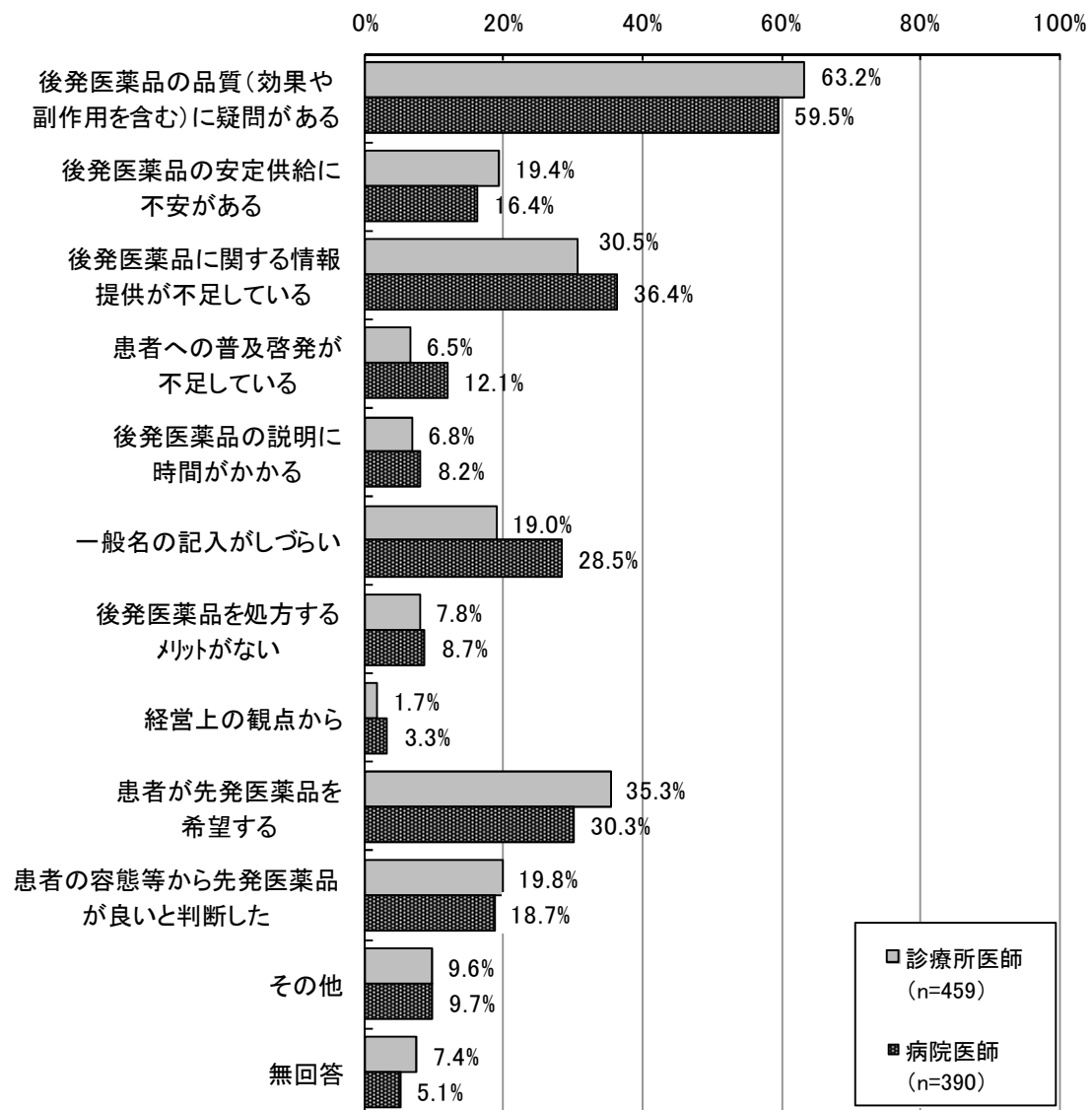
（前回調査）



図表 97 外来診療における後発医薬品の処方に関する考え
(院外処方せんを発行している病院の医師、DPC 対応状況別、医師ベース)

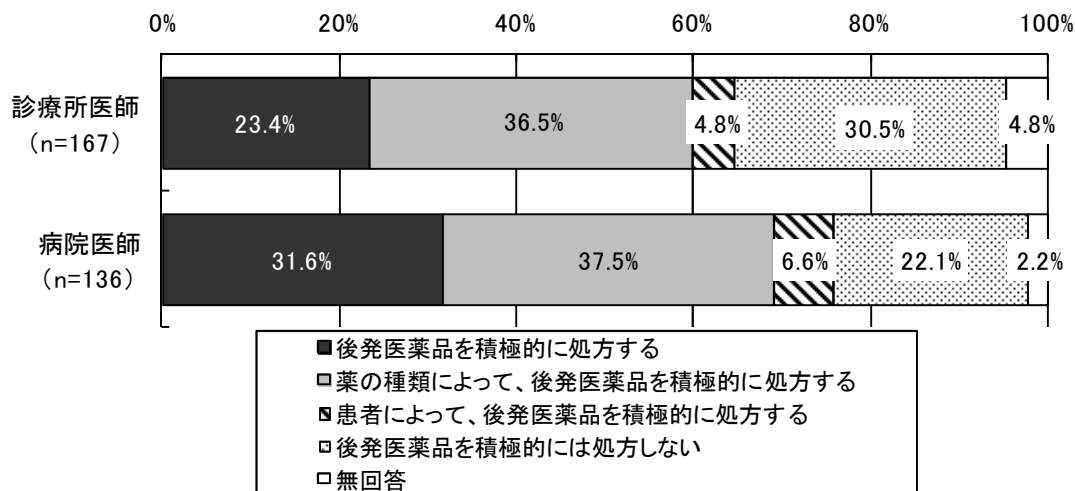


図表 98 外来診療において後発医薬品を基本的には処方しない理由
 (院外処方せんを発行している施設、「後発医薬品を積極的に処方する」以外を選択した医師、複数回答、医師ベース)

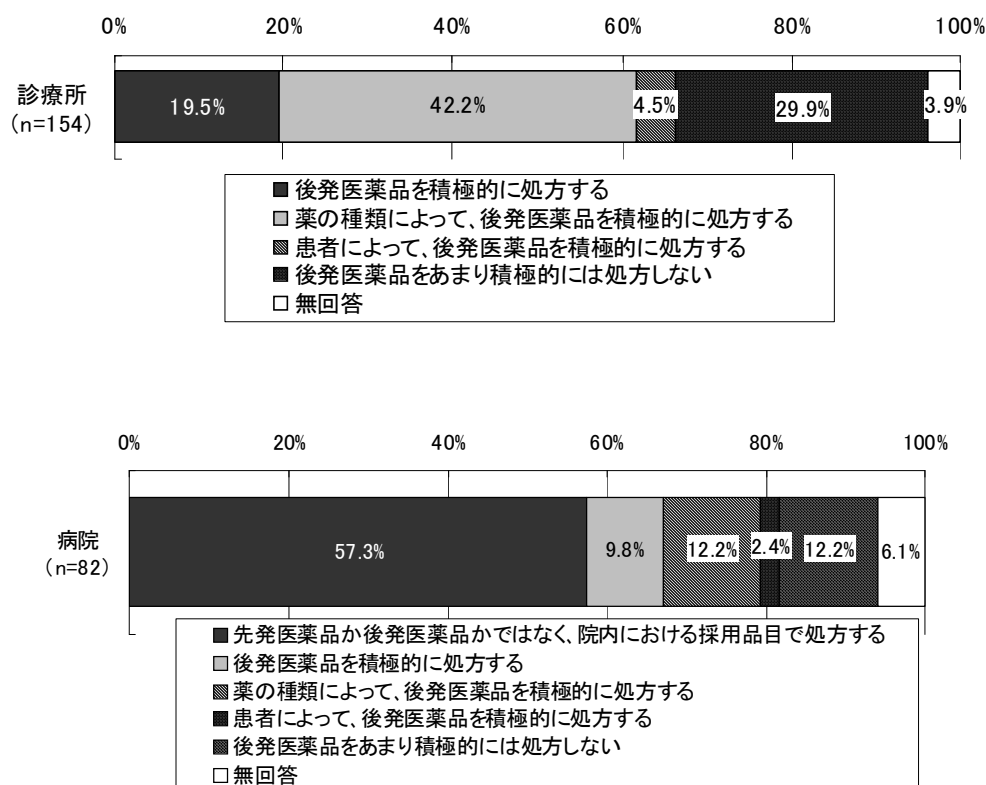


2) 院外処方せんを発行していない場合

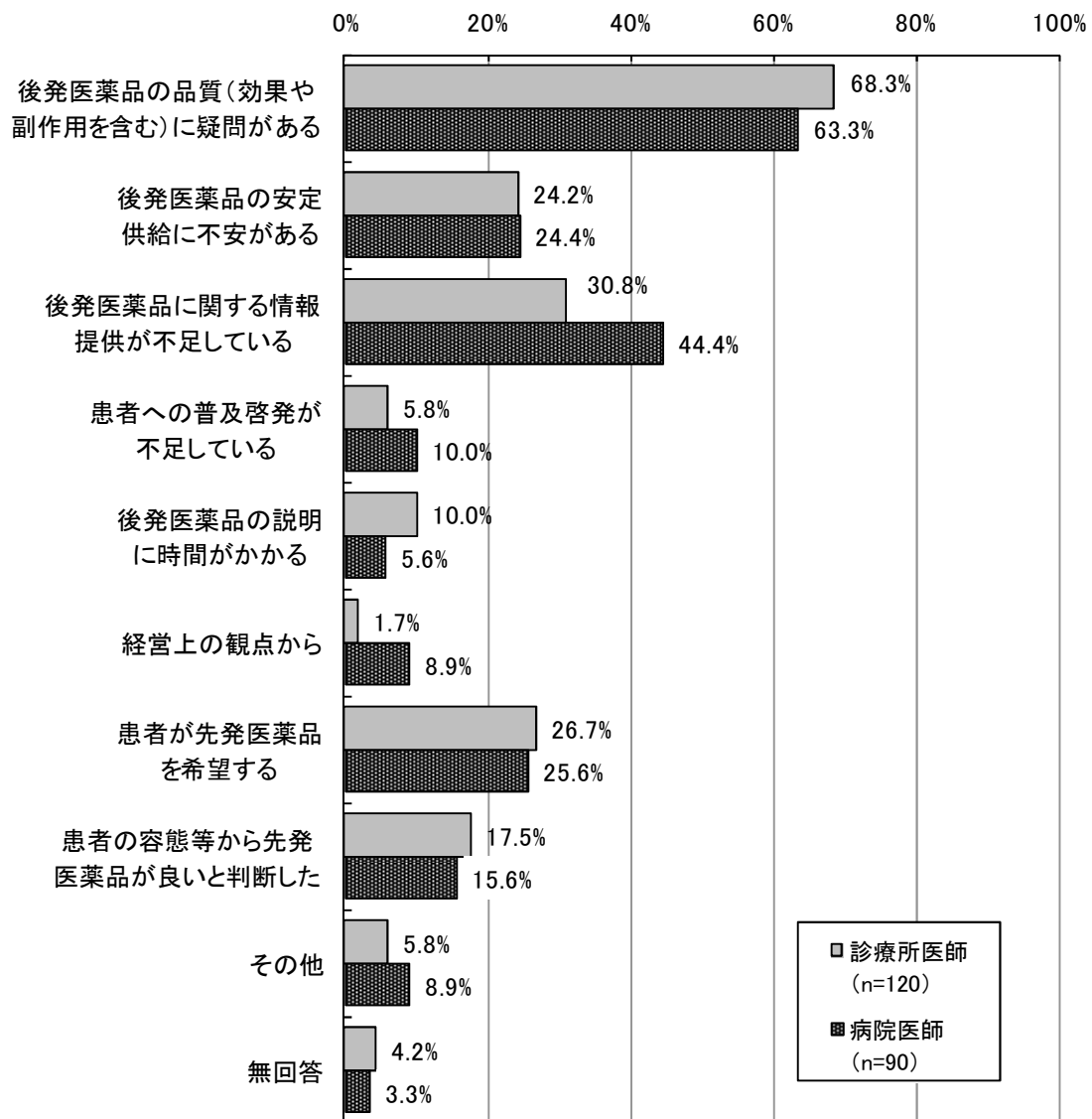
図表 99 外来診療における後発医薬品の処方に関する考え
(院外処方せんを発行していない施設の医師、医師ベース)



(前回調査)

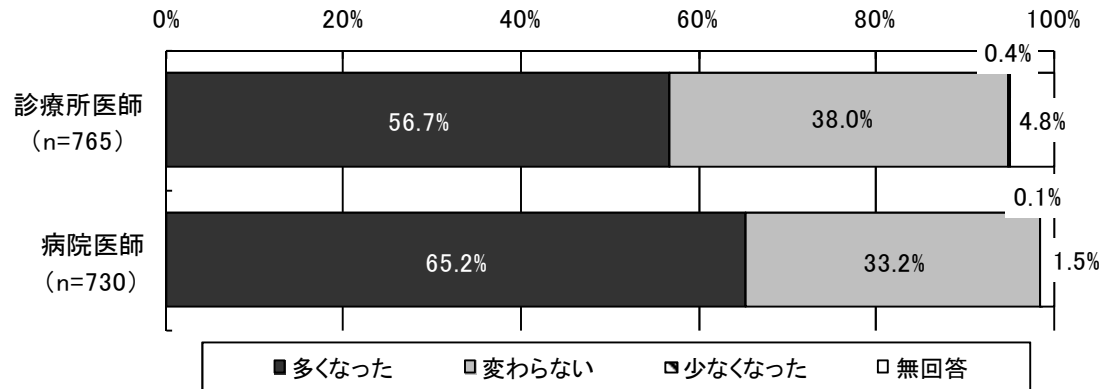


図表 100 外来診療において後発医薬品を基本的には処方しない理由
 (院外処方せんを発行していない施設、「後発医薬品を積極的に処方する」以外を選択した
 医師、複数回答、医師ベース)

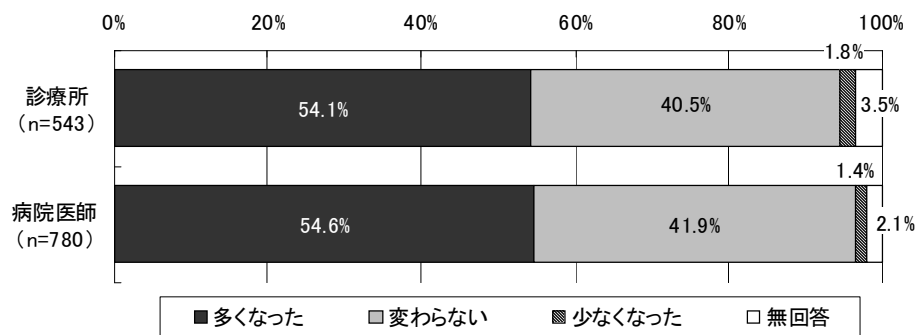


②外来診療における後発医薬品の処方数の変化（１年前と比較して）

図表 101 外来診療における後発医薬品の処方数の変化（１年前と比較して）（医師ベース）

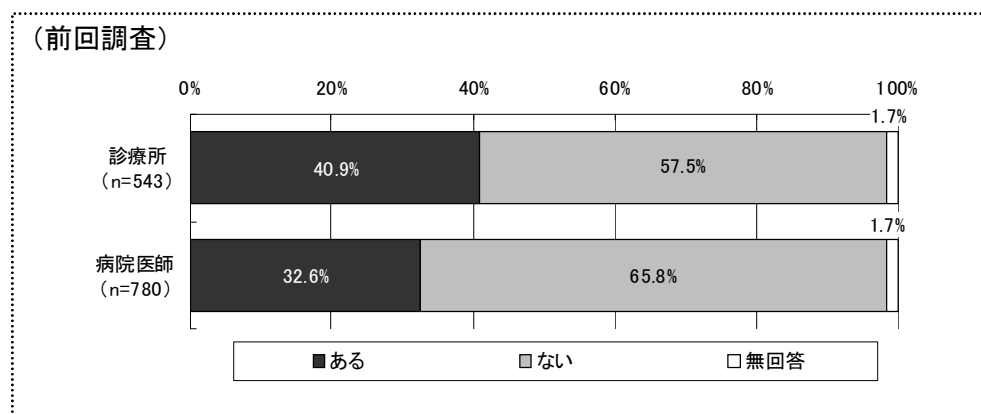
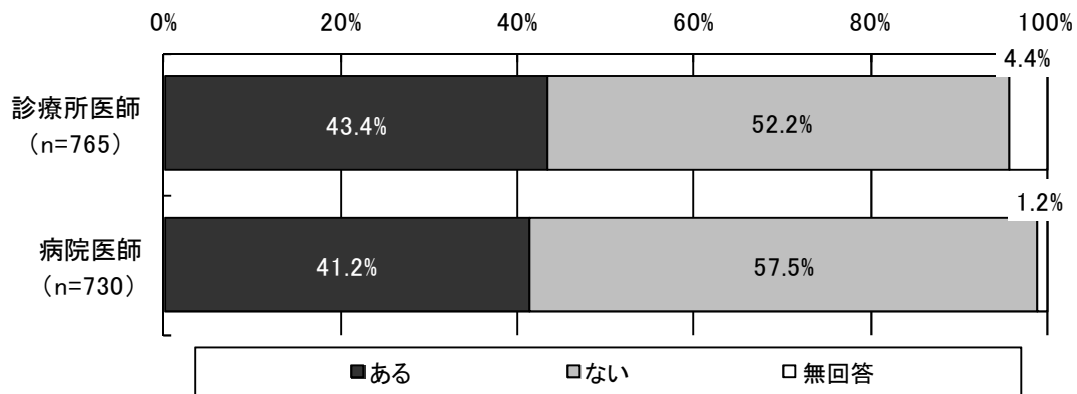


（前回調査）

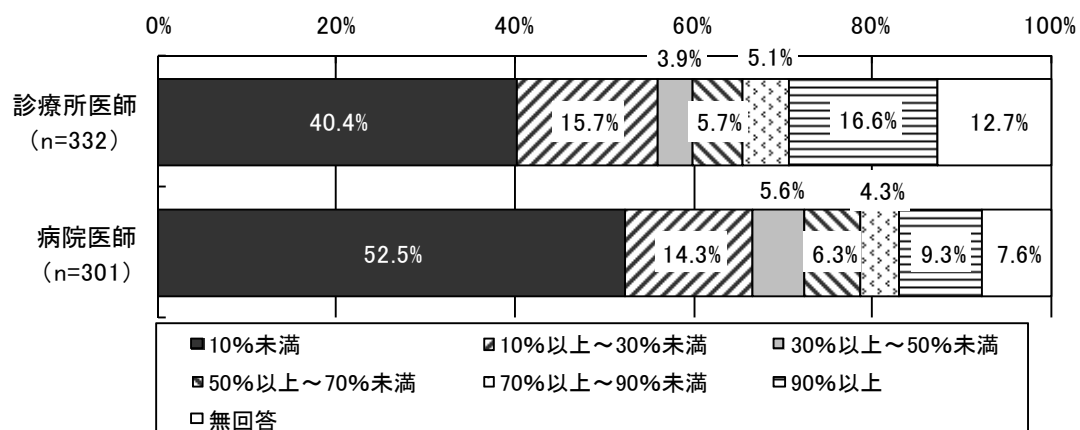


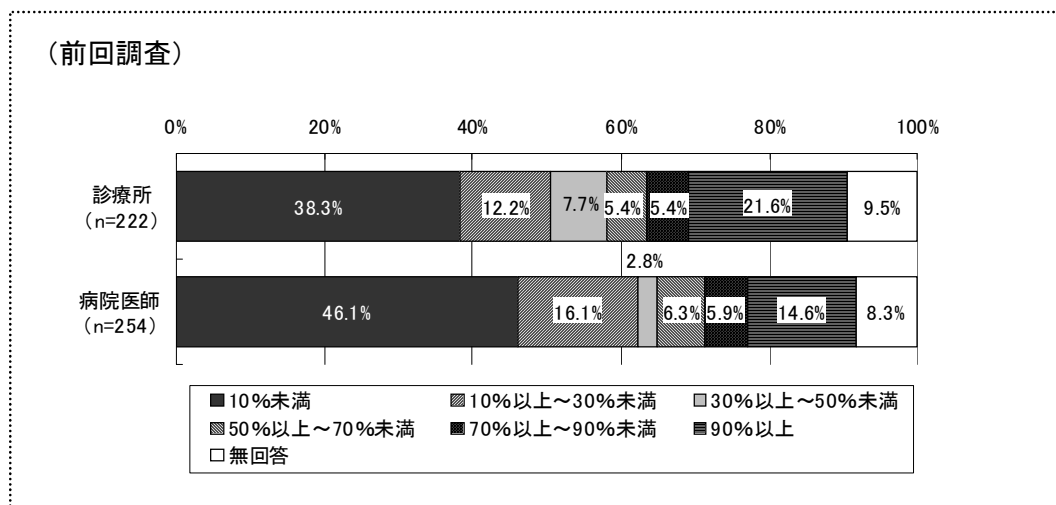
③後発医薬品への「変更不可」欄にチェックした処方せんの発行経験等（平成 26 年 4 月以降）

図表 102 後発医薬品への「変更不可」欄にチェックした処方せんの発行経験の有無
（平成 26 年 4 月以降、医師ベース）

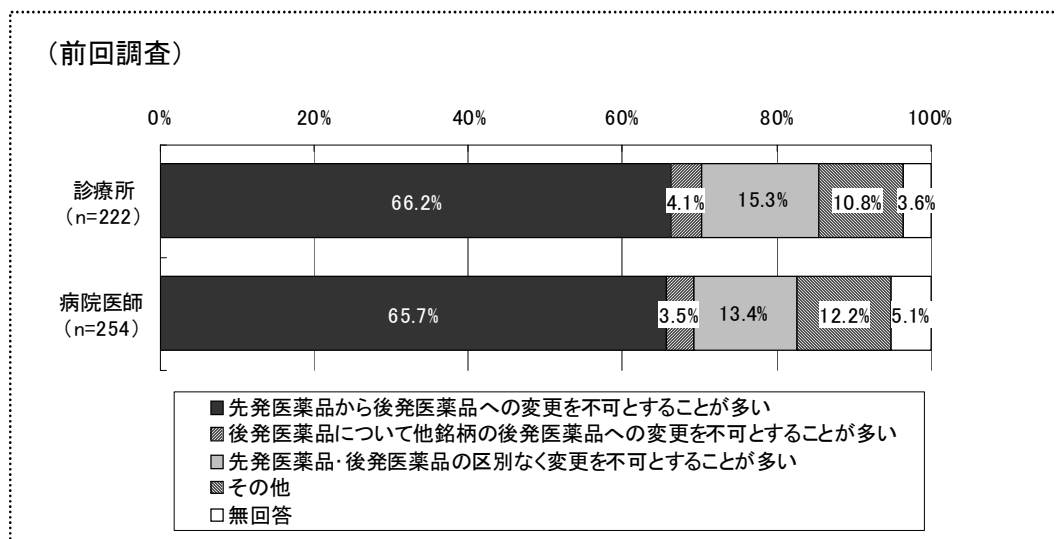
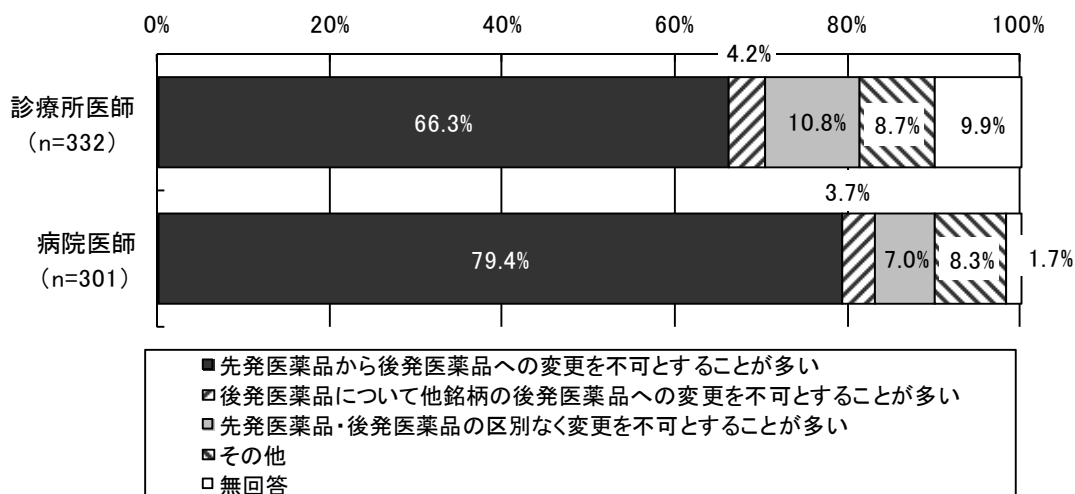


図表 103 院外処方せん枚数全体に占める、「変更不可」欄にチェックした処方せんの割合
（平成 26 年 4 月以降「変更不可」欄にチェックした経験のある医師、医師ベース）

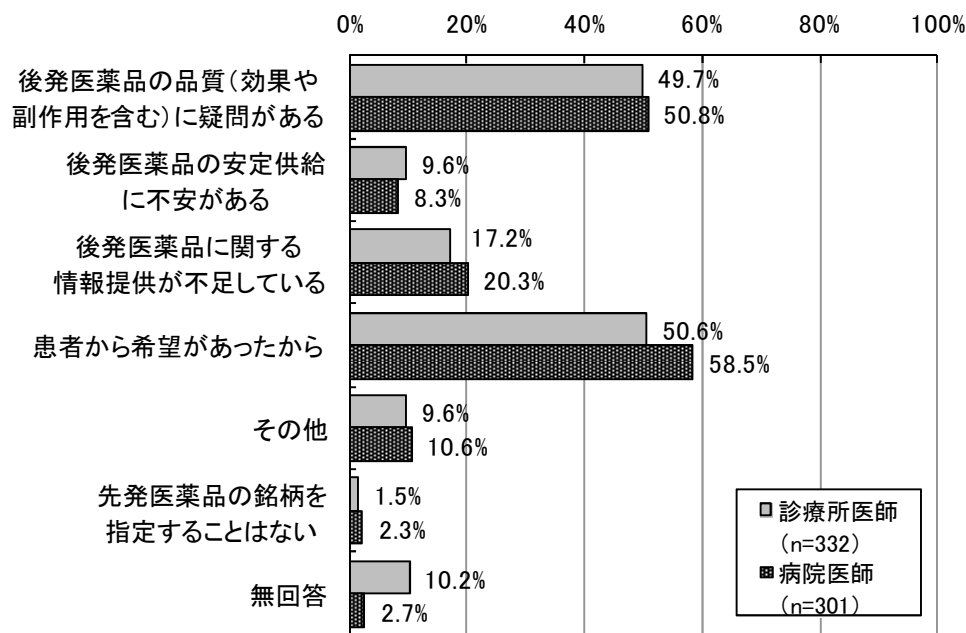




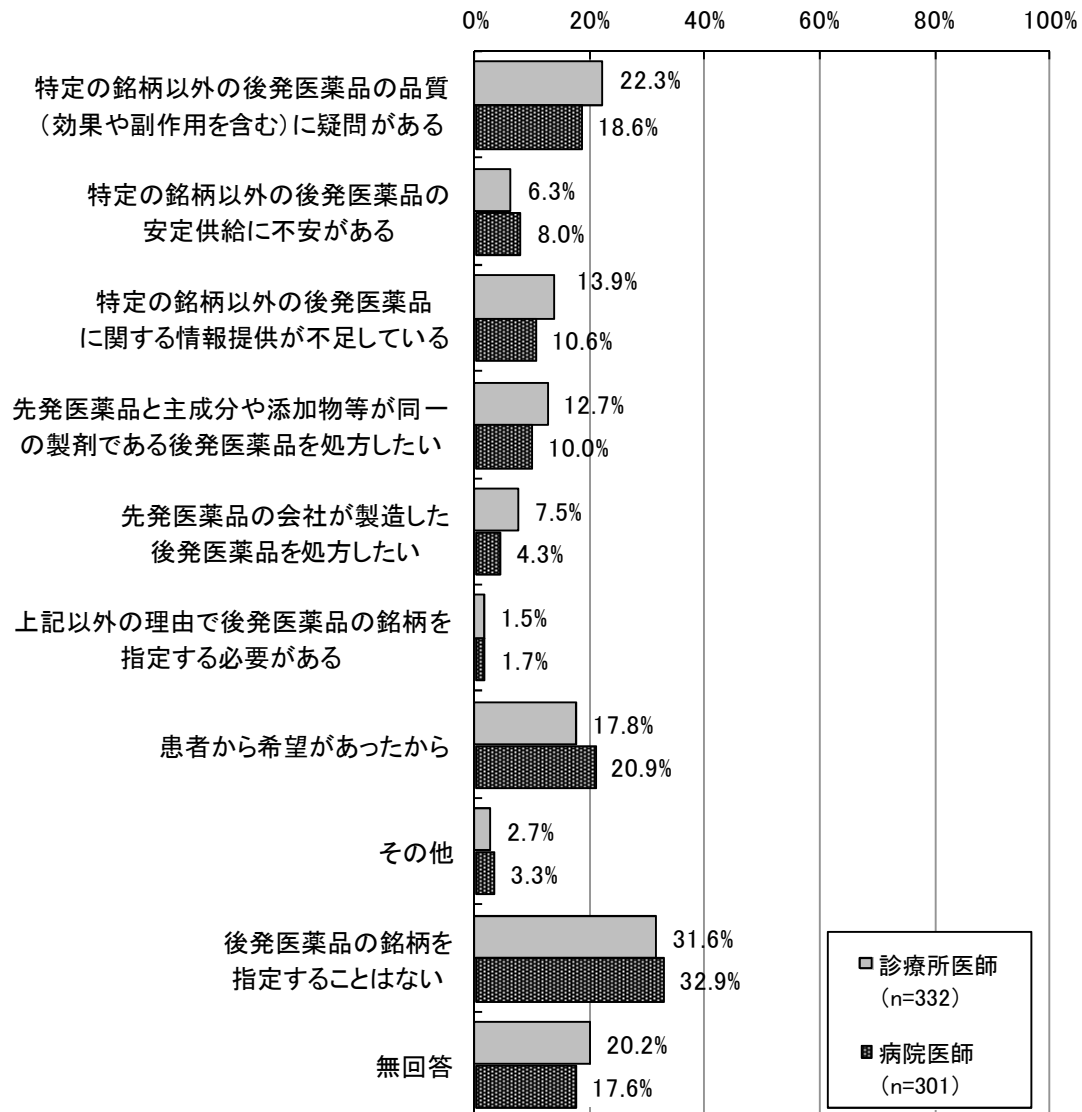
図表 104 一部の医薬品について「変更不可」とするケースとして最も多いもの
(平成 26 年 4 月以降「変更不可」欄にチェックした経験のある医師、医師ベース)



図表 105 先発医薬品の銘柄を指定する場合の理由
 (平成 26 年 4 月以降「変更不可」欄にチェックした経験のある医師、医師ベース、複数回答)

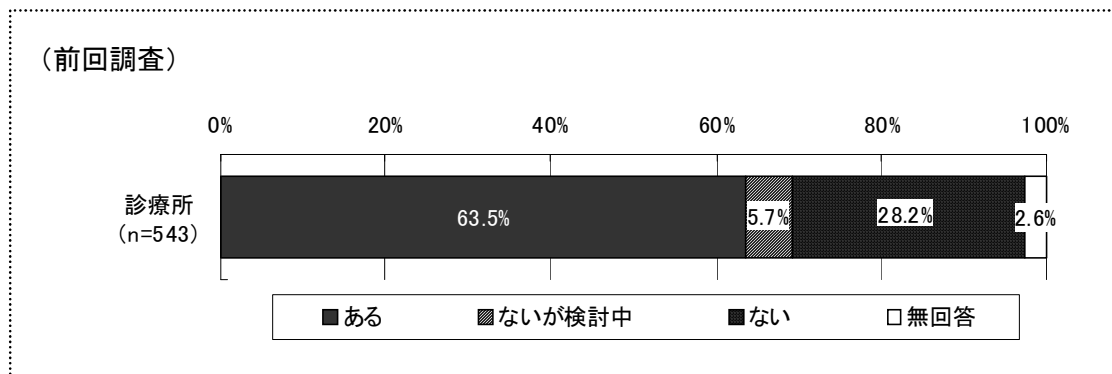
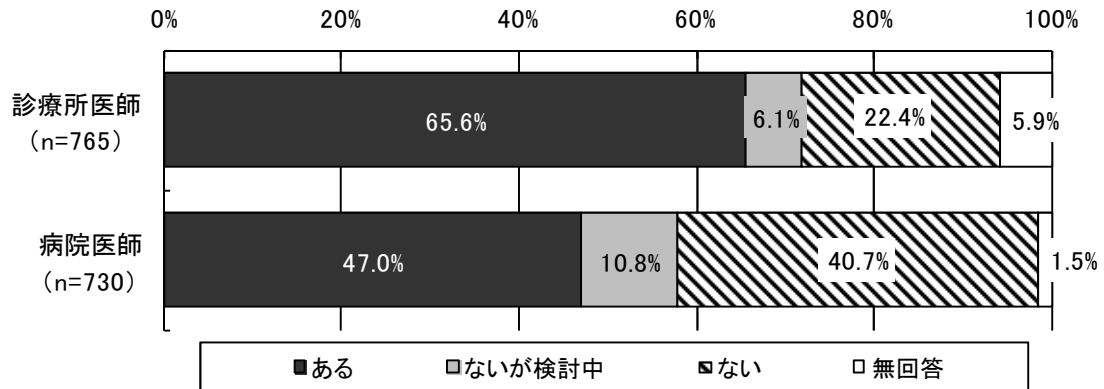


図表 106 後発医薬品の銘柄を指定する場合の理由
 (平成 26 年 4 月以降「変更不可」欄にチェックした経験のある医師、医師ベース、複数回答)

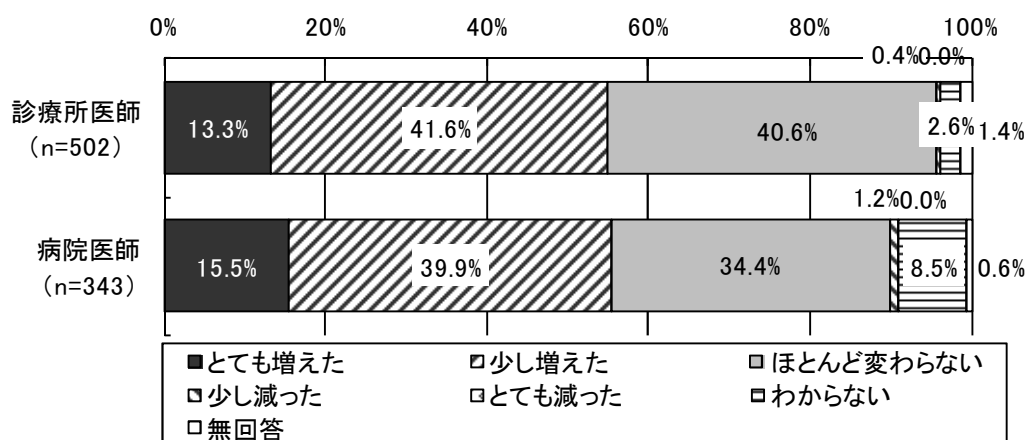


④医師における一般名処方による処方せん発行の状況等

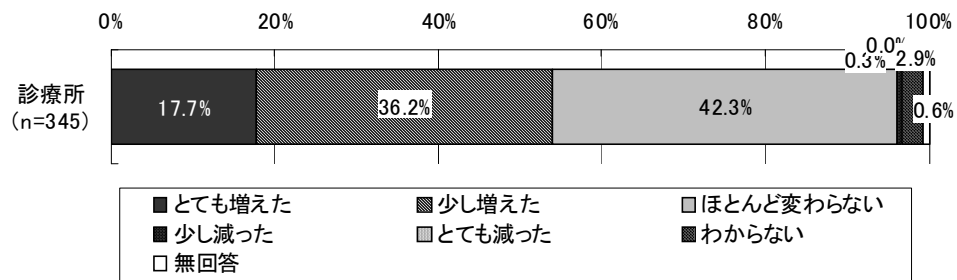
図表 107 一般名処方による処方せん発行の有無（平成 26 年 4 月以降、医師ベース）



図表 108 一般名処方による処方せんの発行による事務的な負担の変化
（一般名処方による処方せんを発行している医師、医師ベース）



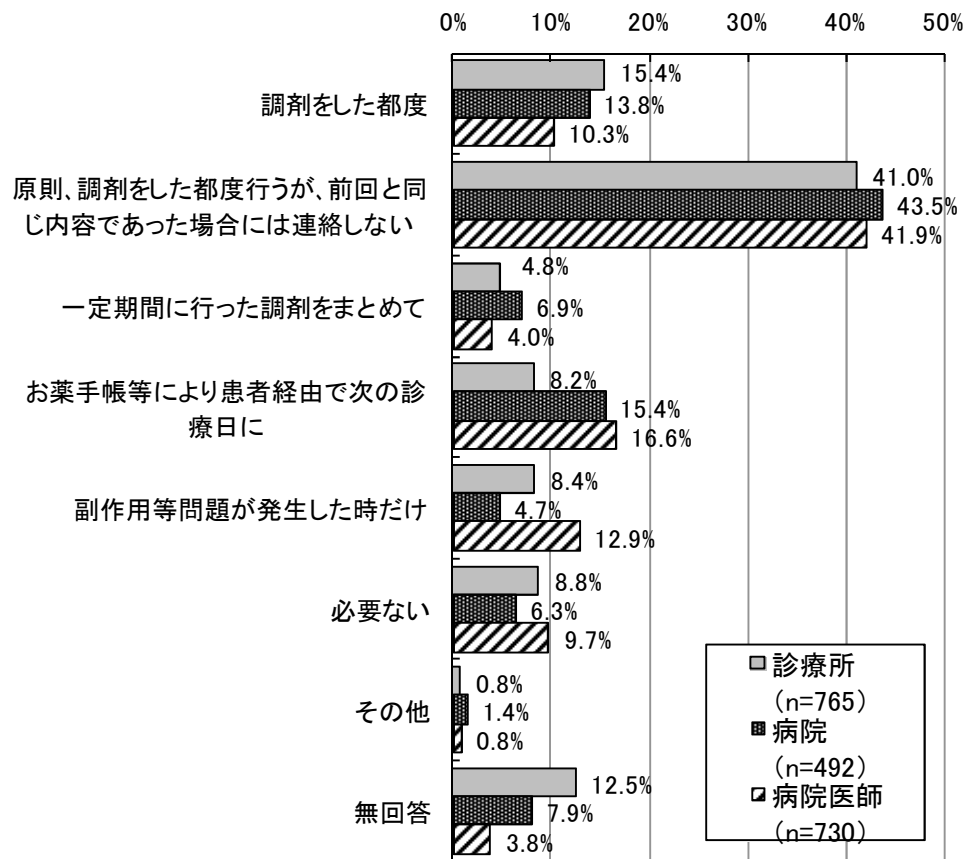
(前回調査)



(8) 保険薬局・患者との関係

①調剤時の保険薬局からの情報提供に関する意向

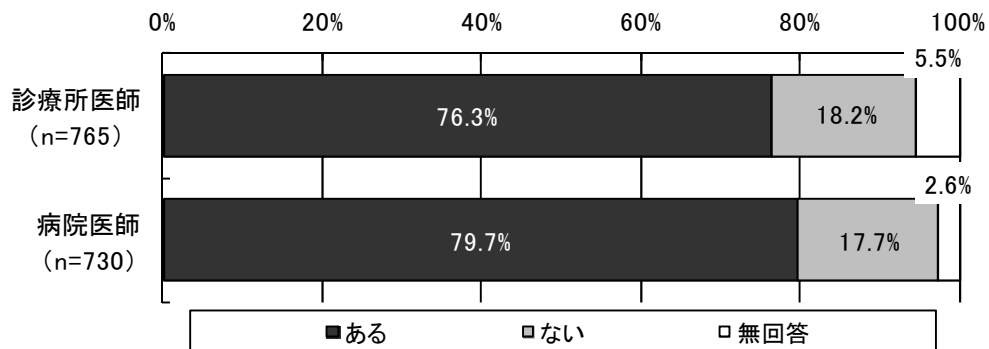
図表 109 保険薬局で実際に調剤した後発医薬品の銘柄等に関する情報提供の望ましい方法・タイミング（単数回答）



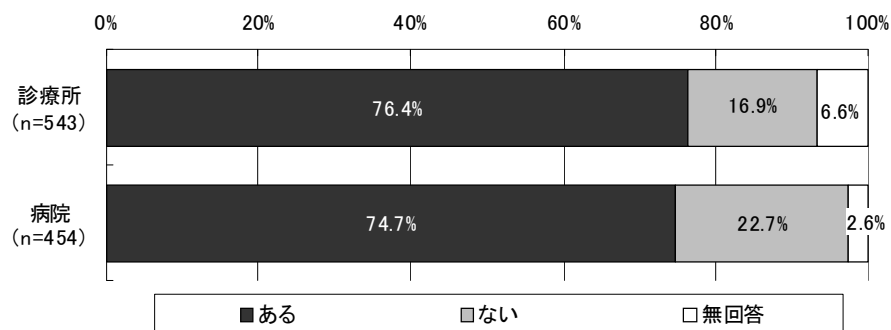
②患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無と対応

1) 院外処方せんを発行している場合

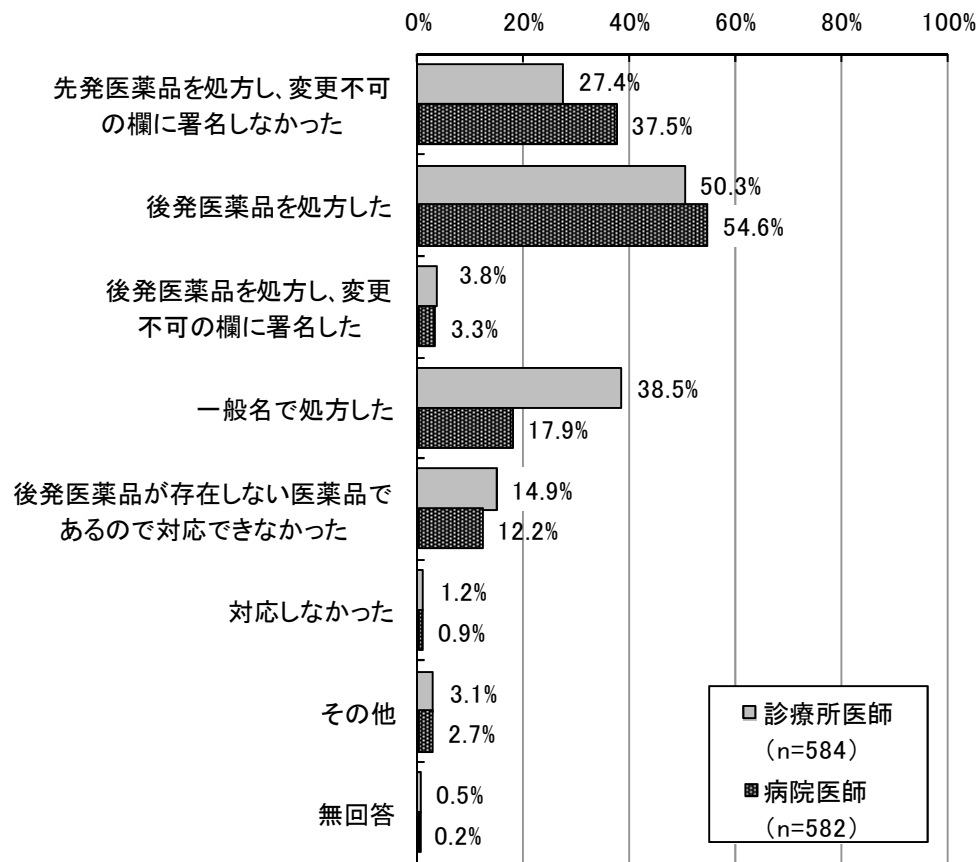
図表 110 患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無
(院外処方せんを発行している施設の医師、医師ベース)



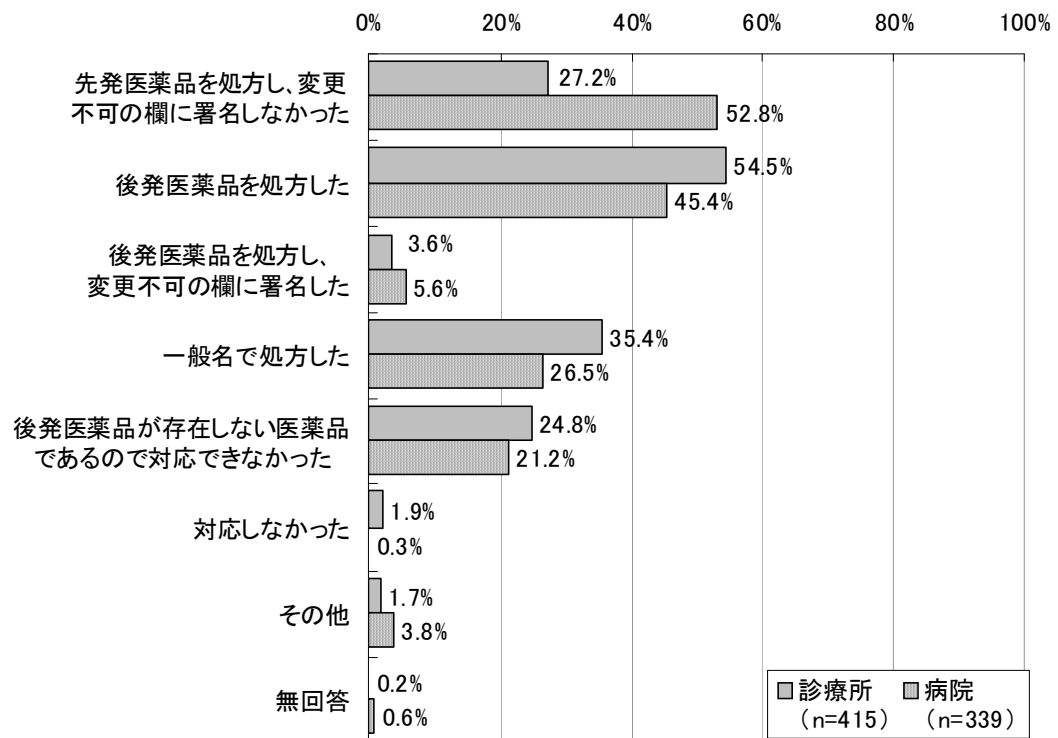
(前回調査)



図表 111 患者から後発医薬品の処方を求められた時の対応（患者から後発医薬品の処方を求められたことがあると回答した医師、複数回答、医師ベース）

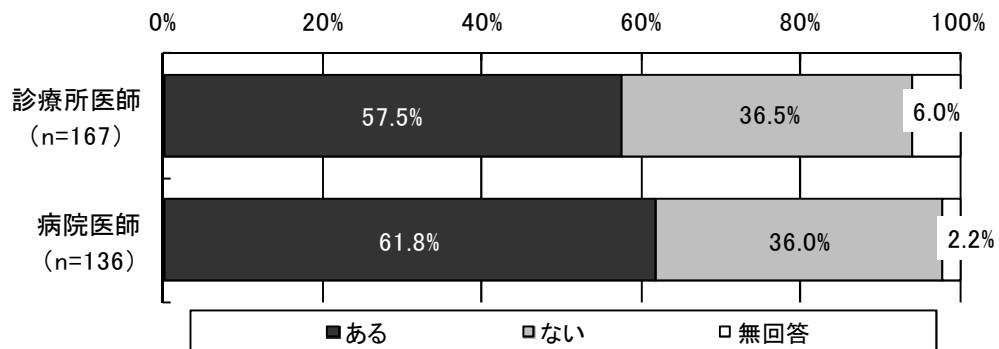


(前回調査)

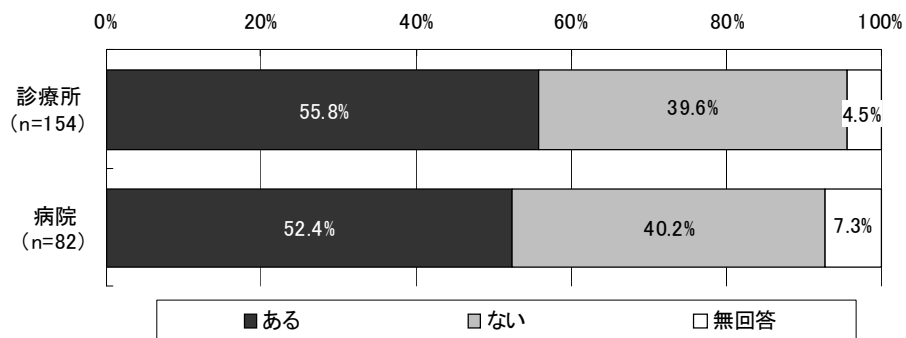


2) 院外処方せんを発行していない場合

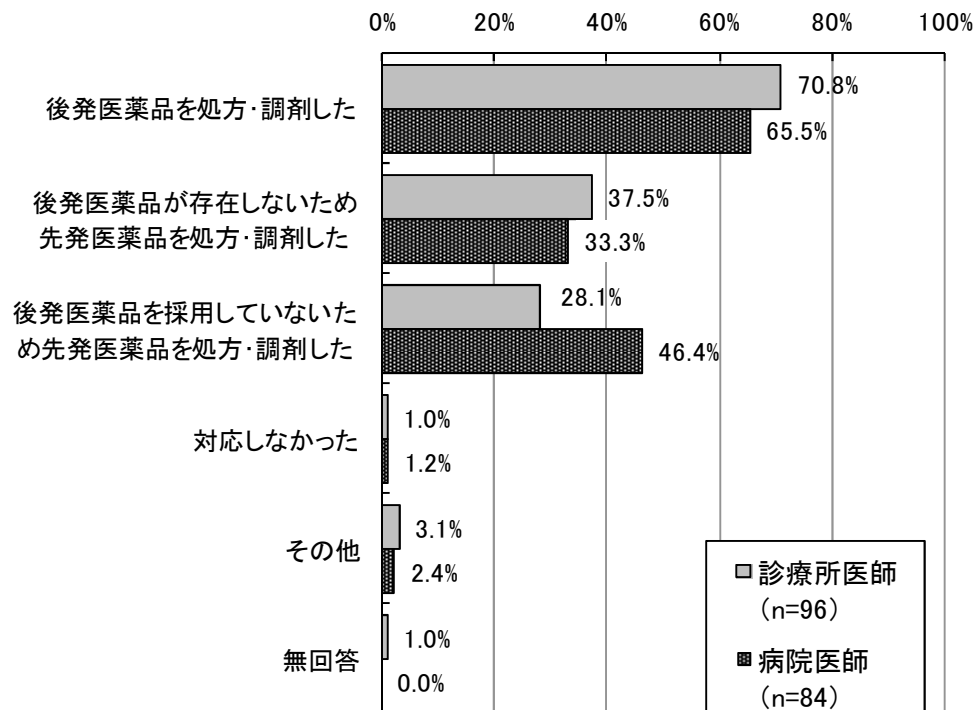
図表 112 患者から後発医薬品の処方を求められた経験の有無
(院外処方せんを発行していない施設の医師、医師ベース)



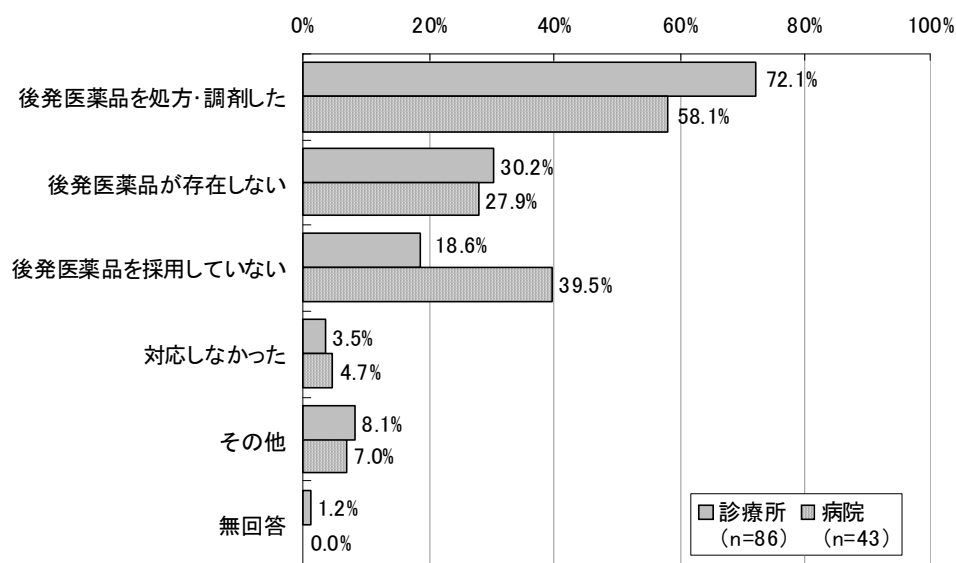
(前回調査)



図表 113 患者から後発医薬品の処方を求められた時の対応
(院外処方せんを発行していない施設、患者から後発医薬品の処方を求められたことがあると回答した医師、複数回答)



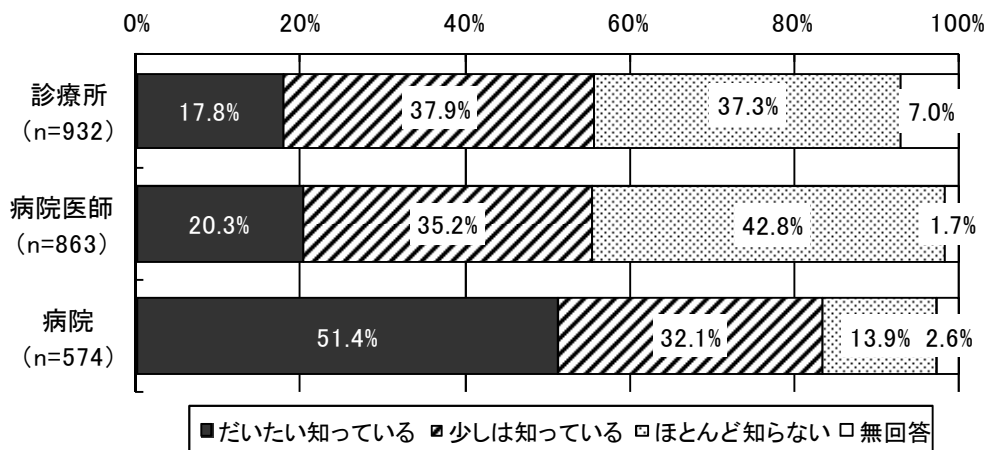
(前回調査)



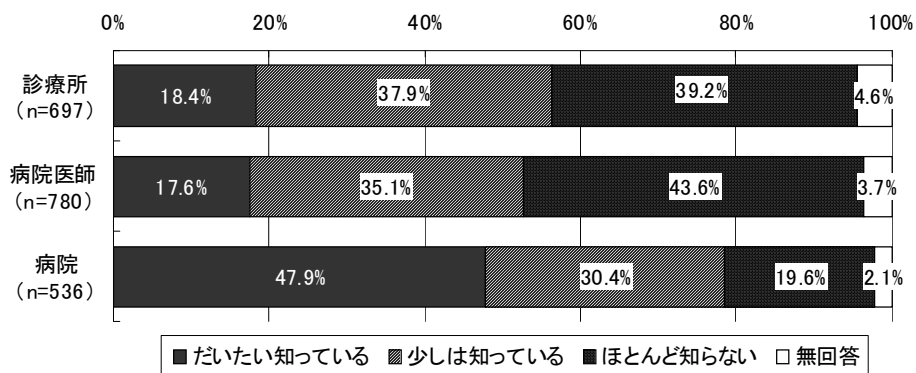
(9) 医療機関・医師における後発医薬品使用に関する意識等

①医療機関・医師における、後発医薬品が薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るために必要なデータの内容に関する認知状況

図表 114 医療機関・医師における、後発医薬品が薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るために必要なデータの内容に関する認知状況

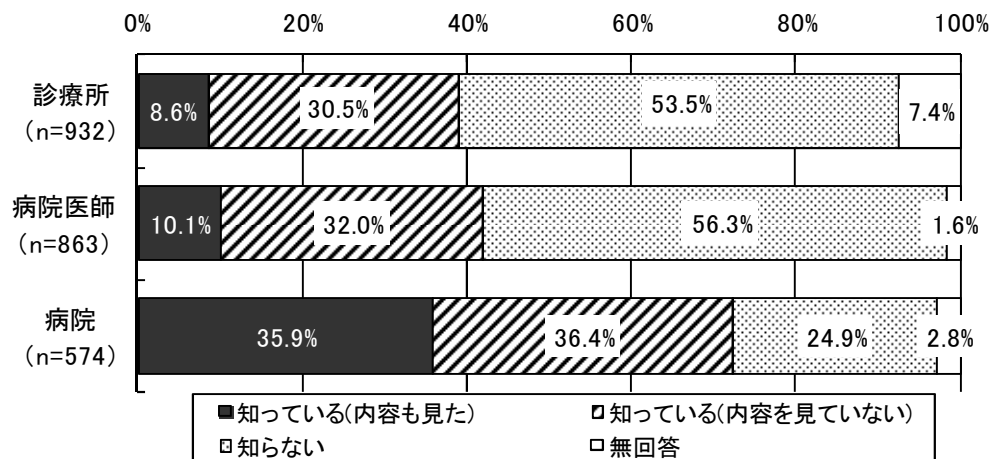


(前回調査)

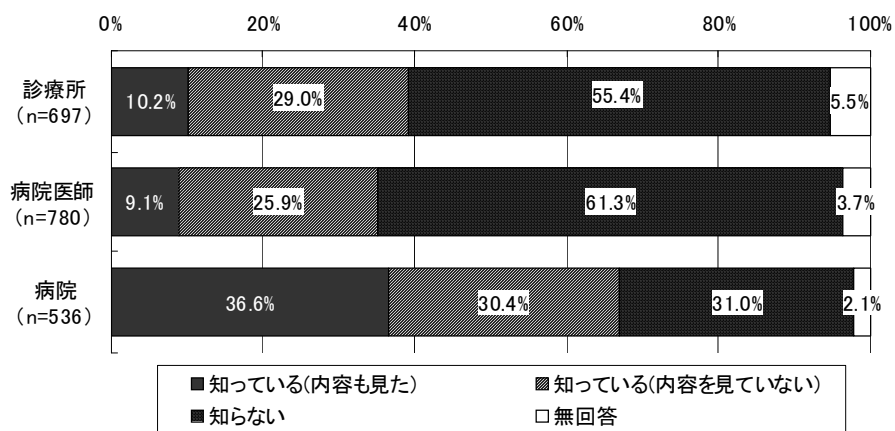


②医療機関・医師における、『ジェネリック医薬品への疑問に答えます～ジェネリック医薬品Q & A～』に関する認知状況

図表 115 医療機関・医師における、『ジェネリック医薬品への疑問に答えます～ジェネリック医薬品Q & A～』に関する認知状況

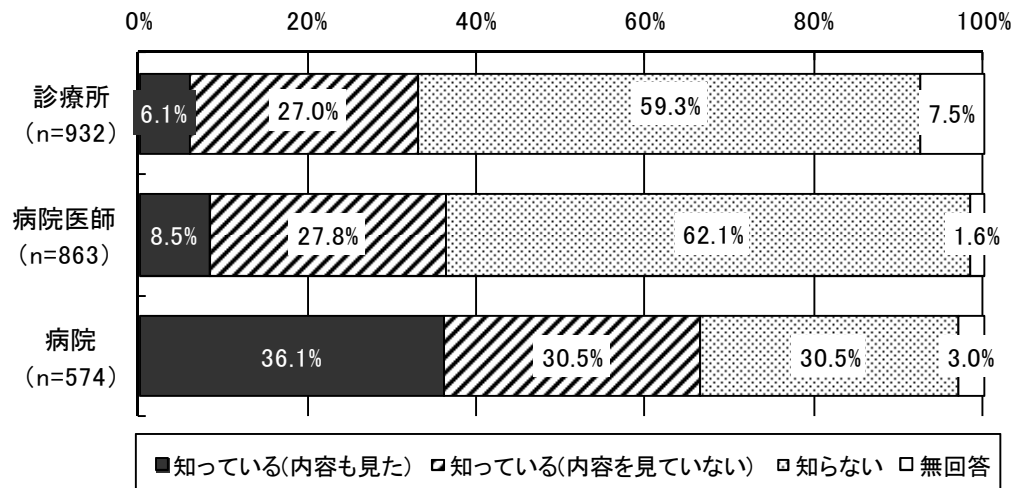


(前回調査)



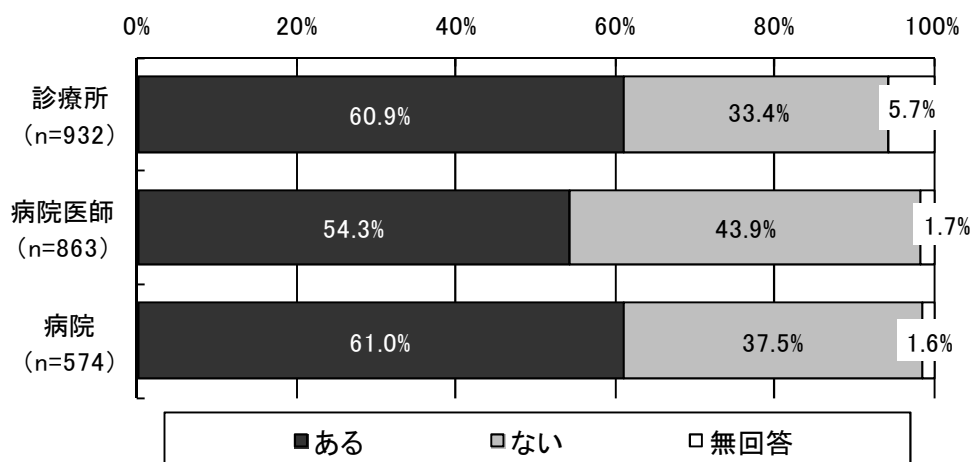
③医療機関・医師における、『後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ』に関する認知状況

図表 116 医療機関・医師における、『後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ』に関する認知状況

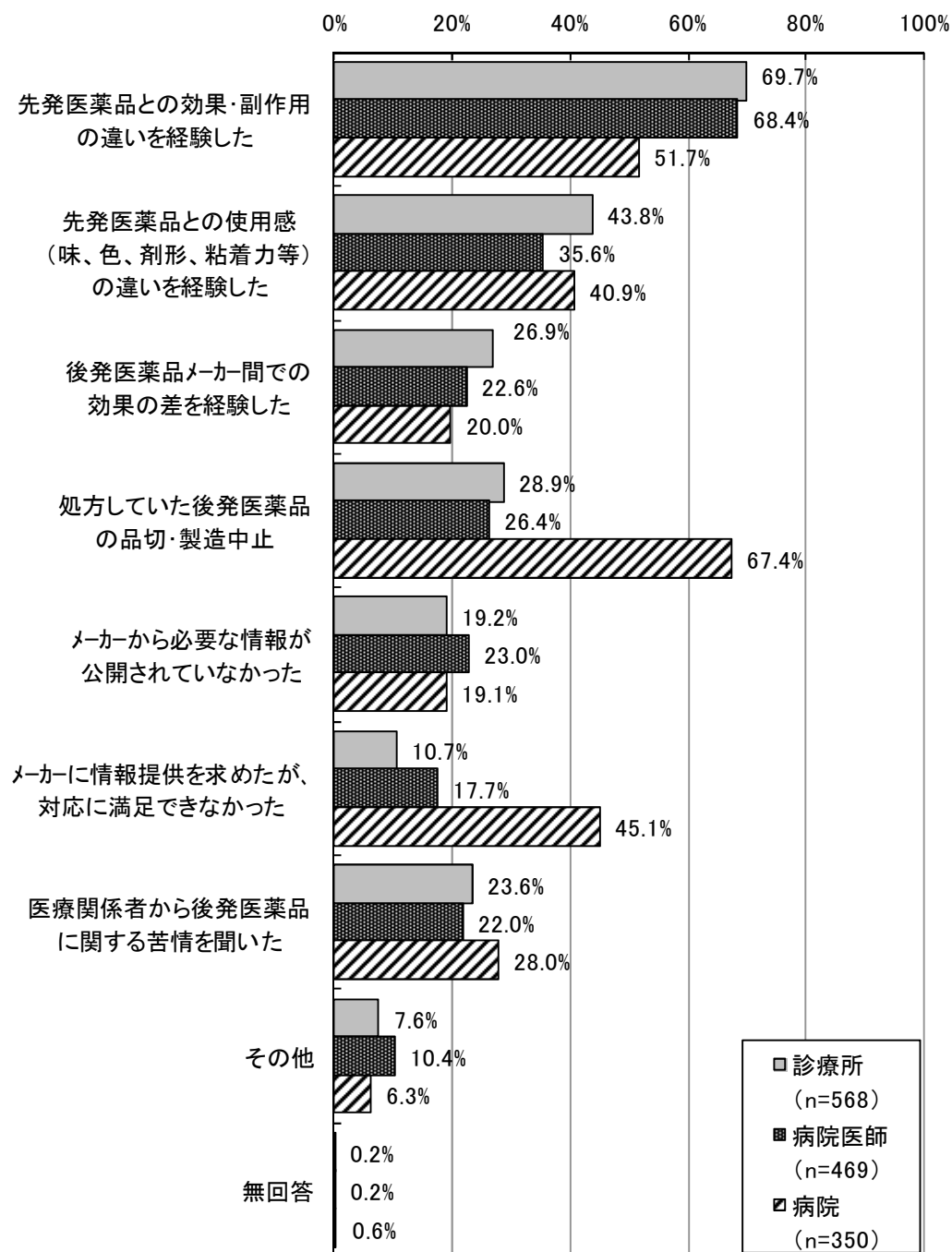


④今現在の後発医薬品に対する不信感

図表 117 今現在の後発医薬品に対する不信感の有無

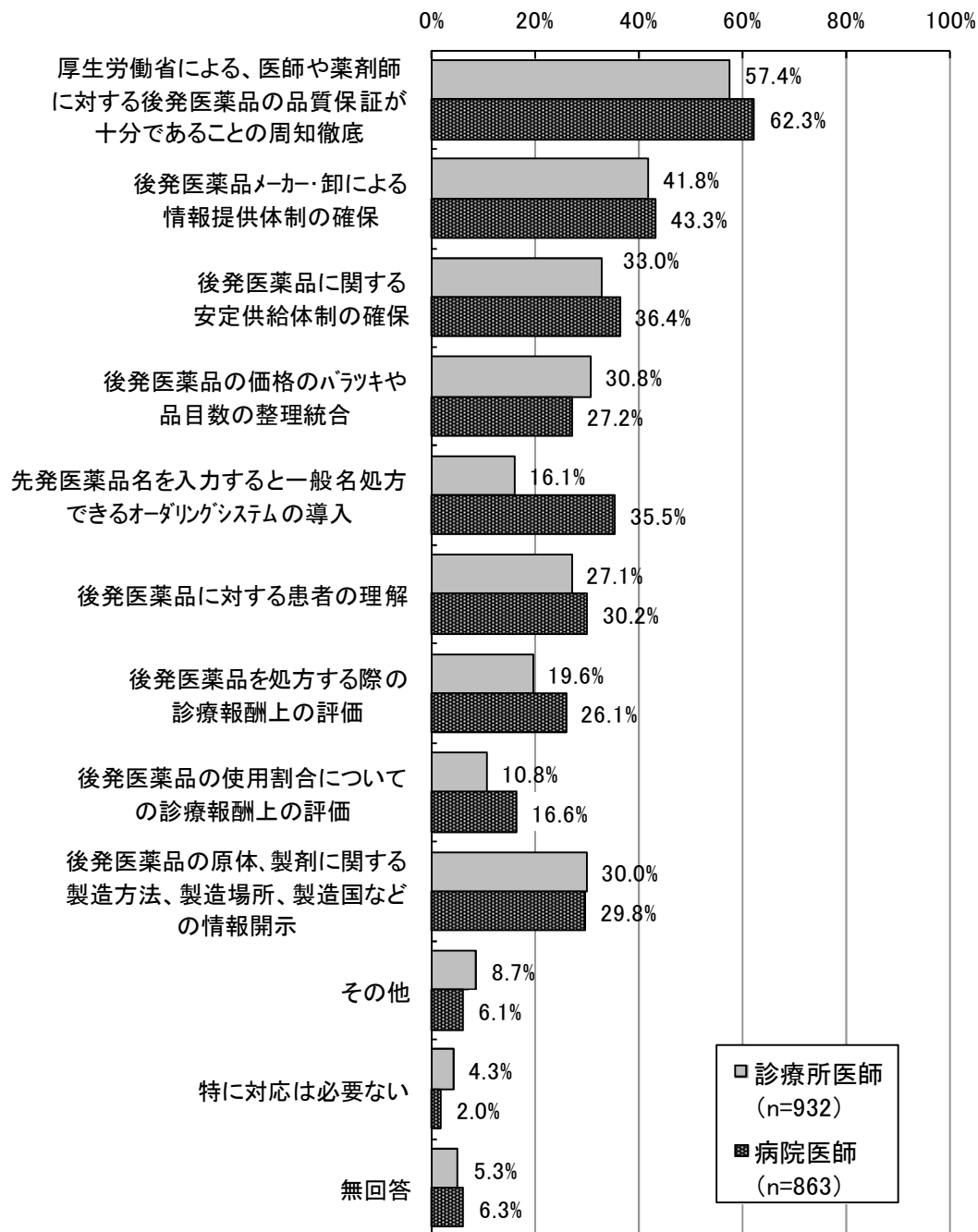


図表 118 後発医薬品に対する不信感を抱いたきっかけ
(不信感があると回答した施設・医師、複数回答)

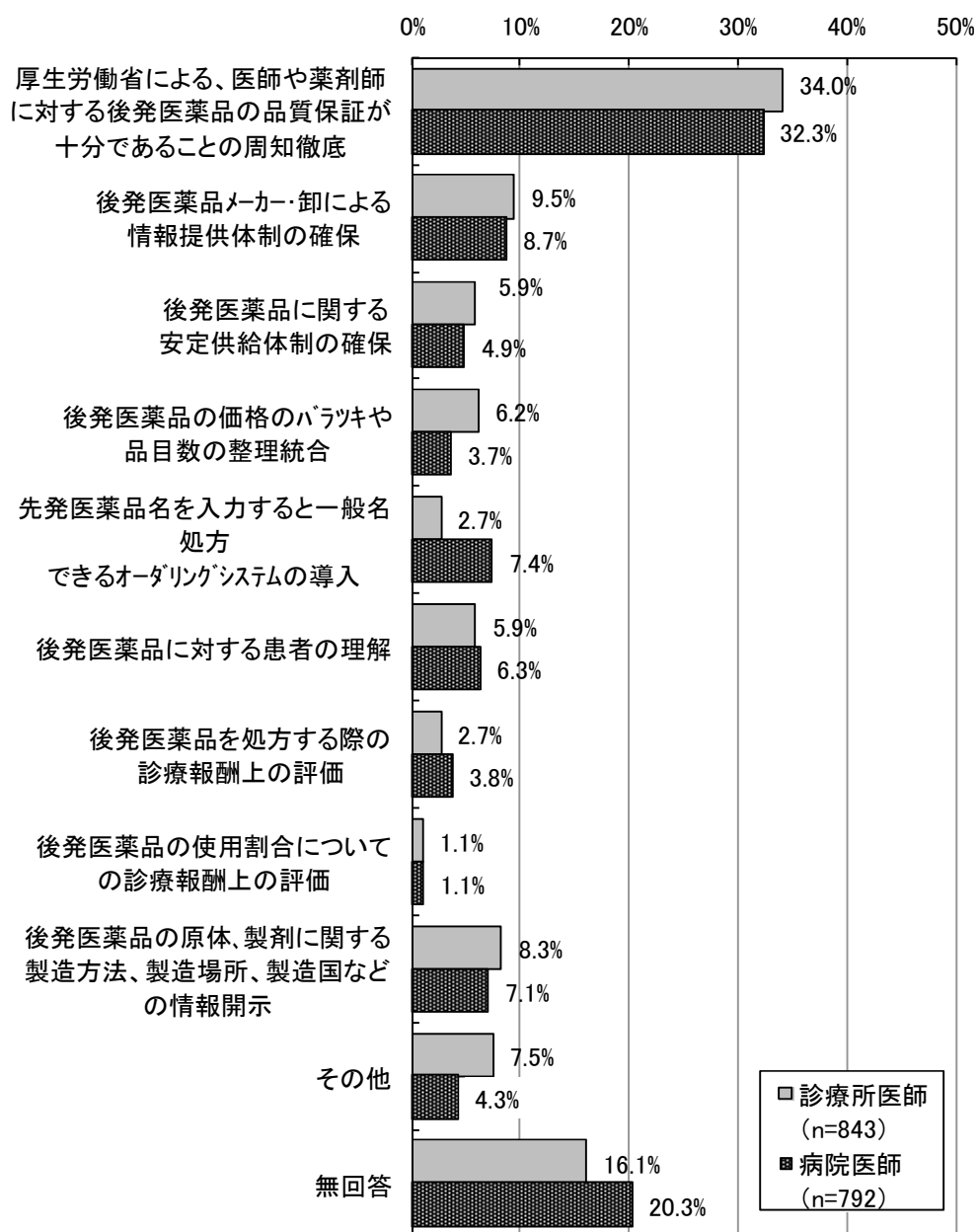


⑤後発医薬品の処方を進めるための環境

図表 119 どのような対応がなされれば、医師の立場として後発医薬品の処方を進めても良いか（医師ベース、複数回答）



図表 120 どのような対応がなされれば、医師の立場として後発医薬品の処方を進めても良いか（最も重要なもの、医師ベース、単数回答）



4. 患者調査の結果

【調査対象等】

調査対象：「保険薬局調査」の対象施設に調査日に処方せんを持って来局した患者。

ただし、1施設につき最大2名の患者を対象とした。

回答数：992人

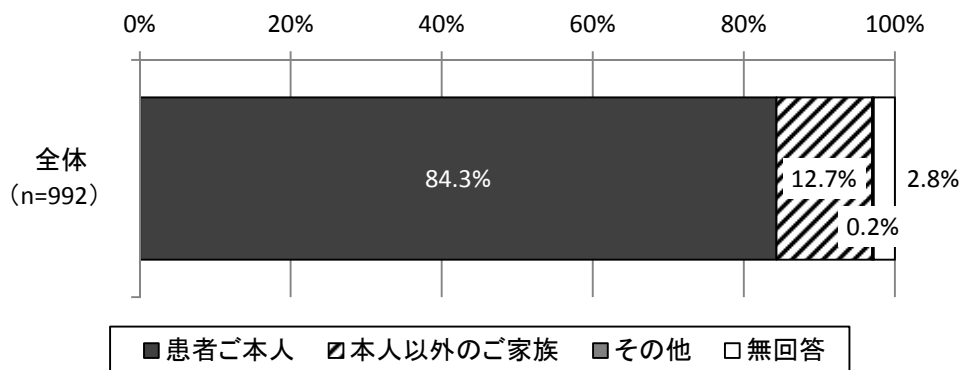
回答者：患者本人または家族

調査方法：調査対象薬局を通じて配布。回収は各患者から調査事務局宛の返信用封筒にて直接回収。

(0) 記入者の属性等

①記入者と患者の関係

図表 121 記入者と患者の関係

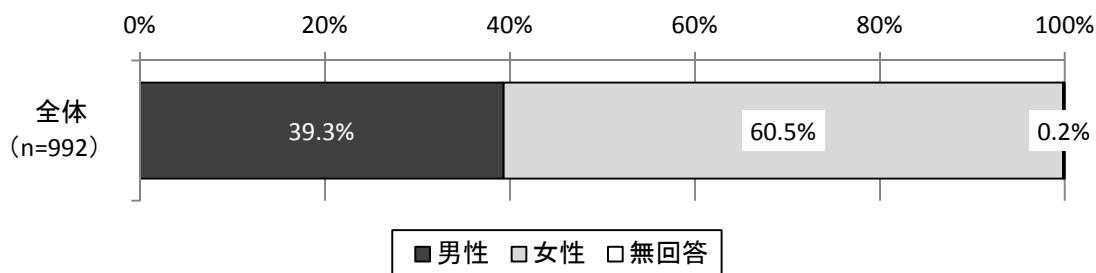


(1) 患者の属性等

①患者の基本属性

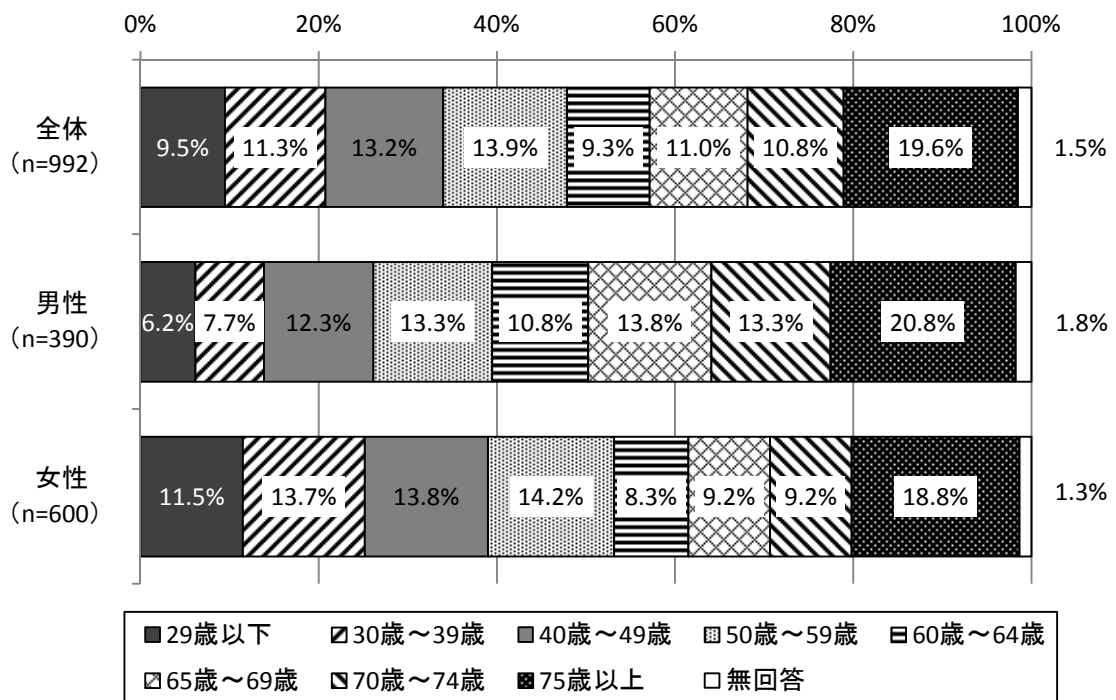
1) 性別

図表 122 性別



2) 年齢

図表 123 年齢分布（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答2人が含まれる。

図表 124 平均年齢（男女別）

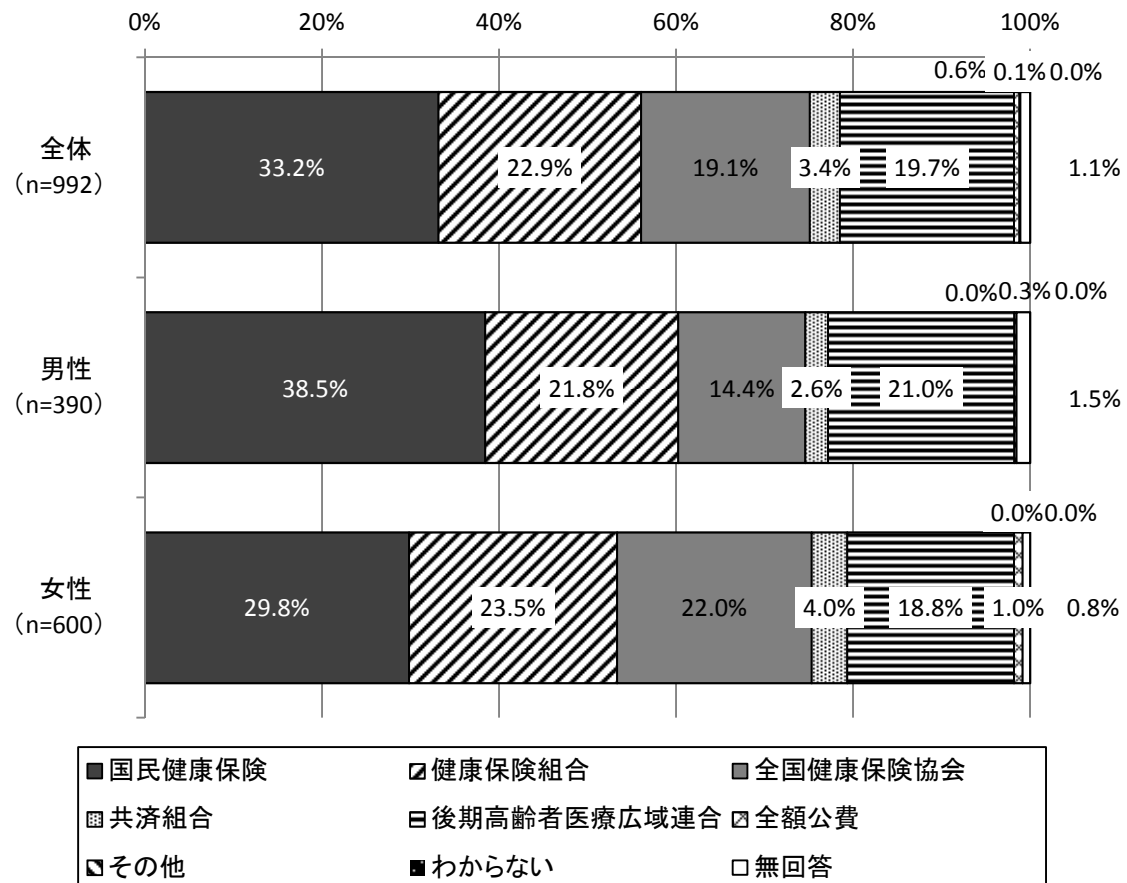
(単位：歳)

	人数(人)	平均	標準偏差	中央値
全体	977	56.5	20.1	60.0
男性	383	59.4	19.0	64.0
女性	592	54.7	20.6	56.0

(注)「全体」には、「性別」について無回答2人が含まれる。

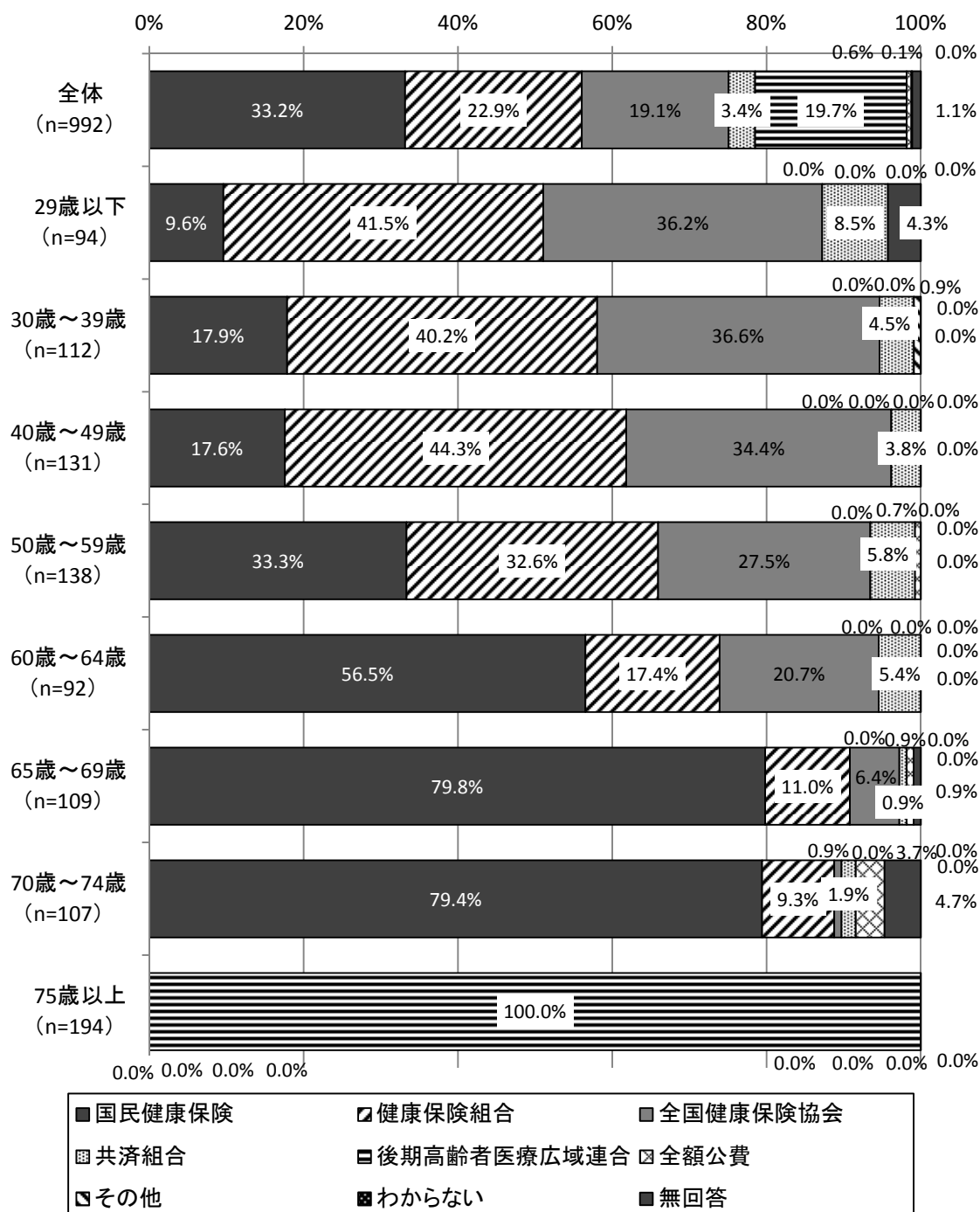
②公的医療保険の種類

図表 125 公的医療保険の種類（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答2人が含まれる。

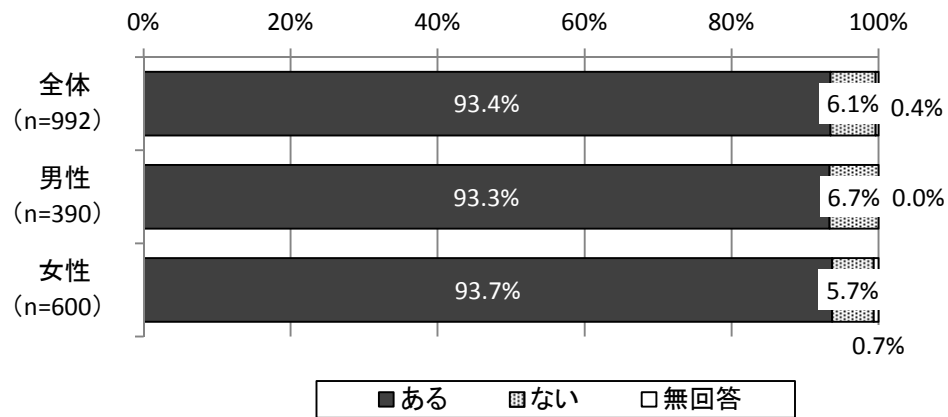
図表 126 公的医療保険の種類（年齢階級別）



(注)「全体」には、「年齢」について無回答 15 人が含まれる。

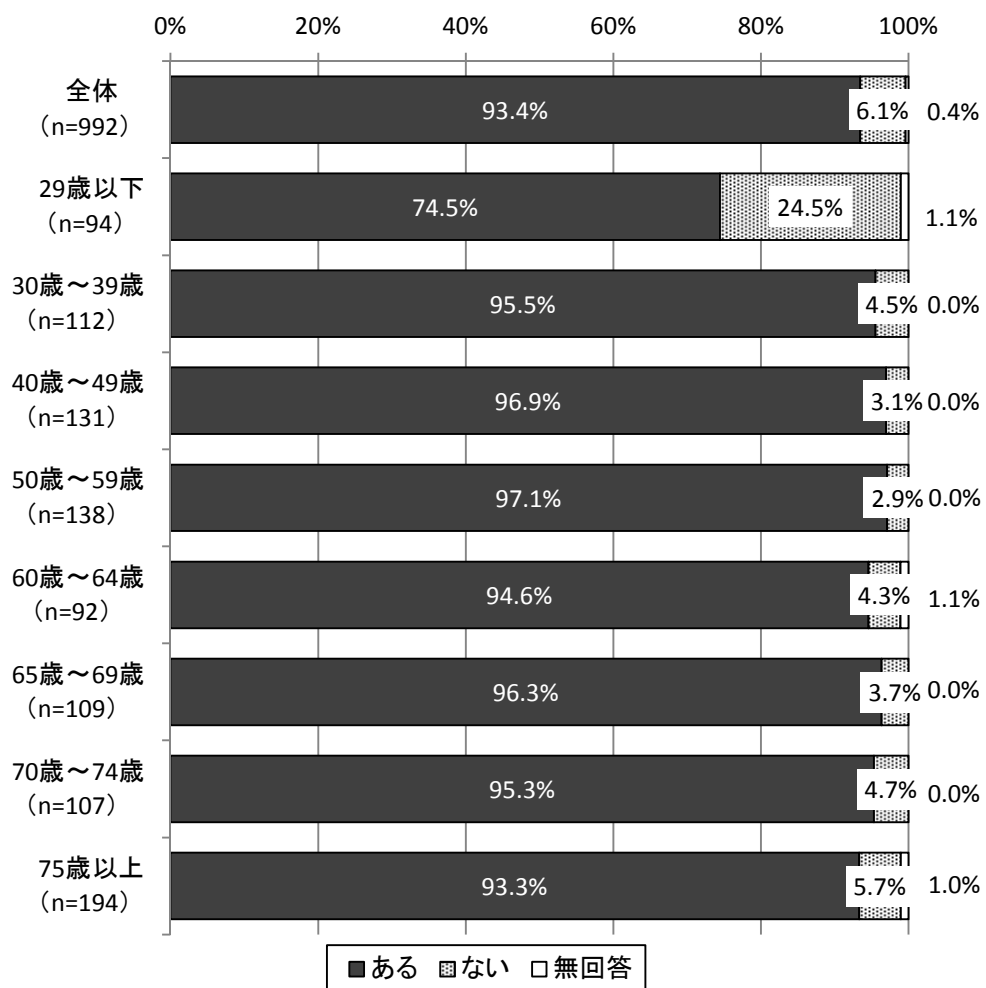
③自己負担額の有無

図表 127 自己負担額の有無（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答 2 人が含まれる。

図表 128 自己負担額の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には、「年齢」について無回答 15 人が含まれる。

④過去3か月間の薬局訪問回数（処方せん持参に限る）

図表 129 過去3か月間の薬局訪問回数（男女別）

（単位：回）

	人数(人)	平均	標準偏差	中央値
全体	983	3.6	2.6	3.0
男性	386	3.7	2.6	3.0
女性	595	3.6	2.7	3.0

（注）「全体」には、「性別」について無回答2人が含まれる。

図表 130 過去3か月間の薬局訪問回数（年齢階級別）

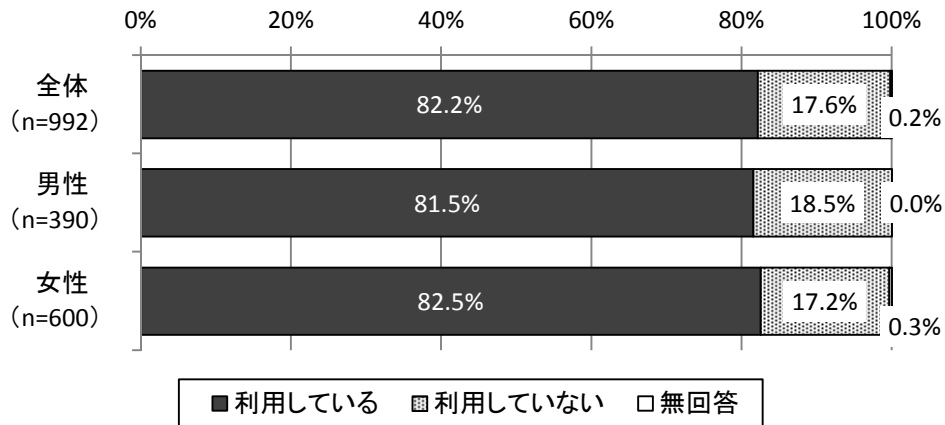
（単位：回）

	人数(人)	平均	標準偏差	中央値
全体	983	3.6	2.6	3.0
29歳以下	94	2.7	2.2	2.0
30歳～39歳	112	2.9	2.3	2.0
40歳～49歳	129	3.0	2.4	3.0
50歳～59歳	136	3.2	2.0	3.0
60歳～64歳	90	3.9	2.5	3.0
65歳～69歳	108	3.8	2.2	3.0
70歳～74歳	107	4.5	3.6	3.0
75歳以上	192	4.5	2.9	3.0

（注）「全体」には、「年齢」について無回答15人が含まれる。

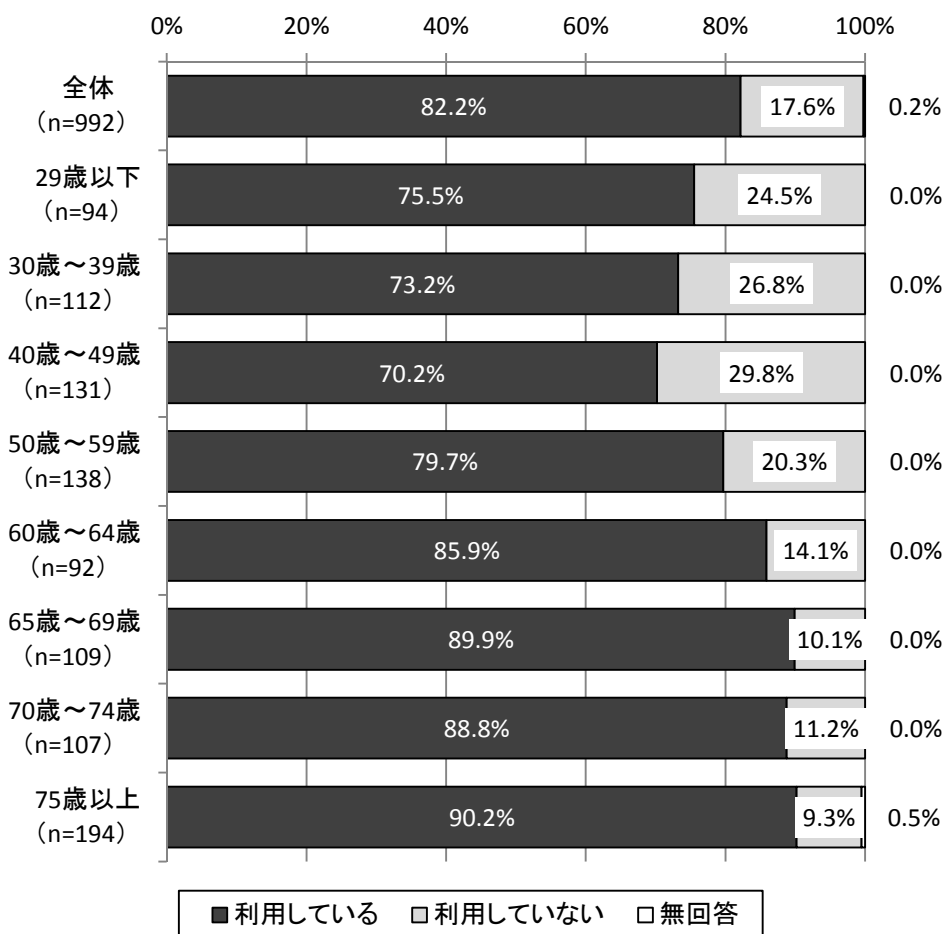
⑤お薬手帳の利用

図表 131 お薬手帳の利用（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答 2 人が含まれる。

図表 132 お薬手帳の利用（年齢階級別）

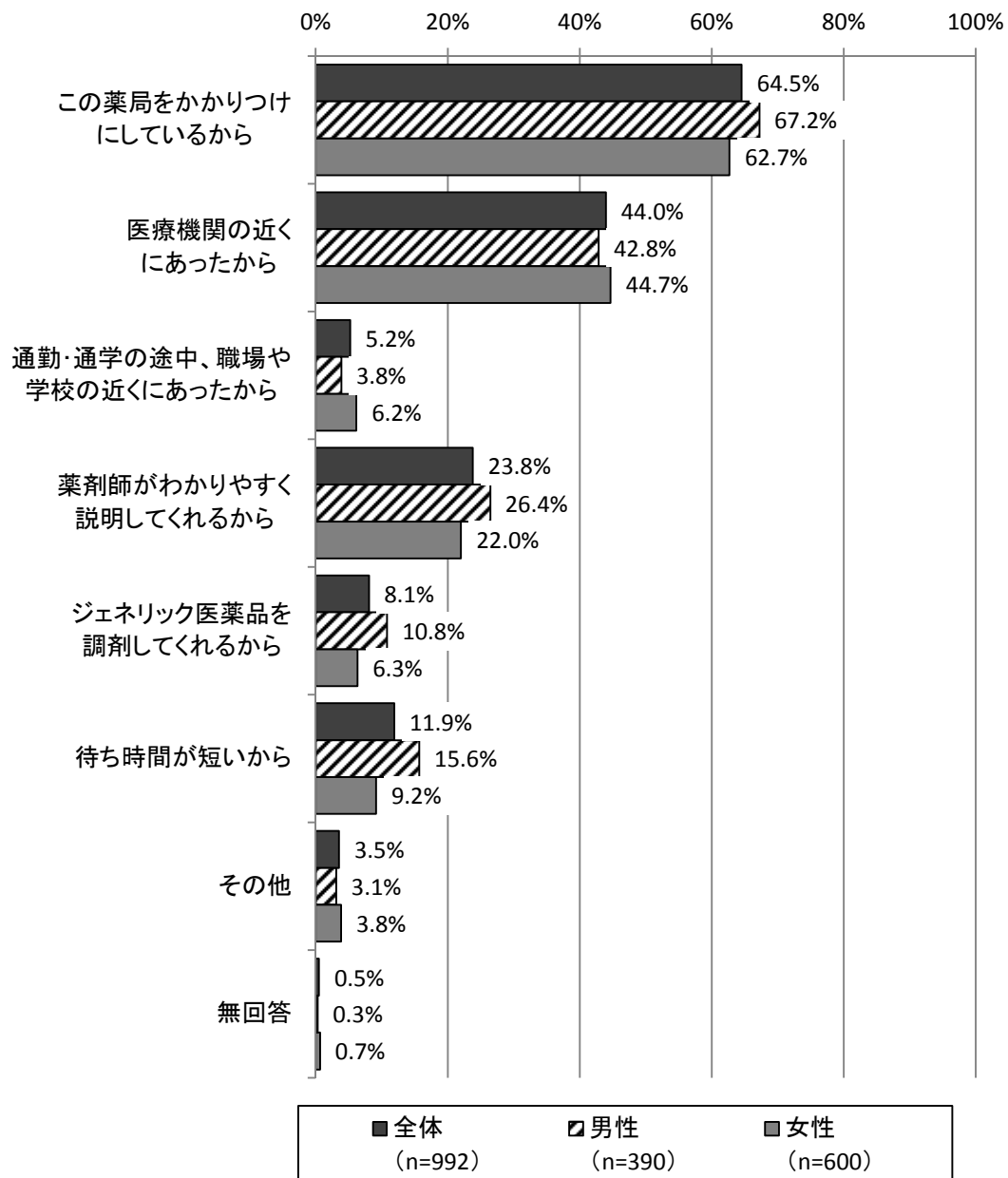


(注)「全体」には、「年齢」について無回答 15 人が含まれる。

(2) 調査日における受診・調剤状況等

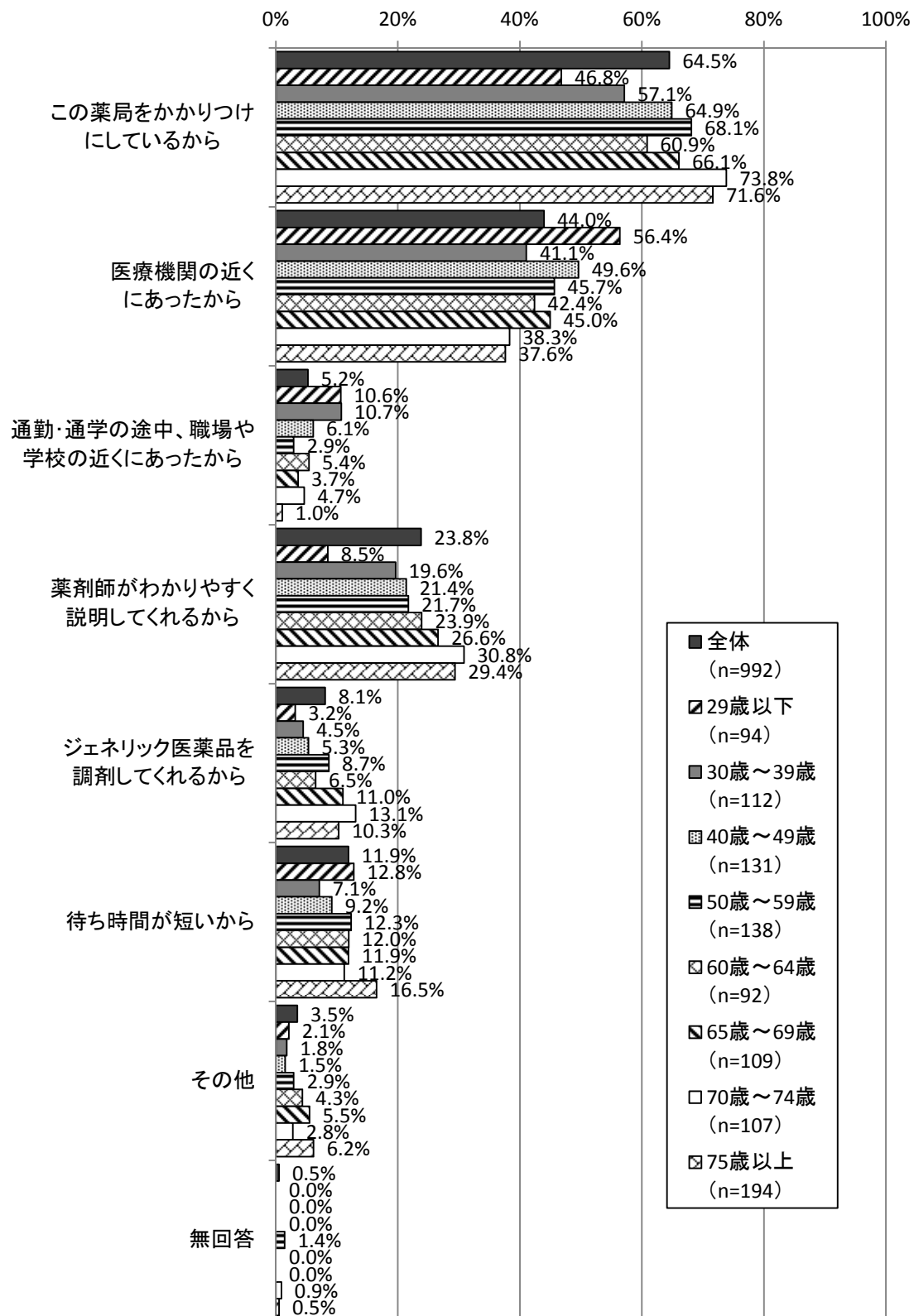
①薬局を選んだ理由

図表 133 薬局を選んだ理由（男女別、複数回答）



(注)「全体」には、「性別」について無回答2人が含まれる。

図表 134 薬局を選んだ理由（年齢階級別、複数回答）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

②処方状況等

1) 薬局窓口での自己負担額

図表 135 薬局窓口での自己負担額（男女別）

（単位：円）

	人数(人)	平均	標準偏差	中央値
全体	922	2,226.5	2,576.8	1,465.0
男性	366	2,698.3	3,161.1	1,810.0
女性	554	1,917.1	2,051.7	1,310.0

（注）・「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。
 ・自己負担額について記入のあったものを集計対象とした。

図表 136 薬局窓口での自己負担額（年齢階級別）

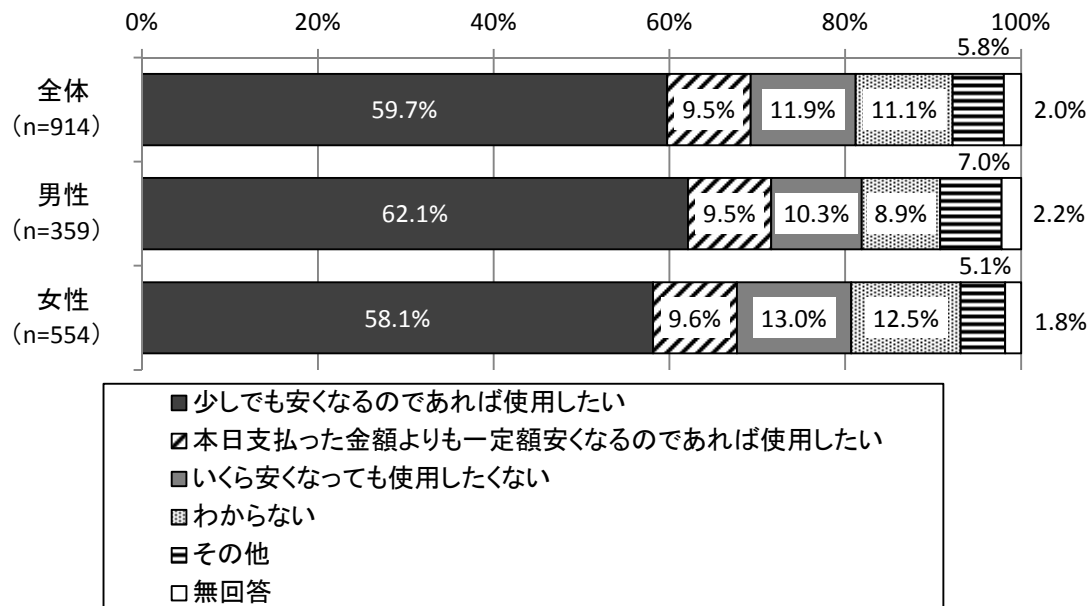
（単位：円）

	人数(人)	平均	標準偏差	中央値
全体	922	2,226.5	2,576.8	1,465.0
29歳以下	85	955.2	1,471.8	570.0
30歳～39歳	106	1,599.8	1,621.7	1,070.0
40歳～49歳	124	2,308.2	2,791.6	1,590.0
50歳～59歳	129	2,762.1	2,004.2	2,280.0
60歳～64歳	85	3,333.3	4,312.0	1,950.0
65歳～69歳	104	3,314.1	3,025.2	2,645.0
70歳～74歳	101	1,636.9	1,782.4	1,050.0
75歳以上	174	1,873.9	2,100.3	1,295.0

（注）・「全体」には、「年齢」について無回答の14人が含まれる。
 ・自己負担額について記入のあったものを集計対象とした。

2) ジェネリック医薬品に関する使用意向（自己負担との関係）

図表 137 ジェネリック医薬品に関する使用意向（自己負担との関係）
（医療費の自己負担があった人、男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の1人が含まれる。

図表 138 ジェネリック医薬品を使用してもよいと思う自己負担額上の差額
（「本日支払った金額よりも一定額安くなるのであれば使用したい」と回答した人、男女別）

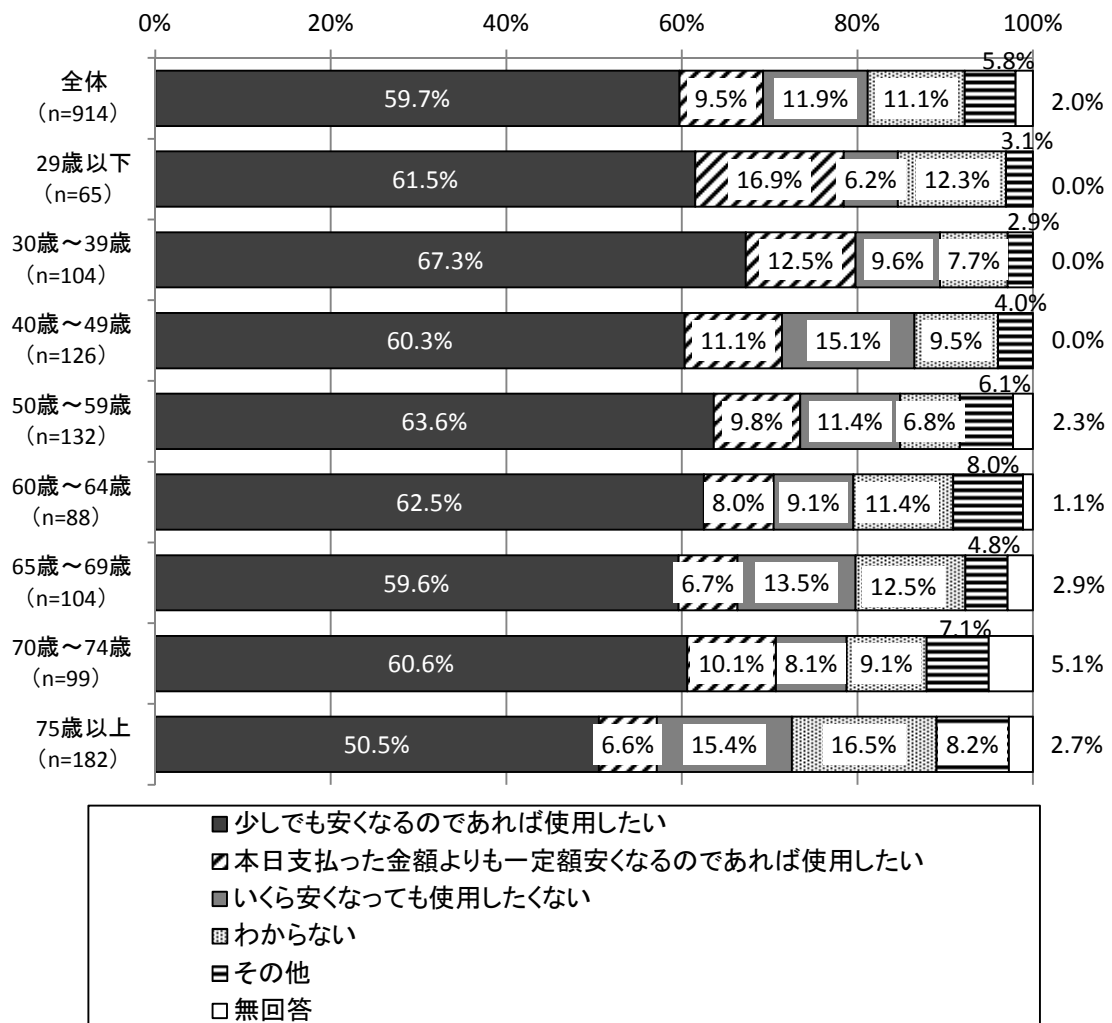
（単位：円）

	人数(人)	平均	標準偏差	中央値
全体	61	1,979.7	2,832.5	1,280.0
男性	25	3,046.4	4,112.8	1,930.0
女性	36	1,239.0	881.9	1,061.5

（注）具体的に安くなってほしい金額について記載のあった61人を集計対象とした。

図表 139 ジェネリック医薬品に関する使用意向（自己負担額との関係）

（医療費の自己負担があった人、年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の14人が含まれる。

図表 140 ジェネリック医薬品を使用してもよいと思う自己負担額上の差額
 (「本日支払った金額よりも一定額安くなるのであれば使用したい」と回答した人、年齢階級別)

(単位：円)

	人数(人)	平均	標準偏差	中央値
全体	61	1,979.7	2,832.5	1,280.0
29 歳以下	8	1,411.3	2,038.0	795.0
30 歳～39 歳	11	1,463.6	1,116.3	1,200.0
40 歳～49 歳	11	3,352.7	5,943.0	1,510.0
50 歳～59 歳	9	1,754.4	1,474.1	1,220.0
60 歳～64 歳	6	1,925.0	165.6	2,000.0
65 歳～69 歳	4	2,615.0	1,234.8	2,415.0
70 歳～74 歳	5	1,418.0	1,638.3	950.0
75 歳以上	7	1,657.6	1,965.4	1,050.0

(注) 具体的に安くなってほしい金額について記載のあった 61 人を集計対象とした。

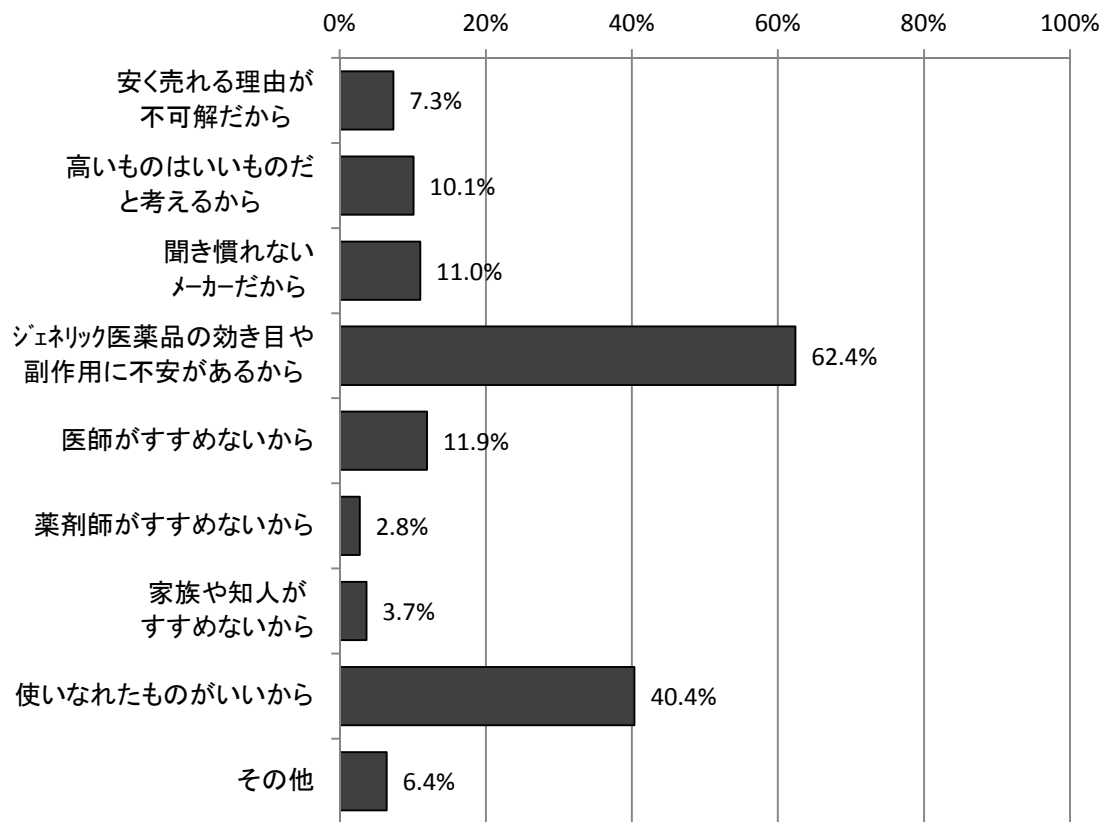
図表 141 ジェネリック医薬品を使用してもよいと思う自己負担額上の減額割合の分布
 (「本日支払った金額よりも一定額安くなるのであれば使用したい」と回答した人)

(単位：上段「人」、下段「%」)

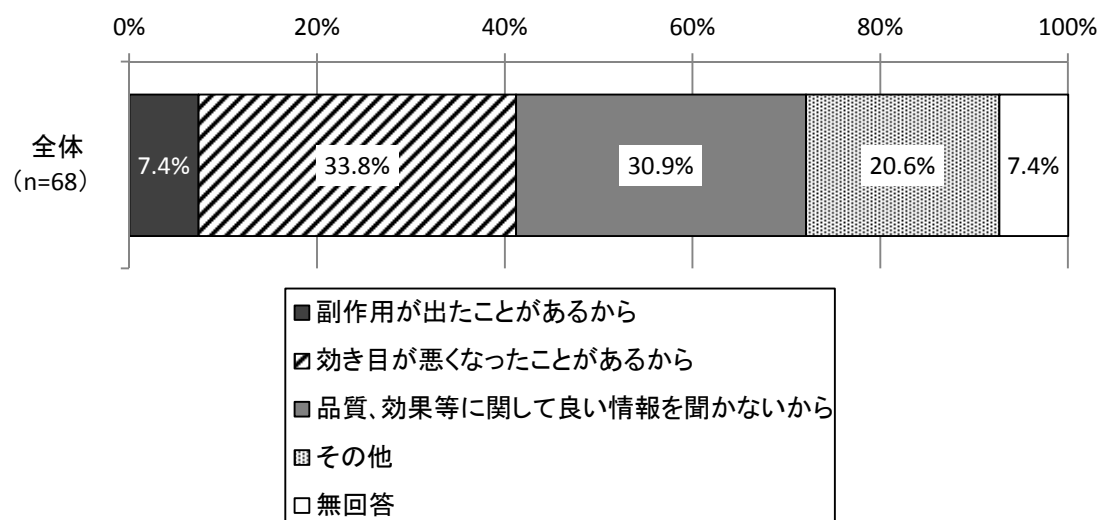
	人数(人)	20%未満	20%以上～ 40%未満	40%以上～ 60%未満	60%以上～ 80%未満	80%以上
全体	61	10	38	10	2	1
	100.0	16.4	62.3	16.4	3.3	1.6

(注) 具体的に安くなってほしい金額について記載のあった 61 人を集計対象とした。

図表 142 ジェネリック医薬品がいくら安くなっても使用したくない理由
 (「いくら安くなっても使用したくない」と回答した人、複数回答、n=109)

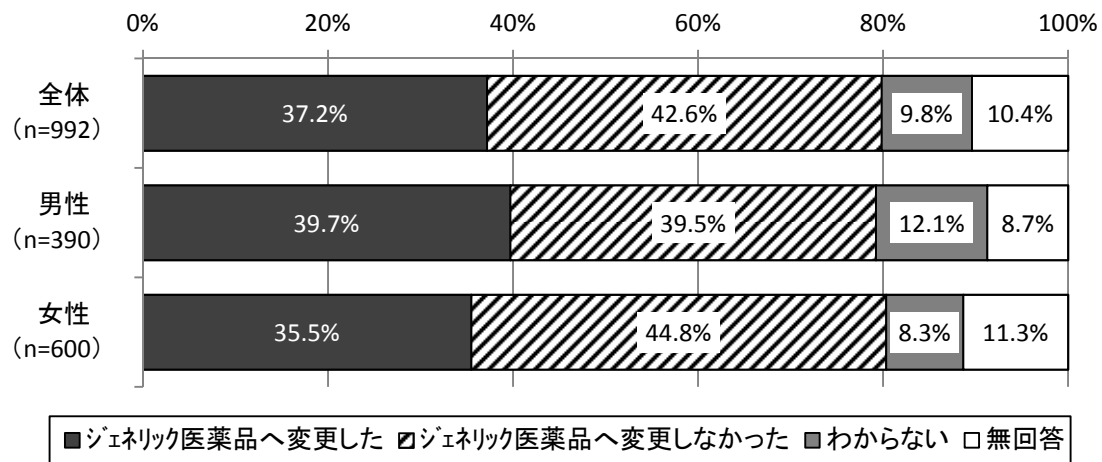


図表 143 ジェネリック医薬品の効き目や副作用に不安を感じたきっかけ
 (「ジェネリック医薬品の効き目(効果)や副作用に不安があるから」と回答した人)



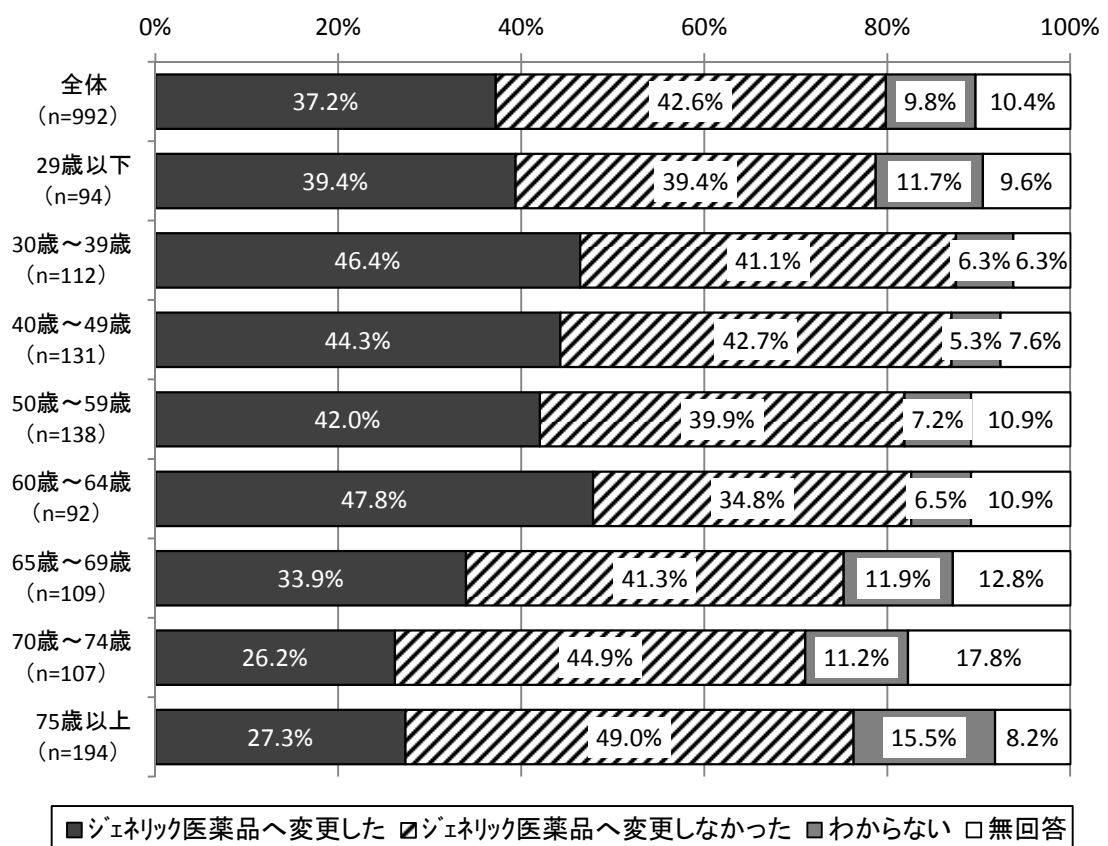
3) 薬局における、先発医薬品からジェネリック医薬品への変更の有無

図表 144 薬局における、先発医薬品からジェネリック医薬品への変更の有無（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

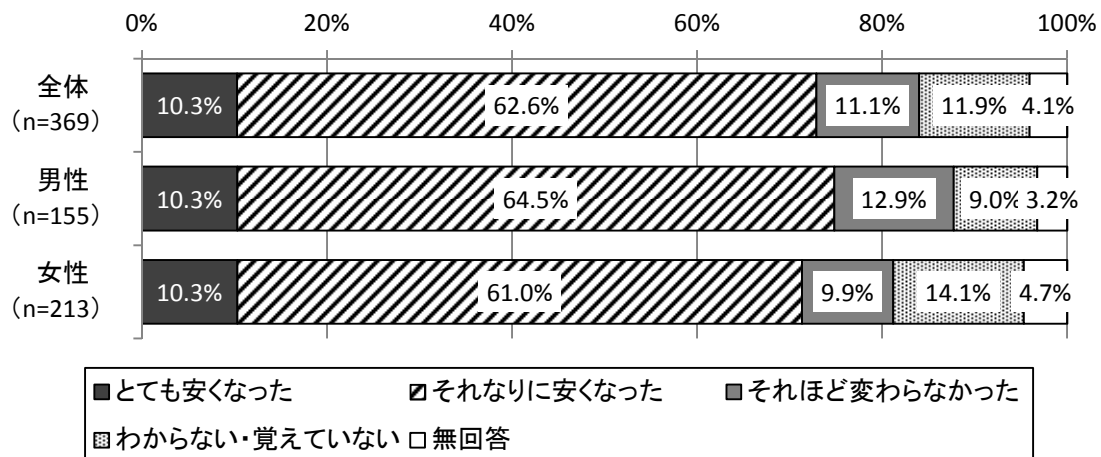
図表 145 薬局における、先発医薬品からジェネリック医薬品への変更の有無
(年齢階級別)



(注)「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

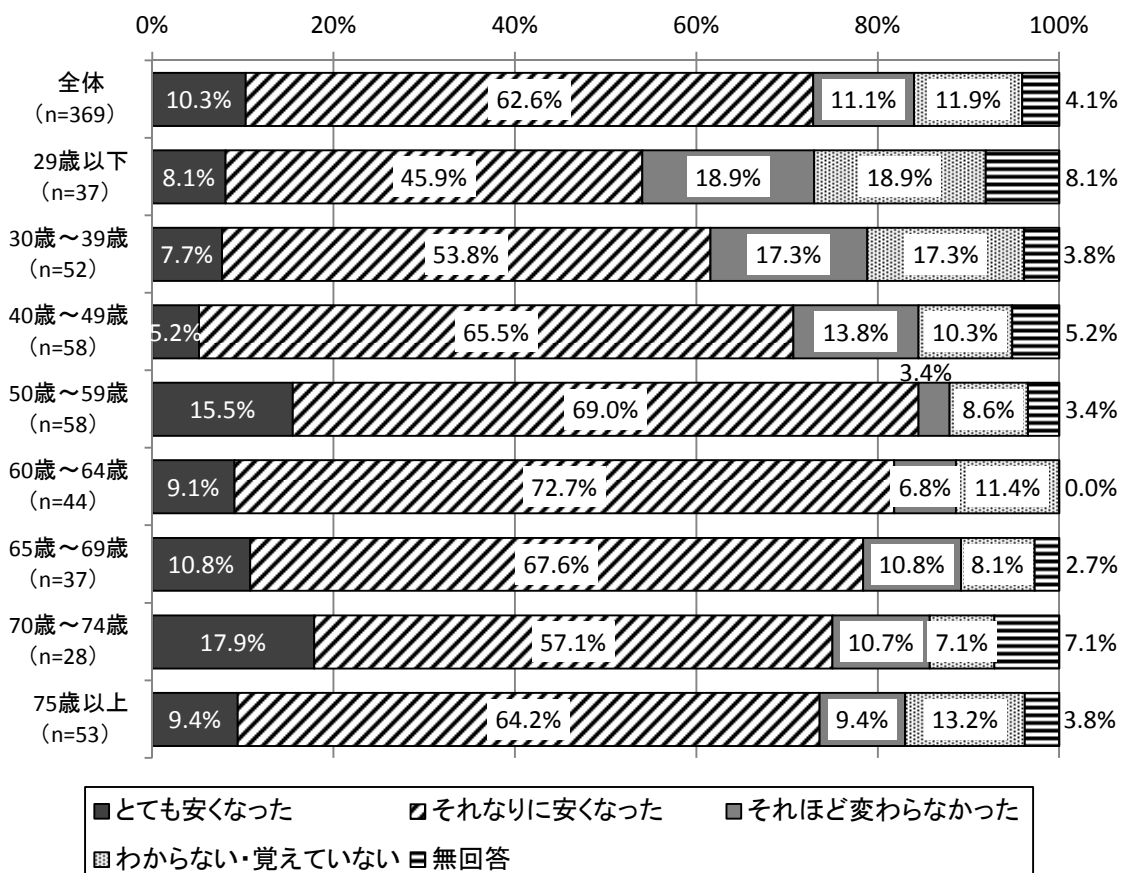
4) ジェネリック医薬品への変更による薬局窓口での薬代の負担感

図表 146 ジェネリック医薬品への変更による薬局窓口での薬代の負担感
(変更した人、男女別)



(注)「全体」には、「性別」について無回答の1人が含まれる。

図表 147 ジェネリック医薬品への変更による薬局窓口での薬代の負担感
(変更した人、年齢階級別)

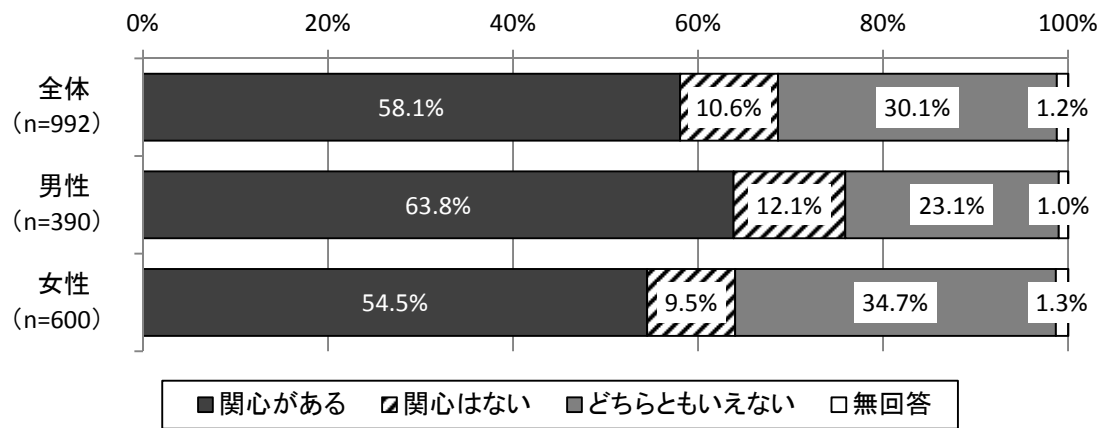


(注)「全体」には、「年齢」について無回答の2人が含まれる。

(3) ジェネリック使用に関する経験等

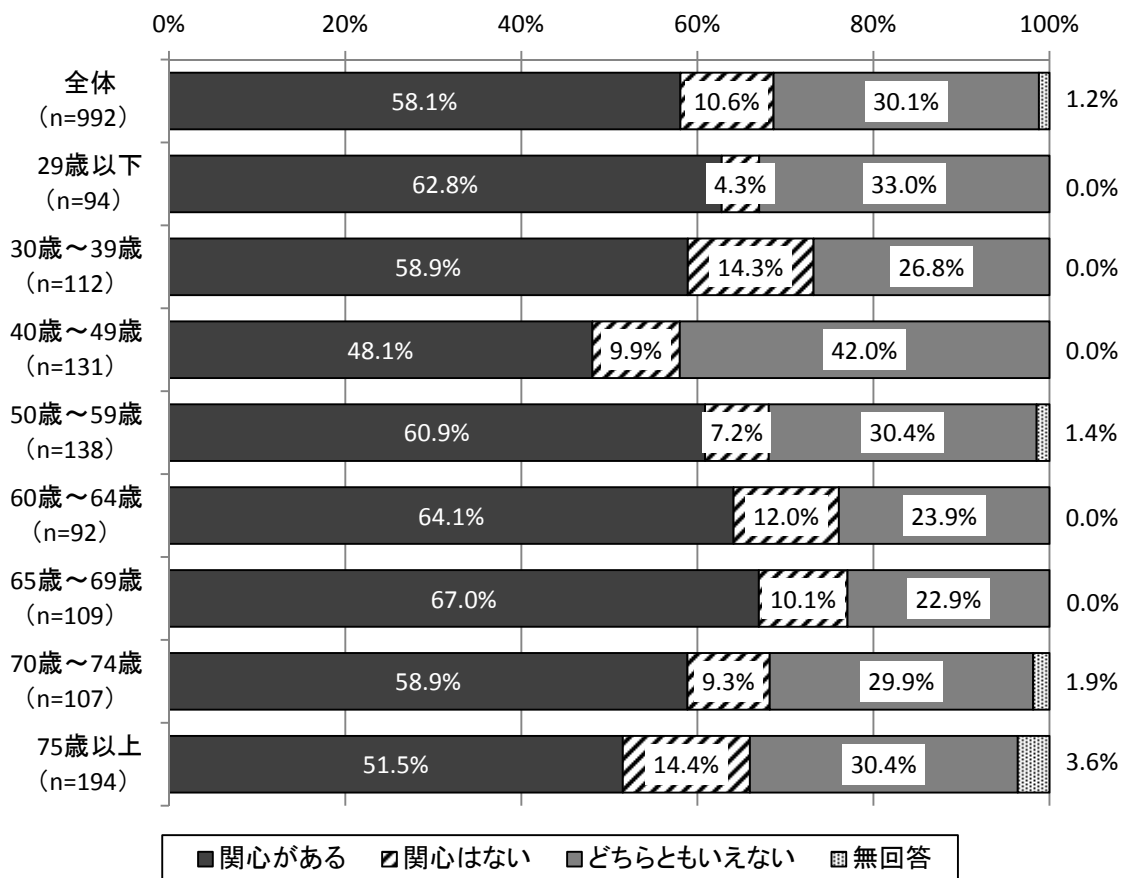
①ジェネリック医薬品に対する関心の有無

図表 148 ジェネリック医薬品に対する関心の有無（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

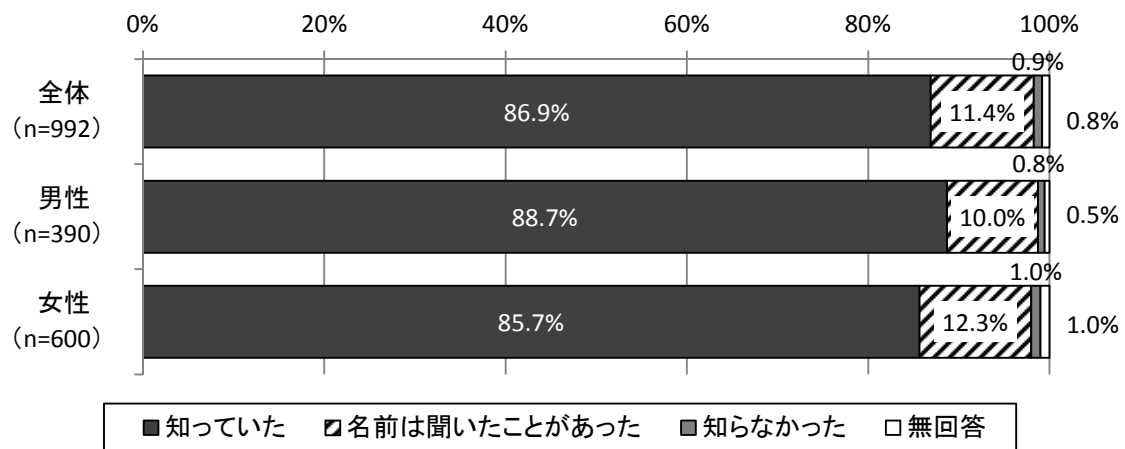
図表 149 ジェネリック医薬品に対する関心の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

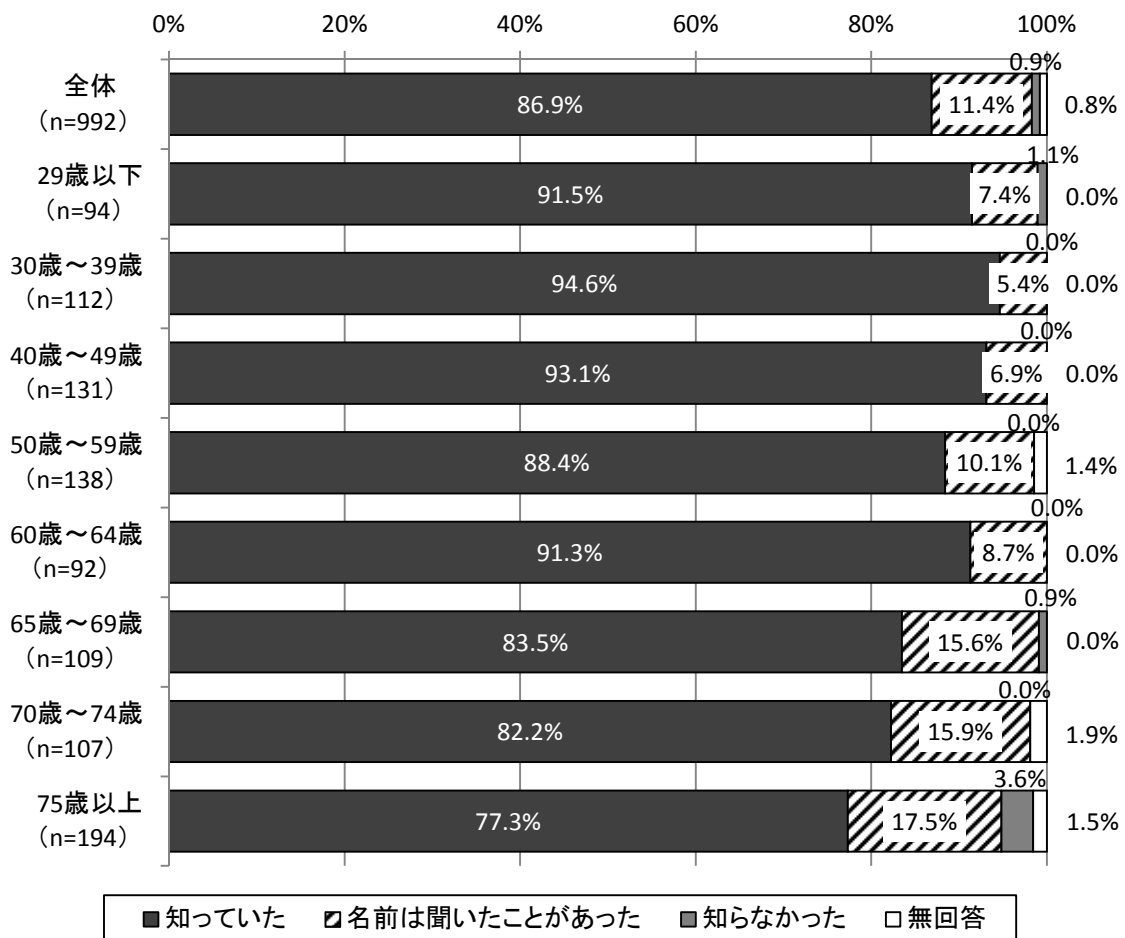
②ジェネリック医薬品に対する認知度

図表 150 ジェネリック医薬品に対する認知度（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

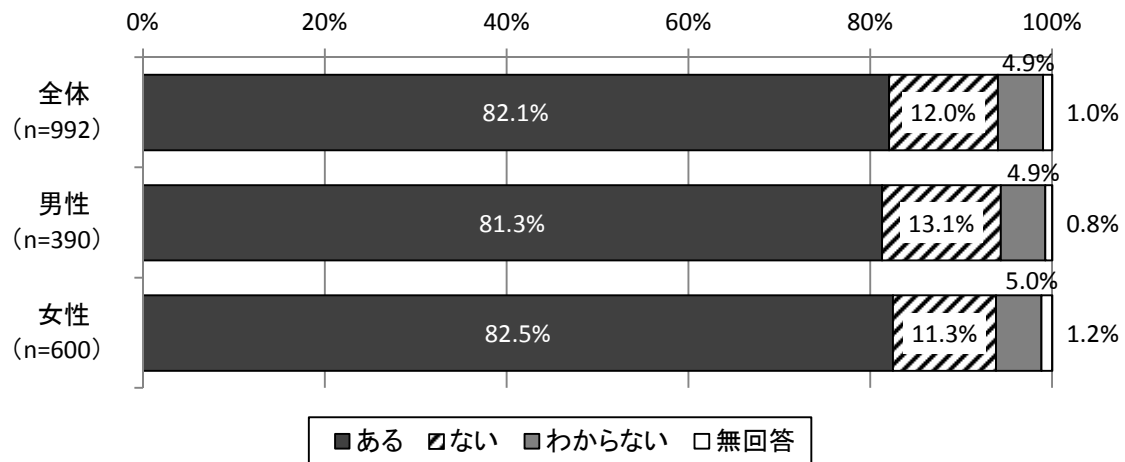
図表 151 ジェネリック医薬品に対する認知度（年齢階級別）



(注)「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

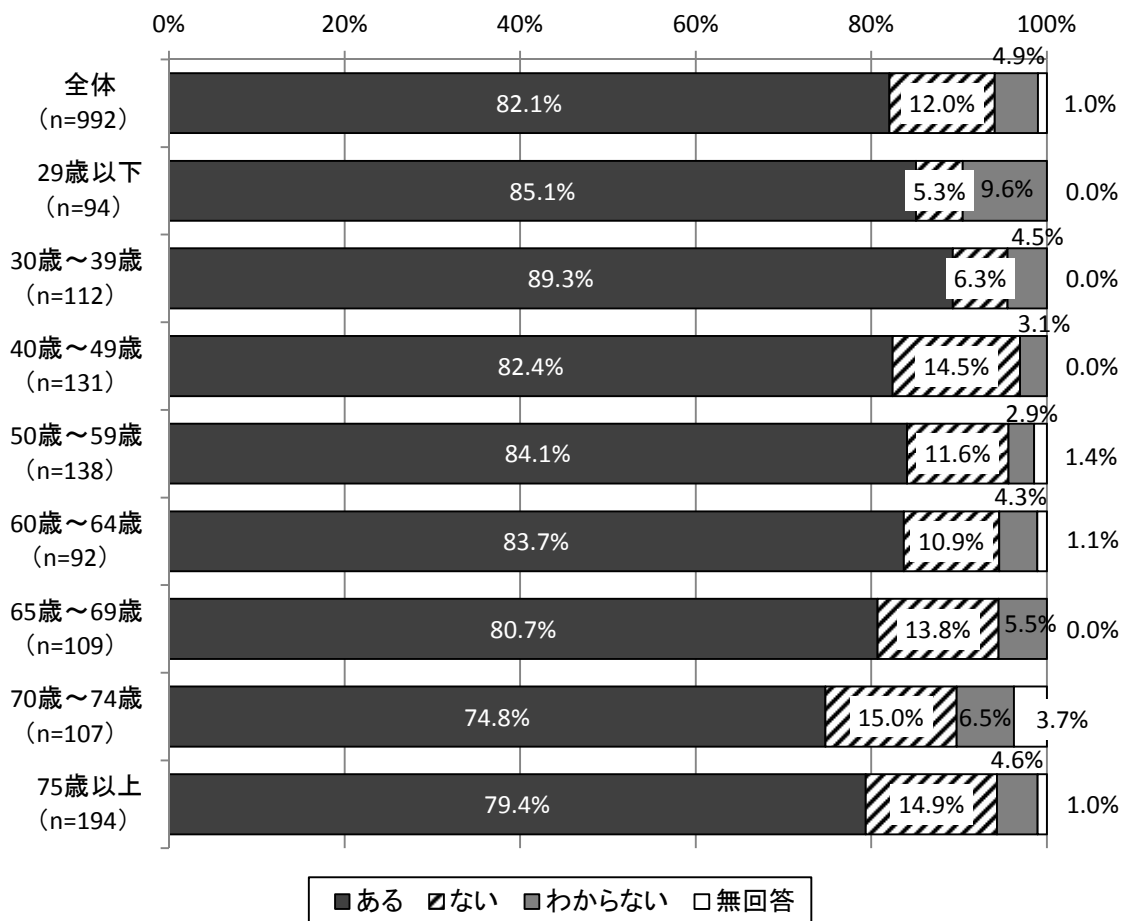
③ジェネリック医薬品の使用経験の有無

図表 152 ジェネリック医薬品の使用経験の有無（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

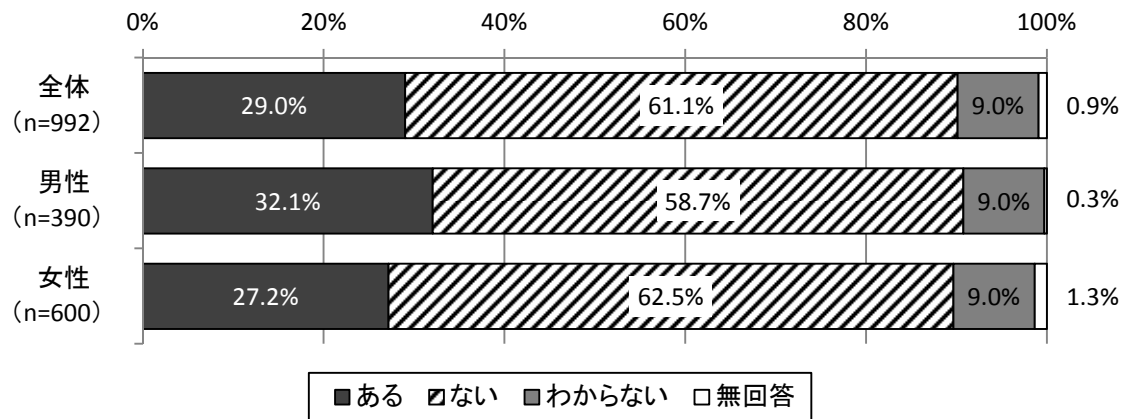
図表 153 ジェネリック医薬品の使用経験の有無（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

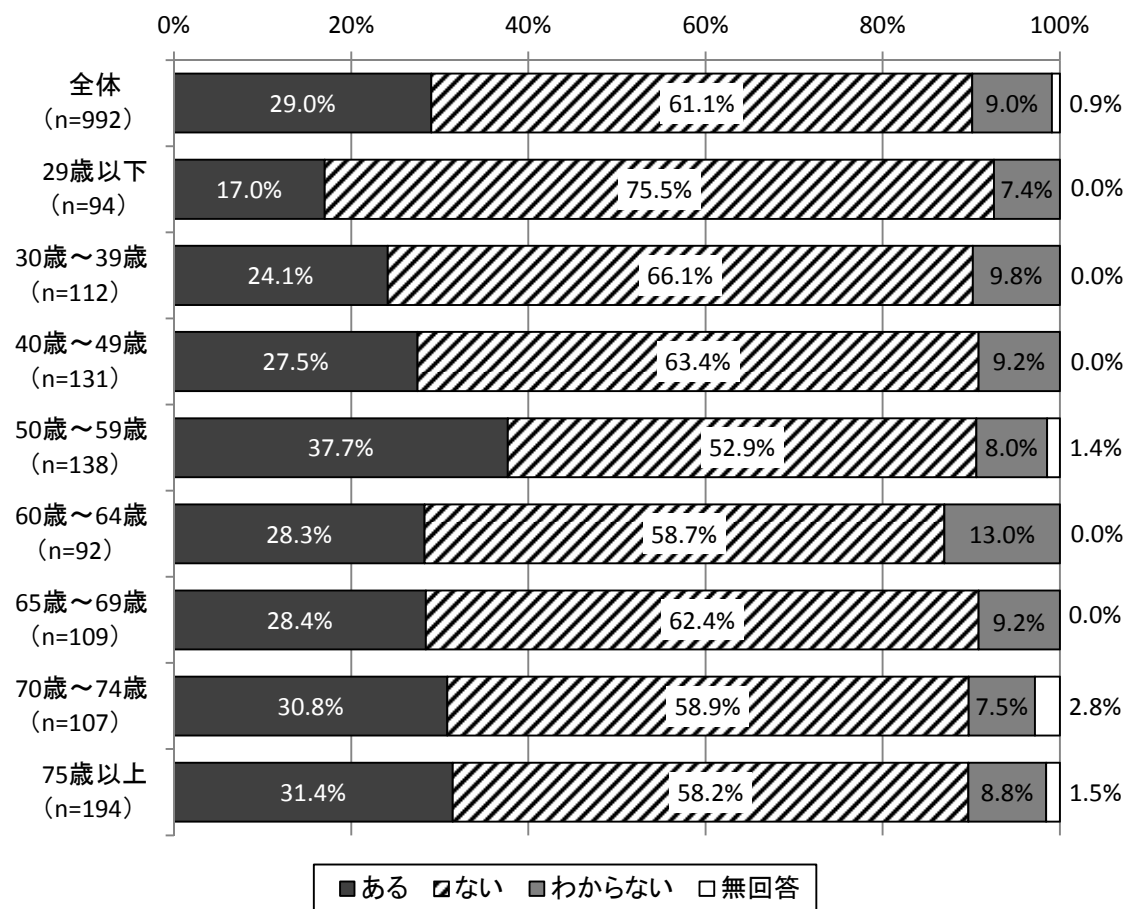
④ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無

図表 154 ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

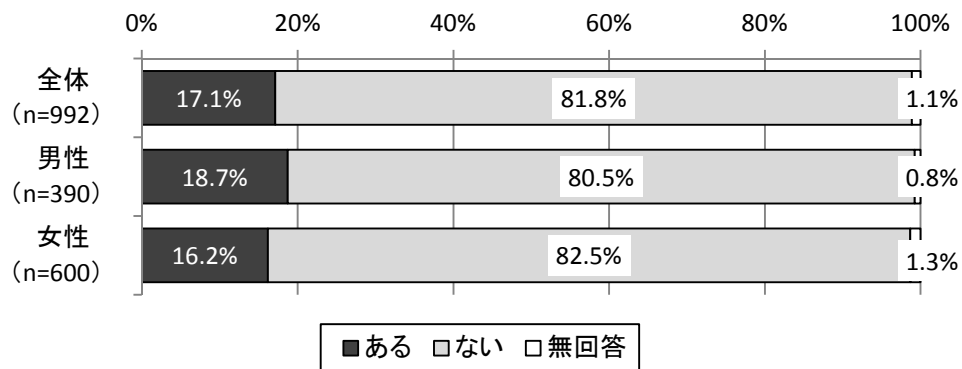
図表 155 ジェネリック医薬品について医師から説明を受けた経験の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

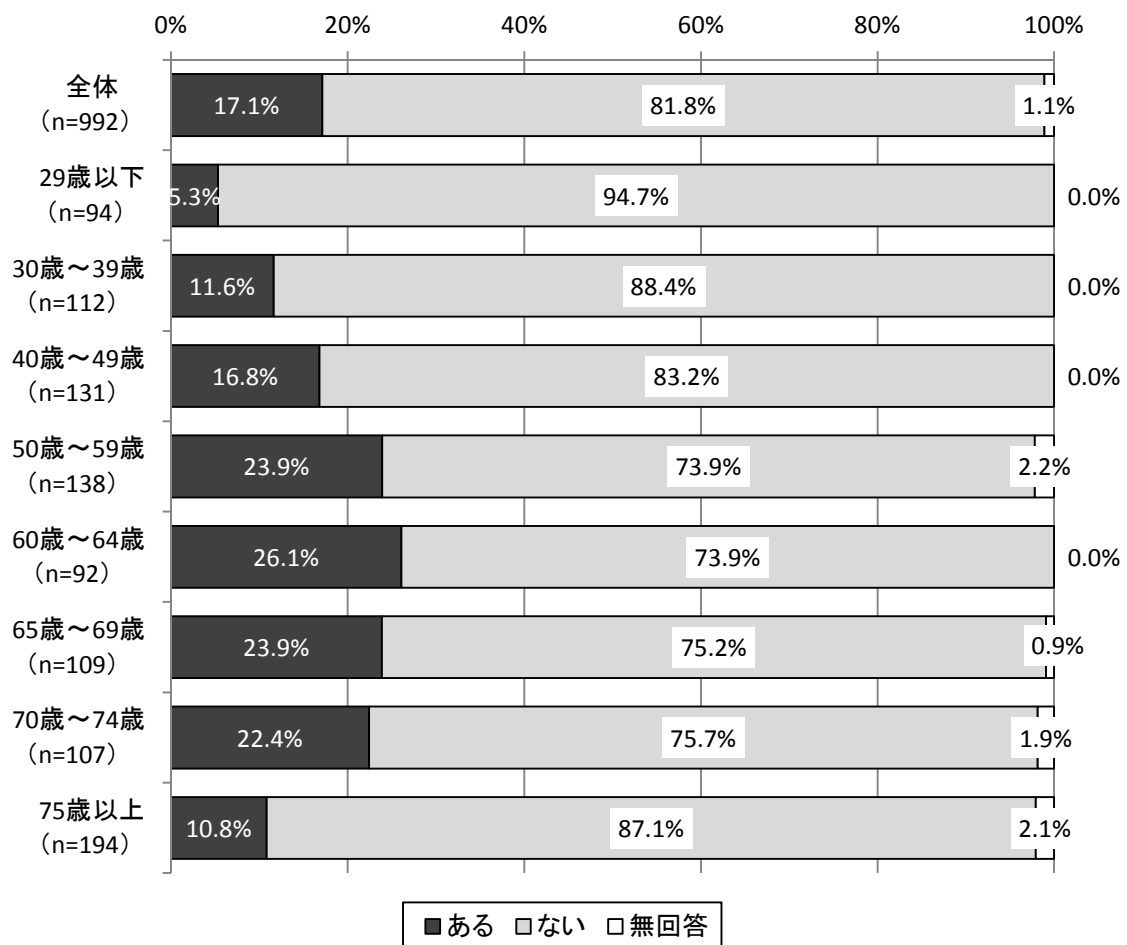
⑤ジェネリック医薬品の処方を医師に頼んだ経験の有無

図表 156 ジェネリック医薬品の処方を医師に頼んだ経験の有無（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

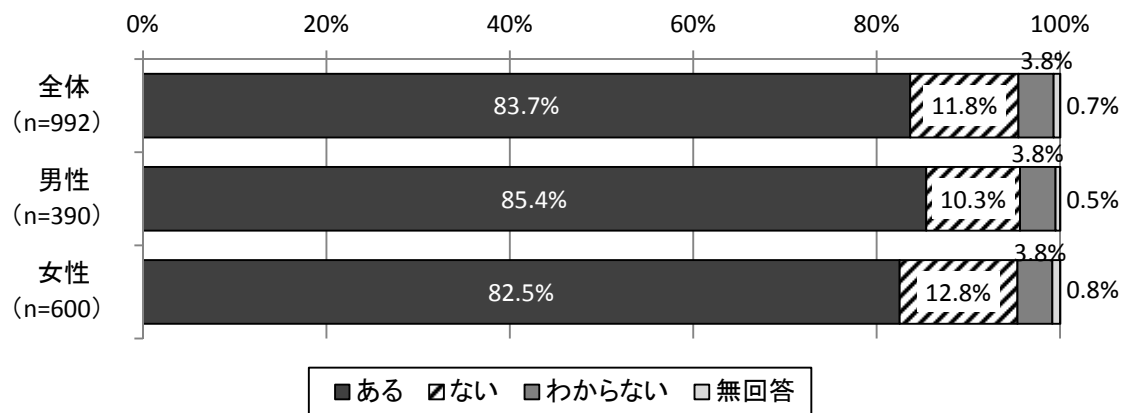
図表 157 ジェネリック医薬品の処方を医師に頼んだ経験の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

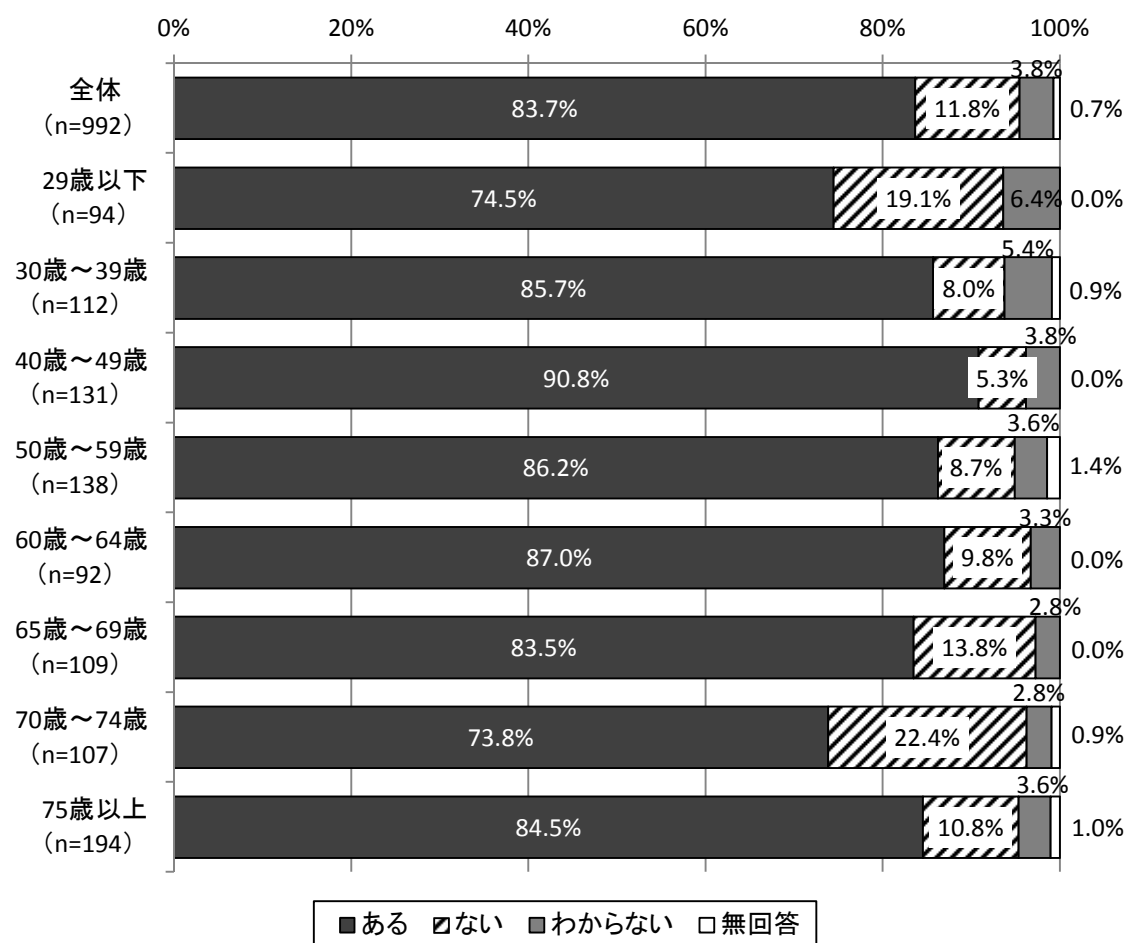
⑥ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無

図表 158 ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

図表 159 ジェネリック医薬品について薬剤師から説明を受けた経験の有無（年齢階級別）

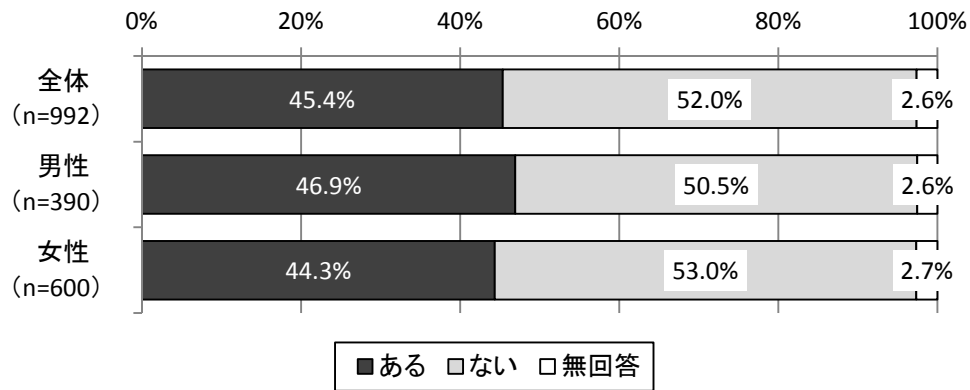


（注）「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

⑦ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験等

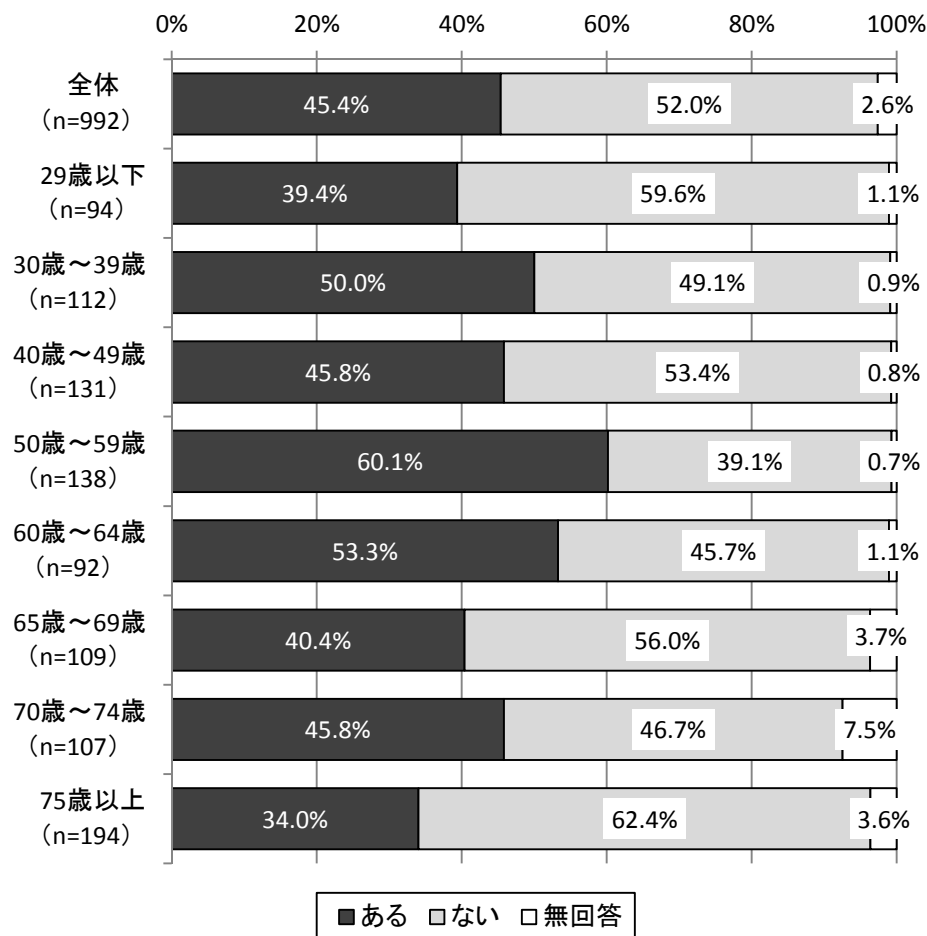
1) ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験の有無

図表 160 ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験の有無（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

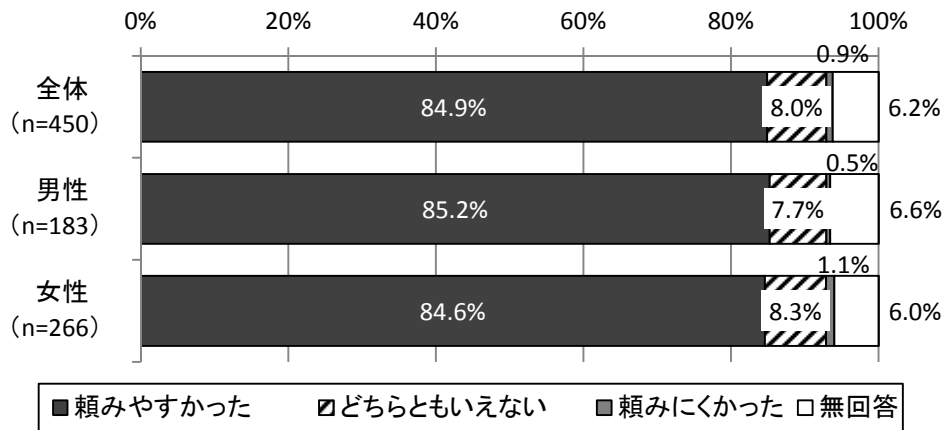
図表 161 ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ経験の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

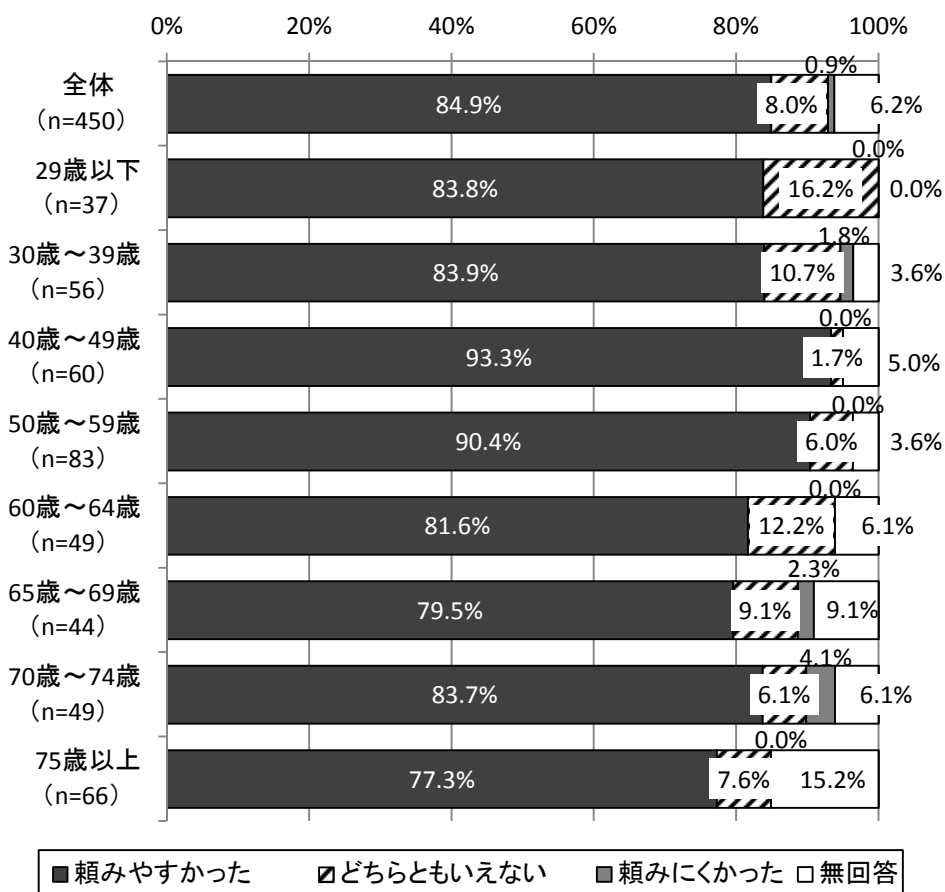
2) ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ時の頼みやすさ

図表 162 ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ時の頼みやすさ
(頼んだ経験のある人、男女別)



(注)「全体」には、「性別」について無回答の1人が含まれる。

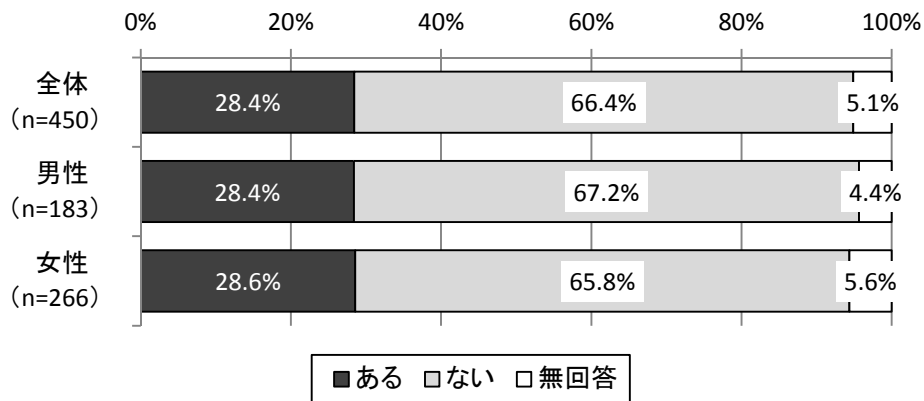
図表 163 ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだ時の頼みやすさ
(頼んだ経験のある人、年齢階級別)



(注)「全体」には、「年齢」について無回答の6人が含まれる。

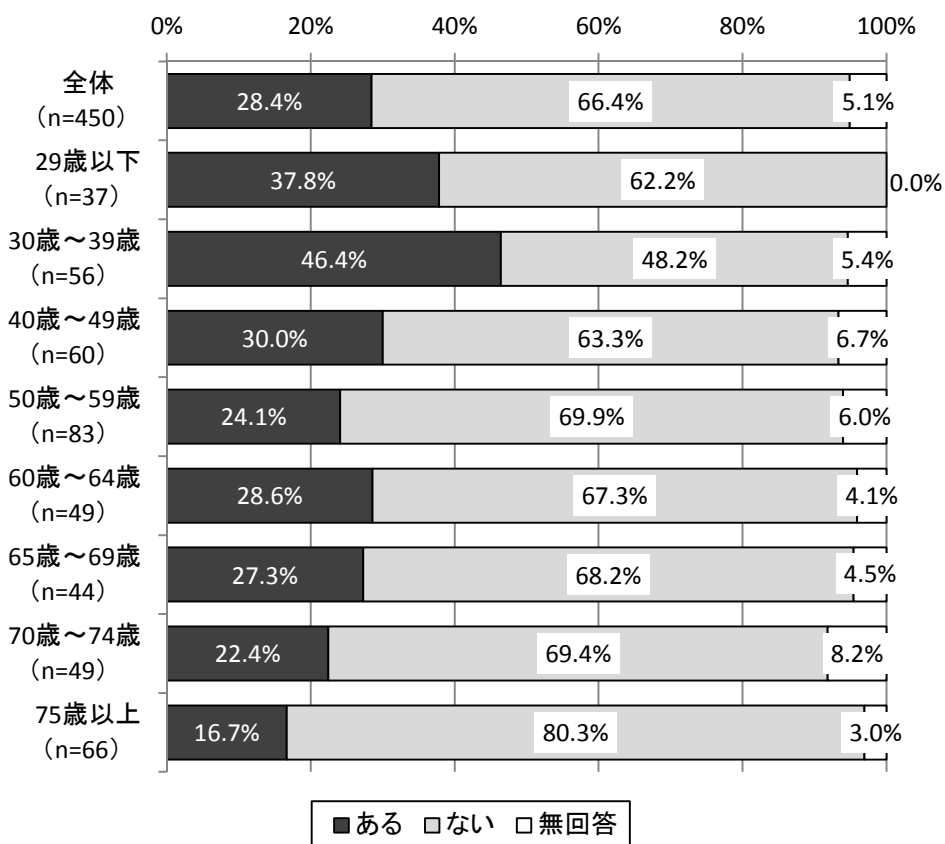
3) ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだが調剤してもらえなかった経験の有無
(平成 26 年 4 月以降)

図表 164 ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだが調剤してもらえなかった経験の有無
(平成 26 年 4 月以降) (頼んだ経験のある人、男女別)



(注)「全体」には、「性別」について無回答の 1 人が含まれる。

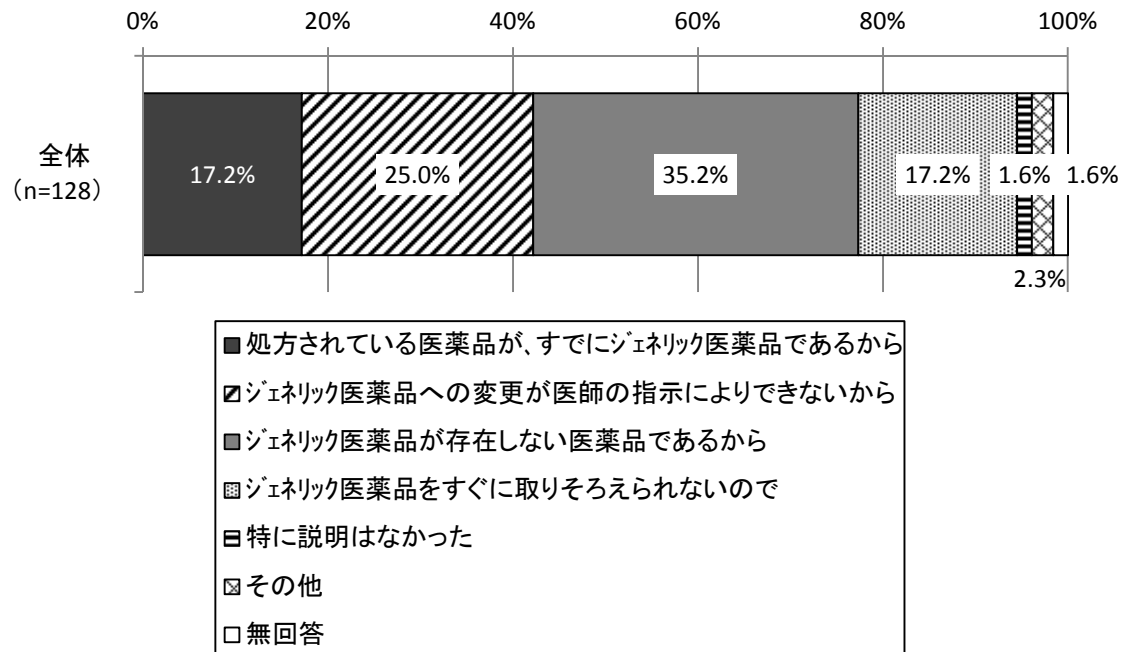
図表 165 ジェネリック医薬品の調剤を薬剤師に頼んだが調剤してもらえなかった経験の有無
(平成 26 年 4 月以降) (頼んだ経験のある人、年齢階級別)



(注)「全体」には、「年齢」について無回答の 6 人が含まれる。

4) ジェネリック医薬品の調剤をしてもらえなかった時に薬局から説明を受けた内容

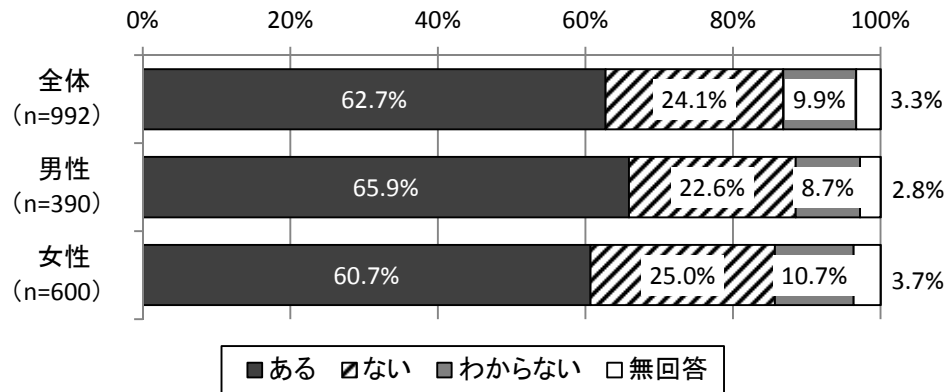
図表 166 ジェネリック医薬品の調剤をしてもらえなかった時に薬局から説明を受けた内容（頼んだが調剤してもらえなかった経験のある人）



⑧今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬の有無等

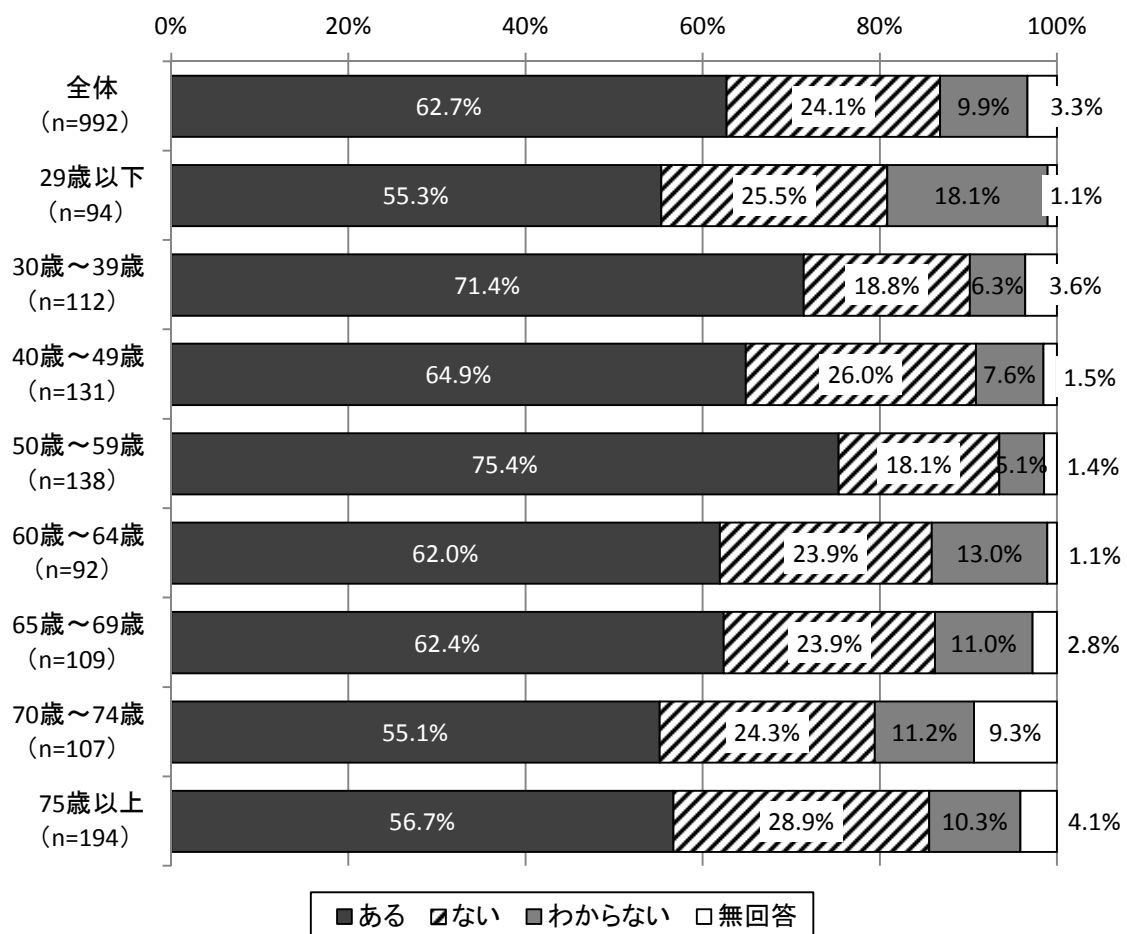
1) 今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬の有無

図表 167 今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬の有無（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

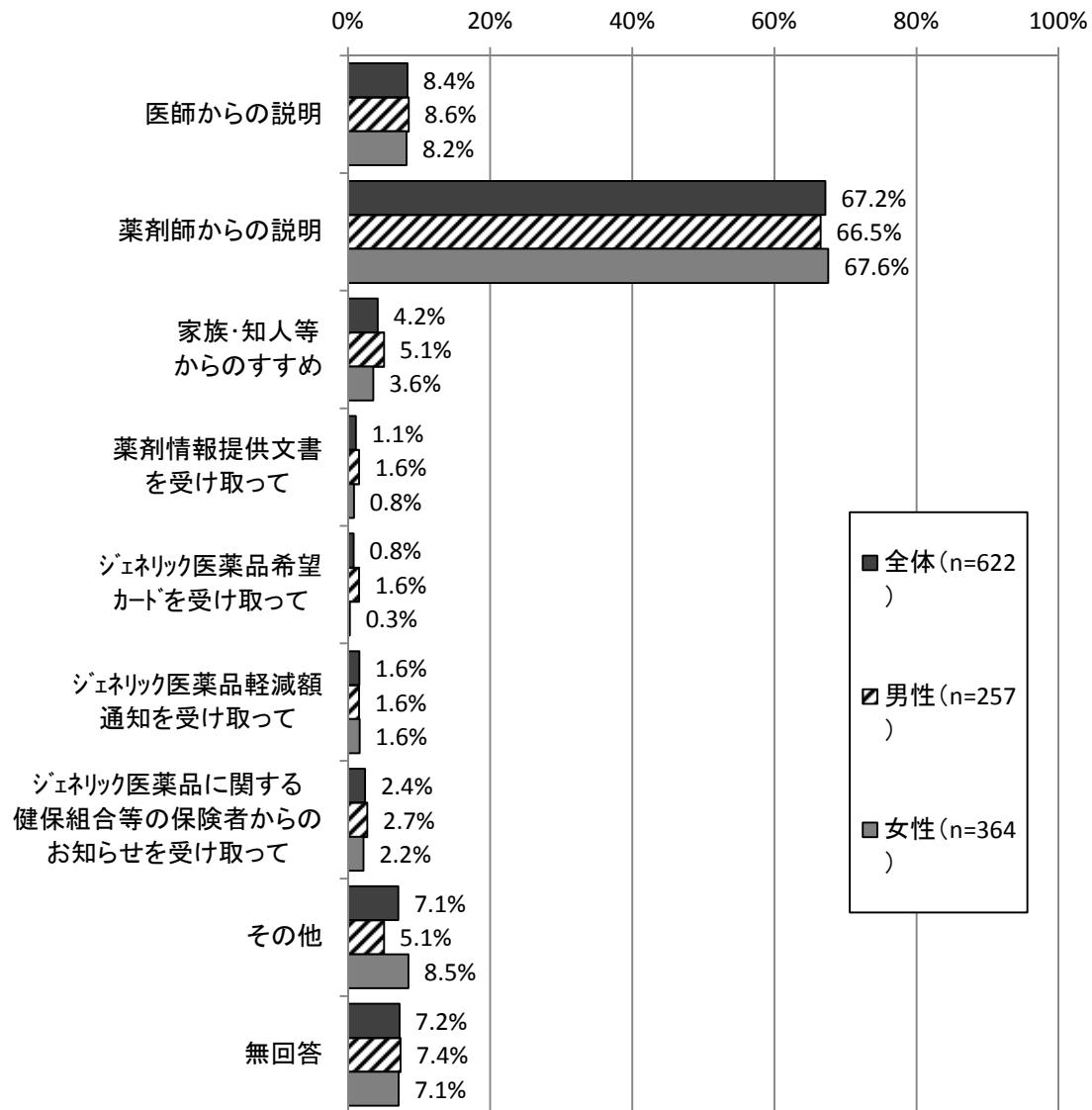
図表 168 今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬の有無
(年齢階級別)



(注)「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

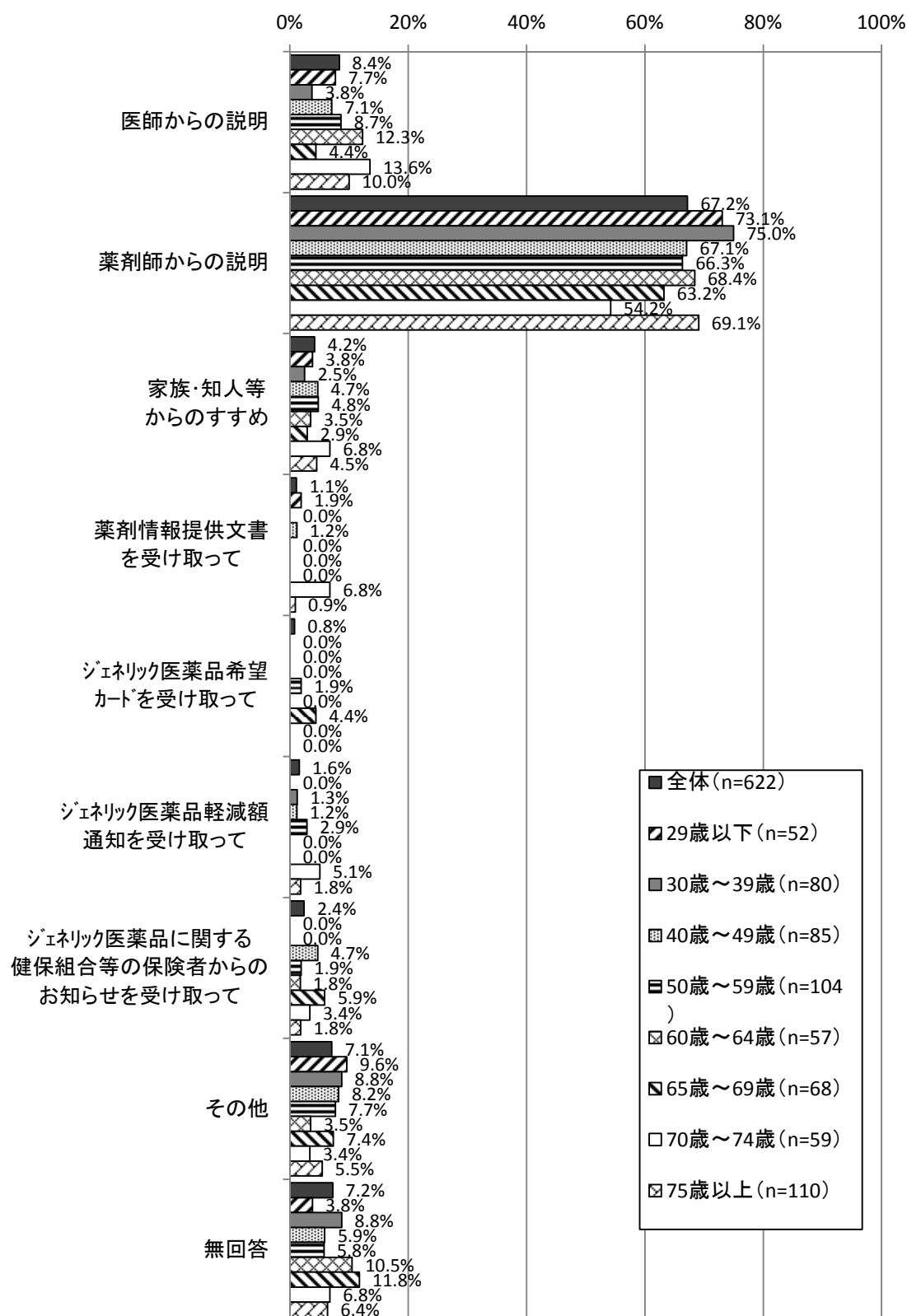
2) 先発医薬品からジェネリック医薬品に変更したきっかけ

図表 169 先発医薬品からジェネリック医薬品に変更したきっかけ
(今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬がある人、男女別、単数回答)



(注)「全体」には、「性別」について無回答の1人が含まれる。

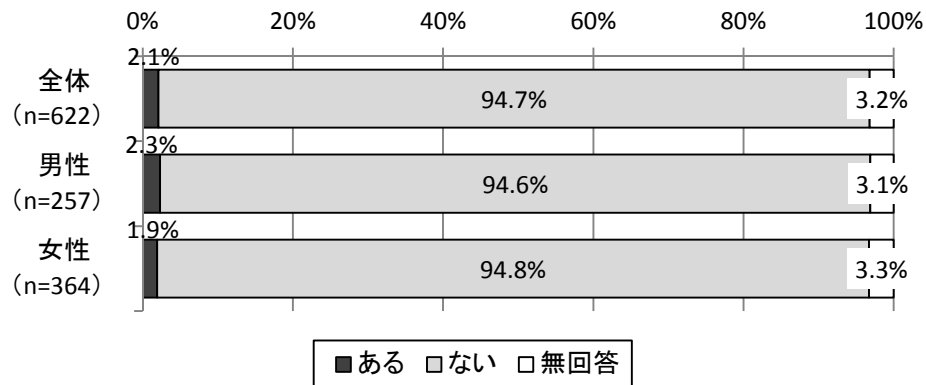
図表 170 先発医薬品からジェネリック医薬品に変更したきっかけ（今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬がある人、年齢階級別、単数回答）



(注)「全体」には、「年齢」について無回答の7人が含まれる。

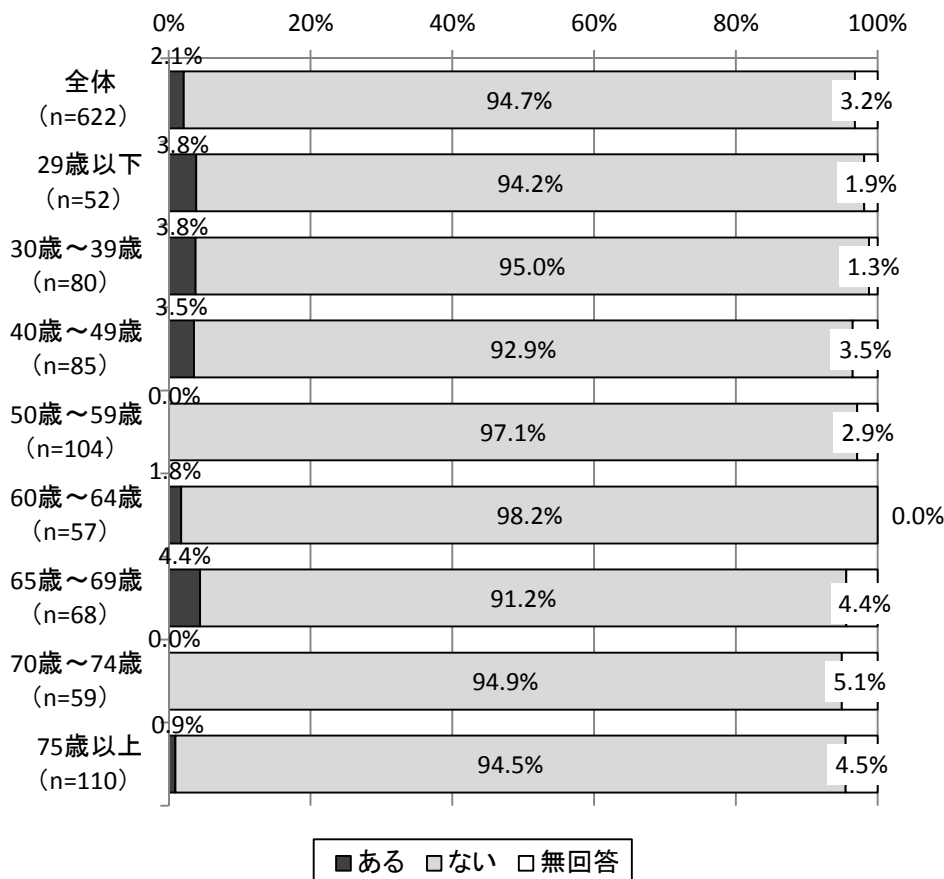
3) 先発医薬品からジェネリック医薬品変更時における体調不良の経験の有無

図表 171 先発医薬品からジェネリック医薬品変更時における体調不良の経験の有無
(今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬がある人、男女別)



(注)「全体」には、「性別」について無回答の1人が含まれる。

図表 172 先発医薬品からジェネリック医薬品変更時における体調不良の経験の有無
(今までに先発医薬品からジェネリック医薬品に変更した薬がある人、年齢階級別)



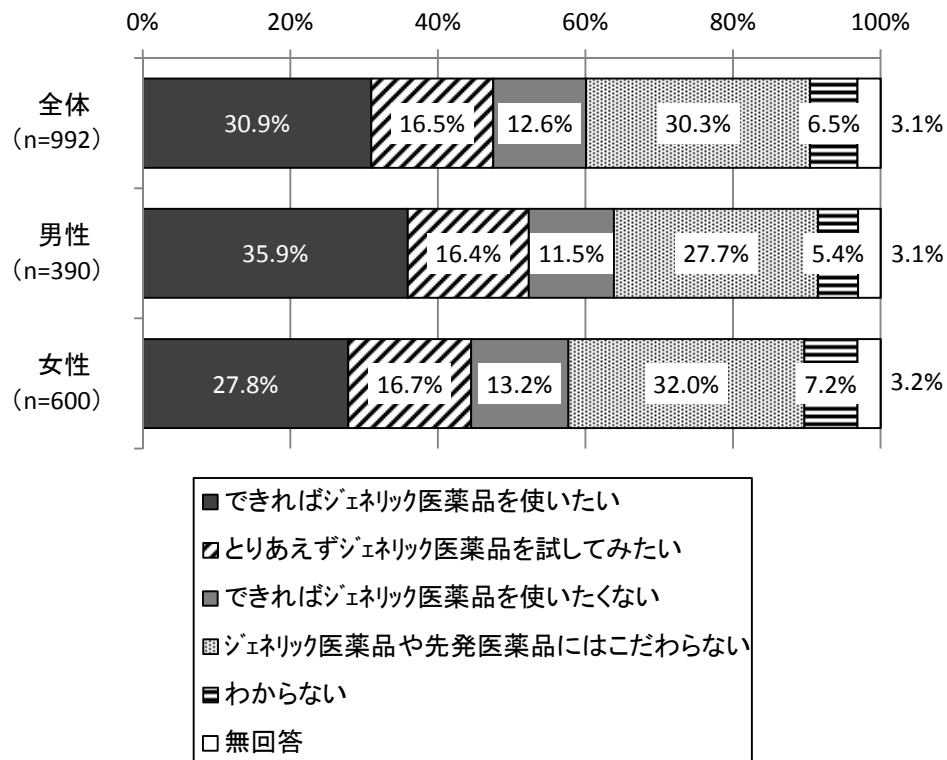
(注)「全体」には、「年齢」について無回答の7人が含まれる。

（４）ジェネリック使用に関する経験・意向等

①ジェネリック医薬品に関する使用意向等

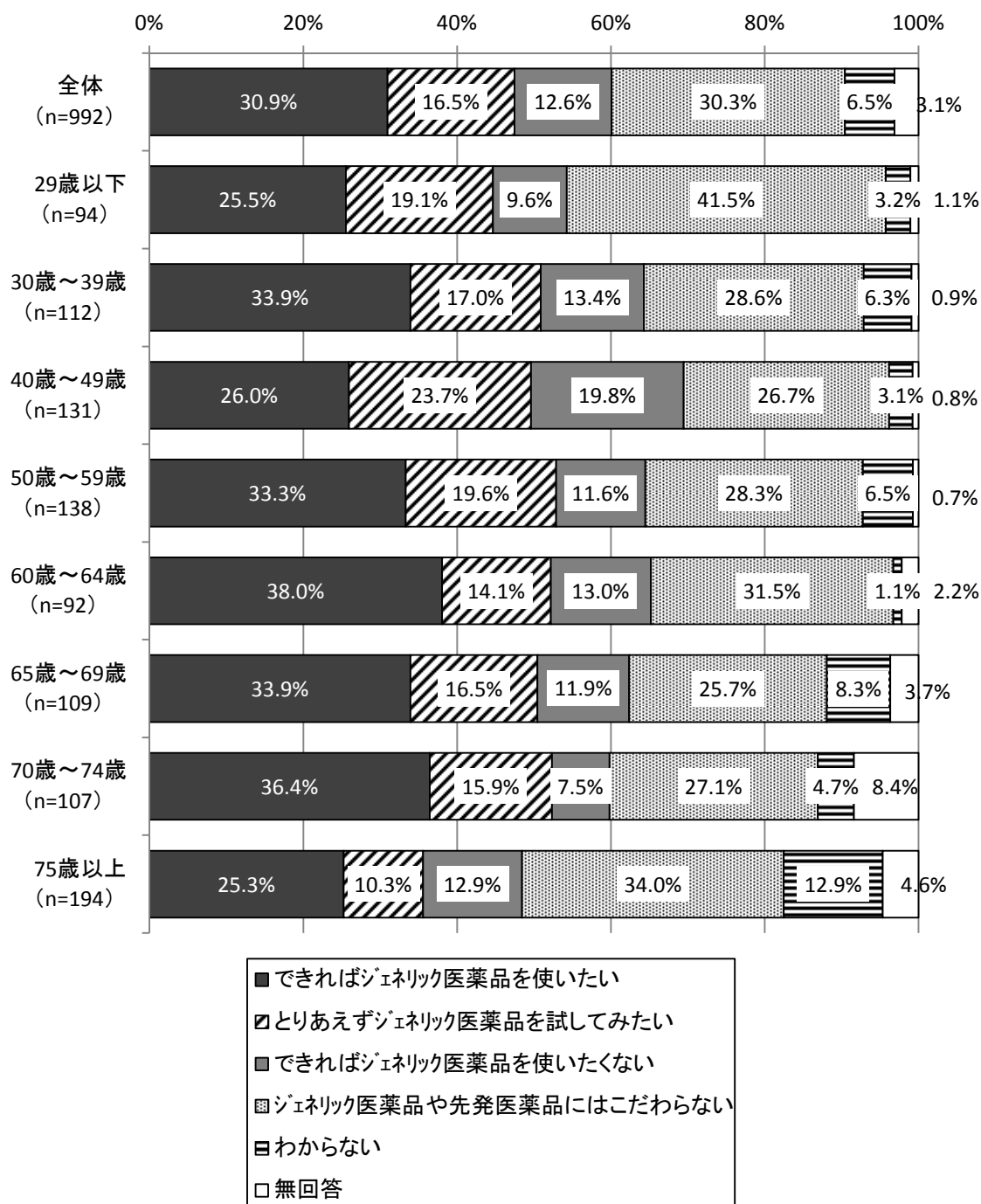
1) ジェネリック医薬品の使用に関する考え

図表 173 ジェネリック医薬品の使用に関する考え（男女別）



（注）「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

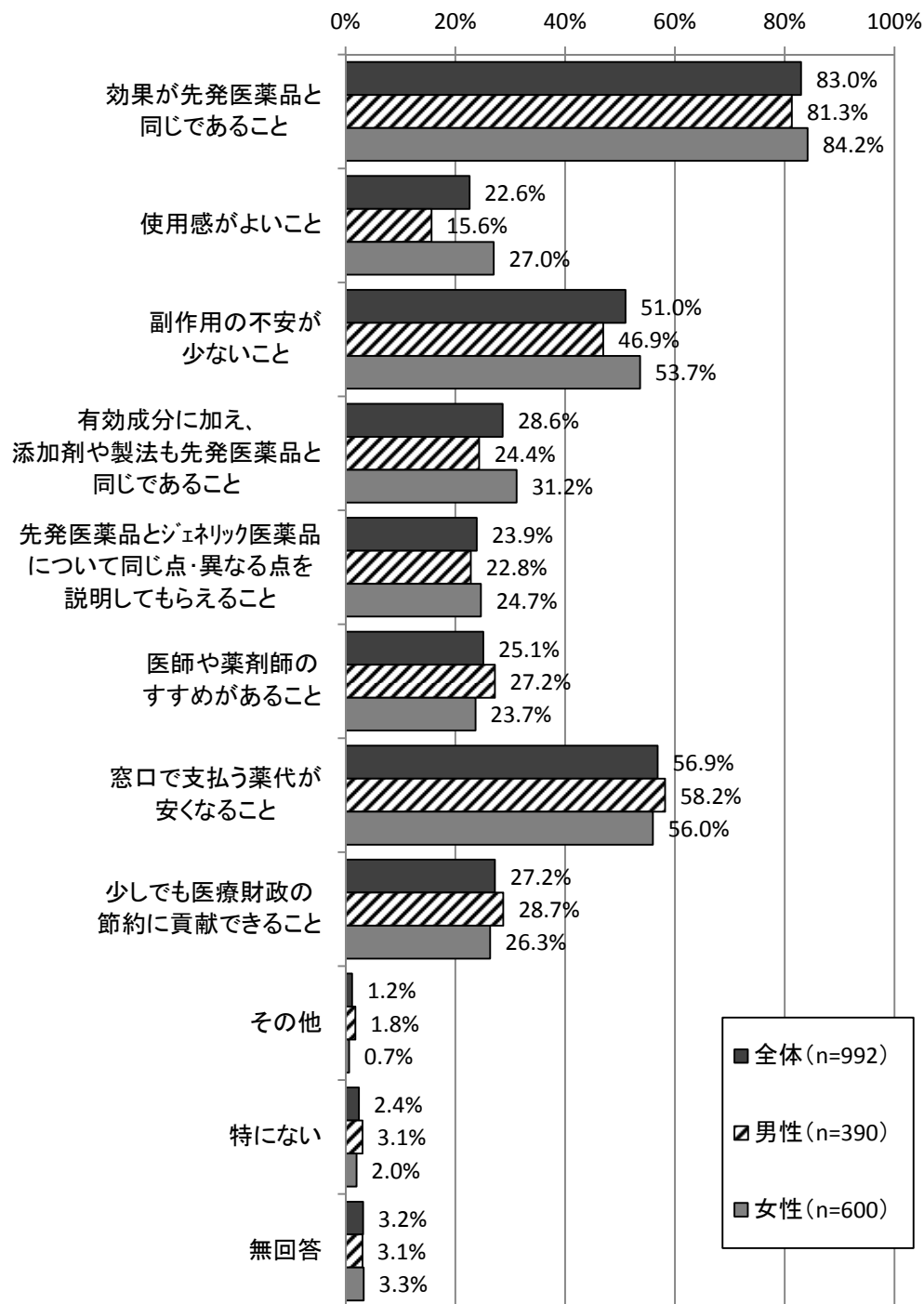
図表 174 ジェネリック医薬品の使用に関する考え（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

2) ジェネリック医薬品を使用する上で重要なこと

図表 175 ジェネリック医薬品を使用する上で重要なこと（男女別、複数回答）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

図表 176 ジェネリック医薬品を使用する上で重要なこと（年齢階級別、複数回答）

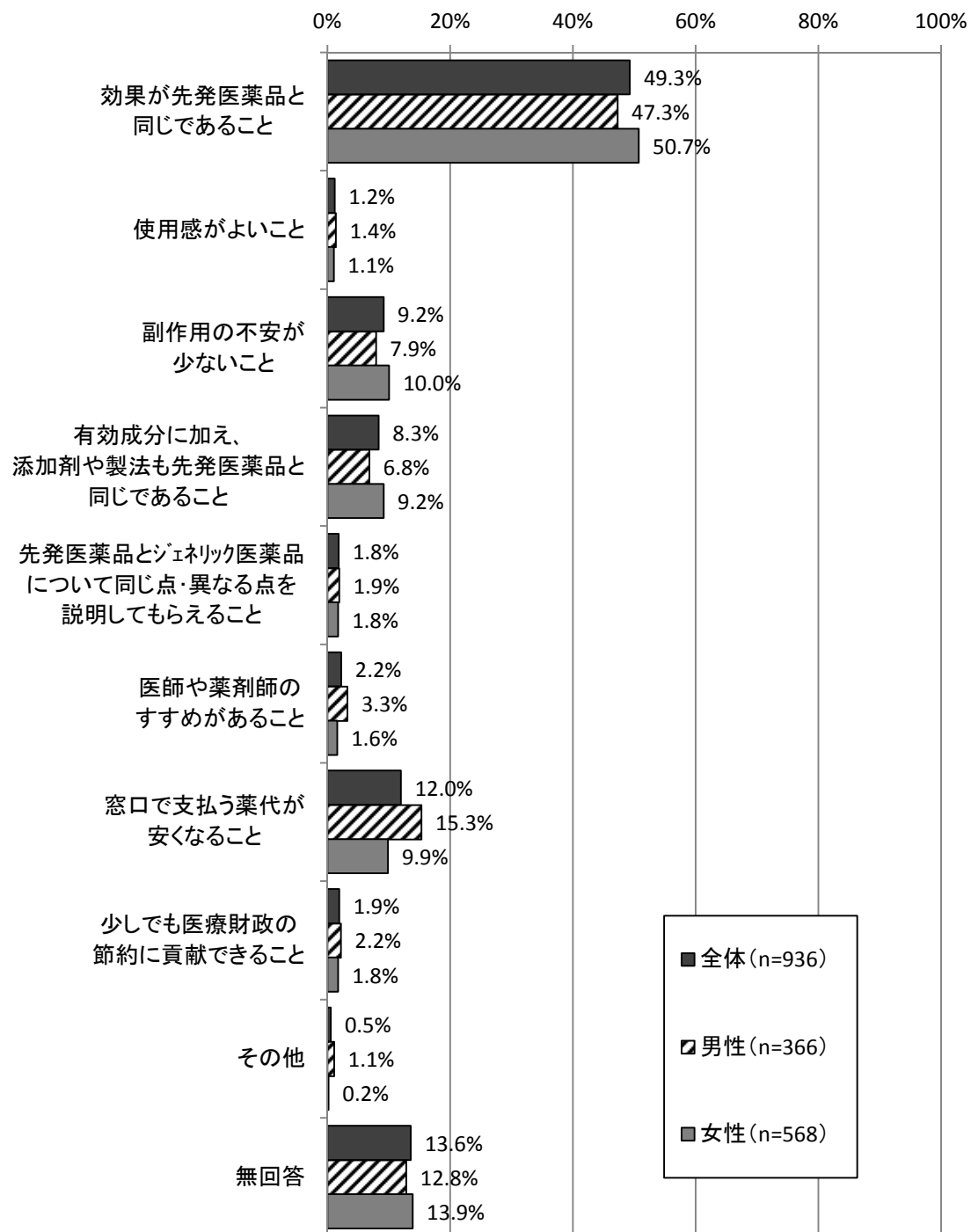
（単位：上段「人」、下段「％」）

	総数	効果が先発医薬品と 同じであること	使用感がよいこと	副作用の不安が少ないこと	有効成分に加え、 添加剤や製法も先発医薬品 と同じであること	先発医薬品とジェネリック 医薬品について同じ点異なる点を説明 してもらえないこと	医師や薬剤師のすすめ があること	窓口で支払う薬代が 安くなること	少しでも医療財政の 節約に貢献できること	その他	特にない	無回答
全体	992 100.0	823 83.0	224 22.6	506 51.0	284 28.6	237 23.9	249 25.1	564 56.9	270 27.2	12 1.2	24 2.4	32 3.2
29歳以下	94 100.0	80 85.1	35 37.2	45 47.9	18 19.1	21 22.3	17 18.1	65 69.1	21 22.3	1 1.1	1 1.1	2 2.1
30～39歳	112 100.0	101 90.2	32 28.6	54 48.2	33 29.5	21 18.8	17 15.2	69 61.6	23 20.5	4 3.6	1 0.9	2 1.8
40～49歳	131 100.0	109 83.2	33 25.2	73 55.7	34 26.0	23 17.6	23 17.6	80 61.1	30 22.9	0 0.0	4 3.1	2 1.5
50～59歳	138 100.0	123 89.1	41 29.7	90 65.2	45 32.6	40 29.0	41 29.7	91 65.9	38 27.5	1 0.7	3 2.2	0 0.0
60～64歳	92 100.0	78 84.8	16 17.4	50 54.3	28 30.4	23 25.0	30 32.6	59 64.1	32 34.8	1 1.1	0 0.0	1 1.1
65～69歳	109 100.0	89 81.7	12 11.0	51 46.8	41 37.6	32 29.4	37 33.9	54 49.5	29 26.6	1 0.9	2 1.8	4 3.7
70～74歳	107 100.0	86 80.4	13 12.1	41 38.3	31 29.0	31 29.0	24 22.4	54 50.5	30 28.0	1 0.9	2 1.9	9 8.4
75歳以上	194 100.0	146 75.3	41 21.1	95 49.0	52 26.8	43 22.2	59 30.4	88 45.4	66 34.0	2 1.0	11 5.7	9 4.6

（注）「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

3) ジェネリック医薬品を使用する上で最も重要なこと

図表 177 ジェネリック医薬品を使用する上で最も重要なこと（男女別、単数回答）



(注)・「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

・「重要なこと」で「特にない」「無回答」であった回答を除く936人を集計対象とした。

図表 178 ジェネリック医薬品を使用する上で最も重要なこと（年齢階級別、単数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	効果が先発医薬品と 同じであること	使用感がよいこと	副作用の不安が少ないこと	有効成分に加え、 添加剤や製法も先発医薬品 と同じであること	先発医薬品とジェネリック 医薬品について同じ点・異なる点を 説明してもらえること	医師や薬剤師のすすめ があること	窓口で支払う薬代が 安くなること	少しでも医療財政の 節約に貢献できること	その他	無回答
全体	936 100.0	461 49.3	11 1.2	86 9.2	78 8.3	17 1.8	21 2.2	112 12.0	18 1.9	5 0.5	127 13.6
29 歳以下	91 100.0	46 50.5	3 3.3	8 8.8	4 4.4	2 2.2	1 1.1	13 14.3	0 0.0	0 0.0	14 15.4
30～39 歳	109 100.0	52 47.7	2 1.8	13 11.9	9 8.3	0 0.0	1 0.9	11 10.1	3 2.8	3 2.8	15 13.8
40～49 歳	125 100.0	64 51.2	2 1.6	14 11.2	8 6.4	0 0.0	2 1.6	19 15.2	1 0.8	0 0.0	15 12.0
50～59 歳	135 100.0	71 52.6	0 0.0	12 8.9	8 5.9	2 1.5	1 0.7	15 11.1	3 2.2	0 0.0	23 17.0
60～64 歳	91 100.0	44 48.4	1 1.1	9 9.9	6 6.6	4 4.4	2 2.2	12 13.2	1 1.1	0 0.0	12 13.2
65～69 歳	103 100.0	45 43.7	2 1.9	5 4.9	12 11.7	3 2.9	4 3.9	15 14.6	1 1.0	1 1.0	15 14.6
70～74 歳	96 100.0	49 51.0	1 1.0	5 5.2	9 9.4	4 4.2	4 4.2	11 11.5	1 1.0	0 0.0	12 12.5
75 歳以上	174 100.0	85 48.9	0 0.0	17 9.8	20 11.5	2 1.1	6 3.4	15 8.6	8 4.6	0 0.0	21 12.1

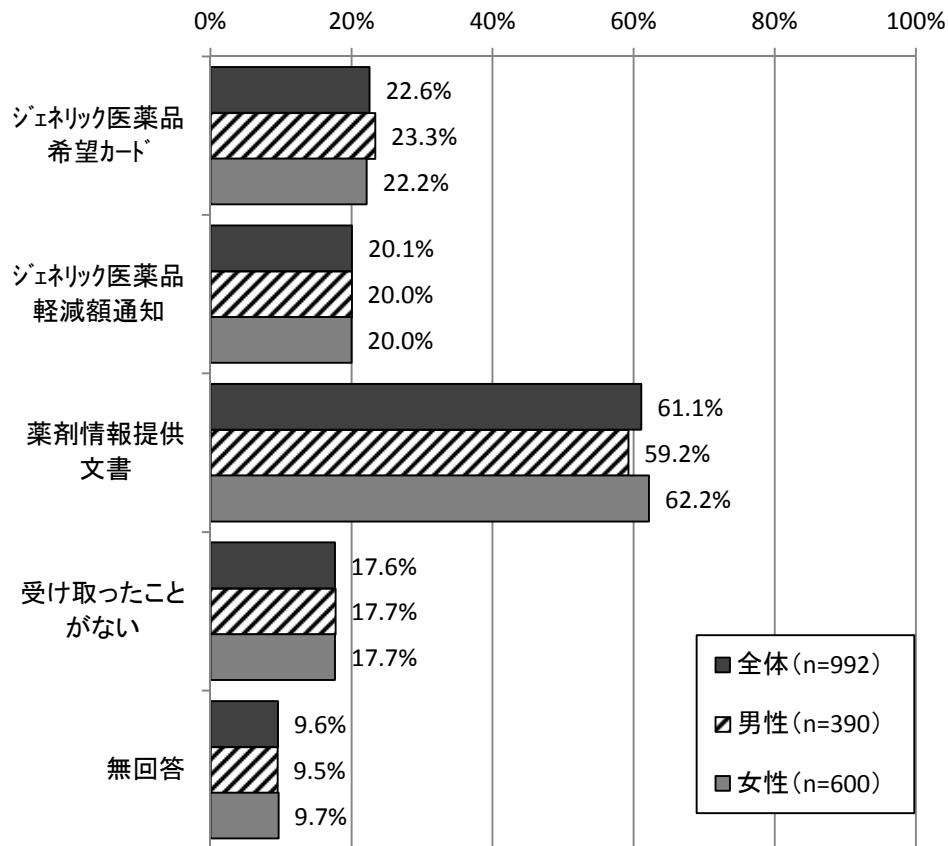
(注)・「全体」には、「年齢」について無回答の 12 人が含まれる。

・「重要なこと」で「特にない」「無回答」であった回答を除く 936 人を集計対象とした。

②ジェネリック医薬品に関する文書等に関する経験・意向等

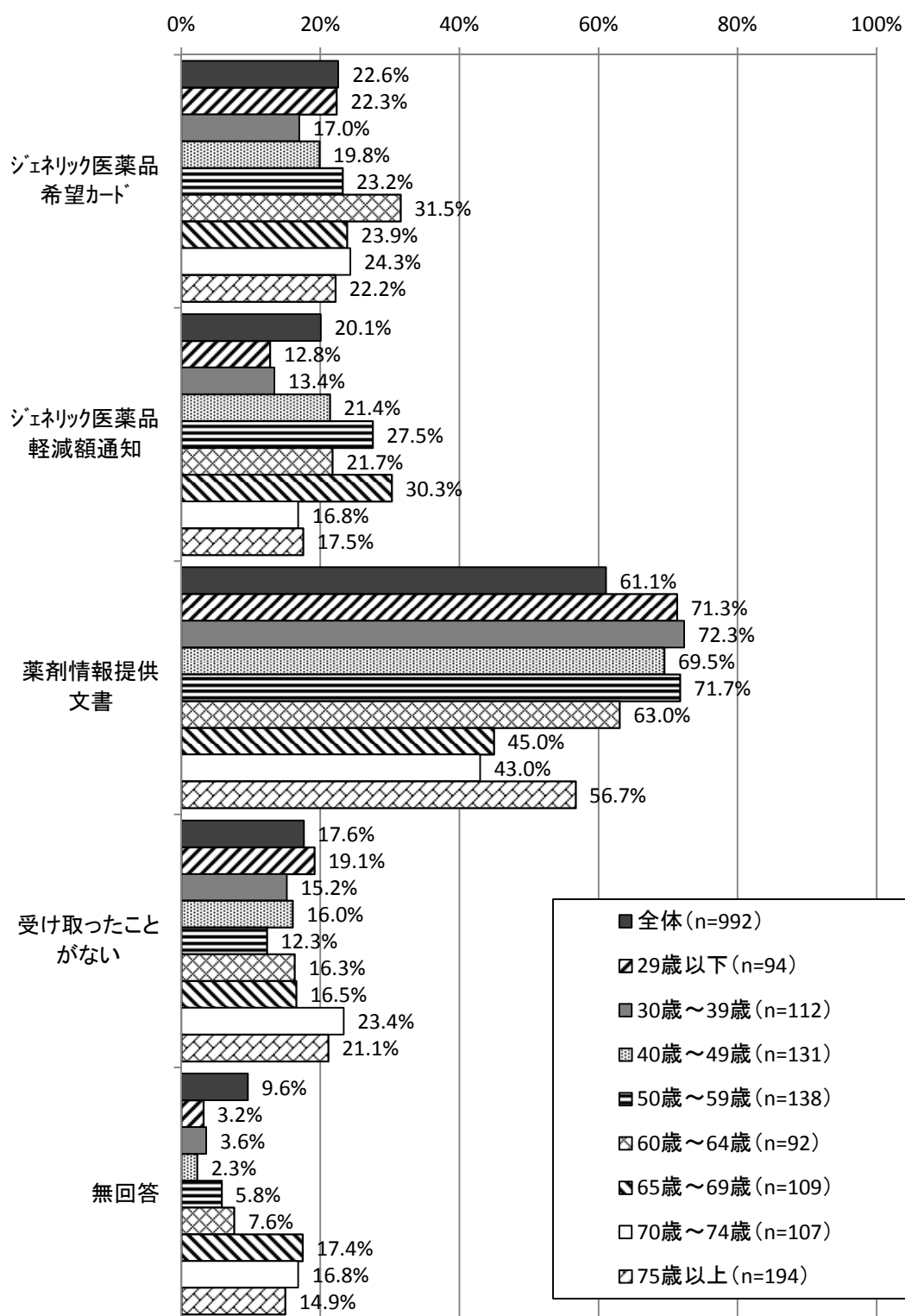
1) 今までに受け取ったことがあるジェネリック医薬品に関する文書等

図表 179 ジェネリック医薬品に関する文書等の受取り経験の有無（男女別、複数回答）



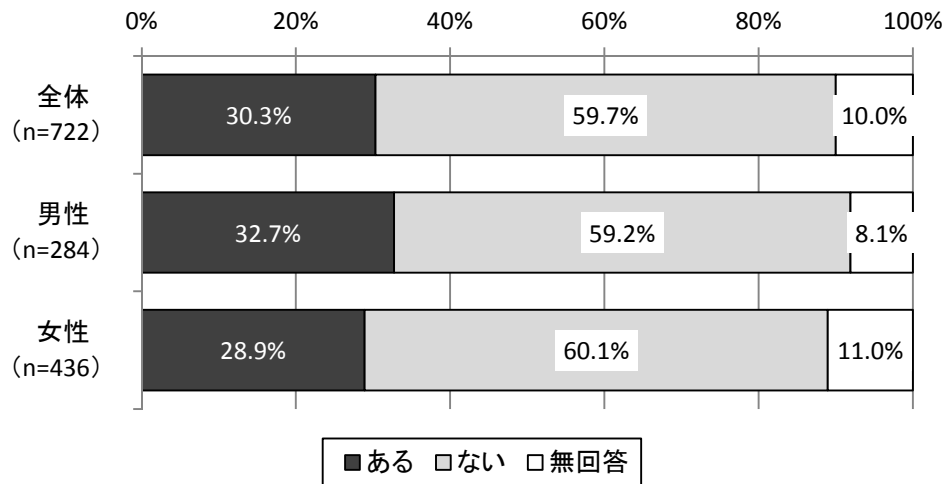
（注）「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

図表 180 ジェネリック医薬品に関する文書等の受取り経験の有無
(年齢階級別、複数回答)



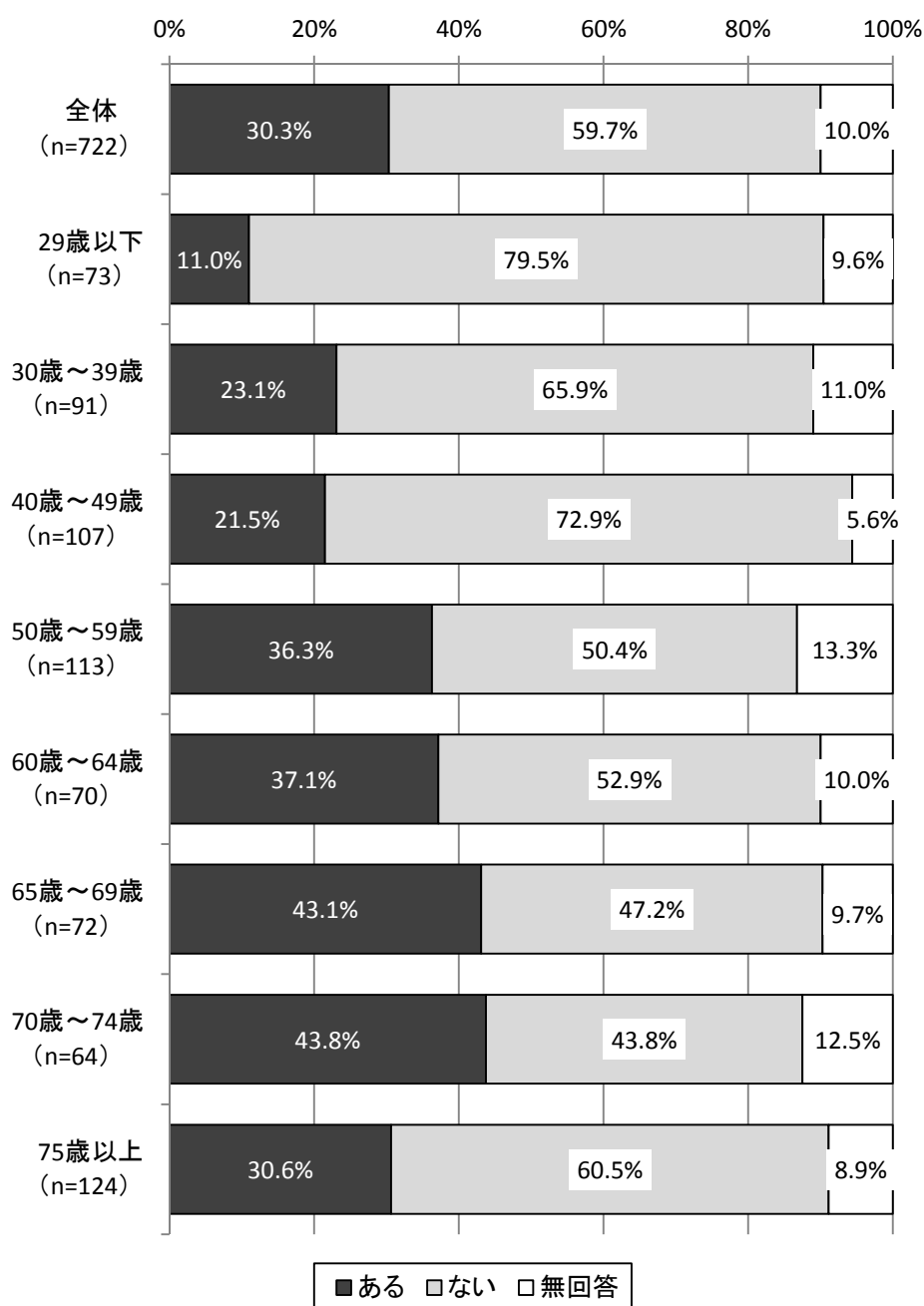
(注)「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

2) ジェネリック医薬品に関する文書等をきっかけとした相談・質問経験の有無
 図表 181 ジェネリック医薬品に関する文書等をきっかけとした相談・質問経験の有無
 (ジェネリック医薬品に関する文書等の受取り経験のある人、男女別、単数回答)



(注)「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

図表 182 ジェネリック医薬品に関する文書等をきっかけとした相談・質問経験の有無
(ジェネリック医薬品に関する文書等の受取り経験のある人、年齢階級別、単数回答)

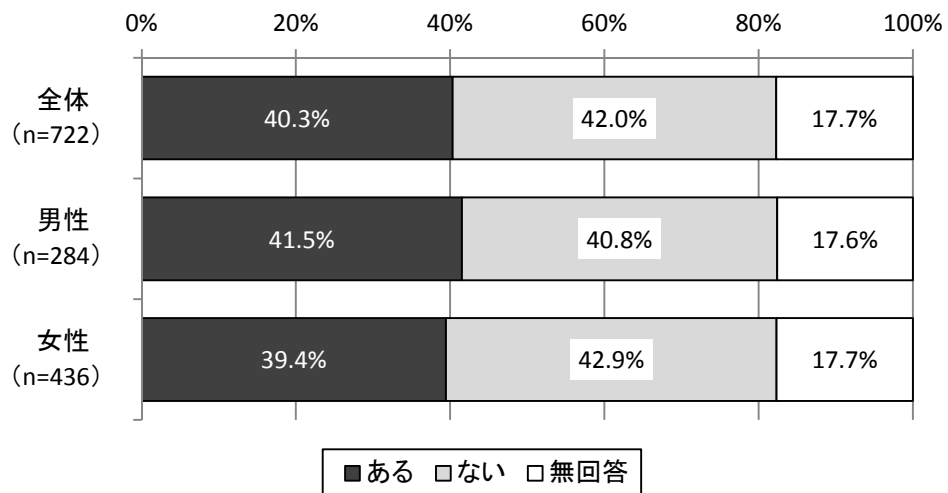


(注)「全体」には、「年齢」について無回答の8人が含まれる。

3) ジェネリック医薬品に関する文書等をきっかけとしたジェネリック医薬品使用経験の有無

図表 183 ジェネリック医薬品に関する文書等をきっかけとしたジェネリック医薬品使用経験の有無

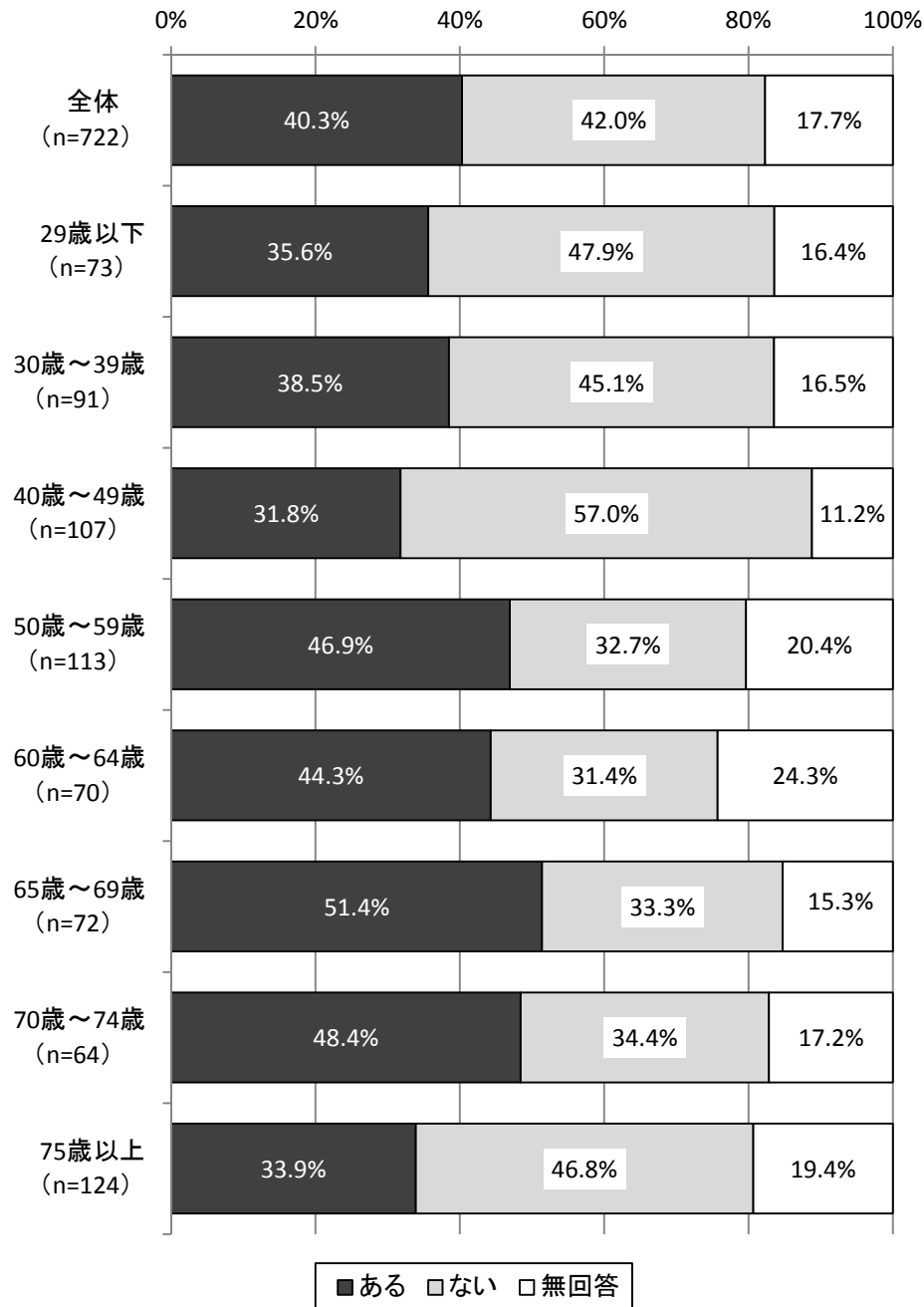
(ジェネリック医薬品に関する文書等の受取り経験のある人、男女別、単数回答)



(注)「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

図表 184 ジェネリック医薬品に関する文書等をきっかけとしたジェネリック医薬品使用
経験の有無

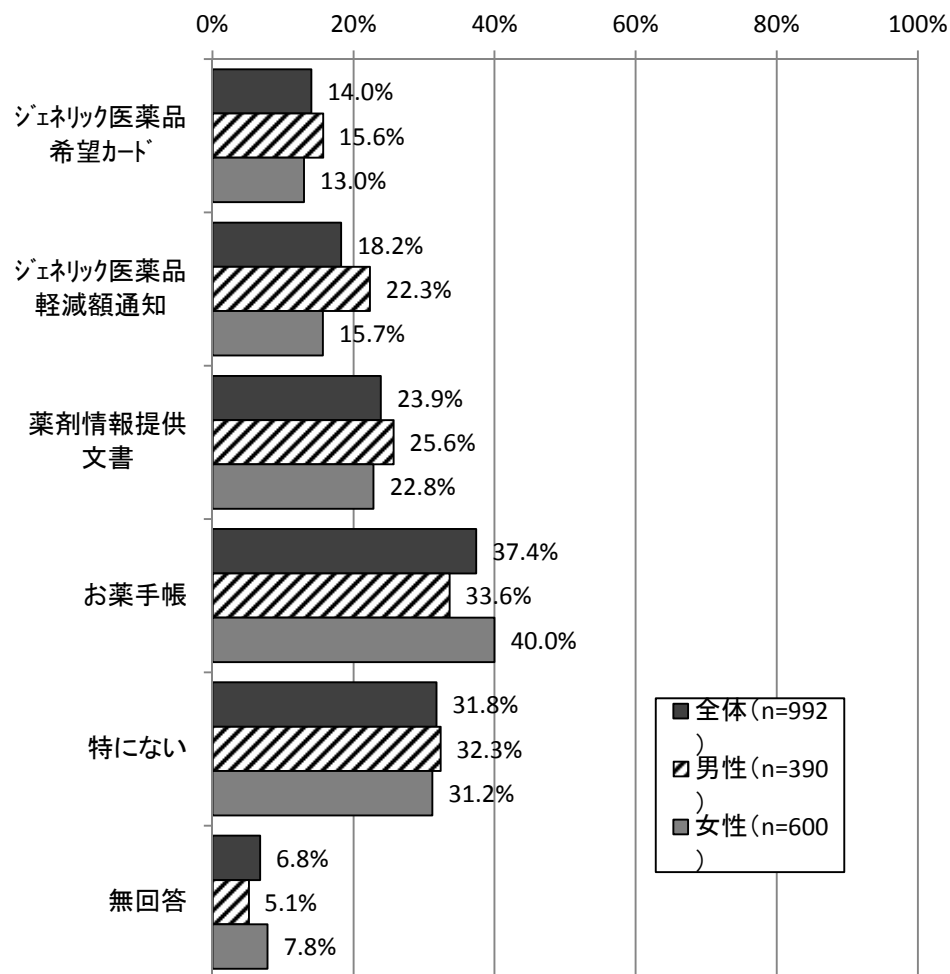
(ジェネリック医薬品に関する文書等の受取り経験のある人、年齢階級別、単数回答)



(注)「全体」には、「年齢」について無回答の8人が含まれる。

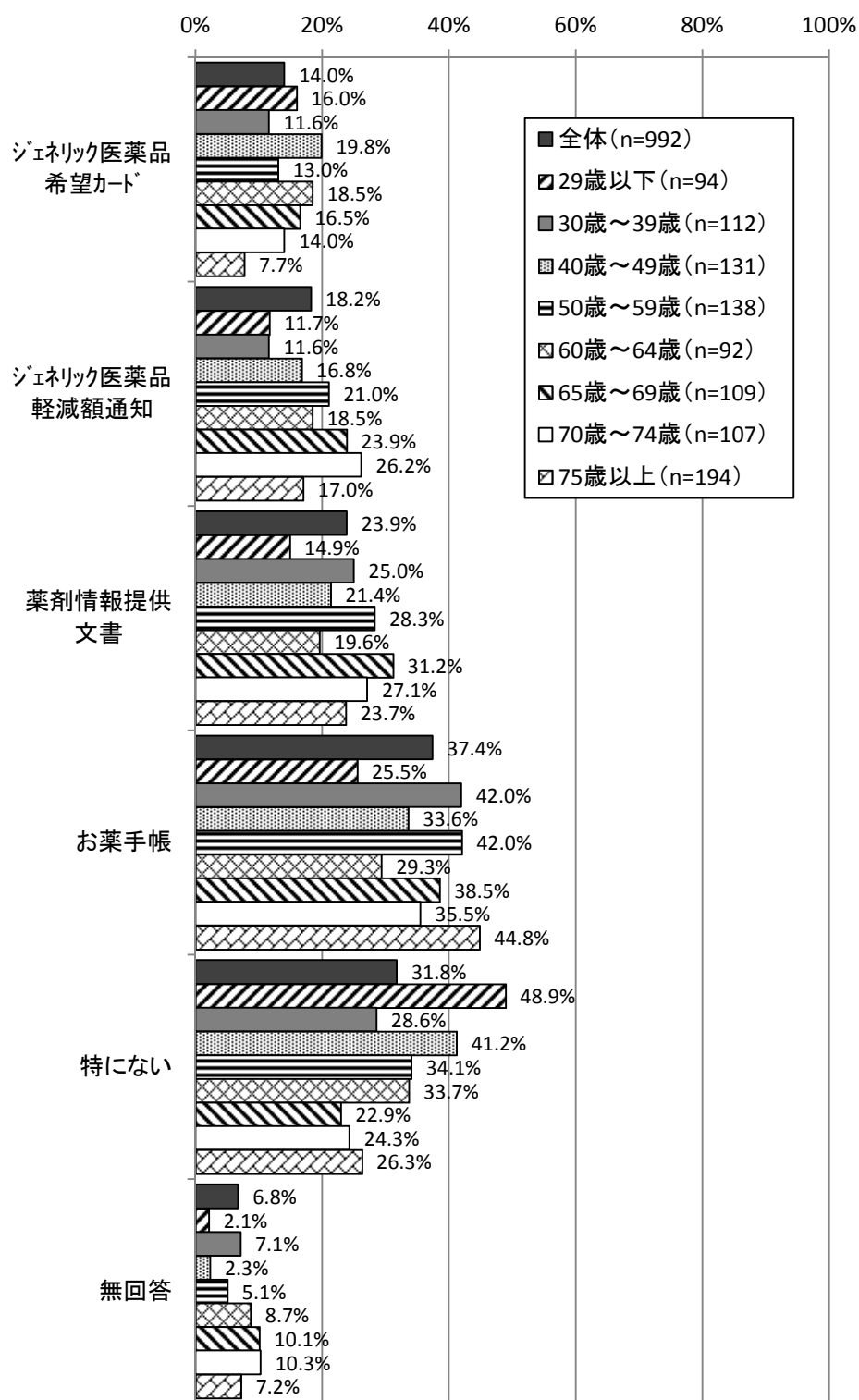
4) 今後活用してみたいジェネリック医薬品に関する文書等

図表 185 今後活用してみたいジェネリック医薬品に関する文書等（男女別、複数回答）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

図表 186 今後活用してみたいジェネリック医薬品に関する文書等
(年齢階級別、複数回答)

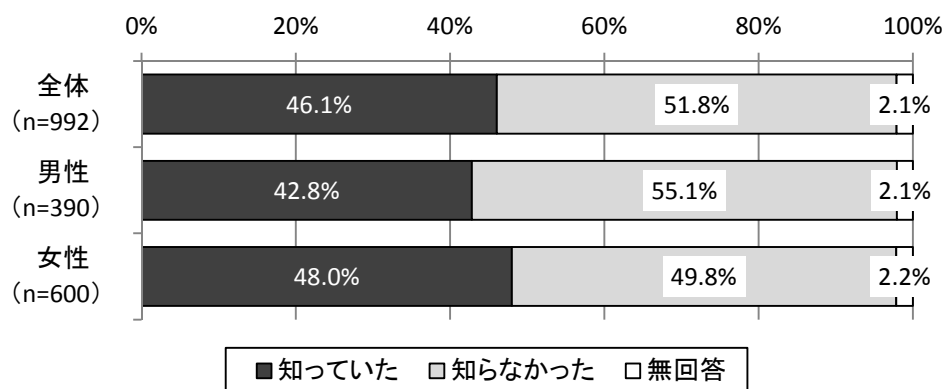


(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

③一般名処方に関する認知度・意向等

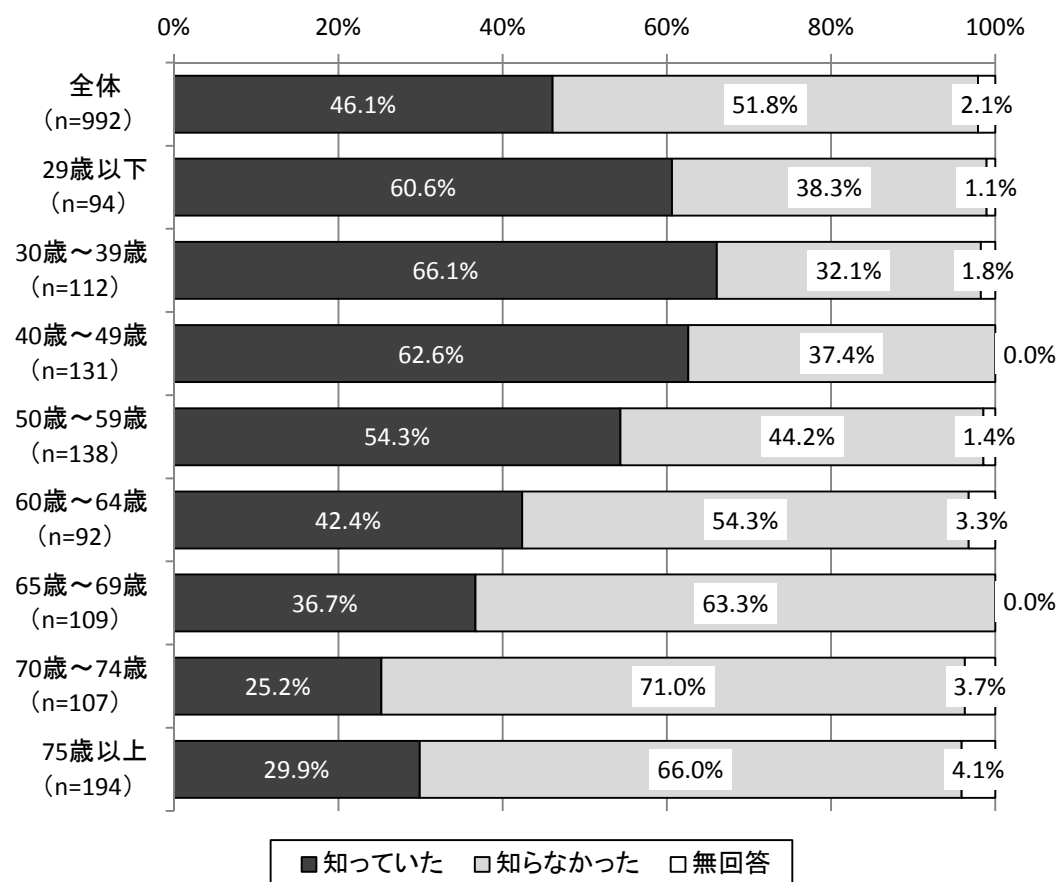
1) 一般名処方の認知度

図表 187 一般名処方の認知度（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

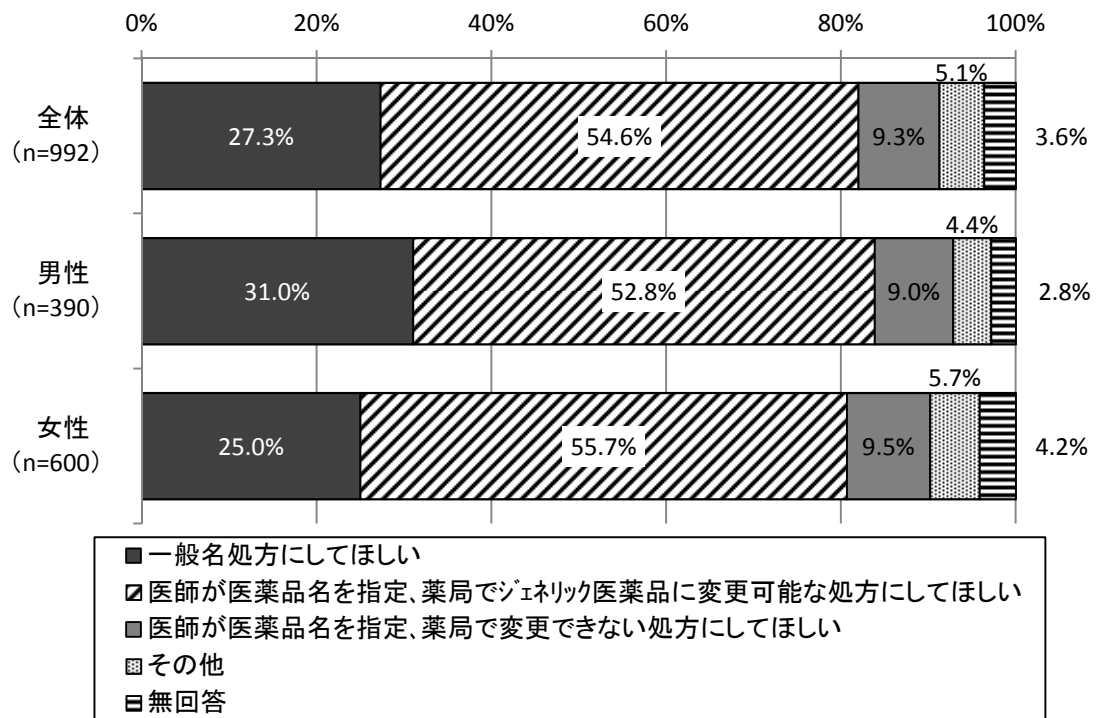
図表 188 一般名処方の認知度（年齢階級別）



(注)「全体」には、「年齢」について無回答の15人が含まれる。

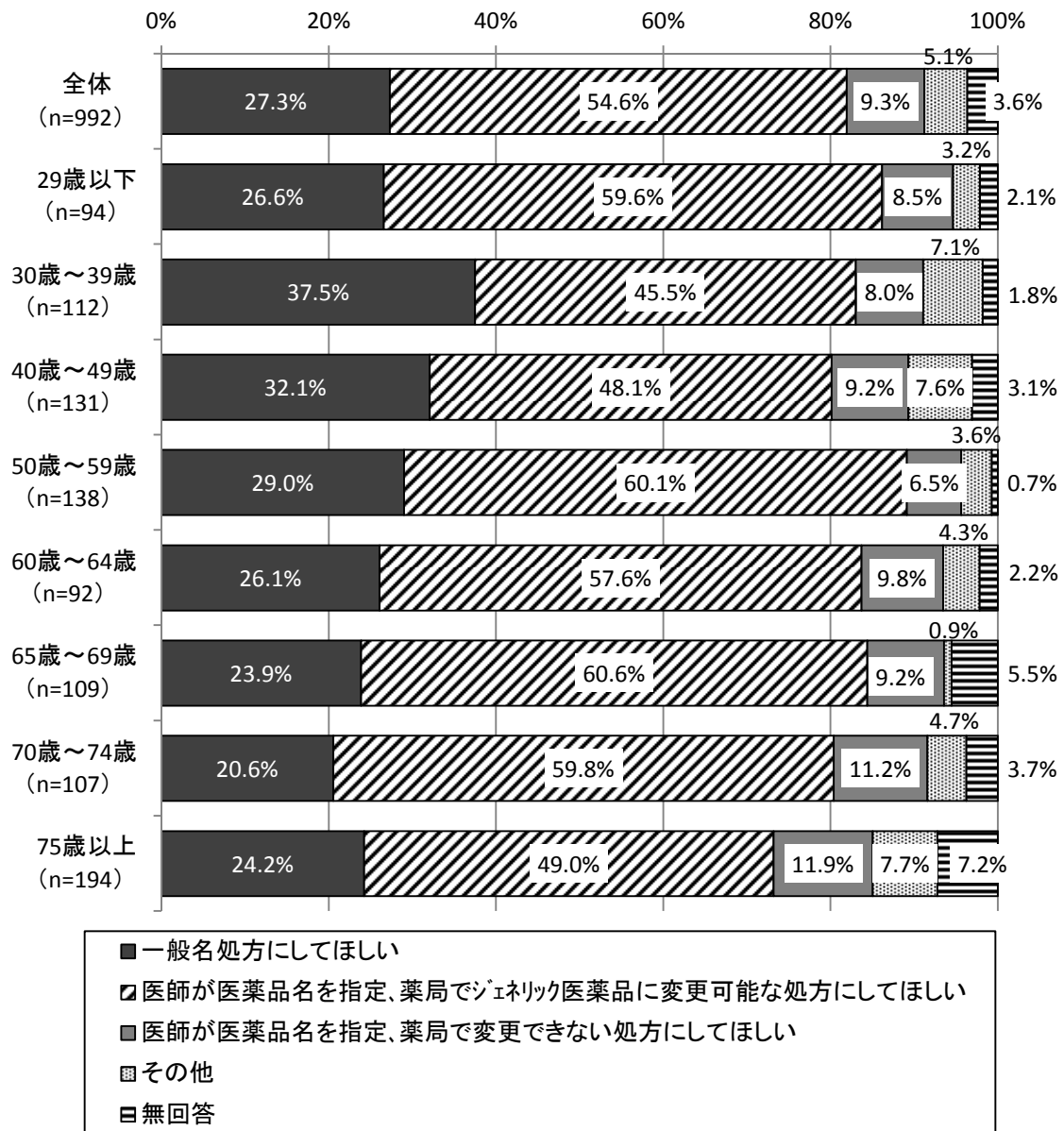
2) 望ましい処方せん的方式

図表 189 望ましい処方せん的方式（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

図表 190 望ましい処方せん的方式（年齢階級別）



（注）「全体」には、「年齢」について無回答の 15 人が含まれる。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 26 年度調査)

後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査 保険薬局票

※この「保険薬局票」は保険薬局の開設者・管理者の方に、貴薬局における後発医薬品の使用状況やお考えについてお伺いするものです。

※以下のラベルに、電話番号をご記入ください。また、薬局名と薬局の所在地をご確認の上、記載内容に不備等がございましたら、赤書きで修正してください。

＜ご回答方法＞

- ・ あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。
- ・ 「※○は1つだけ」という質問については、あてはまる番号を 1つだけ○で囲んでください。
- ・ （ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・ （ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。
- ・ 特に断りのない限り、平成26年9月末現在の貴薬局の状況についてお答えください。

0. あなたご自身についてお伺いします。

① 性別 ※○は１つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 開設者・管理者の別 ※○は１つだけ	1. 開設者 2. 管理者 3. 開設者兼管理者		

1. 貴薬局の状況についてお伺いします。

①開設者 ※法人の場合は、法人の形態にも○をつけてください	1. 法人 ……▶ (1.株式会社 2.有限会社 3.合資会社 4.合名会社 5.その他) ……▶ (1. ホールディングスの傘下 2. ホールディングスの <u>非</u> 傘下)	
②同一法人による薬局店舗数	() 店舗	※当該店舗を含めてお答えください。
③開設年	西暦 () 年	
④貴薬局はチェーン薬局(一経営者が20店舗以上を所有する薬局の店舗)ですか。 ※○は1つだけ	1. はい 2. いいえ	
⑤貴薬局の処方せんの応需状況として最も近いものは、次のうちどれですか。 ※○は1つだけ	1. 主に近隣にある <u>特定の病院</u> の処方せんを応需している薬局 2. 主に近隣にある <u>特定の診療所</u> の処方せんを応需している薬局 3. 主に <u>複数の特定の保険医療機関</u> (いわゆる医療モールも含む) の処方せんを応需している薬局 4. <u>様々な保険医療機関</u> からの処方せんを応需している薬局 5. その他 (具体的に)	
⑥貴薬局の売上高に占める保険調剤売上の割合 ※平成 25 年度決算	約 () % ※OTC医薬品の販売等がなく、保険調剤収入のみである場合は 100%とご記入ください。	

⑦職員数 ※該当者がいない場合は「0」とご記入ください。		常勤(実人数)	非常勤(実人数)		
	1)薬剤師	() 人	() 人		
	2)その他(事務職員等)	() 人	() 人		
	3)全職員	() 人	() 人		
⑧調剤基本料 ※○は1つだけ		1. 調剤基本料 (41 点)	2. 調剤基本料 (25 点)		
⑧-1 全処方せんの受付回数(調剤基本料の根拠となる数字)		() 回/月			
⑧-2 主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合(調剤基本料の根拠となる数字)		(.) % ※小数点以下第1位まで			
⑧-3 妥結率		(.) % ※小数点以下第1位まで			
⑨基準調剤加算 ※○は1つだけ		1. 基準調剤加算 1 (12 点) 2. 基準調剤加算 2 (36 点) 3. 届出(算定)していない			
⑩後発医薬品調剤体制加算 ※○は1つだけ	⑩-1 平成 25 年度	1. 後発医薬品調剤体制加算 1 (5 点) 2. 後発医薬品調剤体制加算 2 (15 点) 3. 後発医薬品調剤体制加算 3 (19 点) 4. 届出(算定)していない			
	⑩-2 平成 26 年度	1. 後発医薬品調剤体制加算 1 (18 点) 2. 後発医薬品調剤体制加算 2 (22 点) 3. 届出(算定)していない			
⑪後発医薬品調剤割合(新指標) ※新指標算出式＝後発医薬品/(後発医薬品あり先発医薬品＋後発医薬品)(%)		() % ※平成 26 年 9 月 1 か月間について算出			
⑫ 新指標のカットオフ値 ※カットオフ値算出式＝(後発医薬品あり先発医薬品＋後発医薬品)/全医薬品 (%)		() % ※平成 26 年 9 月 1 か月間について算出			
⑬ 新指標で算出するに当たって何か問題点はありましたか。 ※○は1つだけ		1. ある 2. ない 3. まだわからない			
⑭【上記⑬で「1.ある」と回答された薬局】 具体的な問題点を教えてください。					
(自由記載欄)					

2. 貴薬局で調査対象期間(平成 26 年 11 月 6 日(木)～11 月 12 日(水))に受け付けた処方せんについて、ご記入ください。

(1)①平成 26 年 11 月 6 日(木)～11 月 12 日(水)に受け付けた処方せん枚数は何枚ですか。	() 枚
② ①のうち、先発医薬品(準先発品)名で処方され、変更不可となっている医薬品が 1 品目でもある処方せんの枚数	() 枚
③ ①のうち、後発医薬品名で処方され、変更不可となっている医薬品が 1 品目でもある処方せんの枚数	() 枚

(2) 以下は上記質問(1)①の処方せん(平成26年11月6日(木)～11月12日(水)に受け付けた処方せん)に記載された医薬品について品目ベース(銘柄・剤形・規格単位別)の数でご記入ください。

① 一般名で処方された医薬品の品目数	() 品目	※①+④+⑪+⑬+⑭となりますのでご確認ください
② ①のうち、後発医薬品を選択した医薬品の品目数	() 品目	
③ ①のうち、先発医薬品(準先発品*1を含む)を選択した医薬品の品目数	() 品目	
④ 先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品の品目数	() 品目	
⑤ ④のうち、「変更不可」となっていない*2 医薬品の品目数	() 品目	
⑥ ⑤のうち、先発医薬品を後発医薬品に変更した医薬品の品目数	() 品目	
⑦ ⑤のうち、先発医薬品を調剤した医薬品の品目数	() 品目	
⑧ ⑦のうち、後発医薬品が薬価収載されていないため、後発医薬品に変更できなかった医薬品の品目数	() 品目	
⑨ ⑦のうち、外用剤が処方され、同一剤形の後発医薬品がなかったため変更できなかった医薬品の品目数(クリーム、ローション、軟膏はそれぞれ別剤形)	() 品目	
⑩ ⑦のうち、患者が希望しなかったため、後発医薬品に変更できなかった医薬品の品目数(過去に確認済みの場合を含む)	() 品目	
⑪ 後発医薬品名で処方された医薬品の品目数	() 品目	
⑫ ⑪のうち、「変更不可」となっている医薬品の品目数	() 品目	
⑬ その他(漢方製剤など、先発医薬品・準先発品・後発医薬品のいずれにも該当しない医薬品)の品目名で処方された医薬品の品目数	() 品目	
⑭ (1)①の処方せんに記載された医薬品の品目数の合計(①+④+⑪+⑬=⑭)	() 品目	

*1 昭和42年以前に承認・薬価収載された医薬品のうち、価格差のある後発医薬品があるもの。

*2 後発医薬品(ジェネリック医薬品)への変更が不可の場合の署名欄に処方医の署名又は記名・押印がない、又は署名欄に処方医の署名又は記名・押印があるものの「変更不可」欄に「レ」又は「×」が記載されていないもの。

(3)【上記(2)の⑫で1品目でも他の後発医薬品への変更不可となっている医薬品があった薬局】 変更不可の後発医薬品が処方されることで、調剤を行う上で何か問題がありましたか。 ※○は1つだけ	
1. あった	2. なかった
(4)【上記(3)で「1. あった」と回答された薬局】 どのような問題がありましたか。 ※あてはまる番号すべてに○	
1. 処方された後発医薬品の備蓄がなく、取り寄せるために患者を待たせることになった 2. 処方された後発医薬品の備蓄がなく、後ほど(当日)、患者宅へ届けることになった 3. 処方された後発医薬品の備蓄がなく、直ちに取り寄せることができないため後日届けることになった 4. 患者が他の銘柄の後発医薬品を希望したため、医師への疑義照会等対応が必要になった 5. その他(具体的に)	
(5)期間中に、一般名処方の処方せんを持参した患者のうち、後発医薬品を調剤しなかったケースについて、最も多い理由は何ですか。 ※○は1つだけ	
0. そのようなケースはなかった 1. 患者が後発医薬品を希望しなかったから 2. 薬価収載された後発医薬品がなかったから 3. 後発医薬品の備蓄がなかったから 4. 先発医薬品と後発医薬品で適応が違う医薬品だったから 5. その他(具体的に)	

【上記質問(3)で1. 以外を回答された薬局】

→(5)後発医薬品を積極的に調剤していない医薬品の種類は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

- | | | | |
|--------------|-------------|-------------|-----------|
| 1. 血圧降下剤 | 2. 高脂血症用剤 | 3. 不整脈用剤 | 4. 精神神経用剤 |
| 5. 催眠鎮静剤 | 6. 抗不安剤 | 7. 抗てんかん剤 | 8. 解熱鎮痛剤 |
| 9. 糖尿病用剤等 | 10. 消化性潰瘍用剤 | 11. 抗アレルギー剤 | |
| 12. その他（具体的に | 13. 特にな | | |

【上記質問(3)で1. 以外を回答された薬局】

(6)後発医薬品を積極的に調剤していない患者の特徴として該当するものすべてに○をつけてください。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 初回の受付時に後発医薬品の調剤を希望しなかった患者
2. 差額が小さい患者
3. 先発医薬品との違い（色、形など）を気にする患者
4. 後発医薬品への変更に関する説明に長時間を要すると思われる患者
5. その他（具体的に
6. 特にな

(7)後発医薬品使用に関する患者の意向を把握する手段として最も多く利用しているものは何ですか。 ※○は1つだけ

1. 「お薬手帳」を通じて
2. 薬剤服用歴
3. 処方せん受付時における患者への口頭やアンケートによる意向確認（初回のみ）
4. 処方せん受付時における患者への口頭やアンケートによる意向確認（毎回）
5. その他（具体的に

(8)後発医薬品への変更・選択において、患者の理解を最も得られやすい処方方法は何ですか。 ※○は1つだけ

1. 一般名処方
2. 先発医薬品名（準先発品を含む）だが変更不可とされていない処方
3. 後発医薬品の処方（別銘柄へ変更可能なものも含む）
4. 上記1.と2.と3.でいずれも大きな違いはない
5. その他（具体的に

(9)「一般名処方の調剤」または「後発医薬品への変更調剤」について、どのような方法・タイミングで処方医に情報提供することが望ましいと思いますか。 ※○は1つだけ

1. 調剤をした都度
2. 原則、調剤をした都度行うが、前回と同じ内容であった場合には連絡しない
3. 一定期間に行った調剤をまとめて
4. お薬手帳等により患者経由で次の診療日に
5. 副作用等問題が発生した時だけ
6. 必要ない
7. その他（具体的に

(10)「一般名処方の調剤」または「後発医薬品への変更調剤」の情報提供の頻度等について、医療機関と予め合意した方法で行っていますか。 ※○は1つだけ

1. 主に合意した方法で行っている
2. 医療機関によって様々である
3. 合意した方法はない
4. その他（具体的に

【上記質問(10)で「1. 主に合意した方法で行っている」「2. 医療機関によって様々である」と回答された薬局】

(11)その方法はどのようなものですか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 調剤をした都度提供すること
2. 原則、調剤をした都度行うが、前回と同じ内容であった場合には連絡しないとする
3. 一定期間に行った調剤をまとめて提供すること
4. お薬手帳等により患者経由で次の診療日に提供すること
5. 副作用等問題が発生した時だけ提供すること
6. その他（具体的に

4. 後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題、要望等についてお伺いします。

(1) 今後、どのような対応がなされれば、開設者・管理者の立場として後発医薬品の調剤を積極的に進めることができると思いますか。 ※あてはまる番号すべてに○	
1. 厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底 2. 後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保 3. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保 4. 後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合 5. 後発医薬品に対する患者の理解の向上 6. 後発医薬品を調剤する際の診療報酬上の評価 7. 後発医薬品の原体、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国などの情報開示 8. その他（具体的に 9. 特に対応は必要ない→質問(3)へ	
(2) 上記(1)の選択肢 1～8のうち、最もあてはまる番号を 1 つだけお書きください。	
(3) 現在、同一成分・同一剤形の後発医薬品の価格は銘柄ごとに様々ですが、どのような体系が望ましいと思いますか。 ※○は1つだけ	
1. 1つの価格帯に統一 2. 2つの価格帯に統一 3. 3つの価格帯に統一（現行の制度） 4. 先発医薬品より安ければ価格は銘柄ごとに違っていてもよい 5. その他（具体的に	
(4) 後発医薬品の薬価について、先発医薬品と比較してどの程度が適切な水準とお考えになりますか。	
先発医薬品の薬価の（ ） %程度	
(5) 貴薬局で、後発医薬品の使用を進める上で医師に望むことはありますか。 ※あてはまる番号すべてに○	
1. 患者への積極的な働きかけ 2. 後発医薬品への変更調剤に関する薬剤師への信頼感 3. 患者が後発医薬品の使用を希望している場合、処方せんに変更不可の署名を行わないこと 4. 後発医薬品の銘柄指定をしないこと 5. 一般名処方とすること 6. お薬手帳への記載以外の医療機関（医師）への情報提供を不要とすること 7. 疑義照会への誠実な対応 8. 後発医薬品に対する理解 9. その他（具体的に 10. 医師に望むことは特にない→質問(7)へ	
(6) 上記(5)の選択肢 1～9のうち、最もあてはまる番号を 1 つだけお書きください。	
(7) 上記(1) (5) 以外に、後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題、また、後発医薬品の使用・普及を進めていくために、具体的にどのような取組を行えば効果があるか、ご意見を自由にお書きください。	

質問は以上です。ご協力いただきまして、ありがとうございました。

※引き続き、様式2のご記入もよろしくお願いいたします。

様式 2

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 26 年度調査)

後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査 保険薬局票

- 平成 26 年 11 月 6 日（木）から 11 月 12 日（水）のうちのいずれか平均的な開局時間の 1 日の状況をご記入ください。詳細は調査要綱をご覧ください。
- 処方せん 1 枚につき 1 行を使ってご記入ください。

調査日：平成26年（ ）月（ ）日（ ）曜日

[illegible]

※回答用紙が足りない場合には、大変恐縮ですが、裏面用紙をコピーしてお使いください。

※記入例(全3枚のうち1枚目の場合)

回答用紙

枚中

枚

回答用紙

3

枚中

1	枚
---	---

[illegible]

後発医薬品(ジェネリック医薬品)の使用に関する意識調査 患者票

※この患者票は、患者さんに、後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用状況やお考えについて
 おうかがいするものです。

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な
 数字や内容・理由などをご記入ください。

後発医薬品（ジェネリック医薬品）とは

先発医薬品（新薬）の特許が切れた後に販売される、先発医薬品と同じ有効成分、同じ効能・効果を持つ医薬品のことです。ジェネリック医薬品は先発品より安価で、経済的です。

なお、ジェネリック医薬品では、先発医薬品と異なる添加剤を使用する場合がありますが、先発医薬品が上市後に添加剤を変更する場合と同様に、添加剤の違いによって有効性・安全性に違いが生じないことを確認しています。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

- | | |
|--------------------|---|
| 1. 患者ご本人（代筆の場合も含む） | |
| 2. 本人以外のご家族（具体的に | ） |
| 3. その他（具体的に | ） |

1. 患者さんご自身のことについておうかがいします。

① 性別 ※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ お住まい	() 都・道・府・県		
④ お手持ちの健康保険証の種類 ※お手持ちの健康保険証の「保険者」名称をご確認ください。○は1つだけ			
1. 国民健康保険（国保）		2. 健康保険組合（健保組合）	
3. 全国健康保険協会（協会けんぽ）		4. 共済組合（共済）	
5. 後期高齢者医療広域連合（広域連合）		6. 全額公費（自己負担がない）	
7. その他（具体的に ）		8. わからない	
⑤ 医療費の自己負担額（医療機関や薬局の窓口で支払う金額）がありますか。 ※○は1つだけ			
1. ある		2. ない	
⑥ この3か月間に処方せん（ご本人の処方せんです）を持って薬局に行った回数		過去3か月間の薬局訪問回数 約（ ）回	
⑦ 「お薬手帳」を利用していますか。 ※○は1つだけ			
1. 利用している		2. 利用していない	

2. 本日の状況等についておうかがいします。

① 本日、この薬局を選んだ理由は何ですか。※〇はいくつでも

1. この薬局をかかりつけにしているから
2. 医療機関の近くにあったから
3. 通勤・通学の途中、職場や学校の近くにあったから
4. 薬剤師がわかりやすく説明してくれるから
5. ジェネリック医薬品を調剤してくれるから
6. 待ち時間が短いから
7. その他（具体的に

② 本日、薬局の窓口で支払った自己負担額（一部負担金）は、
いくらでしたか。 ※ない場合は「0」とお書きください。

（ ） 円

③ 本日、薬局の窓口で支払った自己負担額がどのくらい安くなれば、今後ジェネリック医薬品を使用したいと思いませんか。※〇は1つだけ ※自己負担額0円の方は回答不要です

1. 少しでも安くなるのであれば使用したい
2. 本日支払った金額よりも一定額安くなるのであれば使用したい
→（安くなる金額の目安： 円程度）
3. いくら安くなっても使用したくない
4. わからない
5. その他（具体的に

③-1 いくら安くなっても使用したくない理由は何ですか。※あてはまる番号すべてに〇

1. 安く売れる理由が不可解だから
2. 高いものはいいものだと考えるから
3. 聞き慣れないメーカーだから
4. ジェネリック医薬品の効き目（効果）や副作用に不安があるから
5. 医師がすすめないから
6. 薬剤師がすすめないから
7. 家族や知人がすすめないから
8. 使いなれたものがいいから
9. その他（具体的に

③-2 そのように思われる具体的なきっかけがあれば教えてください。※〇は1つだけ

1. ジェネリック医薬品に切り替えて、副作用が出たことがあるから
2. ジェネリック医薬品に切り替えて、効き目が悪くなったことがあるから
3. 報道等、周囲からジェネリック医薬品の品質、効果等に関して良い情報を聞かないから
4. その他（具体的に

④ 本日、薬局で、先発医薬品からジェネリック医薬品へ変更しましたか。 ※○は1つだけ

- 1. ジェネリック医薬品へ変更した
- 2. ジェネリック医薬品へ変更しなかった
- 3. わからない

④-1 ジェネリック医薬品に変更した時の薬局の窓口での薬代の負担感はどうでしたか。 ※○は1つだけ

- 1. とても安くなった
- 2. それなりに安くなった
- 3.それほど変わらなかった
- 4. わからない・覚えていない

3. 後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用に関するご経験などについておうかがいします。
ここからは、本日のことだけではなく、今までのご経験についてお答えください。

① ジェネリック医薬品に関心がありますか。 ※○は1つだけ

- 1. 関心がある
- 2. 関心はない
- 3. どちらともいえない

② ジェネリック医薬品を知っていましたか。 ※○は1つだけ

- 1. 知っていた
- 2. 名前は聞いたことがあった
- 3. 知らなかった

③ 今までにジェネリック医薬品を使用したことがありますか。 ※○は1つだけ

- 1. ある
- 2. ない
- 3. わからない

④ 医師からジェネリック医薬品についての説明を受けたことがありますか。 ※○は1つだけ

- 1. ある
- 2. ない
- 3. わからない

⑤ 医師にジェネリック医薬品の処方をお願いしたことはありますか。 ※○は1つだけ

- 1. ある
- 2. ない

※ここからの質問も、本日このアンケートを受け取った薬局に限らず、今までのご経験としてお答えください。

⑥ 薬剤師からジェネリック医薬品についての説明を受けたことがありますか。 ※○は1つだけ

- 1. ある
- 2. ない
- 3. わからない

⑦ 薬剤師にジェネリック医薬品の調剤をお願いしたことはありますか。 ※○は1つだけ

1. ある 2. ない→質問⑧へ

→ ⑦-1 薬局で薬剤師に「ジェネリック医薬品の調剤」は頼みやすかったですか。 ※○は1つだけ

1. 頼みやすかった 2. どちらともいえない
3. 頼みにくかった → (その理由:)

→ ⑦-2 平成26年4月以降、薬局でジェネリック医薬品を調剤してもらえなかったことはありますか。 ※○は1つだけ

1. ある 2. ない→質問⑧へ

→ ⑦-2-1 その薬局からはどのような説明がありましたか。 ※○は1つだけ

1. 処方されている医薬品が、すでにジェネリック医薬品であるから
2. ジェネリック医薬品への変更が医師の指示によりできないから
3. ジェネリック医薬品が存在しない医薬品であるから
4. ジェネリック医薬品をすぐに取りそろえられないので (在庫がないので)
5. 特に説明はなかった
6. その他 (具体的に)

⑧ 先発医薬品からジェネリック医薬品に変更されたお薬はありますか。 ※○は1つだけ

1. ある 2. ない→質問4. ①へ 3. わからない→質問4. ①へ

→ ⑧-1 その時のきっかけは何ですか。 ※○は1つだけ

1. 医師からの説明 2. 薬剤師からの説明
3. 家族・知人等からのすすめ 4. 薬剤情報提供文書※1を受け取って
5. ジェネリック医薬品希望カードを受け取って
6. ジェネリック医薬品軽減額通知 (差額通知等) ※2を受け取って
7. ジェネリック医薬品に関する健保組合等の保険者からのお知らせを受け取って
8. その他 (具体的に)

→ ⑧-2 ジェネリック医薬品に変更した時に、アレルギーなどの体調不良を経験したことがありますか。 ※○は1つだけ

1. ある 2. ない

→ ⑧-2-1 どのようなお薬でどのような経験をされましたか。先発医薬品をどのくらい使用していたか、ジェネリック医薬品に変更してどのくらい期間が経ってから症状が出たか等、できるだけ具体的にお書きください。

()

※1 薬剤情報提供文書とは

保険薬局から調剤したお薬と一緒に渡される文書で、薬の名前や写真、効能・効果、用法、副作用、注意事項などが書かれています。平成24年4月以降、ジェネリック医薬品についての説明（ジェネリック医薬品の有無や価格など）もこの文書に記載し、患者に情報提供することとなりました。

※2 ジェネリック医薬品軽減額通知（差額通知等）とは

処方された薬をジェネリック医薬品に切り替えることにより、どのくらい薬代（薬剤料）の自己負担額が軽減されるかを健康保険組合や市町村国保などの保険者が具体的に試算して、例えば「ジェネリック医薬品に切り替えた場合の薬代の自己負担の軽減額に関するお知らせ」のような名前で通知してくれるサービスです。

4. ジェネリック医薬品の使用に関するお考え・ご経験や、使用促進の取組についておうかがいします。

① ジェネリック医薬品の使用に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。 ※○は1つだけ

1. できればジェネリック医薬品を使いたい
2. とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい
3. できればジェネリック医薬品を使いたくない
4. ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない
5. わからない

② あなたがジェネリック医薬品を使用するにあたって重要なことは何ですか。

※あてはまる番号すべてに○

1. 効果（効き目）が先発医薬品と同じであること
2. 使用感がよいこと
3. 副作用の不安が少ないこと
4. 有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること
5. 先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえること
6. 医師や薬剤師のすすめがあること
7. 窓口で支払う薬代が安くなること
8. 少しでも医療財政の節約に貢献できること
9. その他（具体的に
10. 特になし→質問④へ

③ 上記②の選択肢1～9のうち、最も重要なことは何ですか。 あてはまる番号を1つだけお書きください。

④ 今までに受け取ったことがあるものをすべて○で囲んでください。 ※あてはまる番号すべてに○

1. ジェネリック医薬品希望カード
2. ジェネリック医薬品軽減額通知（差額通知等）
3. 薬剤情報提供文書
4. 受け取ったことがない→6ページの質問⑤へ

【質問④で受け取ったことがある方におうかがいします。】

④-1 これらを受け取ったことをきっかけに、医師や薬剤師にジェネリック医薬品の相談・質問をしたことがありますか。 ※○は1つだけ

1. ある

2. ない

【質問④で受け取ったことがある方におうかがいします。】

④-2 これらを受け取ったことをきっかけに、ジェネリック医薬品を使用したことがありますか。 ※○は1つだけ

1. ある

2. ない

⑤ 今後、活用してみたいものは何ですか。 ※○はいくつでも

1. ジェネリック医薬品希望カード

2. ジェネリック医薬品軽減額通知（差額通知等）

3. 薬剤情報提供文書

4. お薬手帳

5. 特にない

一般名処方処方せんとは

製薬会社がつけた医薬品の個別製品名ではなく、医薬品の成分名（一般名）で書かれた処方せんです。例えば、「ガスター」は製品名ですが、一般名では「ファモチジン」といいます。

このような一般名で書かれた処方せんを薬局に持っていくと、患者は薬局で薬剤師に相談しながら、先発医薬品かジェネリック医薬品かを選択することができます。

⑥ 上記の説明にある、「一般名処方」の処方せんをご存知でしたか。 ※○は1つだけ

1. 知っていた

2. 知らなかった

⑦ 一般名処方では、患者が薬局の薬剤師と相談しながら先発医薬品・ジェネリック医薬品の中から調剤してもらう医薬品を選ぶことができます。このことについて、どのように思いますか。あなたのお考えに最も近いもの1つに○をつけてください。 ※○は1つだけ

1. できるだけ、一般名処方にしてほしい

2. できるだけ、医師が医薬品名を指定しつつ、薬局でジェネリック医薬品に変更することでもできる処方にしてほしい

3. できるだけ、医師が医薬品名を指定し、薬局で変更できない処方にしてほしい

4. その他（具体的に

）

5. ジェネリック医薬品を使用する上でのご意見・ご要望等をおうかがいします。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

お手数をおかけいたしますが、11月21日（金）までに専用の返信用封筒（切手不要）に同封し、お近くのポストに投函してください。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 26 年度調査)

後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査

病院票

※この「病院票」は、病院の開設者・管理者の方に、貴施設における後発医薬品の使用状況やお考えについてお伺いするものです。
 ※以下のラベルに、電話番号をご記入ください。また、施設名と施設の所在地をご確認の上、記載内容に不備等がございましたら、赤書きで修正してください。

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「○（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。
 ※特に断りのない場合は、平成 26 年 9 月末現在の状況についてご記入ください。

0. あなたご自身についてお伺いします。

① 性別 ※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 開設者・管理者の別 ※○は1つだけ	1. 開設者 2. 管理者 3. 開設者兼管理者 4. その他（具体的に ）		

1. 貴施設の状況についてお伺いします。

①開設者 ※○は1つだけ	1. 国立 2. 公立 3. 公的 4. 社会保険関係団体 5. 医療法人 6. 個人 7. 学校法人 8. その他の法人
②開設年	西暦（ ）年
③標榜している診療科 ※あてはまる番号すべてに○	1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 脳神経外科 5. 小児科 6. 産婦人科 7. 呼吸器科 8. 消化器科 9. 循環器科 10. 精神科 11. 眼科 12. 耳鼻咽喉科 13. 泌尿器科 14. 皮膚科 15. その他（具体的に ）
④DPC対応 ※○は1つだけ	1. DPC対象病院（Ⅰ群） 2. DPC対象病院（Ⅱ群） 3. DPC対象病院（Ⅲ群） 4. DPC準備病院 5. 対応していない
⑤オーダリングシステム ※あてはまる番号すべてに○	1. 一般名処方に対応できるオーダリングシステムを導入している 2. 後発医薬品名が表示されるオーダリングシステムを導入している 3. オーダリングシステムを導入している（上記 1、2 の機能はない） 4. オーダリングシステムを導入していない
⑥院内・院外処方の割合	院内処方（ ）%＋院外処方（ ）%＝100% ※処方せん枚数ベース

⑦特定入院料の状況 ※貴施設で算定しているものすべてに○	1. 回復期リハビリテーション病棟入院料 2. 地域包括ケア病棟入院料 3. 救命救急入院料 4. 特定集中治療室管理料 5. 小児入院医療管理料 6. その他、投薬・注射に係る薬剤料が包括されている特定入院料（精神科救急入院料等） 7. いずれも算定していない	⑧許可病床数	1) 一般病床 () 床 2) 療養病床 () 床 3) 精神病床 () 床 4) 結核病床 () 床 5) 感染症病床 () 床 6) 全 体 () 床
⑨後発医薬品使用体制加算の状況	1. 算定していない 2. 後発医薬品使用体制加算 1 を算定している 3. 後発医薬品使用体制加算 2 を算定している		
⑩医師数（常勤換算） ※小数点以下第 1 位まで	(.) 人	⑪薬剤師数（常勤換算） ※小数点以下第 1 位まで	(.) 人
⑫処方せん料の算定回数	() 回 ※平成 26 年 9 月 1 か月間		
⑬一般名処方加算の算定回数	() 回 ※平成 26 年 9 月 1 か月間		

2. 貴施設における後発医薬品の使用状況等についてお伺いします。

①後発医薬品の採用状況は、いかがでしょうか。 ※○は 1 つだけ	1. 後発医薬品があるものは積極的に採用 2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に採用 3. 後発医薬品を積極的には採用していない 4. その他（具体的に)
②後発医薬品を採用する際に重視することは何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 後発医薬品メーカーが品質について情報開示をしていること 2. MRからの情報提供が頻繁にあること 3. 他の後発医薬品よりも薬価が安価であること 4. 大病院で採用されていること 5. 近隣の保険医療機関（病院・診療所）で採用されている処方銘柄であること 6. 後発医薬品の適応症が先発医薬品と同一であること 7. 納品までの時間が短いこと 8. 後発医薬品メーカー・卸が十分な在庫を確保していること 9. 患者からの評価がよいこと 10. 調剤がしやすい（例；容易に分割ができる、一包化調剤がしやすい）こと 11. 本社の問い合わせ窓口における対応が充実していること 12. 先発医薬品メーカーが扱う後発医薬品であること 13. 信頼のおける後発医薬品メーカーが扱う後発医薬品であること 14. 古くから販売されている後発医薬品であること 15. 有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること 16. その他（具体的に) 17. 特にない→3ページの質問④へ
③上記②の選択肢 1 ～ 16 のうち、最も重視する点としてあてはまる番号を 1 つご記入ください。	

④医薬品備蓄品目数		全品目	うち、後発医薬品		
	1) 内服薬	() 品目	() 品目		
	2) 外用薬	() 品目	() 品目		
	3) 注射薬	() 品目	() 品目		
	4) 合 計	() 品目	() 品目		
⑤調剤用医薬品費（購入額）		約 () 円 ※平成 26 年 9 月 1 か月間			
⑥上記⑤のうち後発医薬品費（購入額）		約 () 円 ※平成 26 年 9 月 1 か月間			
⑦調剤用医薬品廃棄額		約 () 円 ※平成 26 年 9 月 1 か月間			
⑧上記⑦のうち後発医薬品廃棄額		約 () 円 ※平成 26 年 9 月 1 か月間			
⑨後発医薬品使用割合 <数量ベース>（平成 26 年の 1 月～9 月）※小数点以下第 1 位まで ※1 か月間に調剤した後発医薬品について薬価基準上の規格単位ごとに数えた数量÷1 か月間に調剤した後発医薬品ありの 先発医薬品と後発医薬品について薬価基準上の規格単位ごとに数えた数量×100。					
1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
(.) %	(.) %	(.) %	(.) %	(.) %	(.) %
7 月	8 月	9 月			
(.) %	(.) %	(.) %			

3. <院外処方せんを発行している施設の方にお伺いします。院外処方せんを発行していない施設の方は
4 ページの質問 4. ①へお進みください>

外来診療における処方せん発行時の状況や後発医薬品の処方に関するお考えをお伺いします。

①外来患者に院外処方する場合、後発医薬品の使用について、施設としてどのように対応していますか。※○は1つだけ		
1. 施設の方針として、後発医薬品を積極的に使用する→質問②へ ※一般名処方の場合や「変更不可」欄にチェック等を行わない場合を含みます。		
☐	2. 施設の方針として、薬の種類によって、後発医薬品を積極的に使用する	
☐	3. 施設の方針として、個々の医師の判断に任せている	
☐	4. 施設の方針として、後発医薬品をほとんど使用していない	
☐	5. その他（具体的に	
▶ ①-1 施設の方針として、「後発医薬品を積極的に使用する」としていない場合、その理由は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○		
1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある 2. 後発医薬品の安定供給に不安がある 3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している 4. 患者への普及啓発が不足している 5. 後発医薬品の説明に時間がかかる 6. 一般名処方に対応したオーダーリングシステムとなっていない 7. 後発医薬品を処方するメリットがない 8. 経営上の観点から 9. 患者が先発医薬品を希望する 10. その他（具体的に		
②平成 26 年 4 月以降、貴施設では、一般名処方による処方せんを発行したことがありますか。※○は1つだけ		
☐	1. 発行している	2. 発行を検討中→質問③へ
☐	3. 発行していない→質問③へ	
▶ ②-1 一般名処方による処方せんの発行により、事務的な負担は増えましたか。 ※○は1つだけ		
1. とても増えた 2. 少し増えた 3. ほとんど変わらない 4. 少し減った 5. とても減った 6. わからない		

③ 保険薬局で実際に調剤した後発医薬品の銘柄等に関する情報提供はどのような方法・タイミングで必要ですか。 ※○は1つだけ	
1. 調剤をした都度 2. 原則、調剤をした都度行うが、前回と同じ内容であった場合には連絡しない 3. 一定期間に行った調剤をまとめて 4. お薬手帳等により患者経由で次の診療日に 5. 副作用等問題が発生した時だけ 6. 必要ない 7. その他（具体的に	)

4. <院外処方せんを発行していない施設の方にお伺いします>

外来診療時における院内投薬の状況や後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

① 外来診療時の院内投薬における後発医薬品の処方に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。 ※○は1つだけ	
1. 施設の方針として、後発医薬品を積極的に使用する→5ページの質問5. ①へ *一般名処方の場合や「変更不可」欄にチェック等を行わない場合を含みます。 2. 施設の方針として、薬の種類によって、後発医薬品を積極的に使用する 3. 施設の方針として、個々の医師の判断に任せている 4. 施設の方針として、後発医薬品をほとんど使用していない 5. その他（具体的に	)
→ ①-1 施設の方針として、「後発医薬品を積極的に使用する」としていない場合、その理由は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○	
1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある 2. 後発医薬品の安定供給に不安がある 3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している 4. 患者への普及啓発が不足している 5. 後発医薬品の説明に時間がかかる 6. 一般名処方に対応したオーダーリングシステムとなっていない 7. 後発医薬品を処方するメリットがない 8. 経営上の観点から 9. 患者が先発医薬品を希望する 10. その他（具体的に	)

5. <すべての施設の方にお伺いします>

入院患者に対する後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

※ここでは、造影剤などの検査に用いる医薬品を含め、内服薬、注射薬及び外用薬の全てを対象とします。

①入院患者に対する後発医薬品の使用状況は、いかがでしょうか。 ※最も近いものの番号1つだけに○	1. 後発医薬品を積極的に処方する 2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に処方する 3. 患者によって、後発医薬品を積極的に処方する 4. 後発医薬品を積極的には処方しない
②今後、どのような対応が進めば、病院として、入院患者への投薬・注射における後発医薬品の使用を進めてもよいと思いますか。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底 2. 後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保 3. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保 4. 後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合 5. 先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダリングシステムの導入 6. 後発医薬品に対する患者の理解 7. 後発医薬品を処方する際の診療報酬上の評価 8. 後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価 9. 後発医薬品の原体、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国などの情報開示 10. その他（具体的に ） 11. 特に対応は必要ない→質問6. ①へ
③上記②の選択肢1～10のうち、最もあてはまる番号を1つだけお書きください。	

6. <すべての施設の方にお伺いします>

後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

① 後発医薬品について、薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るためには、どのようなデータ（例えば、人での血中濃度を測定する臨床試験データなど）が必要か、ご存知ですか。 ※○は1つだけ		
1. だいたい知っている	2. 少しは知っている	3. ほとんど知らない
② 厚生労働省では、平成24年7月に医療関係者向けに『ジェネリック医薬品への疑問に答えます～ジェネリック医薬品Q&A～』を作成し、HPでも公開（http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryou/kouhatu-iyaku/dl/02_120713.pdf）していますが、このことをご存知ですか。 ※○は1つだけ		
1. 知っている（内容も見た）	2. 知っている（内容を見ていない）	3. 知らない
③ 厚生労働省では、平成25年4月に『後発医薬品の更なる使用促進のためのロードマップ』を発表しましたが、このことをご存知ですか。 ※○は1つだけ		
1. 知っている（内容も見た）	2. 知っている（内容を見ていない）	3. 知らない
④ 今現在、後発医薬品に関して不信感がありますか。 ※○は1つだけ		
1. ある	2. ない→6ページの質問7. へ	

→ ④-1 不信感を抱いたきっかけは何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 先発医薬品との効果・副作用の違いを経験した
2. 先発医薬品との使用感（味、色、剤形、粘着力等）の違いを経験した
3. 後発医薬品メーカー間での効果の差を経験した
4. 処方していた後発医薬品の品切・製造中止
5. メーカーから必要な情報が公開されていなかった
6. メーカーに情報提供を求めたが、対応に満足できなかった
7. 医療関係者から後発医薬品に関する苦情を聞いた
8. その他（具体的に

)

7. 後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題等、また、後発医薬品の使用・普及を進めていくために、具体的にどのような取組を行えば効果があるか、ご意見を自由にお書きください。

「病院票」の質問はこれで終わりです。ご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 26 年度調査)

後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査 医師票

※この医師票は、貴施設において、外来診療を担当する医師の方に、後発医薬品の使用状況や考えについてお伺いするものです。

※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数値、用語等をご記入ください。()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をご記入ください。

※ご回答頂いた調査票は、専用の返信用封筒(切手不要)にて、直接事務局までご返送いただけますよう、お願い申し上げます。

※特に断りのない場合は、平成 26 年 9 月末現在の状況についてご記入ください。

1. あなたご自身についてお伺いします。

① 性別	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 主たる担当診療科 ※○は1つだけ	1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 脳神経外科 5. 小児科 6. 産婦人科 7. 呼吸器科 8. 消化器科 9. 循環器科 10. 精神科 11. 眼科 12. 耳鼻咽喉科 13. 泌尿器科 14. 皮膚科 15. その他 (具体的に)		
④ 1 日当たり平均外来診察患者数	() 人 ※平成 26 年 9 月 1 か月間		

2. <院外処方せんを発行している施設の方にお伺いします。院外処方せんを発行していない施設の方は 3 ページの質問 3. ①へお進みください>

外来診療における院外処方せん発行時の状況や後発医薬品の処方に関する考えについてお伺いします。

①後発医薬品の処方に関する考えとして、最も近いものはどれですか。 ※○は1つだけ

1. 後発医薬品を積極的に処方する→質問②へ

*一般名処方の場合や「変更不可」欄にチェック等を行わない場合を含みます。

2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に処方する

3. 患者によって、後発医薬品を積極的に処方する

4. 後発医薬品を積極的には処方しない

→①-1 後発医薬品を積極的には処方しない場合、その理由は何ですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品の品質(効果や副作用を含む)に疑問がある

2. 後発医薬品の安定供給に不安がある

3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している

4. 患者への普及啓発が不足している

5. 後発医薬品の説明に時間がかかる

6. 一般名の記入がしづらい

7. 後発医薬品を処方するメリットがない

8. 経営上の観点から

9. 患者が先発医薬品を希望する

10. 患者の容態等から先発医薬品が良いと判断した

11. その他(具体的に)

② 1 年前と比較して、後発医薬品の処方数(一般名処方や後発医薬品への「変更不可」としない処方せんも含みます)は、変化しましたか。※○は1つだけ

1. 多くなった

2. 変わらない

3. 少なくなった

③ 平成 26 年 4 月以降、「変更不可」欄に「レ」又は「×」を記した処方せんを発行したことはありますか。

※○は1つだけ

1. ある

2. ない→2ページの質問④へ

③-1 あなたが発行した院外処方せん枚数全体に占める、「変更不可」欄に「レ」又は「×」を記した医薬品が1品目でもある処方せん枚数の割合は、どの程度ありますか。 ※平成26年9月

約 () %

③-2 一部の医薬品について「変更不可」とするのは、どのようなケースが最も多いですか。最も多いものの番号1つだけに○をつけてください。※○は1つだけ

1. 先発医薬品から後発医薬品への変更不可とすることが多い
2. 後発医薬品について他銘柄の後発医薬品への変更不可とすることが多い
3. 先発医薬品・後発医薬品の区別なく変更不可とすることが多い
4. その他（具体的に

)

③-3 先発医薬品の銘柄を指定する場合、それはなぜですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある
2. 後発医薬品の安定供給に不安がある
3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している
4. 患者から希望があったから
5. その他（具体的に
6. 先発医薬品の銘柄を指定することはない

)

③-4 後発医薬品の銘柄を指定する場合、それはなぜですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 特定の銘柄以外の後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある
2. 特定の銘柄以外の後発医薬品の安定供給に不安がある
3. 特定の銘柄以外の後発医薬品に関する情報提供が不足している
4. 先発医薬品と主成分や添加物等が同一の製剤である後発医薬品を処方したい
5. 先発医薬品の会社が製造した後発医薬品を処方したい
6. 上記1.～5.以外の理由で後発医薬品の銘柄を指定する必要がある（理由：
7. 患者から希望があったから
8. その他（具体的に
9. 後発医薬品の銘柄を指定することはない

)

)

④ 平成26年4月以降、あなたは、一般名処方による処方せんを発行したことがありますか。※○は1つだけ

1. ある
2. ないが検討中→質問⑤へ
3. ない（予定もない）→質問⑤へ

④-1 一般名処方による処方せんの発行により、事務的な負担は増えましたか。 ※○は1つだけ

1. とても増えた
2. 少し増えた
3. ほとんど変わらない
4. 少し減った
5. とても減った
6. わからない

⑤ 保険薬局で実際に調剤した後発医薬品の銘柄等に関する情報提供はどのような方法・タイミングで必要ですか。 ※○は1つだけ

1. 調剤をした都度
2. 原則、調剤をした都度行うが、前回と同じ内容であった場合には連絡しない
3. 一定期間に行った調剤をまとめて
4. お薬手帳等により患者経由で次の診療日に
5. 副作用等問題が発生した時だけ
6. 必要ない
7. その他（具体的に

)

⑥ 患者から後発医薬品の処方を求められたことがありますか。 ※○は1つだけ

1. ある
2. ない→3ページの質問4. ①へ

⑥-1 質問⑥の場合、どのような対応をとりましたか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 先発医薬品を処方し、変更不可の欄に署名しなかった
2. 後発医薬品を処方した
3. 後発医薬品を処方し、変更不可の欄に署名した
4. 一般名で処方した
5. 後発医薬品が存在しない医薬品であるので対応できなかった
6. 対応しなかった（理由：
7. その他（具体的に

)

)

3. <院外処方せんを発行していない施設の方にお伺いします>

外来診療時における院内投薬の状況や後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

① 外来診療時の院内投薬における後発医薬品の処方に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。

※○は1つだけ

1. 後発医薬品を積極的に処方する→質問②へ

*一般名処方の場合や「変更不可」欄にチェック等を行わない場合を含みます。

2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に処方する

3. 患者によって、後発医薬品を積極的に処方する

4. 後発医薬品を積極的には処方しない

▶①-1 後発医薬品を積極的には処方しないのはどのような理由によるものでしょうか。※あてはまる番号すべてに○。

1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある

2. 後発医薬品の安定供給に不安がある

3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している

4. 患者への普及啓発が不足している

5. 後発医薬品の説明に時間がかかる

6. 患者が先発医薬品を希望する

7. 患者の容態等から先発医薬品が良いと判断した

8. 経営上の観点から

9. その他（具体的に)

② 患者から後発医薬品の処方を求められたことがありますか。 ※○は1つだけ

1. ある

2. ない→質問4. ①へ

▶②-1 質問②の場合、どのような対応をとりましたか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品を処方・調剤した

2. 後発医薬品が存在しないため先発医薬品を処方・調剤

3. 後発医薬品を採用していないため先発医薬品を処方・調剤

4. 対応しなかった（理由：)

5. その他（具体的に)

4. 後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

① 後発医薬品について、薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るためには、どのようなデータ（例えば、人での血中濃度を測定する臨床試験データなど）が必要か、ご存知ですか。 ※○は1つだけ

1. だいたい知っている

2. 少しは知っている

3. ほとんど知らない

② 厚生労働省では、平成24年7月に医療関係者向けに『ジェネリック医薬品への疑問に答えます～ジェネリック医薬品Q&A～』を作成し、HPでも公開（http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryou/kouhatu-iyaku/dl/02_120713.pdf）していますが、このことをご存知ですか。 ※○は1つだけ

1. 知っている（内容も見た）

2. 知っている（内容を見ていない）

3. 知らない

③ 厚生労働省では、平成25年4月に『後発医薬品の更なる使用促進のためのロードマップ』を発表しましたが、このことをご存知ですか。 ※○は1つだけ

1. 知っている（内容も見た）

2. 知っている（内容を見ていない）

3. 知らない

④ 今現在、後発医薬品に関して不信感がありますか。 ※○は1つだけ

1. ある

2. ない→質問⑤へ

▶ 次ページに続きます。

④-1 不信感を抱いたきっかけは何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 先発医薬品との効果・副作用の違いを経験した
3. 先発医薬品との使用感（味、色、剤形、粘着力等）の違いを経験した
4. 後発医薬品メーカー間での効果の差を経験した
5. 処方していた後発医薬品の品切・製造中止
6. メーカーから必要な情報が公開されていなかった
7. メーカーに情報提供を求めたが、対応に満足できなかった
8. 医療関係者から後発医薬品に関する苦情を聞いた
9. その他（具体的に

)

⑤ 今後、どのような対応がなされれば、医師の立場として後発医薬品の処方を進めてもよいと思いますか。
※あてはまる番号すべてに○

1. 厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底
2. 後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保
3. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保
4. 後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合
5. 先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダーリングシステムの導入
6. 後発医薬品に対する患者の理解
7. 後発医薬品を処方する際の診療報酬上の評価
8. 後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価
9. 後発医薬品の原体、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国などの情報開示
10. その他（具体的に
11. 特に対応は必要ない→質問5. へ

)

⑥ 上記⑤の選択肢1～10のうち、最もあてはまるものの番号を1つだけお書きください。

5. 後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題等、また、後発医薬品の使用・普及を進めていくために、具体的にどのような取組を行えば効果があるか、ご意見を自由にお書きください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

お手数をおかけいたしますが、平成26年11月18日（火）までに専用の返信用封筒（切手不要）に同封し、お近くのポストに投函してください。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 26 年度調査)

後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査

診療所票

※この「診療所票」は医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における後発医薬品の使用状況やお考えについてお伺いするものです。

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「〇（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。

※特に断りのない場合は、平成 26 年 9 月末現在の状況についてご記入ください。

0. あなたご自身についてお伺いします。

① 性別	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 開設者・管理者の別 ※○は1つだけ	1. 開設者 2. 管理者 3. 開設者兼管理者	4. その他 (具体的に)	
④ 主たる担当診療科 ※○は1つだけ	1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 脳神経外科	5. 小児科 6. 産婦人科 7. 呼吸器科 8. 消化器科	9. 循環器科 10. 精神科 11. 眼科 12. 耳鼻咽喉科
	13. 泌尿器科 14. 皮膚科 15. その他 (具体的に)		

1. 貴施設の状況についてお伺いします。

①医療機関名	()
②所在地	() 都・道・府・県
③開設者	1. 個人 2. 法人 3. その他
④開設年	西暦 () 年
⑤種別 ※○は1つだけ	1. 無床診療所 2. 有床診療所 → 許可病床数 () 床
⑥標榜している診療科 ※あてはまる番号すべてに○	1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 脳神経外科 5. 小児科 6. 産婦人科 7. 呼吸器科 8. 消化器科 9. 循環器科 10. 精神科 11. 眼科 12. 耳鼻咽喉科 13. 泌尿器科 14. 皮膚科 15. その他（具体的に)
⑦オーダーリングシステム ※あてはまる番号すべてに○	1. 一般名処方に対応できるオーダーリングシステムを導入している 2. 後発医薬品名が表示されるオーダーリングシステムを導入している 3. オーダーリングシステムを導入している（上記 1.、2.の機能はない） 4. オーダーリングシステムを導入していない
⑧院内・院外処方の割合	院内処方 () % + 院外処方 () % = 100% ※処方せん枚数ベース
⑨医師数（常勤のみ）	() 人
⑩薬剤師数（常勤のみ）	() 人 ※ゼロの場合は「0」とご記入ください。

2. <有床診療所及び院内処方のある施設の方にお伺いします。すべて院外処方の無床診療所の方は3ページの質問4. ①へお進みください。>

貴施設における後発医薬品の使用状況等についてお伺いします。

①医薬品備蓄品目数	約 () 品目
②上記①のうち後発医薬品の備蓄品目数	約 () 品目
③調剤用医薬品費 (購入額)	約 () 円 ※平成26年9月1か月間又は直近1か月分
④上記③のうち後発医薬品費 (購入額)	約 () 円 ※平成26年9月1か月間又は直近1か月分
⑤調剤用医薬品廃棄額	約 () 円 ※平成26年9月1か月間又は直近1か月分
⑥上記⑤のうち後発医薬品廃棄額	約 () 円 ※平成26年9月1か月間又は直近1か月分
⑦後発医薬品の採用状況は、いかがでしょうか。 ※○は1つだけ	1. 後発医薬品があるものは積極的に採用 2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に採用 3. 後発医薬品を積極的には採用していない 4. その他 (具体的に)
⑧後発医薬品を採用する際に重視すること ※あてはまる番号すべてに○	1. 後発医薬品メーカーが品質について情報開示をしていること 2. MRからの情報提供が頻繁にあること 3. 他の後発医薬品よりも薬価が安価であること 4. 大病院で採用されていること 5. 近隣の保険医療機関(病院・診療所)で採用されている処方銘柄であること 6. 後発医薬品の適応症が先発医薬品と同一であること 7. 納品までの時間が短いこと 8. 後発医薬品メーカー・卸が十分な在庫を確保していること 9. 患者からの評価がよいこと 10. 調剤がしやすい(例;容易に半割ができる、一包化調剤がしやすい)こと 11. 本社の問い合わせ窓口における対応が充実していること 12. 先発医薬品メーカーが扱う後発医薬品であること 13. 信頼のおける後発医薬品メーカーが扱う後発医薬品であること 14. 古くから販売されている後発医薬品であること 15. 有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること 16. その他 (具体的に) 17. 特にない→質問3. ①へ
⑨上記⑧の選択肢1～16のうち、最もあてはまる番号を1つだけお書きください。	

3. <有床診療所の方にお伺いします。無床診療所の方は3ページの質問4. ①へお進みください>

入院患者に対する後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

※ここでは、造影剤などの検査に用いる医薬品を含め、内服薬、注射薬及び外用薬の全てを対象とします。

①後発医薬品使用体制加算の状況 ※○は1つだけ	1. 算定していない 2. 後発医薬品使用体制加算1を算定している 3. 後発医薬品使用体制加算2を算定している
②入院患者に対する後発医薬品の使用状況は、いかがでしょうか。 ※最も近いものの番号1つだけに○	1. 後発医薬品を積極的に処方する 2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に処方する 3. 患者によって、後発医薬品を積極的に処方する 4. 後発医薬品を積極的には処方しない

③今後、どのような対応が進めば、診療所として、入院患者への投薬・注射における後発医薬品の使用を進めてもよいと思いますか。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底 2. 後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保 3. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保 4. 後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合 5. 先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダーリングシステムの導入 6. 後発医薬品に対する患者の理解 7. 後発医薬品を処方する際の診療報酬上の評価 8. 後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価 9. 後発医薬品の原体、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国などの情報開示 10. その他（具体的に 11. 特に対応は必要ない→質問4. ①へ
④上記③の選択肢1～10のうち、最もあてはまる番号を1つだけお書きください。	

4. <院外処方せんを発行している施設の方にお伺いします。院外処方せんを発行していない施設の方は5ページの質問5. ①へお進みください>

外来診療における処方せん発行時の状況や後発医薬品の処方に関する考えをお伺いします。

① 処方せん料の算定回数（平成26年9月1か月間）	（ ）回	
② 一般名処方加算の算定回数（平成26年9月1か月間）	（ ）回	
③ 後発医薬品の処方に関する考えとして、最も近いものはどれですか。 ※○は1つだけ		
1. 後発医薬品を積極的に処方する→質問④へ *一般名処方の場合や「変更不可」欄にチェック等を行わない場合を含みます。 2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に処方する 3. 患者によって、後発医薬品を積極的に処方する 4. 後発医薬品を積極的には処方しない		
→③-1 後発医薬品を積極的には処方しない場合、その理由は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○。		
1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある 2. 後発医薬品の安定供給に不安がある 3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している 4. 患者への普及啓発が不足している 5. 後発医薬品の説明に時間がかかる 6. 一般名の記入がしづらい 7. 後発医薬品を処方するメリットがない 8. 経営上の観点から 9. 患者が先発医薬品を希望する 10. 患者の容態等から先発医薬品が良いと判断した 11. その他（具体的に		
④ 1年前と比較して、後発医薬品の処方数（一般名処方や後発医薬品への「変更不可」としない処方せんも含みます）は、変化しましたか。 ※○は1つだけ		
1. 多くなった	2. 変わらない	3. 少なくなった
⑤ 平成26年4月以降、「変更不可」欄に「レ」又は「×」を記した処方せんを発行したことはありますか。 ※○は1つだけ		
1. ある	2. ない→4ページの質問⑥へ	

→ ⑤-1 あなたが発行した院外処方せん枚数全体に占める、「変更不可」欄に「レ」又は「×」を記した医薬品が1品目でもある処方せん枚数の割合は、どの程度ありますか。※平成26年9月	約 () %
→ ⑤-2 一部の医薬品について「変更不可」とするのは、どのようなケースが最も多いですか。最も多いものの番号1つだけに○をつけてください。※○は1つだけ	
1. 先発医薬品から後発医薬品への変更を不可とすることが多い 2. 後発医薬品について他銘柄の後発医薬品への変更を不可とすることが多い 3. 先発医薬品・後発医薬品の区別なく変更を不可とすることが多い 4. その他（具体的に)	
→ ⑤-3 先発医薬品の銘柄を指定する場合、それはなぜですか。※あてはまる番号すべてに○	
1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある 2. 後発医薬品の安定供給に不安がある 3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している 4. 患者から希望があったから 5. その他（具体的に) 6. 先発医薬品の銘柄を指定することはない	
→ ⑤-4 後発医薬品の銘柄を指定する場合、それはなぜですか。※あてはまる番号すべてに○	
1. 特定の銘柄以外の後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある 2. 特定の銘柄以外の後発医薬品の安定供給に不安がある 3. 特定の銘柄以外の後発医薬品に関する情報提供が不足している 4. 先発医薬品と主成分や添加物等が同一の製剤である後発医薬品を処方したい 5. 先発医薬品の会社が製造した後発医薬品を処方したい 6. 上記1～5.以外の理由で後発医薬品の銘柄を指定する必要がある（理由：) 7. 患者から希望があったから 8. その他（具体的に) 9. 後発医薬品の銘柄を指定することはない	
⑥ 平成26年4月以降、あなたは、一般名処方による処方せんを発行したことがありますか。※○は1つだけ	
1. ある 2. ないが検討中→質問⑦へ 3. ない（予定もない）→質問⑦へ	
→ ⑥-1 一般名処方による処方せんの発行により、事務的な負担は増えましたか。 ※○は1つだけ	
1. とても増えた 2. 少し増えた 3. ほとんど変わらない 4. 少し減った 5. とても減った 6. わからない	
⑦ 保険薬局で実際に調剤した後発医薬品の銘柄等に関する情報提供はどのような方法・タイミングで必要ですか。 ※○は1つだけ	
1. 調剤をした都度 2. 原則、調剤をした都度行うが、前回と同じ内容であった場合には連絡しない 3. 一定期間に行った調剤をまとめて 4. お薬手帳等により患者経由で次の診療日に 5. 副作用等問題が発生した時だけ 6. 必要ない 7. その他（具体的に)	
⑧ 患者から後発医薬品の処方を求められたことがありますか。 ※○は1つだけ	
1. ある 2. ない→5ページの質問6. ①へ	
→ ⑧-1 質問⑧の場合、どのような対応をとりましたか。 ※あてはまる番号すべてに○	
1. 先発医薬品を処方し、変更不可の欄に署名しなかった 2. 後発医薬品を処方した 3. 後発医薬品を処方し、変更不可の欄に署名した 4. 一般名で処方した 5. 後発医薬品が存在しない医薬品であるので対応できなかった 6. 対応しなかった（理由：) 7. その他（具体的に)	

5. <院外処方せんを発行していない施設の方にお伺いします>

外来診療時における院内投薬の状況や後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

① 外来診療時の院内投薬における後発医薬品の処方に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。

※○は1つだけ

1. 後発医薬品を積極的に処方する→質問②へ

*一般名処方の場合や「変更不可」欄にチェック等を行わない場合を含みます。

2. 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に処方する

3. 患者によって、後発医薬品を積極的に処方する

4. 後発医薬品を積極的には処方しない

▶ ①-1 後発医薬品を積極的には処方しないのはどのような理由によるものでしょうか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品の品質（効果や副作用を含む）に疑問がある

2. 後発医薬品の安定供給に不安がある

3. 後発医薬品に関する情報提供が不足している

4. 患者への普及啓発が不足している

5. 後発医薬品の説明に時間がかかる

6. 経営上の観点から

7. 患者が先発医薬品を希望する

8. 患者の容態等から先発医薬品が良いと判断した

9. その他（具体的に

）

② 患者から後発医薬品の処方を求められたことがありますか。 ※○は1つだけ

1. ある

2. ない→質問6. ①へ

▶ ②-1 質問②の場合、どのような対応をとりましたか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品を処方・調剤した

2. 後発医薬品が存在しないため先発医薬品を処方・調剤した

3. 後発医薬品を採用していないため先発医薬品を処方・調剤した

4. 対応しなかった（理由：

）

5. その他（具体的に

）

6. <すべての施設の方にお伺いします>

後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。

① 後発医薬品について、薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るためには、どのようなデータ（例えば、人での血中濃度を測定する臨床試験データなど）が必要か、ご存知ですか。 ※○は1つだけ

1. だいたい知っている

2. 少しは知っている

3. ほとんど知らない

② 厚生労働省では、平成24年7月に医療関係者向けに『ジェネリック医薬品への疑問に答えます～ジェネリック医薬品Q&A～』を作成し、HPでも公開（http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryou/kouhatu-iyaku/dl/02_120713.pdf）していますが、このことをご存知ですか。 ※○は1つだけ

1. 知っている（内容も見た）

2. 知っている（内容を見ていない）

3. 知らない

③ 厚生労働省では、平成25年4月に『後発医薬品の更なる使用促進のためのロードマップ』を発表しましたが、このことをご存知ですか。 ※○は1つだけ

1. 知っている（内容も見た）

2. 知っている（内容を見ていない）

3. 知らない

④ 今現在、後発医薬品に関して不信感がありますか。 ※○は1つだけ

1. ある

2. ない→6ページの質問⑤へ

▶ ④-1 不信感を抱いたきっかけは何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 先発医薬品との効果・副作用の違いを経験した
2. 先発医薬品との使用感（味、色、剤形、粘着力等）の違いを経験した
3. 後発医薬品メーカー間での効果の差を経験した
4. 処方していた後発医薬品の品切・製造中止
5. メーカーから必要な情報が公開されていなかった
6. メーカーに情報提供を求めたが、対応に満足できなかった
7. 医療関係者から後発医薬品に関する苦情を聞いた
8. その他（具体的に

)

⑤ 今後、どのような対応がなされれば、医師の立場として後発医薬品の処方を進めてもよいと思いますか。
※あてはまる番号すべてに○

1. 厚生労働省による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底
2. 後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保
3. 後発医薬品に関する安定供給体制の確保
4. 後発医薬品の価格のバラツキや品目数の整理統合
5. 先発医薬品名を入力すると一般名処方できるオーダーリングシステムの導入
6. 後発医薬品に対する患者の理解
7. 後発医薬品を処方する際の診療報酬上の評価
8. 後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価
9. 後発医薬品の原体、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国などの情報開示
10. その他（具体的に
11. 特に対応は必要ない→質問7. へ

)

⑥ 上記⑤の選択肢 1～10のうち、最もあてはまるものの番号を1つだけお書きください。

7. 後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題等、また、後発医薬品の使用・普及を進めていくために、具体的にどのような取組を行えば効果があるか、ご意見を自由にお書きください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。